Nara Medical University

令和６年度

教　育　要　項

奈良県立医科大学大学院

看護学研究科

目　次

博士前期課程

ポリシー ―――――――――――――――――――――――――――――――――――― 4
令和６年度 年間教務日程 ―――――――――――――――――――――――――――― 5
令和６年度 時間割 ―――――――――――――――――――――――――――――――― 6
Ⅰ　博士前期課程の概要 ―――――――――――――――――――――――――――――― 8
　１　設置の趣旨
　２　教育研究上の理念及び目的
　３　看護学専攻の考え方と特色
　４　看護学研究科博士前期課程の構成
　５　研究科、専攻等の名称及び学位の名称
Ⅱ　教育課程等の概要 ―――――――――――――――――――――――――――――― 12
　１　履修要項
　２　履修指導及び研究指導の方法
　３　長期履修期間の短縮
　４　取得できる資格
　５　履修モデル
　助産学に係る科目の履修について
Ⅲ　科目概要 ―――――――――――――――――――――――――――――――――― 27
研究指導教員・研究指導補助教員一覧 ―――――――――――――――――――――― 193

博士後期課程

ポリシー ―――――――――――――――――――――――――――――――――――― 196
令和６年度 年間教務日程 ―――――――――――――――――――――――――――― 197
令和６年度 時間割 ―――――――――――――――――――――――――――――――― 198
Ⅰ　博士後期課程の概要 ―――――――――――――――――――――――――――――― 200
　１　設置の趣旨
　２　教育研究上の理念及び教育目的
　３　分野の特色
　４　研究科、専攻等の名称及び学位の名称
　５　カリキュラム―マップ
Ⅱ　教育課程等の概要 ―――――――――――――――――――――――――――――― 205
　１　履修要項
　２　履修指導及び研究指導の方法
　３　長期履修期間の短縮
　４　履修モデル
Ⅲ　科目概要 ―――――――――――――――――――――――――――――――――― 215
研究指導教員・研究指導補助教員一覧 ―――――――――――――――――――――― 267

規程集

奈良県立医科大学学位規則 ―――――――――――――――――――――――――――― 271
奈良県立医科大学大学院看護学研究科学位審査に関する内規 ―――――――――――― 274

博士前期課程

奈良県立医科大学大学院看護学研究科博士前期課程
ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー

本大学院に２年以上（優れた研究業績を上げた者については１年以上）在学し、授業科目について、看護学コースのうち、論文コースにあっては３０単位以上修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格することが、高度実践コースの高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程）にあっては４０単位以上、同コースの周麻酔期看護師教育課程にあっては４６単位以上修得し、かつ、特定の課題についての研究の成果（以下、「課題研究成果物」という。）の審査及び最終試験に合格することが、助産学実践コースにあっては、６１単位以上修得し、かつ、課題研究成果物の審査及び最終試験に合格することが、課程の修了と学位授与の必要条件である。修了時には以下の能力が求められる。

１　看護学に関する確かな専門知識と深い学識を修得している。
２　生命科学、社会科学、情報科学などの知識を活用して研究能力が発揮できる。
３　看護専門職者（論文コース修了者）として、地域医療での指導能力を発揮できる。
４　看護専門職者（高度実践コース修了者）として、高度な実践能力と指導能力を発揮できる。
５　看護専門職者（助産学実践コース修了者）として、地域における周産期医療での指導能力と高度な実践能力を発揮できる。

カリキュラム・ポリシー

１　教育理念・目的に基づき、豊かな感性、人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化、専門分化および多様化していく医療に要求される知識や技術を的確に習得、発展させながら、実践科学としての看護学を探究する高度な実践能力と基礎的な研究能力を育成するために必要なカリキュラムを配置する。
２　看護学コースと助産学実践コースを置き、すべての学生が幅広く専門知識を修得するために共通科目を配置する。看護学コースでは各専門分野に必要な能力を養成するために、特論、演習、特別研究の授業科目を配置する。さらに助産学実践コースでは助産師となるために必要な特論、演習、実習科目を配置する。

アドミッション・ポリシー

１　人間に対する深い関心と生命倫理や医療倫理を身につけている人
２　専攻分野における基礎知識を身につけている人
３　自ら進んで課題に取り組む意欲と探究心がある人
４　看護学の教育、研究、実践の分野で地域社会に貢献する意志があり、看護学関連分野を学習してきた人

令和６年度 大学院看護学研究科博士前期課程 年間教務日程

日　　程		学　　事	備　　考
令和6年	4 月　1 日(月) ～ 4 月　15 日(月)	履修届提出期間	
	4 月　5 日(金)	入学式	
	4 月　8 日(月)	前期授業開始	
	7 月　22 日(月)	前期授業終了	
	7 月　23 日(火) ～ 7 月　26 日(金)	助産学実践コース試験期間	
	7 月　29 日(月) ～ 9 月　19 日(木)	夏期休暇[注1]	
	8 月　19 日(月)		大学院入学試験（1次募集）[注2]
	9 月　19 日(木)	修士論文中間発表会(予定)	
	9 月　20 日(金)	後期授業開始	
	11 月　17 日(日)		看護学科推薦入試（学校推薦型選抜）[注2]
	12 月　2 日(月)		大学院入学試験（2次募集）（予定）[注2]
	12 月　24 日(火) ～ 1 月　5 日(日)	冬期休暇	
令和7年	1 月　6 日(月)	後期授業再開	
	1 月　18 日(土) ～ 1 月　19 日(日)		大学入学共通テスト[注2]
	1 月　20 日(月)	修士論文提出締切(17時まで)	
	1 月　27 日(月)	後期授業終了	
	2 月　12 日(水)	予備審査	
	2 月　20 日(木)	公聴会	
	2 月　25 日(火) ～ 2 月　26 日(水)		一般選抜（前期日程）試験[注2]
	2 月　28 日(金)	本審査	
	3 月　12 日(水) ～ 3 月　13 日(木)		一般選抜（後期日程）試験[注2]
	3 月　14 日(金)	学位授与式（予定）	
	3 月　15 日(土) ～ 入学式前日	春期休暇	

［注1］夏期休暇中に、修士論文中間発表会、助産学実践コース1・2年生の助産学実習を行う。
［注2］入学試験及び準備に当たる日は、校舎内立入禁止

令和６年度 大学院看護学研究科博士前期課程 時間割
【前期】(4/8～)

		1	2	3	4	5	6	7
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０	１８：００～１９：３０	１９：４０～２１：１０
月	1年	周産期看護学特論	女性健康学特論	助産学特論Ⅰ	助産学特論Ⅳ	助産学特論Ⅳ	小児看護学特論 高齢者看護学特論 がん看護学特論 精神看護学特論 在宅看護学特論 助産学実習Ⅰ	小児看護学演習 高齢者看護学演習 がん看護学演習Ⅲ 精神看護学演習
	2年	周麻酔期看護学実習Ⅱ	周麻酔期看護学実習Ⅱ	周麻酔期看護学実習Ⅱ	助産学実習Ⅴ			
火	1年	助産学特論Ⅴ	助産学特論Ⅴ	助産診断・技術学演習Ⅰ	助産診断・技術学演習Ⅰ 周麻酔期看護学特論Ⅰ	周麻酔期看護学特論Ⅱ 英文講読	○看護理論	○看護研究方法論
	2年	周麻酔期看護学実習Ⅱ	周麻酔期看護学実習Ⅱ	周麻酔期看護学実習Ⅱ	助産学実習Ⅴ		特別研究 課題研究	特別研究
水	1年	助産学特論Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅳ	助産学特論Ⅱ 助産学特論Ⅵ 助産診断・技術学演習Ⅳ	周産期看護学演習 ●看護倫理学	女性健康学演習	●ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ	心と脳の発達学特論 睡眠学特論 ●病態生理学	心と脳の発達学演習
	2年	周麻酔期看護学実習Ⅲ	周麻酔期看護学実習Ⅲ	周麻酔期看護学実習Ⅲ				
木	1年	助産学特論Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅳ	助産学特論Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅳ	助産診断・技術学演習Ⅲ	助産診断・技術学演習Ⅳ	助産学特論Ⅲ	医の共通科目/衛生社会医学 睡眠学演習 看護実践応用学特論 公衆衛生看護学特論 基礎看護学特論	看護実践応用学演習 公衆衛生看護学演習 基礎看護学演習
	2年	周麻酔期看護学実習Ⅲ	周麻酔期看護学実習Ⅲ	周麻酔期看護学実習Ⅲ				
金	1年	助産診断・技術学演習Ⅱ	助産診断・技術学演習Ⅱ	助産診断・技術学演習Ⅱ 在宅看護学演習	助産診断・技術学演習Ⅳ 周麻酔期看護学演習Ⅰ	助産学特論Ⅱ	助産学実習Ⅰ	
	2年				助産学実習Ⅴ			

【凡例】
○：看護学専攻で必修の共通科目
●：高度実践コースのみ必修の共通科目
※表中の1コマは30時間分の授業を示す。

◇集中講義
以下の2科目は集中講義として開講
①看護管理論：前期集中講義
②家族看護学：後期集中講義
※日程は別途連絡

◇医学研究科・看護学研究科合同科目
以下の２科目は医学研究科修士課程との合同授業
①医の共通科目
②衛生社会医学

◇がん看護学実習Ⅰ
附属病院での臨地実習を3～4週間かけて行う。
（令和6年度は開講なし）
※日程は別途連絡

◇がん看護学実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
附属病院等での臨地実習を各3～4週間かけて行う。
（令和6年度は開講なし）

◇がん病態治療学、がん看護学援助特論Ⅰ～Ⅲ、がん看護学演習Ⅰ・Ⅱ
（令和6年度は開講なし）

◇助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
病院や助産院等での臨地実習を行う。
期間は実習によって異なる。
※日程については別途連絡

◇その他
授業は担当教員と履修者が相談のうえ、左表に記載時間以外に開講される場合がある。

【使用教室】

施　設	階	教　室	主な使用科目
看護学科棟	6F	大学院第１講義室	共通科目等
	3F	第１～５演習室	各演習科目等
	2F	第３講義室	助産学実践科目
		第４講義室	助産学実践科目
	1F	LL教室	英文講読
基礎医学棟	3F	薬理学各研究室	臨床薬理学
医局棟	3F	麻酔科学講座 カンファレンス室	周麻酔期看護学科目
臨床研修センター	2F	地域医療学講座 カンファレンス室	地域医療学

【後期】(9/20～)

		1	2	3	4	5	6	7
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０	１８：００～１９：３０	１９：４０～２１：１０
月	1年	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅲ	助産学実習Ⅲ	小児看護学演習 高齢者看護学演習 がん看護学演習Ⅲ 精神看護学演習	地域医療学
	2年							
火	1年	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	周麻酔期看護学演習Ⅱ	周麻酔期看護学特論Ⅲ 在宅看護学演習	
	2年						特別研究 課題研究	特別研究
水	1年	周麻酔期看護学実習Ⅰ 周産期看護学演習	周麻酔期看護学実習Ⅰ 女性健康学演習	周麻酔期看護学実習Ⅰ	周麻酔期看護学実習Ⅰ	●臨床薬理学	精神保健学 周麻酔期看護学特論Ⅳ	心と脳の発達学演習
	2年							
木	1年	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅲ	睡眠学演習 看護実践応用学演習 公衆衛生看護学演習 基礎看護学演習	
	2年							
金	1年	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅳ	看護情報学	
	2年							

【凡例】
○：看護学専攻で必修の共通科目
●：高度実践コースのみ必修の共通科目
※表中の1コマは30時間分の授業を示す。

◇集中講義
以下の2科目は集中講義として開講
①看護管理論：前期集中講義
②家族看護学：後期集中講義
※日程は別途連絡

◇医学研究科・看護学研究科合同科目
以下の２科目は医学研究科修士課程との合同授業
①医の共通科目
②衛生社会医学

◇がん看護学実習Ⅰ
附属病院での臨地実習を3～4週間かけて行う。
（令和6年度は開講なし）
※日程は別途連絡

◇がん看護学実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
附属病院等での臨地実習を各3～4週間かけて行う。
（令和6年度は開講なし）

◇がん病態治療学、がん看護学援助特論Ⅰ～Ⅲ、がん看護学演習Ⅰ・Ⅱ
（令和6年度は開講なし）

◇助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
病院や助産院等での臨地実習を行う。
期間は実習によって異なる。
※日程については別途連絡

◇その他
授業は担当教員と履修者が相談のうえ、左表に記載時間以外に開講される場合がある。

【使用教室】

施　設	階	教　室	主な使用科目
看護学科棟	6F	大学院第１講義室	共通科目等
	3F	第１～５演習室	各演習科目等
	2F	第３講義室	助産学実践科目
		第４講義室	助産学実践科目
	1F	LL教室	英文講読
基礎医学棟	3F	薬理学各研究室	臨床薬理学
医局棟	3F	麻酔科学講座 カンファレンス室	周麻酔期看護学科目
臨床研修センター	2F	地域医療学講座 カンファレンス室	地域医療学

Ⅰ　看護学研究科博士前期課程の概要

1　設置の趣旨

奈良県立医科大学医学部看護学科は優秀な人材の確保と社会に開かれた大学及び大学院をめざし、進歩が著しい看護学を学び、研究する人材を受け入れるため、看護学研究科修士課程・看護学専攻を設置し、優れた看護学を総合的に研究する機会を広げている。看護学に関係する広い分野に関する探究心の旺盛な人材を大学卒業予定者、卒業者、さらに社会人も含め広く募り、修士課程の充実を図っている。

近年、医療の進歩とともに看護学の進歩も著しく、看護領域が高度専門化され、専門看護師、認定看護師などが養成されてきている。この看護学の進歩に対応できる人材の育成が必要である。また同時に細分化、専門化するほどこれらの領域を有機的につなげ、さらに他職種との連携においてもリーダーとして活躍できる能力を有する看護職者の養成が必要となってきている。

また、本県の特徴として、大阪経済圏に距離的に近い北部の都会型の環境と、へき地が多く存在する南部の過疎地型の環境が共存しており、地域によるニーズの違いも生じている。このような状況の中で保健・医療・福祉に関する様々な問題に対して、的確な対応ができる高度な専門的知識・技術を有する看護職者の育成が必要となってきている。

近年の産科医不足によって全国的に出産場所が減少し、「お産難民」など搬送が必要な妊産婦の受け入れ先が決まるまでに時間を要した結果、生命の安全をゆるがす事態が生じている。奈良県においても平成 18 年に分娩中に意識不明になった妊婦が複数の病院で受け入れができず、その後死亡したという事例があり、また平成 19 年には、かかりつけ医のいない未受診の妊婦が複数の病院で受け入れができず死産するといった深刻な事案が発生した。それらのことを契機として平成 20 年に「奈良県地域医療等対策協議会」が設立され、「奈良県保健医療計画」が策定された。その中で周産期医療における産科医の不足、偏在を補うためにメディカルバースセンターが設置されることとなった。これは正常経過をたどる妊婦を対象に、産科医師との連携のもとに、助産師が中心となってケアを行い、自然な形で出産することをめざす独立した病棟と助産師外来を有している。加えて、助産師をめざす学生や地域の助産師が、妊娠から分娩・出産まで対応できるようにスキルアップを行うための研修機能も有している。

これらのことに対応するためには、高度な実践能力を備えた助産師の育成が不可欠であることから、本学大学院修士課程において助産師の養成を行うこととした。バースセンターを主たる実習場とすることで、助産師本来の業務である正常な妊娠の診断から妊娠期・分娩期・産褥期及び新生児期の経過診断を継続的にかつ自立して行い、その経過に沿った助産ケアを提供していく実習の実施が可能となる。

また、前述の「奈良県保健医療計画」において、いわゆる「へき地」と呼ばれる地域が本県の 67%を占めており、へき地を中心とした地域医療対策が急務となっていることが取り上げられている。医師の確保が困難な状況においてはへき地住民の健康を維持し、疾病予防や医療相談を受けられる保健師や看護師が必要であり、高度な実践能力を有する看護職者の育成が重要となっている。

このため、深い人間理解に基づいたケアができ、かつ高度な実践能力をもつ看護師・保健師・助産師の育成とともに、進歩著しい看護学教育を主体的に取り入れるため、既存の看護学科に加え、看護学研究科修士課程看護学専攻を、平成 24 年度に設置したところである。看護学研究科修士課程を設立することによって、高い倫理観や科学的思考力を育てると共に、学際的視野を広げ、看護学における研究課題を自発的・具体的に研究し、質の高い看護学を学習し、実践できる能力を養う

ことを目標としている。なお、本県にはそれまで看護学研究科はなく、奈良県では初めての看護学における大学院研究科であり、県内の看護学の教育・研究をリードする場となっている。また、加えて本学修士課程においては、助産学実践コースを設置し、高度な知識と技術を有し、高度な実践能力を持つ質の高い助産師を養成し、地域に輩出することを目指してきた。
そして、平成 30 年 4 月に看護学コースに、高度な知識と技術を有する看護師の養成を目指すべく高度実践看護師教育課程（クリティカルケア看護分野）及び周麻酔期看護師教育課程を設置した。さらに、近年の高度化、複雑化する医療情勢において、がんは今や２人に１人が罹患する疾患となり、患者や家族への看護においては、高度な専門知識に基づいた判断能力、技術、態度及び高い倫理観が求められていることや都道府県がん診療連携拠点病院である附属病院における看護機能を高めるためには、がん看護分野が不可欠と考え、令和 2 年 4 月に設置した。

令和 6 年度から、修士課程修了者がさらに学習、研究を進めていく場として、本看護学研究科内に博士後期課程を設置し、さらに質の高い博士課程教育につなげることにより、地域における看護教育及び研究の拠点として多くの教育者や研究者を教育・指導できる人材を育成することにより、地域の社会や医療に貢献し、本学のさらなる発展に寄与できると考える。また、博士後期課程の開設に併せて、既存の修士課程を博士前期課程に名称変更し、前期 2 年、後期 3 年に区分した博士課程とした。

２　教育研究上の理念及び目的

（１）理　念

本学は、「豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指す」という教育理念のもとに、教育・研究を展開し地域社会に貢献してきた。医学部看護学科は、その理念を受けて、その人らしい生き方を支える看護のあり方を追求し、地域社会との連携のもとに、人間と健康に関わる問題を多面的な視野から解決できる看護実践の中核的な役割を果たす人材を育成することを目的としている。

本研究科博士前期課程では、この理念を基盤に、豊かな感性・人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化・専門分化および多様化していく医療に要求される知識や技術を的確に習得・発展させながら、実践科学としての看護学を探究する高度な実践能力と基礎的な研究能力を有する看護職者の育成をめざす。

（２）目　的

①優秀かつ柔軟な資質を併せもち、研究・教育・臨地のいずれの領域においても指導者となり得る人材の育成を図る。

②生命の尊厳の深い理解を基盤とし、専門性の高い看護実践能力と教育研究能力を備えた、看護学実践の専門職者、管理者、教育者を育成する。

③人間性豊かな高い倫理観を有し、生涯にわたって自ら学び、自立して研究ができる医療人の育成に努める。

④ 看護学における基礎的な研究能力を養うとともに、地域の特性を踏まえて、看護学と生命科学・社会科学の調和を図る。

３　看護学専攻の考え方と特色

（１）看護学コース

本県の地勢的な特徴や少子･高齢化に関する特徴及び高度機能病院を附属病院に持つということを鑑み、地域に居住する住民の疾病予防や健康維持・増進を担う高度な実践能力を有する看護職の育成を目指す。地域色の濃い医療の提供に関しては、海外、特にアメリカ等では“ルーラルナーシング（田舎又はへき地看護）”と位置づけており、都市部の看護活動とは違った課題を有している。本来のルーラルナーシング（以後 RN と略す。）は、一定地域内に居住する人口を指標としているが、本県においては中山間・山間地域が RN 該当地域と考えられる。RN の看護師の担う役割は、少ない人数で救急から慢性疾患及び在宅等に関する、あらゆる医療業務を行うこと、保健福祉サービス的業務、介護的業務も担うことが明らかにされている。RN の看護師は、いわゆる「あらゆる看護場面に対応できるジェネラリスト」であり、医療の受給者からは「地域性を熟知した上で対応してくれる専門職」の期待を背負っている。いわゆるジェネラリストであるが専門職でもあるという両方の養成が望まれているという現状がある。

また、看護職者は医療チームとして他職種と関わり、地域住民の健康状況や健康問題への支援の必要性を適切に判断し、主体的・創造的にケアを提供する役割が求められる。言いかえれば、様々な健康レベルや健康に対するニーズを持つ人の、ライフサイクルに応じた、しかも、より個別性を見据えた、健康回復・推進に関する方法論の構築である。そのためには、人間の存在に対する深い理解と生命の尊厳に基づくヒューマンケアリングの実践家として､広い視野から学識を修め、理論と実践を統合する自立した実践者としてリフレクティブな看護を実践・研究・教育することのできる人材の育成を目的とする。

そして、平成 30 年 4 月に高度実践機能を有する看護師を養成するために高度実践コースを設置し、その中に日本看護系大学協議会（以下、「JANPU」という。）が認定する高度実践看護師教育課程（クリティカルケア看護分野）と本学認定の周麻酔期看護師教育課程を開設し、続いて令和２年に高度実践看護師教育課程（がん看護分野）の設置を完了した。JANPU の高度実践看護師教育課程には、専門看護師教育課程とナースプラクティショナー教育課程があるが、本学では専門看護師教育課程のみ設置している。専門看護師教育課程は、保健・医療・福祉現場において、複雑な健康問題を有する患者にケアとキュアを統合し、卓越した直接ケアを提供するとともに、相談、調整、倫理調整、教育及び研究を行い、ケアシステム全体を改善することで、看護実践力を向上させる高度実践看護師を養成する教育課程である。

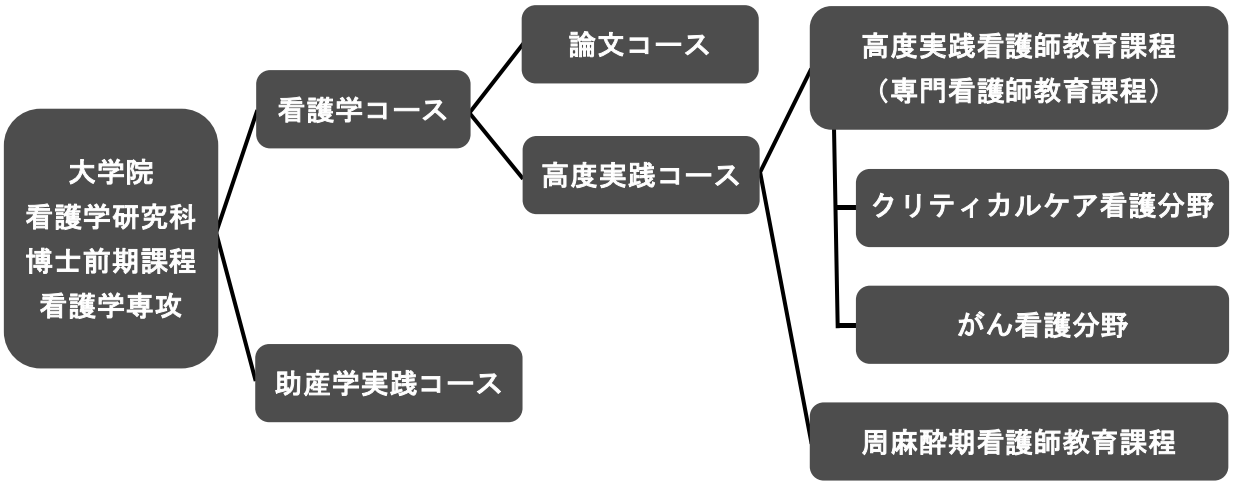
また、周麻酔期看護師教育課程は、麻酔科の医学的知識を集中的に学び、看護師として麻酔科医と協働して患者の麻酔管理を行う周麻酔期看護師を養成する課程である。看護学を基盤とし、麻酔学をはじめ薬理学、生理学、解剖学などの深い専門知識と高い麻酔管理技術により周麻酔期における包括的ケアを実践していく新しい分野である。手術室のみならず、術前・術後はもちろんのこと麻薬・鎮痛薬を使用する検査、救急医療、緩和医療などさまざまな場面での活躍が期待される。

（２）助産学実践コース

本学看護学科は、その前身である短大・専門学校であった、昭和 60 年から助産師の養成を行っており、それは大学になった後も助産選択コースとして続いている。近畿圏内における助産師養成は､数としての需給見通しは立つようになってきた｡しかしながら､周産期における課題は、家族形態の変化や女性の社会進出、少子高齢化、高齢出産、若年からの慢性疾患罹患、性の商品

化による若年者の性の問題等様々な様相を呈している。そのため、従来の妊娠・出産に関する看護ではカバーできにくいニーズも存在するようになってきた。おりしも、本学附属病院に正常産は助産師が中心になって継続的に関わり、リスクのある場合は産科医が医療対応するメディカルバースセンターが設置されたことから、母と子及び家族に対するケアの開発研究や高度な実践力を持ち、他分野と協働しながら母子保健に貢献できる研究者・実践者の育成を目指すこととした。そのため、看護学研究科修士課程に助産師国家試験受験資格を得ることができる高度実践コースを開設することにした。

４　看護学研究科博士前期課程構成



５　研究科、専攻等の名称及び学位の名称

（１）研究科の名称

奈良県立医科大学看護学研究科

（英訳名称）Graduate School of Nursing

（２）専攻の名称

看護学専攻

（英訳名称）Science in Nursing

（３）課程の名称

博士前期課程

（英訳名称）Master course

（４）学位の名称

修士（看護学）

（英訳名称）Master of Science in Nursing

Ⅱ　教育課程等の概要

１　奈良県立医科大学大学院看護学研究科博士前期課程履修要項

（目的）

第１条　この要項は、奈良県立医科大学大学院学則（平成 20 年 4 月 1 日。以下「学則」という。）第 7 条第 2 項の規定により、奈良県立医科大学大学院博士前期課程の授業科目（以下「科目」という。）の名称、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

（科目等）

第２条　開設する科目、単位数、時間数及び履修年次は、別表のとおりとする。

（科目の履修）

第３条　学生は履修しようとする選択科目について、各学期の指定期間内に履修登録を行わなければならない。

２　学生は、前項の登録をした後においては、任意に履修科目の変更又は取り消しをすることはできない。ただし、学長が正当な理由と認めた場合はこの限りでない。

３　科目は、原則として定められた年次に履修するものとする。

４　単位を修得した科目は、再び履修することはできない。

（単位の計算方法）

第４条　科目の単位数は、1 単位 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、学習方法に応じ、次の基準により、計算するものとする。

一　講義については、15 時間をもって 1 単位とする。ただし、科目の内容によっては、30 時間をもって 1 単位とすることができる。

二　演習については、30 時間をもって 1 単位とする。ただし、科目の内容によっては、15 時間をもって 1 単位とすることができる。

三　実習、実技及び実験については、45 時間をもって 1 単位とする。ただし、科目の内容によっては、30 時間をもって 1 単位とすることができる。

（修了の要件）

第５条　看護学研究科博士前期課程を卒業するためには、本大学院に 2 年以上在学し、科目について次のとおり修得し、かつ、看護学コースの論文コースにあっては修士論文を、看護学コースの高度実践コース及び助産学実践コースにあっては特定の課題についての研究の成果（以下、「課題研究成果物」という。）を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

一　看護学コース

ア　論文コース

次のとおり共通科目を 10 単位以上、主科目の専門科目を 14 単位、主科目以外の専門科目を 6 単位以上、合計 30 単位以上を修得しなければならない。

（１）共通科目　必修科目　4 単位（看護研究方法論及び看護理論）
　　選択科目　6 単位以上

（２）主科目　特論　2 単位
　　演習　4 単位
　　特別研究　8 単位

（３）主科目以外の専門科目　特論又は演習　6 単位以上

イ　高度実践コース　高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程）

次のとおり共通科目を 14 単位以上、主科目の専門科目を 26 単位、合計 40 単位以上を修得しなければならない。

（一）共通科目　必修科目　14 単位（看護研究方法論、看護理論、看護倫理学、看護管理論、アドバンスフィジカルアセスメント、病態生理学及び臨床薬理学）

（二）主科目　専門科目　26 単位以上

ウ　高度実践コース　周麻酔期看護師教育課程

次のとおり共通科目を 14 単位以上、主科目の専門科目を 32 単位、合計 46 単位以上を修得しなければならない。

（一）共通科目　必修科目　14 単位（看護研究方法論、看護理論、看護倫理学、看護管理論、アドバンスフィジカルアセスメント、病態生理学及び臨床薬理学）

（二）主科目　専門科目　32 単位以上

二　助産学実践コース

次のとおり共通科目を 10 単位以上、主科目の専門科目を 10 単位以上、主科目以外の専門科目を 6 単位以上、助産学実践科目を 35 単位、合計 61 単位以上を修得しなければならない。

ア　共通科目　必修科目　4 単位（看護研究方法論及び看護理論）

選択科目　6 単位以上

イ　主科目の専門科目　特論　2 単位

演習　4 単位

課題研究　4 単位

ウ　主科目以外の選択科目　特論又は演習　6 単位以上

エ　助産学実践科目　35 単位

（単位認定の資格）

第６条　学生は、次の各号に該当しなければ、履修する科目の単位認定を認めない。

一　履修する科目の出席時間が、当該科目の授業時間数の 3 分の 2（実習科目にあっては 5 分の 4）以上の者

二　出席時間数が前号に達しない者のうち、担当教員が前号に達した者と同等の能力があると認めた者

（成績の評価）

第７条　成績の表示は 100 点を満点とし、次の基準により行う。

100～80 点	79～70 点	69～60 点	60 点未満
A	B	C	D

（単位の認定）

第８条　科目の単位認定は、成績の評価により、A、B 及び C を「合格」、D を「不合格」とし、合格者に対し所定の単位を与えるものとする。

２　単位の認定は、当該科目の担当教員が行い、成績判定会議で審議を行う。

３　成績判定会議は、看護学研究科博士前期課程の教授をもって組織する。

４　単位の認定は、看護学研究科長が学長に報告し、学長が決定するものとし、その結果は、看護学研究科博士前期課程委員会で報告するものとする。

（不正行為）
第９条　不正行為があったときは、当該科目の単位を無効とする。ただし、不正行為が悪質であると判断された場合は、学則第 32 条による懲戒処分を行う。

（雑則）
第 10 条　この要領に定めるもののほか、科目の履修に関し必要な事項は別に定める。

附　則（令和 5 年 12 月 12 日）
この要領は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

別表　看護学研究科博士前期課程の教育課程

区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	主担当教員	頁	修了要件履修単位
共通科目		看護研究方法論 ●	1前	2		30	石澤　美保子	28	
		看護理論 ●	1前	2		30	川上　あずさ	30	
		英文講読	1前		2	30	勝井　伸子	32	【論文コース・助産学実践コース】
		看護倫理学 ●	1前		2	30	池邉　寧	34	必修科目：４単位
		看護情報学	1後		2	30	城戸　楓	36	選択科目：６単位以上
		精神保健学	1後		2	30	太田　豊作	38	
		家族看護学	1後		2	30	川上　あずさ	40	
		看護管理論 ●	1前		2	30	笠松　由利	42	
		アドバンストフィジカルアセスメント ●	1前		2	30	山内　基雄	44	
		地域医療学	1後		2	30	赤井　靖宏	46	
		病態生理学 ●	1前		2	30	川口　昌彦	47	【高度実践コース】
		臨床薬理学 ●	1後		2	30	吉栖　正典	49	●印の科目１４単位が必修
		医の共通科目	1前		1	15	森　英一朗	50	
		衛生社会医学	1前		1	15	今村　知明	51	
論文コース	専門科目	心と脳の発達学特論	1前		2	30	太田　豊作	52	
		心と脳の発達学演習	1通		4	120	太田　豊作	54	
		心と脳の発達学特別研究	2通		8	240	太田　豊作	56	
		睡眠学特論	1前		2	30	山内　基雄	57	
		睡眠学演習	1通		4	120	山内　基雄	59	
		睡眠学特別研究	2通		8	240	山内　基雄	60	
		基礎看護学特論	1前		2	30	松田　明子	61	
		基礎看護学演習	1通		4	120	松田　明子	62	
		基礎看護学特別研究	2通		8	240	松田　明子	63	
		看護実践応用学特論	1前		2	30	石澤　美保子	64	
		看護実践応用学演習	1通		4	120	石澤　美保子	66	
		看護実践応用学特別研究	2通		8	240	石澤　美保子	67	
		がん看護学特論	1前		2	30	升田　茂章	68	【論文コース】
		がん看護学演習Ⅲ	1通		4	120	升田　茂章	70	必須の専門科目：１４単位
		がん看護学特別研究	2通		8	240	升田　茂章	71	選択専門科目：６単位以上
		高齢者看護学特論	1前		2	30	澤見　一枝	72	
		高齢者看護学演習	1通		4	120	澤見　一枝	73	
		高齢者看護学特別研究	2通		8	240	澤見　一枝	75	
		小児看護学特論	1前		2	30	川上　あずさ	76	
		小児看護学演習	1通		4	120	川上　あずさ	78	
		小児看護学特別研究	2通		8	240	川上　あずさ	79	
		女性健康学特論	1前		2	30	五十嵐　稔子	80	
		女性健康学演習	1通		4	120	五十嵐　稔子	82	
		女性健康学特別研究	2通		8	240	五十嵐　稔子	83	
		周産期看護学特論	1前		2	30	五十嵐　稔子	84	
		周産期看護学演習	1通		4	120	五十嵐　稔子	86	
		周産期看護学特別研究	2通		8	240	五十嵐　稔子	87	

区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	主担当教員	頁	修了要件履修単位
論文コース	専門科目		精神看護学特論	1前		2	30	奥田　淳	88	【論文コース】 必須の専門科目：１４単位 選択専門科目：６単位以上
			精神看護学演習	1通		4	120	奥田　淳	89	
			精神看護学特別研究	2通		8	240	奥田　淳	90	
			在宅看護学特論	1前		2	30	小竹　久実子	91	
			在宅看護学演習	1通		4	120	小竹　久実子	93	
			在宅看護学特別研究	2通		8	240	小竹　久実子	95	
			公衆衛生看護学特論	1前		2	30	坂東　春美	96	
			公衆衛生看護学演習	1通		4	120	坂東　春美	97	
			公衆衛生看護学特別研究	2通		8	240	坂東　春美	98	
高度実践コース	高度実践看護師教育課程	クリティカルケア看護分野　専門科目	急性病態治療学	1前		2	30	川口　昌彦	99	【高度実践看護師教育課程】 ＜クリティカルケア看護分野＞ 必須の専門科目：２６単位
			急性看護学特論	1前		2	30	石澤　美保子	101	
			急性看護学援助特論Ⅰ	1後		2	30	石澤　美保子	103	
			急性看護学援助特論Ⅱ（治療管理）	1通		2	30	石澤　美保子	105	
			急性看護学演習Ⅰ	1通		2	60	石澤　美保子	107	
			急性看護学演習Ⅱ	1通		2	60	石澤　美保子	109	
			急性看護学演習Ⅲ	2前		2	60	石澤　美保子	111	
			急性看護学実習Ⅰ	1後		2	90	石澤　美保子	113	
			急性看護学実習Ⅱ	2通		2	90	石澤　美保子	115	
			急性看護学実習Ⅲ	2通		2	90	石澤　美保子	116	
			急性看護学実習Ⅳ	2通		4	180	石澤　美保子	117	
			急性看護学課題研究	2通		2	60	石澤　美保子	119	
		がん看護分野　専門科目	がん病態治療学	1前		2	30	－	120	【高度実践看護師教育課程】 ＜がん看護分野＞ 必須の専門科目：２６単位
			がん看護学特論	1前		2	30	升田　茂章	123	
			がん看護学援助特論Ⅰ	1後		2	30	升田　茂章	125	
			がん看護学援助特論Ⅱ	1後		2	30	升田　茂章	127	
			がん看護学援助特論Ⅲ	1後		2	30	升田　茂章	129	
			がん看護学演習Ⅰ	1前		2	60	升田　茂章	131	
			がん看護学演習Ⅱ	1後		2	60	升田　茂章	133	
			がん看護学実習Ⅰ	1後		2	90	升田　茂章	136	
			がん看護学実習Ⅱ	2通		2	90	升田　茂章	138	
			がん看護学実習Ⅲ	2通		2	90	升田　茂章	140	
			がん看護学実習Ⅳ	2通		2	90	升田　茂章	141	
			がん看護学実習Ⅴ	2通		2	90	升田　茂章	142	
			がん看護学課題研究	2通		2	60	升田　茂章	144	
高度実践コース	周麻酔期看護師教育課程　専門科目		周麻酔期看護学特論Ⅰ	1前		2	30	川口　昌彦	145	【周麻酔期看護師教育課程】 必須の専門科目：３２単位
			周麻酔期看護学特論Ⅱ	1前		2	30	川口　昌彦	147	
			周麻酔期看護学特論Ⅲ	1後		2	30	川口　昌彦	149	
			周麻酔期看護学特論Ⅳ	1後		2	30	川口　昌彦	151	
			周麻酔期看護学演習Ⅰ	1前		2	60	川口　昌彦	153	
			周麻酔期看護学演習Ⅱ	1後		2	60	川口　昌彦	154	
			周麻酔期看護学実習Ⅰ	1後		4	180	川口　昌彦	155	
			周麻酔期看護学実習Ⅱ	2前		6	270	川口　昌彦	156	
			周麻酔期看護学実習Ⅲ	2前		6	270	川口　昌彦	157	
			周麻酔期看護学課題研究	2通		4	120	川口　昌彦	158	

区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	主担当教員	頁	修了要件履修単位
助産学実践コース	専門科目	女性健康学特論	1前		2	30	五十嵐　稔子	159	
		女性健康学演習	1通		4	120	五十嵐　稔子	161	
		女性健康学課題研究	2通		4	120	五十嵐　稔子	162	
		周産期看護学特論	1前		2	30	五十嵐　稔子	163	
		周産期看護学演習	1通		4	120	五十嵐　稔子	165	
		周産期看護学課題研究	2通		4	120	五十嵐　稔子	166	
	助産学実践科目	助産学特論Ⅰ-助産学概論-	1前	2		30	五十嵐　稔子	167	
		助産学特論Ⅱ-基礎助産学-	1前	2		30	乾　つぶら	169	
		助産学特論Ⅲ-胎児新生児学-	1前	1		15	内田　優美子	171	
		助産学特論Ⅳ-健康教育-	1前	1		15	五十嵐　稔子	172	【助産学実践コース】
		助産学特論Ⅴ-地域母子保健1-	1前	1		15	森兼　眞理	173	必須の専門科目：１０単位
		助産学特論Ⅵ-助産管理-	1前	2		30	五十嵐　稔子	174	選択専門科目：６単位以上
		助産学特論Ⅶ-地域母子保健2-	2後	1		15	五十嵐　稔子	176	助産学実践科目：３５単位
		助産診断・技術学演習Ⅰ-妊娠期-	1前	2		60	上田　佳世	177	
		助産診断・技術学演習Ⅱ-分娩期-	1前	3		90	乾　つぶら	179	
		助産診断・技術学演習Ⅲ-産褥・新生児期-	1前	2		60	木村　奈緒美	182	
		助産診断・技術学演習Ⅳ-ハイリスク-	1前	3		90	乾　つぶら	185	
		助産学実習Ⅰ-基礎-	1前	1		45	五十嵐　稔子	188	
		助産学実習Ⅱ-病院-	1後	9		405	五十嵐　稔子	189	
		助産学実習Ⅲ-ハイリスク-	1後	2		90	五十嵐　稔子	190	
		助産学実習Ⅳ-保健指導-	1後	1		45	五十嵐　稔子	191	
		助産学実習Ⅴ-助産所-	2前	2		90	五十嵐　稔子	192	

学位又は称号　：　修士（看護学）	学位又は学科の分野　：　保健衛生学関係

修了要件及び履修方法	
本大学院に2年以上（優れた研究業績を上げた者については、1年以上）在学し、授業科目について、論文コースにあっては30単位以上、高度実践コースの高度実践看護師教育課程にあっては40単位以上、周麻酔期看護師教育課程にあっては46単位以上修得し、かつ、修士論文又は課題研究成果物を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。 助産学実践コースは、61単位以上修得し、かつ、課題研究成果物を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。	１学年の学期区分　２期 １学期の授業期間　１５週 １時限の授業時間　９０分

２　履修指導及び研究指導の方法

（１）研究指導の方法

①　研究指導教員の決定

学生は修士論文・課題研究成果物にかかる研究及び論文作成等にあたり、主科目の研究指導を担当する教員の指導を受けるものとする。また複数の研究指導教員又は研究指導補助教員がいる主科目については、学生が提出した研究計画書における研究内容、研究方法等を参考に、学生本人の希望・意思及び教員の専門分野をあわせて総合的に判断され、研究指導教員と研究指導補助教員が決定される。教育研究上有益と認められるときは、主科目以外の科目を担当する教員の指導を受けることができる。この場合において、主科目の研究指導を担当する教員は、当該教員との協議を経て、学長に届け出なければならない。

②　研究指導及び論文・課題研究成果物作成のスケジュール

主科目の研究指導教員は、専門分野の特別研究において、研究課題の明確化、研究計画書作成から修士論文・課題研究成果物提出までの過程を、学生の作業過程にあわせて、適時、助言、指導を行う。

修士論文・課題研究成果物公聴会の前に、研究過程全般をとおして学生の学習経過を詳細に把握している主科目の研究指導教員をはじめとする指導教員から、今後の研究への発展や専門職業人としての活動に示唆を受ける機会を得ることが可能である。

また、学生の研究の成果又はそのプロセスを広く公開する形式で修士論文・課題研究成果物公聴会を開催する。

（２）履修及び論文作成のプロセス

<table>
<tr><th colspan="2">時期</th><th>論文コース</th><th>高度実践コース・助産学実践コース</th></tr>
<tr><td rowspan="3">1
年
次</td><td>4 月</td><td colspan="2">・主科目の研究指導教員よりオリエンテーションと 2 年間の研究スケジュールについて指導を受ける。
・履修科目を決定する。
・「人を対象とする医学系研究講習会」を必ず受講する（～5 月）。</td></tr>
<tr><td>10 月</td><td colspan="2">・修士論文・課題研究成果物の研究テーマ（仮）提出
・主科目の研究指導教員より個別指導を受け、研究計画の構想を固める。</td></tr>
<tr><td>12 月</td><td colspan="2">・修士論文・課題研究成果物の研究計画書を主科目の研究指導教員に提出
・研究における倫理的問題等に関する検討を経て、研究活動の許可を主科目の研究指導教員より得る。
・倫理審査申請書類の作成</td></tr>
<tr><td rowspan="8">2
年
次</td><td>4 月</td><td>・研究活動開始
・特別研究において実験・実習・データ収集のための研究活動</td><td rowspan="5">・看護学実習
・研究活動開始
・課題研究において実験・実習・データ収集のための研究活動
・課題研究成果物作成</td></tr>
<tr><td>6 月</td><td>・適宜、研究指導教員の個別指導を受ける。
・研究活動の途中経過を主科目の研究指導教員に提出し、今後の進展方向の指導を受ける。</td></tr>
<tr><td>9 月</td><td>中間発表会</td></tr>
<tr><td>10 月</td><td>研究活動の継続、修士論文作成</td></tr>
<tr><td>1 月</td><td>論文審査申請・修士論文の提出</td><td>課題研究成果物提出</td></tr>
<tr><td>2 月</td><td colspan="2">修士論文・課題研究成果物公聴会</td></tr>
<tr><td>3 月</td><td>修士論文審査及び最終試験</td><td>課題研究成果物審査及び最終試験</td></tr>
</table>

（３）論文の審査及び最終試験

①　資格要件

博士前期課程に在学し、必要単位を取得済み又は取得見込みの者で、資格審査は大学院看護学研究科博士前期課程運営委員会で行う。

②　学位論文の要件

修士論文・課題研究成果物は１編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

③　予備審査

「②学位論文の要件」は、大学院看護学研究科博士前期課程委員会で行う予備審査で、学位請求論文の受理の可否を決定する。

④　審査体制

論文審査にあたっては､修士論文は主科目の研究指導教員が指名する主科目以外からの２名の研究指導教員、課題研究成果物にあっては、主科目の研究指導教員が指名する主科目以外からの１名の研究指導教員からなる修士論文・課題研究成果物審査委員会(主科目の研究指導教員を含む。委員長は主科目の研究指導教員がなることはできない。)が審査する。

⑤　学位公聴会

学位請求者は、審査委員長を含む審査委員 2 名又は 3 名と博士前期課程の研究指導教員の前で、学位請求論文・課題研究成果物の内容について、口頭でプレゼンテーションを行い、最終試験を受ける。

⑥　最終試験

最終試験は、学位論文・課題研究成果物を中心とし、これに関する科目について行う。この試験は口頭試問とするが、筆記試験を併せて行うことができる。

⑦　学位請求論文の評価の視点

学生請求論文の評価の視点は、以下の５点である。

一　研究課題

文献検討が充分になされ、研究課題は明確に定まっているか。

二　研究方法の選定

研究対象の選定、研究デザインは適切に選択されているか。

（系統的レビュー、症例報告等含む）

三　倫理的配慮

研究デザインに添った倫理的配慮がなされているか。

四　研究データの収集

課題に対するデータ収集が適切になされているか。

五　結果とその解釈および研究の発表

・研究課題に対するこたえ、あるいは仮説の検定結果を示し、結果の意味や意義を解釈する考察が示されているか。

・研究は独創的思考に基づいているか。研究の発展性もしくは今後の課題は示されているか。看護学研究への貢献が期待できるものであるか。

⑧　審査委員会

看護学研究科博士前期課程委員会において修士論文・課題研究成果物審査委員会を設けて行う。修士論文・課題研究成果物公聴会を開催した後、修士論文・課題研究成果物審査委員会を開催する。修士論文・課題研究成果物審査委員会は、修士論文においては看護学研究科博士

前期課程委員会を構成する研究指導教員３名(主科目の研究指導教員１名と主科目でない研究指導教員２名)の委員、課題研究成果物においては看護学研究科博士前期課程委員会を構成する研究指導教員２名（主科目の研究指導教員１名と主科目でない研究指導教員１名）で組織し、主科目担当でない研究指導教員１名を審査委員長とする。審査は１年に１回とする。ただし、特別の事情があるときは、看護学研究科博士前期課程委員会の議を経て、特別に審査することができる。修士論文・課題研究成果物審査委員会は、修士論文・課題研究成果物審査終了後、審査結果、審査内容及び要旨を看護学研究科博士前期課程委員会に報告しなければならない。

⑨　本審査

看護学研究科博士前期課程委員会は、審査委員会の報告に基づき、学位授与の合否について、議決する。この議決は、看護学研究科博士前期課程委員会の構成員の３分の２以上が出席し、出席者の過半数以上の同意を必要とする。看護学研究科博士前期課程委員会委員長は、その結果を学長に報告しなければならない。学長は報告に基づき、修士の学位を授与すると決定された者には学位記を交付して学位を授与する。修士の学位を授与しないと決定された者には、その旨を通知する。

⑩　審査の透明性、厳格性及び客観性

論文審査にあたっては、審査委員会の委員３名のうち２名は、課題研究成果物にあっては、審査委員会の委員３名のうち１名は、学位請求者の指導に直接関わっていない研究指導教員であり、審査の可否は、論文審査にあたっては、審査委員会の３分２以上が、課題研究成果物にあっては、審査委員会の２分１以上が、適と判断する。また、審査委員会の委員長は、異なる領域に所属する専任教授が務め、学位授与の可否は、大学院看護学研究科博士前期課程委員会の３分の２の承認をもって決定することから厳格性及び客観性を担保する。透明性の観点からは、学位請求論文・課題研究成果物の口頭試問は、審査委員、大学院看護学研究科博士前期課程委員会委員及び学生の前で実施することで担保する。

⑪　研究の倫理審査体制

１）医の倫理審査委員会

本学において、人を対象とする生命科学・医学系研究及び医療行為等が、ヘルシンキ宣言及び人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針を含む国等の指針等に基づき行われることを目的として、医の倫理審査委員会を設置する。委員会は、医の倫理の在り方に関する基本的事項について調査審議するとともに、本学の研究者から申請された研究等の実施計画について、指針等に基づき、倫理的観点及び科学的観点から審査を行う。委員会は、以下の委員をもって組織する。

１　医学・医療の専門家等、自然科学の有識者
２　倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者
３　一般の立場から意見を述べることができる者
４　基礎教育部長
５　看護教育部長

２）研究倫理に関する教育・研修

研究に関わる者は、毎年度１回以上の研究倫理に関する講習会の受講を必須としている。講習会は、本学臨床研究センターが開催するもの又は国立がん研究センターが提供している教育プログラム「ICR 臨床研究入門（略称：ICRweb)」である。

３）申請方法

CT－Portal（治験・臨床研究支援クラウドサービス）に有効期限内の倫理講習会受講歴を登録し、資料 13「新規申請時 提出書類」に定める資料を作成する。CT－Portal を用いて、新規申請の手続きを行い、事務局による申請書類等の確認後、受理される。研究の内容によって、対面又は WEB 形式での審査か書面審査を医の倫理審査委員会が行い、承認後、当該研究の実施が可能となる。

３　長期履修期間の短縮

2 年間の課程を 3 年間で履修することができる長期履修制度を入学時に申請した学生が、長期履修期間の短縮を希望する場合、長期履修期間変更申請書を各年次の 12 月 1 日から 12 月 20 日までに学長に願い出て、その許可を受けなければならない。なお、2 年次の上記期間中に短縮を希望する場合は、当該年度の 9 月に行われる中間発表会において発表を行わなければならない。

４　取得できる資格

助産師国家試験受験資格（助産学実践コースのみ）
受胎調節実地指導員（助産学実践コースのみ）
新生児蘇生法「専門」A コース修了認定証（助産学実践コースのみ）
専門看護師認定審査受験資格（高度実践コースの高度実践看護師教育課程のみ）
※専門看護師認定審査を受けるためには、所定の単位取得の他に実務研修が通算 5 年以上あり、うち 3 年間以上は専門看護分野の実務研修であることが必要です。
周麻酔期看護師（高度実践コースの周麻酔期看護師教育課程のみ、大学院看護学研究科内認定）

5　看護学研究科博士前期課程履修モデル

看護学コース　論文コース

区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
共通科目		看護研究方法論	1前	2		30				
		看護理論	1前	2		30				
		英文講読	1前		2	30				
		看護倫理学	1前		2	30				
		看護情報学	1後		2	30				
		精神保健学	1後		2	30				
		家族看護学	1後		2	30				
		看護管理論	1前		2	30				
		アドバンストフィジカルアセスメント	1前		2	30				
		地域医療学	1後		2	30				
		病態生理学	1前		2	30				
		臨床薬理学	1後		2	30				
		医の共通科目	1前		1	15				
		衛生社会医学	1前		1	15				
専門科目	主科目	特論	1前	2		30				
		演習	1通	4		120				
		特別研究	2通	8		240				
	主科目以外	特論	1前	2		30				
		演習	1通	4		120				
合計単位数				24	6					

: 必修　: 選択

看護学コース　高度実践コース　高度実践看護師教育課程　クリティカルケア看護分野

区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
共通科目		看護研究方法論	1前	2		30				
		看護理論	1前	2		30				
		看護倫理学	1前	2		30				
		看護管理論	1前	2		30				
		アドバンストフィジカルアセスメント	1前	2		30				
		病態生理学	1前	2		30				
		臨床薬理学	1後	2		30				
専門科目	主科目	急性病態治療学	1前	2		30				
		急性看護学特論	1前	2		30				
		急性看護学援助特論Ⅰ	1後	2		30				
		急性看護学援助特論Ⅱ（治療管理）	1通	2		30				
		急性看護学演習Ⅰ	1通	2		60				
		急性看護学演習Ⅱ	1通	2		60				
		急性看護学演習Ⅲ	2前	2		60				
		急性看護学実習Ⅰ	1後	2		90				
		急性看護学実習Ⅱ	2通	2		90				
		急性看護学実習Ⅲ	2通	2		90				
		急性看護学実習Ⅳ	2通	4		180				
		急性看護学課題研究	2通	2		60				
合計単位数				40						

: 必修　: 選択

看護学コース　高度実践コース　高度実践看護師教育課程　がん看護分野

区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
共通科目		看護研究方法論	1前	2		30				
		看護理論	1前	2		30				
		看護倫理学	1前	2		30				
		看護管理論	1前	2		30				
		アドバンストフィジカルアセスメント	1前	2		30				
		病態生理学	1前	2		30				
		臨床薬理学	1後	2		30				
専門科目	主科目	がん病態治療学	1前	2		30				
		がん看護学特論	1前	2		30				
		がん看護学援助特論Ⅰ	1後	2		30				
		がん看護学援助特論Ⅱ	1後	2		30				
		がん看護学援助特論Ⅲ	1後	2		30				
		がん看護学演習Ⅰ	1前	2		60				
		がん看護学演習Ⅱ	1後	2		60				
		がん看護学実習Ⅰ	1後	2		90				
		がん看護学実習Ⅱ	2通	2		90				
		がん看護学実習Ⅲ	2通	2		90				
		がん看護学実習Ⅳ	2通	2		90				
		がん看護学実習Ⅴ	2通	2		90				
		がん看護学課題研究	2通	2		60				
合計単位数				40						

：必修　：選択

看護学コース　高度実践コース　周麻酔期看護師教育課程

区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
共通科目		看護研究方法論	1前	2		30				
		看護理論	1前	2		30				
		看護倫理学	1前	2		30				
		看護管理論	1前	2		30				
		アドバンストフィジカルアセスメント	1前	2		30				
		病態生理学	1前	2		30				
		臨床薬理学	1後	2		30				
専門科目	主科目	周麻酔期看護学特論Ⅰ	1前	2		30				
		周麻酔期看護学特論Ⅱ	1前	2		30				
		周麻酔期看護学特論Ⅲ	1後	2		30				
		周麻酔期看護学特論Ⅳ	1後	2		30				
		周麻酔期看護学演習Ⅰ	1後	2		60				
		周麻酔期看護学演習Ⅱ	1前	2		60				
		周麻酔期看護学実習Ⅰ	1後	4		180				
		周麻酔期看護学実習Ⅱ	1後	6		270				
		周麻酔期看護学実習Ⅲ	2通	6		270				
		周麻酔期看護学課題研究	2通	4		120				
合計単位数				46						

：必修　：選択

助産学実践コース

区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
共通科目		看護研究方法論	1前	2		30				
		看護理論	1前	2		30				
		英文講読	1前		2	30				
		看護倫理学	1前		2	30				
		看護情報学	1後		2	30				
		精神保健学	1後		2	30				
		家族看護学	1後		2	30				
		看護管理論	1前		2	30				
		アドバンストフィジカルアセスメント	1前		2	30				
		地域医療学	1後		2	30				
		病態生理学	1前		2	30				
		臨床薬理学	1後		2	30				
		医の共通科目	1前		1	15				
		衛生社会医学	1前		1	15				
専門科目	主科目	女性健康学特論	1前	2		30				
		女性健康学演習	1通	4		120				
		女性健康学課題研究	2通	4		120				
	主科目以外	特論	1前		2	30				
		演習	1通		4	120				
助産学実践科目		助産学特論Ⅰ-助産学概論-	1前	2		30				
		助産学特論Ⅱ-基礎助産学-	1前	2		30				
		助産学特論Ⅲ-胎児新生児学-	1前	1		15				
		助産学特論Ⅳ-健康教育-	1前	1		15				
		助産学特論Ⅴ-地域母子保健1-	1前	1		15				
		助産学特論Ⅵ-助産管理-	1前	2		30				
		助産学特論Ⅶ-地域母子保健2-	2後	1		15				
		助産診断・技術学演習Ⅰ-妊娠期-	1前	2		60				
		助産診断・技術学演習Ⅱ-分娩期-	1前	3		90				
		助産診断・技術学演習Ⅲ-産褥・新生児期-	1前	2		60				
		助産診断・技術学演習Ⅳ-ハイリスク-	1前	3		90				
		助産学実習Ⅰ-基礎-	1前	1		45				
		助産学実習Ⅱ-病院-	1後	9		405				
		助産学実習Ⅲ-ハイリスク-	1後	2		90				
		助産学実習Ⅳ-保健指導-	1後	1		45				
		助産学実習Ⅴ-助産所-	2前	2		90				
合計単位数				49	12					

: 必修　: 選択

助産学に係る科目の履修について

奈良県立医科大学大学院看護学研究科博士前期課程授業科目履修要領

（趣旨）

第１条　この要領は、奈良県立医科大学大学院看護学研究科博士前期課程履修要項に基づき、助産師国家試験受験資格の取得に必要な科目のうち助産学に係る科目（以下「助産学実践科目」という。）の履修方法について必要な事項を定めるものとする。

（助産学実践科目の定義）

第２条　助産学実践科目の名称及び単位数は別表のとおりとする。

（履修の制限等）

第３条　別表の助産学実習Ⅱを履修する者は、助産学特論Ⅰ～Ⅵ、助産診断・技術学演習Ⅰ～Ⅳ及び助産学実習Ⅰの単位を修得し、原則同一年次に「助産学実習Ⅱ～Ⅳ」を履修するものとする。

（雑則）

第４条　この要領に定めるもののほか、助産学実践科目の履修にあたって必要な事項は、別に定める。

附　則

この要領は平成２４年４月１日から施行する。

附　則

この要領は平成３１年３月１日から施行する。

附　則

この要領は令和２年４月１日から施行する。

附　則

この要領は令和４年４月１日から施行する。

別表　令和４年度以降入学生の助産学実践科目及び単位数

科目名	単位数
助産学特論Ⅰ－助産学概論－	2
助産学特論Ⅱ－基礎助産学－	2
助産学特論Ⅲ－胎児新生児学－	1
助産学特論Ⅳ－健康教育－	1
助産学特論Ⅴ－地域母子保健 1－	1
助産学特論Ⅵ－助産管理－	2
助産学特論Ⅶ－地域母子保健 2－	1
助産診断・技術学演習Ⅰ－妊娠期－	2
助産診断・技術学演習Ⅱ－分娩期－	3
助産診断・技術学演習Ⅲ－産褥・新生児期－	2
助産診断・技術学演習Ⅳ－ハイリスク－	3
助産学実習Ⅰ－基礎－	1
助産学実習Ⅱ－病院－	9
助産学実習Ⅲ－ハイリスク－	2
助産学実習Ⅳ－保健指導－	1
助産学実習Ⅴ－助産所－	2
合　計	３５

Ⅲ　科目概要

講義科目名称： 看護研究方法論　　授業コード：N121010

英文科目名称： Practice of Nursing Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	必修
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子／川上　あずさ／小竹　久実子／奥田　淳/周藤　俊治/図書館職員
概要	看護研究の意義を理解し、適切な研究課題および研究手法による研究実施能力と修士論文作成の基礎的知識を習得する。
目標	１）看護における研究の役割と意義を理解できる。 ２）研究に必要な倫理的配慮について理解できる。 ３）文献収集方法を理解できる。 ４）研究論文のクリティークについて理解できる。 ５）質的研究に関する研究方法について理解できる。 ６）量的研究に関する研究方法について理解できる。 ７）研究計画書の書き方について理解できる。 ８）学位論文の作成および研究発表について理解できる。
評価方法	授業参加度20%、プレゼンテーション30%（妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法）、レポート50%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 文献収集方法について ・文献収集方法について学ぶ（図書館3階視聴覚室にて）	演習	大瀬戸貴己 (図書館)
2 看護研究の意義と役割 ・研究に必要となるもー研究計画書作成までの道筋―	講義	石澤美保子
3 倫理的配慮の意義と方法について ・研究に必要となる倫理に関する基盤となる指針や理論を理解し、研究上の倫理的配慮について学ぶ	講義	小竹久実子
4 質的研究デザインの種類と特徴 ・質的研究に関する研究方法について①②	講義	川上あずさ
5・6 質的研究デザインの論文 文献検討 ・質的帰納的分析①	演習	川上あずさ
7・8 質的帰納的分析②③	演習	川上あずさ
9～10 量的研究デザインの種類と特徴 ・量的研究に関する研究方法について①② ※事前に授業資料を授業サイトhttps://medbb.netに掲載するので、内容を確認し不明な用語などを調べておくこと。印刷は学生自身で行ってください。	講義	周藤俊治
11 量的研究デザインの種類と特徴 ・量的研究に関する研究方法について③	講義	周藤俊治
12 量的研究の実際	演習	小竹久実子
13 研究計画書の書き方について ・倫理審査申請書の記述方法	講義	奥田　淳
14 修士論文作成方法および研究発表について① ・論文の構成、文章表現、口演発表および示説発表時のプレゼンテーション方法を学ぶ	講義	奥田　淳
15 修士論文作成方法および研究発表について②	講義	奥田　淳

	・論文の構成、文章表現、口演発表および示説発表時のプレゼンテーション方法を学ぶ		
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。		
テキスト	看護における研究：南裕子、日本看護協会出版会、看護研究Step by Step：黒田裕子、学研 ナースのための質的研究入門第２版：ホロウェイ＋ウィーラー 監訳野口美和子 医学書院		
参考書	適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	初めて学ぶ内容もあるかもしれませんが、自己学習しながら理解を深めてください。		

講義科目名称： 看護理論　　授業コード：N121020

英文科目名称： Nursing Theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	必修
担当教員			
川上　あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上　あずさ／五十嵐　稔子／澤見　一枝
概要	卓越した看護実践の基盤となる看護諸理論の発展の経緯とその特徴を理解するとともに、実践と研究との位置づけを確認し、看護の現象に関する説明や援助・研究への活用について考察する。そのことをとおして、看護理論が高度な看護実践の基盤となることを理解する。
目標	1）看護実践の基盤となる看護諸理論の発展の経緯とその特徴を理解する。 2）看護理論の構成要素とその分析をとおし、主要な看護理論と看護実践・研究との関連を考察する。 3）看護理論の特徴をふまえ、看護実践・研究への活用について検討し理解する。
評価方法	プレゼンテーション50%、レポート50%を総合的に評価する。 レポートの課題：看護実践における看護理論の位置づけと活用方法、活用の意義についての考察

授業計画

	授業内容	授業形態	担当者
1	2024年4月16日（火） 授業展開のオリエンテーション／文献の活用・プレゼンテーションについて	講義	川上・五十嵐
2	2024年4月16日（火） 看護理論の構築（記述・ 構成要素 ）と概念分析、看護理論の概観、看護理論 の分類	講義	川上
3	2024年4月30日（火） 看護理論 とは　　看護理論の歴史的発展	講義	川上・澤見
4	2024年4月30日（火） 相互作用理論の理解と活用について考察する トラベルビー，人間対人間の 看護、ペプロウ，看護における人間関係等	演習	五十嵐
5	2024年5月14日（火） ニーズ理論の理解と活用について考察する ヘンダーソン、オレム，セルフ ケア理論等	演習	澤見
6	2024年5月14日（火） 看護理論の研究・看護実践への活用：中範囲理論とは 中範囲理論の特徴	講義	五十嵐
7	2024年5月28日（火） ケアリング理論の理解と活用について考察する ベナー看護論、ワトソン看護論）	演習	五十嵐
8	2024年5月28日（火） システム理論の理解と活用について考察する （ロイ，適応モデル、ロジャース看護論等）	演習	澤見
9	2024年6月11日（火） 相互作用理論の理解と活用について考察する（マーサー， 母親役割移行過程理論等）	演習	川上
10	2024年6月11日（火） 看護理論の研究・看護実践への活用について検討し討議する（病気・障害・人生の体験を説明する理論）	演習	澤見
11	2024年6月25日（火） 看護理論の研究・ 看護 実践への活用について検討し討議する（看護のアセスメントと援助に関する理論）	演習	五十嵐
12	2024年6月25日（火） 看護理論の研究・ 看護実践への活用について検討し討議する	演習	川上

		（危機・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論）		
	13	2024年7月9日（火） 看護理論の研究・ 看護実践への活用について検討し討議する （行動変容、行動強化に関する理論）	演習	川上
	14	2024年7月9日（火） 看護理論と研究・看護実践への活用について検討し 討議する （認識の変容に焦点を当てた理論）	演習	澤見
	15	2024年7月23日（火） 看護理論と研究・看護実践への活用 討論及び総括	演習	川上
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修については、テキストの授業内容に該当する範囲を精読しておく。 事後学修については、授業時の資料をもとに内容を振り返り理解を深める。 演習時は、各自主体的にプレゼンテーションの準備をすすめる。			
テキスト	１．筒井真優美編集：看護理論家の業績と理論評価第２班,医学書院,2020. ２．野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論第２版,メヂカルフレンド社,2016.			
参考書	１．Jacqueline Fawcett, 大田喜久子他 監訳：看護理論の分析と評価,医学書院, 2011. ２．Florence Nightingale：看護覚え書き フローレンス ナイチンゲール,幸書房（復刻版）, 2007. ３．International Council of Nurses, 早野ZITO真佐子・ 小玉香津子 他 訳: 現代に読み解くナイチンゲール・看護覚え書き,日本看護協会出版会, 2011. ４．Virginia Henderson, 小玉香津子 訳：ヴァージニア・ヘンダーソン選集,医学書院, 2007. ５． Virginia Henderson, 小玉香津子 訳：看護の基本となるもの（改訂版）,日本看護協会出版会,2006. ６．Margaret Jean Harman Watson,稲岡文昭・稲岡光子 訳：ワトソン看護論-人間科学とヒューマンケア,医学書院,2004. ７．Margaret Jean Harman Watson,川野雅資 長谷川浩訳：ワトソン21世紀の看護論,日本看護協会出版会,2003. ８．Patricia Benner,井部俊子監 訳 ：ベナー看護論（新訳版）,医学書院, 2012. ９．Patricia Benner,井上智子監 訳：ベナー看護ケアの臨床知-行動しつつ考えること,医学書院, 2012. 10. Dorothea E.Orem, 小野寺杜紀 訳：オレム看護論,医学書院, 2005. 11. コニー・M・デニス, 小野寺杜紀監訳, オレム看護論入門ーセルフケア不足看護理論へのアプローチ,医学書院. 12. Sister Callista Roy,松木光子 監訳：ザ・ロイ適応看護モデル,医学書院, 2010. 13. Hildegard E.Peplau,稲田八重子・小林富美栄他 訳：ペプロウ人間関係の看護論,医学書院, 1996. 14. Howard Simpson, 高崎絹子他 訳：看護モデルを使う②ペプロウの発達モデル,医学書院, 1994. 15. Joyce Travelbee, 長谷川浩・藤枝智子 訳：トラベルビー人間対人間の看護,医学書院, 2010. 16. 黒田裕子：看護診断のためのよくわかる中範囲理論第２版、学研メディカル秀潤社,2015. 17. Madeleine M Leininger, 稲岡文昭 訳：レイニンガー看護論,医学書院, 1995. 18. Madeleine M Leininger, 近藤潤子 伊藤和弘監訳 ：看護における質的研究, 医学書院, 1997. 19. 城ヶ端初子：実践に生かす看護理論19,医学芸術社,2005. 20. 金子道子：ヘンダーソン、ロイ、オレム、ペプロウの看護理論と看護過程の展開,照林社, 1999. 21. 筒井真優美 編：看護理論-看護理論20の理解と実践への応用-,南近堂, 2015. 22. 野嶋佐由美編：看護学の概念と理論的基盤,日本看護協会出版会,2012. 23. アメリカ心理学会（APA）,前田樹海他 訳：APA 論文作成マニュアル第２版,医学書院, 2013. 注 再版されているものについては、この出版年に限りません。			
学生へのメッセージ等				

講義科目名称： 英文講読　　授業コード：N121030

英文科目名称： Introduction to Academic English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
勝井　伸子			
添付ファイル			

全担当教員	勝井　伸子
概要	医療系　（特に看護学）論文を読む実践的能力を育成する。
目標	1）英語論文のスタイル・用語・概念に慣れる。 2）的確に検索できる。 3）短時間で複数の論文を比較できる。 4）英語論文作成についても、タイトル、アブストラクトまでは自力で構成できる。
評価方法	受講態度20%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法および伝える力）、レポート30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 論文とは何か・論文の種類　キーワードの設定・検索演習	講義・演習	勝井
2 検索結果の整理　的確に検索できたか？検索語の検討	講義・演習	勝井
3 論文を読む上で必要な知識とは何か 量的研究と質的研究―論文講読演習（１）	講義・演習	勝井
4 量的研究と質的研究―論文講読演習（２）	講義・演習	勝井
5 量的研究と質的研究―論文講読演習（3）	講義・演習	勝井
6 文化的差異に関する論文講読演習	講義・演習	勝井
7 プレゼンテーション指導	講義・演習	勝井
8 英語論文抄読 発表（１）	演習	勝井
9 英語論文抄読 発表（２）	演習	勝井
10 英語論文抄読 発表（３）	演習	勝井
11 英語論文抄読 発表（４）	演習	勝井
12 英語論文抄読 発表（５）	演習	勝井
13 英語論文抄読 発表（６）	演習	勝井
14 質疑応答まとめ	演習	勝井

	15 講評	演習	勝井
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	なし		
参考書	開講時に指示する。		
学生へのメッセージ等	ますますグローバル化していく看護学において、英文文献を読みこなすことは大学院では必須であると思われます。英語教師として、その初歩のお手伝いをして、みなさんの活躍の一助となることを願っています。 積極的に研究へつなげられるよう、正確に読み込める力こそ、今後の研究を支えるものと考えています。		

講義科目名称： 看護倫理学　　授業コード：N121040

英文科目名称： Nursing Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
池邉　寧			
添付ファイル			

全担当教員	池邉　寧／松田　明子
概要	看護現場で直面する倫理的な諸問題やジレンマに対して関係者間で調整を行っていく際に必要となる看護倫理や医療倫理に関する知識を学び、事例検討を通じて理解を深める。
目標	1）倫理的な判断を行ううえで基礎となる倫理的思考力を身につける。 2）看護現場で直面する倫理的諸問題について、事例検討を行い、対処の方法を提示することができる。
評価方法	プレゼンテーション（５０％）、授業参加度（５０％）

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 倫理調整とは何か（1）	講義	池邉・松田
2 倫理調整とは何か（2）	講義	池邉・松田
3 苦痛緩和をめぐる倫理的課題	講義・演習	池邉・松田
4 意思決定をめぐる倫理的課題	講義・演習	池邉・松田
5 代理意思決定をめぐる倫理的課題	講義・演習	池邉・松田
6 人間の尊厳をめぐる倫理的課題	講義・演習	池邉・松田
7 生きがいをめぐる倫理的課題	講義・演習	池邉・松田
8 治療拒否をめぐる倫理的課題	講義・演習	池邉・松田
9 家族へのケアをめぐる倫理的課題	講義・演習	池邉・松田
10 感染症をめぐる倫理的課題	講義・演習	池邉・松田
11 遺伝学的検査をめぐる倫理的課題	講義・演習	池邉・松田
12 災害看護をめぐる倫理的課題	講義・演習	池邉・松田
13 事例検討（1）	講義・演習	池邉・松田
14 事例検討（2）	講義・演習	池邉・松田
15	講義・演習	池邉・松田

	事例検討（３）		
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業の進度に合わせて、テキストをしっかり読み込んでください。		
テキスト	鶴若麻理／長瀬雅子編『看護師の倫理調整力―専門看護師の実践に学ぶ』（第２版）日本看護協会出版会		
参考書	講義時に随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	「倫理的に考える」とは具体的にはどういう思考を指すのか、講義を通じて学びとってください。		

講義科目名称： 看護情報学　　授業コード：N121050

英文科目名称： Nursing Informatics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
城戸　楓			
添付ファイル			

全担当教員	城戸 楓／五十嵐　稔子／小竹　久実子／川口　昌彦		
概要	現代において、研究や発表を行うのにPCの活用は欠くことができない。本講座では自作の尺度構築を通して、PCの使い方（文章作成・表計算・プレゼンテーション・プログラミング）を理解するとともに、作成した尺度および先行研究に記載された尺度について統計的に処理・理解する方法について学習することを目的とする。 本講座で使用するソフトウェアは以下のとおりである。 Microsoft Office(Word, Excel, Powerpoint）、R、Python.		
目標	・量的研究の基盤に基づいた尺度作成ができるようになる。 ・作成した尺度を、発表できるようになる。 ・先行研究に記載された統計指標（e.g. 尺度など）について理解できるようになる。		
評価方法	講義への参加意欲（40%）、課題提出（60%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 PCの原理理解 PCの歴史について学ぶとともに、現在のPCの構成を理解することによって、ITリテラシーの向上を目指す	実習・演習	城戸
	2 尺度構築１ 心理尺度を体験したのち、自作の尺度を構築し、オンラインで解答を収集する（Google Forms）	実習・演習	城戸
	3 Office ソフトウェア（Word, Excel, Powerpoint）の操作理解 前回収集した解答を処理しながら、それらを発表資料としてまとめる過程において、ワード・エクセル・パワーポイントの使い方の基礎について理解する	実習・演習	城戸
	4 調査結果発表１ 自作の尺度についての解答のまとめについて各自発表を行う	実習・演習	城戸
	5 統計処理の再現１ 自身の研究と関連する先行研究より尺度が掲載されたものを選抜し、エクセルを用いて乱数生成を行った上で、Rで先行研究の統計処理の再現を行う（解説：因子分析・Rの使い方）	実習・演習	城戸
	6 統計処理の再現２ 前回の統計処理の再現結果について考察したものを発表する	実習・演習	城戸
	7 尺度構築２ 再度、新規の尺度の構築を行い、オンライン上で解答を収集する。ただし今回は前回自身が選抜した尺度も合わせて取得し、新規尺度はそれと関連するよう統計的な見地に立ったものを作成する（解説：群間比較・相関分析）	実習・演習	城戸
	8 各種検定についての解説と実践 群間比較（t検定・χ自乗検定・順位和検定）、相関分析（回帰分析）、因子分析（探索的因子分析・確証的因子分析）、多変量解析（分散分析・重回帰分析・パス解析）について理解し、偽データを用いてそれらのRでの分析を体験する	実習・演習	城戸
	9 データ分析 実際の自身の作成した尺度および先行研究の尺度を用いて、適切な統計処理を実践する	実習・演習	城戸
	10 調査結果発表２ 自身の尺度および先行研究との尺度の比較について統計的に処理を施した結果までを含めて発表する	実習・演習	城戸

	11 機械学習によるAIのプログラミングの作成 Pythonを用いた機械学習のプログラミングを体験する	実習・演習	城戸
	12 予備日 予備日	実習・演習	城戸
	13～15 量的・質的研究における、分析方法の選択、分析の実際、結果の解釈 等、各自の研究課題を意識して取り組む 各指導教員とともに進める		五十嵐 小竹 川口
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	テキストに替わる教材資料（電子ファイル）を配付する		
参考書	インターネットのHPを含め、適宜紹介する		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 精神保健学　　授業コード：N121060

英文科目名称： Mental Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
太田　豊作			
添付ファイル			

全担当教員	太田　豊作		
概要	メンタルヘルスを精神医学的視点から学び、ストレスとの関連性について学び、どのような要因がストレスとなり、精神疾患と結びつくかについて学び、さらにその予防法について学ぶ。また、特に自殺問題については多側面から考察し、その予防について学ぶ。		
目標	1)精神保健の定義と領域を学ぶ。 2)ライフサイクルと精神保健について学ぶ。 3)家庭や職場における精神保健について学ぶ。 4)ストレスと対処行動について学び、特に自殺問題におけるストレスについて学ぶ。		
評価方法	評価方法：授業参加度（２０％）、中間レポート（４０％）、期末レポート（４０％） 評価基準：授業参加度は、精神保健についての理解を深めるために、授業毎のコメントカードや授業中に意見や質問をおこなったか。中間レポートは、ライフサイクルと精神保健について理解し、学んだ内容が整理され、論理的に提示されているか。期末レポートは、精神保健について理解し、メンタルヘルスの向上についての適切な考えを持つことができているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 メンタルヘルスとストレス	講義	太田
	2 メンタルヘルスと精神医学	講義	太田
	3 乳幼児期のメンタルヘルスと精神疾患	講義	太田
	4 児童期のメンタルヘルスと精神疾患	講義	太田
	5 思春期・青年期のメンタルヘルスと精神疾患	講義	太田
	6 成人期のメンタルヘルスと精神疾患	講義	太田
	7 老年期のメンタルヘルスと精神疾患	講義	太田
	8 家庭とメンタルヘルス	講義	太田
	9 職場とメンタルヘルス	講義	太田
	10 学校とメンタルヘルス	講義	太田
	11 自殺とメンタルヘルス	講義	太田
	12 メンタルヘルスのアセスメント	講義	太田
	13 ストレス対策　１	講義	太田
	14 ストレス対策　２	講義	太田

	15 まとめ	講義	太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行う。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。		
テキスト	なし		
参考書	講義時に紹介する		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 家族看護学　　授業コード：N121070

英文科目名称： Family Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期　集中講義	１年	２	選択
担当教員			
川上　あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上　あずさ/升田　茂章		
概要	家族に対するアセスメント、援助方法に関する理解を深め、それらの学びを活用して家族に関する事例の分析を行うことにより、家族看護分野における看護実践能力を習得することを目的とする。		
目標	１．家族を援助するためのアセスメントの視点、具体的な援助方法を理解できる。 ２．家族看護に関連する諸理論を説明できる。 ３．家族看護に関する諸理論を活用して事例を分析し、家族の課題と援助を検討できる。		
評価方法	評価方法：プレゼンテーション（50%）、レポート（50%） 評価基準：選択した理論を活用した事例の分析ができているか、対象の課題を明確にして援助の方法が具体的に述べられているか。　効果的にプレゼンテーションが行われたか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 家族と家族看護	講義	川上・升田
	第2回 家族に関する情報収集とアセスメント	講義	川上・升田
	第3回 家族を理解するための基礎理論１	講義	升田・川上
	第4回 家族を理解するための基礎理論２	講義	升田・川上
	第5回 家族を理解するための基礎理論３	講義	升田・川上
	第6回 家族を理解するための基礎理論４	演習	升田・川上
	第7回 家族看護の実践１	講義	家族看護CNS（藤野）
	第8回 家族看護の実践２	講義	家族看護CNS（藤野）
	第9回 家族看護の実践３	演習	精神看護CNS（畠山）
	第10回 家族看護の実践４	演習	精神看護CNS（畠山）
	第11回 事例検討１	演習	川上・升田
	第12回 事例検討２	演習	川上・升田
	第13回 事例検討３	演習	川上・升田
	第14回 家族看護に関する研究１	演習	川上・升田
	第15回	演習	川上・升田

	家族看護に関する研究２		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマに関する参考文献、資料を精読する 事後学修：提示された課題に取り組む		
テキスト	なし		
参考書	鈴木和子、 渡辺裕子、佐藤律子：家族看護学 理論と実践 第5版 （日本看護協会出版会 2019） 中野綾美、瓜生浩子編著：家族看護学　家族のエンパワーメントを支えるケア　メディカ出版 その他、授業の中で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	家族は社会を形成する最小単位の集団になるので、家族看護の諸理論を理解すると地域社会のさまざまなシステムに応用ができるようになります。また、過去の看護実践を分析することで、さらに家族看護のおもしろさを実感できる機会になると思いますので、興味のある方は受講してください。		

講義科目名称： 看護管理論　　授業コード：N181010

英文科目名称： Nursing Administration

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
笠松　由利			
添付ファイル			

全担当教員	笠松　由利
概要	看護管理論は、既存の経営管理論に理論的基盤の多くを負っており、経営管理論の諸理論の理解は必須である。さらにこれらを看護の現場で活用していくためには、現場の問題解決や課題達成への応用力の習得が望まれる。本講義では、看護管理で活用する基礎理論や概念を体系的に学びながら、どのように現場で活用していけるのかを実際の事例を活用しながら検討する。そして安全で良質な医療を提供するために必要不可欠な基礎理論や概念の理解を深め、看護管理現場での応用力の向上を目指す。
目標	1. 看護管理で活用する概念や理論について理解できる。 2. 自らの経験をもとに管理上の問題や課題を抽出し、文献を活用して自己の意見をまとめ、論理的に述べることができる。 3. 本授業での学びをふまえ、自己ならびに看護管理における課題および対策をまとめることができる。
評価方法	1. 授業内のプレゼンテーション：30% 〈評価基準〉①自らの経験を踏まえている（5%）、②内容がわかりやすく、簡潔にまとめられている（10%）、③参考文献を幅広く渉猟し活用している（10%）、④ディスカッションテーマが明示されている（5%） 2.授業でのディスカッションへの貢献度：20% 〈評価基準〉①異なる意見であっても自らの意見を明確に表現できている（10%）、②ディスカッションの促進に貢献する内容やタイミングである（10%） 3.最終課題レポート：50% 〈評価基準〉①授業での学びをふまえて論じている（5%）、②自らの考えを根拠づける証拠を明示しながら論じている（20%）、③レポート全体の主張が一貫している（20%）、④読みやすい（5%）

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
第1回 授業オリエンテーション リーダーシップとマネジメントの諸理論と概念	講義	笠松
第2回 集団の特性と経営管理論の変遷	講義	笠松
第3回 医療制度と政策	講義・演習	笠松
第4回 労務管理	講義・演習	笠松
第5回 看護の質管理	講義・演習	笠松
第6回 医療安全対策とリスクマネジメント	講義・演習	笠松
第7回 問題解決と課題達成	講義・演習	笠松
第8回 人的資源活用（クリニカルラダー，目標管理，キャリア開発システム）	講義・演習	笠松
第9回 システム思考と組織学習	講義・演習	笠松
第10回 変革理論とリーダーシップ	講義・演習	笠松
第11回 チーミングとチームマネジメント手法	講義・演習	笠松

	第12回 看護管理者の意思決定・看護師の臨床判断とクリティカルシンキング	講義・演習	笠松
	第13回 コンピテンシー（社会人基礎力含む）とキャリア発達	講義・演習	笠松
	第14回 生涯学習とリカレント教育	講義・演習	笠松
	第15回 看護管理の課題 まとめ	講義・演習	笠松
授業外学修（事前学修・事後学修）	【事前学修】各回の授業のテーマにそって文献を検索し、自分なりの考えをまとめておくこと 講師から提示された文献に関する自分なりの意見をまとめておくこと 【事後学修】最終の課題レポートに備えて、授業の内容をまとめておくこと		
テキスト	特に指定しない		
参考書	・看護管理学習テキスト1～8、日本看護協会出版会 ・「看護管理」「看護展望」「病院」「ナーシング・ビジネス」「ナースマネジャー」など ・スティーブンP. ロビンス：マネジメント入門、ダイヤモンド社 ・中原　淳：企業内人材育成、ダイヤモンド社 ・エイミーC.エドモンドソン：チームが機能するとはどういうことか、英治出版 ・高橋俊介：21世紀のキャリア論、東洋経済新報社 など適宜紹介していきます。		
学生へのメッセージ等	★第1回、第2回の導入以外は、受講者全員に分担して授業テーマに関連するプレゼンテーションを行っていただきます。自分の経験や和文献、英文献、看護系雑誌を含む資料を活用してテーマを設定し、ディスカッションの材料を提示していただきます。 ★プレゼン担当以外の受講生も、積極的に議論に参加できるよう、授業テーマに関する事前学習を求めます。 ★管理をする際に必要とされる能力の1つは、自分の考えを言葉で伝えることです。伝わらなければ人は動きません。本授業でその能力を磨き、現場で活用できる応用力を向上させていきましょう。		

講義科目名称： アドバンストフィジカルアセスメント　　授業コード：N121080

英文科目名称： Advanced Physical Assessment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
山内　基雄			
添付ファイル			

全担当教員	山内　基雄／若月　幸平／太田　豊作／中川　仁／藤田　幸男／七浦　仁紀／小川　浩平／朝倉　健太郎
概要	複雑な健康問題を持った対象の身体状況について系統的に全身を評価し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を修得する。質の高い看護実践を行うために、在宅ターミナルの事例や複雑な健康問題を持つ事例を用いて対象の身体的情報を適確に捉え、実践的なアセスメントの手法と臨床判断を学ぶ。
目標	１）高度実践看護師に必要な、系統的に全身を評価し、臨床看護判断を行うために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を身につける。 ２）各系統別に得た情報を統合し、臨床場面における推論に結びつける。 ３）在宅ターミナルの事例や複雑な健康問題を持つ事例を用いて、多様な臨床場面における重要な病態の変化や疾患を、包括的にいち早くアセスメントし臨床判断ができる。
評価方法	１）グループ討議　30% 学習内容を臨床実践で活用した経験をグループ討議で共有し、深めることができる。 ２）レポート　50% A4　2枚程度。「講義から学んだことと臨床看護における活用」 ３）授業参加度　20%

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 アドバンストフィジカルアセスメント総論	講義	山内
2 呼吸器系の診断技術と判断能力の習得 呼吸生理の基本的知識と呼吸機能検査	講義・演習	山内
3 循環器系の診断技術と判断能力の習得 診察手技と心音・心雑音の理解	講義・演習	中川　仁（循環器内科）
4 呼吸器系の診断技術と判断能力の向上 肺音の聴診	講義・演習	山内
5 呼吸器系の診断技術と判断能力の向上 胸部Ｘ線・胸部CT読影の基本	講義・演習	山内
6 循環器系の診断技術と判断能力の向上 心電図の基本とモニター心電図の理解	講義・演習	山内
7 栄養とサルコペニアの観点からのフィジカルアセスメント	講義・演習	藤田幸男（呼吸器内科）
8 腹部の診断技術と判断能力の習得および消化器系疾患のアセスメント 腹部の診察と腹部超音波検査	講義・演習	山内
9 発達障害とフィジカルアセスメント	講義・演習	太田豊作（人間発達学）
10 脳神経系の診断技術と判断能力の習得 神経系診察手技と脳血管障害	講義・演習	七浦仁紀（脳神経内科）
11 術後の診かた-特に消化器外科領域の術後の問題点の把握と対応-	講義・演習	若月幸平（教育開発センター）
12 皮膚および体表の所見と看護学的判断	講義・演習	小川浩平（皮膚科）
13 代謝疾患・内分泌疾患とフィジカルアセスメント	講義・演習	山内

	14 在宅医療とフィジカルアセスメント	講義・演習	朝倉健太郎（大福診療所）
	15 事例検討：総括と講評	講義・演習	山内
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	適宜授業中に紹介する予定		
参考書	１）藤崎郁 フィジカルアセスメント完全ガイド 学習研究社 ２）山内豊明 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 ３）日野原重明 フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 医学書院 その他適宜講義時に紹介する。		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 地域医療学　　授業コード：N121090

英文科目名称： Community Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
赤井　靖宏			
添付ファイル			

全担当教員	赤井　靖宏／周藤　俊治		
概要	地域医療とそれを支える医療体制や保険制度について理解を深める。		
目標	1）地域医療を支える医療体制や保険制度について、概要を述べることができる。 2）地域医療の現状と課題について概要を述べることができる。		
評価方法	受講態度20%（予復習・講義中の課題への取り組み状況），プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法および表現力），レポート30%（論理性・一貫性・適切性）で総合評価		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1～3 地域医療を支える医療体制：医療制度	講義	赤井
	4～6 地域医療に関するデータの取得と分析	講義	周藤
	7～9 地理情報と組み合わせた地域医療の分析	講義	周藤
	10～12 地域医療を支える医療体制：保険制度と医療スタッフ	講義	赤井
	13～15 わが国の医療制度から考える地域医療の課題	講義	赤井
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	資料配付		
参考書			
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 病態生理学　　授業コード：N181020

英文科目名称： Pathophysiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
川口　昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	川口　昌彦／惠川　淳二／内藤　祐介／重松　英樹／中川　一郎／藤田　幸男／渡邉　恵介／澤見　一枝／石澤　美保子
概要	病態生理学は、疾病や病態の機序や仕組みを解き明かす、考え方の学問であり、医療、看護の実践の基礎でもある。 病態生理学の履修を通し、事象への関心を深め、幅広く学問を探求し、批判的思考力をもつ。
目標	１）病態生理学的な思考過程を学ぶ。患者の愁訴、症状、症候の背景機序を常に考えられるようになる。 ２）病態生理学的思考過程を、専門領域の看護実践に応用できる。基本的病態と専門領域との関連を常に考えるようになる。 ３）病態把握のため、専門領域間で共有するためのコミュニケーション能力を養成する。
評価方法	授業参加度20%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料作成・発表内容と方法）、課題レポート30%（理論性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。e-learningの単元1～2は、受講後にe-learningでの確認テストを受講するとともに、対面により口頭にて質問し、高度実践看護師として必要な知識・理解度の確認を行い、習得状況を評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 臨床生理学総論I ヒト固体内の各機能連関と恒常性を学び外界との反応性を理解する	講義	川口
2 臨床生理学総論II ヒト固体内の各機能連関と恒常性を学び外界との反応性を理解する	講義	内藤
3 循環器疾患の病態生理 心機能、循環血液量、自律神経系の影響などを学ぶ	講義	内藤
4 呼吸器疾患の病態生理 主な呼吸器疾患の病態を学ぶ	講義	内藤
5 呼吸不全の病態生理 呼吸不全の原因と病態について学ぶ	講義	惠川
6 精神疾患の病態生理 認知障害などの病態を学ぶ	講義	澤見
7 高齢者の病態生理 高齢者における生理学的変化を学ぶ	講義	澤見
8 脳神経疾患の病態生理 脳神経の解剖と機能障害の病態を学ぶ	講義	中川
9 筋骨格疾患の病態生理 筋骨格の解剖と機能障害の病態を学ぶ	講義	重松
10 栄養障害の病態生理 栄養状態と疾患の関連性や病態を学ぶ	講義	藤田
11 多臓器不全の病態生理 多臓器不全の機序と病態について学ぶ	講義	惠川
12 血液疾患の病態生理 血栓止血・凝固・線溶系について学ぶ	講義	内藤
13 慢性痛の病態生理 慢性痛の機序と病態を学ぶ	講義	渡邉
14	講義	石澤

	褥瘡の病態生理 褥瘡の機序と病態について学ぶ		
	15 病態生理学演習 症例を用いて病態生理の理解を深める	演習・実習	川口/石澤
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	適宜資料を配布、提示する		
参考書	適宜推薦		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 臨床薬理学　　授業コード：N181030

英文科目名称： Clinical Pharmacology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
吉栖　正典			
添付ファイル			

全担当教員	吉栖　正典／松田　明子
概要	薬理学は薬物がどのような作用機序で薬効を著わすかを探索する薬力学と投与された薬物がどのように吸収、分布、代謝、排泄されるのかを研究する薬物動態学、そして副作用などの中毒学、さらに臨床応用のための臨床薬理学から成り立っている。これらの基礎的知識を習得する。さらに、事例を通して、必要な臨床薬理学的知識及び看護実践について検討し、臨床薬理学的知識を習得することである。
目標	緊急応急処置、症状緩和、慢性疾患管理に必要な薬剤の基礎知識を理解する。 薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、疾病からの回復を図るための知識と技術を習得する。 薬物の基礎知識に基づき患者の服薬管理能力の向上など臨床における看護実践に応用できる知識を習得する。
評価方法	講義中の学習意欲、探究心を重視する。 最終的には、レポートによる理解度（100%）との総合評価による。
授業計画	

授業内容	授業形態	担当者
1 薬理学概論、薬力学、医薬品と法令を理解し学習する	講義	吉栖
2 薬物受容体、薬物代謝酵素、薬物動態学、薬物相互作用等について学習する	講義	吉栖
3 患者の服薬管理能力の向上を図るための知識および看護の視点について学習する。	講義	松田
4～15 自己の臨床経験から薬理学的観点の課題を抽出し検討する。 【事例検討】 課題１～５/個人ワーク、グループワーク、学生プレゼンテーション、 事例患者について臨床薬理学的知識から分析し、看護の役割について検討する	演習	吉栖、松田

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各課題について目標に沿って学習する。事後学修：各課題ごとに看護実践に活用できる視点について検討する。
テキスト	講義内で適宜紹介する。
参考書	「New薬理学」　（南江堂） 「カッツング・薬理学（原書8版）」　（丸善）
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 医の共通科目　　授業コード：N121100

英文科目名称： Common Subjects of Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	1	選択
担当教員			
森　英一朗			
添付ファイル			

全担当教員	森　英一朗／池邉 寧／川口 良／Bolstad Francesco／杉浦 重樹／菓子野 元郎／周藤　俊治／髙木　拓明/米田　明弘
概要	幅広い知識を修得してもらうとともに医療における倫理観を養う目的で設けた授業科目である。
目標	1)人間の尊厳と権利についての理解を深める。 2)医学研究の歴史を踏まえ、研究倫理の必要性を理解できる。 3)医学研究における倫理的配慮について理解できる。 4)医師にとっても大切な数覚を養う。 5)医学における物理学の役割を認識する。 6)英語の学会発表・ペーパーの構成のしかたを学ぶ。
評価方法	レポート100%（論理性・一貫性・適切性）

授業計画

授業内容		授業形態	担当者
第1回	2024年4月11日（木） 研究遂行に関する法令① （カルタヘナ法）	講義	杉浦
第2回	2024年4月18日（木） 研究遂行に関する法令② （RI規制法）	講義	菓子野
第3回	2024年4月25日（木） 研究遂行に関する法令③ （動物愛護法等）	講義	米田
第4回	2024年5月9日（木） 研究遂行に関する実習 （緊急時の処置、実験計画書作成法）	講義	杉浦
第5回	2024年5月16日（木） 医療英語	講義	Bolstad
第6回	2024年5月23日（木） 英語で論文を書く意味とその書き方	講義	森
第7回	2024年5月30日（木）　18：00～18：45 フーリエ変換が生み出すデジタル技術	講義	川口
第8回	2024年5月30日（木）　18：45～19：30 研究における数理モデルの利用法	講義	髙木
第9回	2024年6月6日（木） 研究におけるデータ収集と統計処理について	講義	周藤
第10回	2024年6月13日（木） 医の倫理学	講義	池邉

授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	資料配付
参考書	
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 衛生社会医学　　授業コード：N121110

英文科目名称： Public Health and Social Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	1	選択
担当教員			
今村　知明			
添付ファイル			

全担当教員	今村　知明／佐伯　圭吾／明神　大也／野田　龍也／西岡　祐一
概要	衛生社会医学では、衣食住の生活習慣や環境諸要因による健康障害、疾病構造を知り、そしてその予防対策や健康維持のための危機管理上の安全と危険の限界を確定する方法について知る。
目標	1）個体及び集団をとりまく環境諸要因の変化による個人の健康と社会生活への影響を把握するため、社会と健康・疾病との関係や地域医療について学ぶ 2）保健統計の意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について学ぶ 3）生活習慣に関連した疾病の種類、病態と予防治療について学ぶ 4）保健・医療・福祉と介護の制度の内容を学ぶ 5）健康政策、医療政策について学ぶ
評価方法	授業参加度20%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法）、 レポート30%（論理性・一貫性・適切性）総合的に評価する。

授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~2 衛生統計概論	講義	今村知明
	3 統計学的検定	講義	野田龍也
	4 生活習慣とリスク・糖尿病等	講義	西岡祐一
	5 医療情報と社会	講義	明神大也
	6~7 社会医学方法論・疫学研究デザイン	講義	佐伯圭吾
	8 疫学実践	講義	佐伯圭吾

授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	
参考書	
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 心と脳の発達学特論　　授業コード：N121120

英文科目名称： Advanced Development of Brain and Mind

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
太田　豊作			
添付ファイル			

全担当教員	太田　豊作
概要	人の心の発達を脳科学的な視点と精神心理学的な視点の両方から学習し、その両者の視点を統合させる。統合した視点で考えることで個人の発達の理解を深め、発達的視点で個人の行動を理解することを学ぶ。
目標	1)脳の発達を学習する。 2)発達理論：フロイト、ピアジェ、エリクソン、マーラー、ボウルビィなどの理論を学習する。 3)脳の発達と心の発達の関連性を学習する。 4)神経発達症について学習する。
評価方法	評価方法：授業参加度（２０％）、中間レポート（４０％）、期末レポート（４０％） 評価基準：授業参加度は、理解を深めるために、授業毎のコメントカードや授業中に意見や質問をおこなったか。中間レポートは、脳の発達および発達理論について理解し、学んだ内容が整理されているか。期末レポートは、脳科学的視点と精神心理学的視点を統合させ、個人の行動を理解することができているか。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 脳の進化	講義	太田
2 脳のしくみ	講義	太田
3 脳の神経伝達のしくみ	講義	太田
4 精神分析的発達理論（フロイト）	講義	太田
5 認知発達理論（ピアジェ）	講義	太田
6 対象関係論（マーラー、ウィニコット）	講義	太田
7 アタッチメント理論（ボウルビィ）	講義	太田
8 母子臨床と世代間伝達	講義	太田
9 心と脳のしくみ	講義	太田
10 心の働きと脳	講義	太田
11 心の異常と脳	講義	太田
12 自閉スペクトラム症	講義	太田
13 注意欠如・多動症	講義	太田
14 パーソナリティの病と脳	講義	太田

	15 まとめ	講義	太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行う。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。		
テキスト	なし		
参考書	講義時に紹介する		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 心と脳の発達学演習　　授業コード：N121130

英文科目名称： Development of Brain and Mind Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	４	選択
担当教員			
太田　豊作			
添付ファイル			

全担当教員	太田　豊作
概要	心の発達を各発達期別に脳科学的視点と精神心理学的視点を統合し、個人の発達をどのように捉えるかについて学ぶ。
目標	1)乳幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、老年期の発達について症例をとおして学ぶ 2)自閉スペクトラム症などの神経発達症と虐待の症例を対比しながら脳科学的視点と精神心理学的視点を学ぶ 3)共同注意の発達、愛着理論、間主観性の発達について症例をとおして学ぶ
評価方法	評価方法：授業参加度（２０％）、プレゼンテーション（６０％）、期末レポート（２０％） 評価基準：授業参加度は、理解を深めるために、授業毎のコメントカードや授業中に意見や質問をおこなったか。プレゼンテーションは、症例の評価および対応が妥当・適切であるか、また発表内容・方法を含めて適切に表現できているか。期末レポートは、脳科学的視点と精神心理学的視点を統合させ、個人の発達を理解することができているか。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1-2 乳幼児期の発達 共同注意 愛着理論 間主観性	講義	太田
3-4 乳幼児期の症例　（評価と対応）	演習	太田
5-6 発達障害の症例　（評価と対応）	演習	太田
7-8 虐待の症例　（評価と対応）	演習	太田
9-10 児童期の発達	講義	太田
11-12 児童期の症例（評価と対応）	演習	太田
13-14 思春期の発達	講義	太田
15-16 思春期の症例（評価と対応）	演習	太田
17-18 青年期の発達	講義	太田
19-20 青年期の症例（評価と対応）	演習	太田
21-22 成人期の発達	講義	太田
23-24 成人期の症例（評価と対応）	演習	太田
25-26 老年期の発達	講義	太田
27-28 老年期の症例（評価と対応）	演習	太田

	29-30 症例検討	演習	太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行い、事前に提示された症例についての発表資料を作成する。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。		
テキスト	なし		
参考書	講義時に紹介する		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 心と脳の発達学特別研究　　授業コード：N121140

英文科目名称： Master’s Thesis of Development of Brain and Mind

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	８	選択
担当教員			
太田　豊作			
添付ファイル			

全担当教員	太田　豊作		
概要	心の発達もしくは脳の発達に関する臨床的な研究課題を生理学的手法や心理学的手法をとおして研究を行う。その過程で先行研究のレビューを行い、研究に必要な能力を習得する。		
目標	個々の研究課題に基づき、研究プロセスをとおしてその成果を発表し、論文を作成することができる。		
評価方法	評価方法：研究態度（３０％）、プレゼンテーション（３０％）、論文完成度（４０％） 評価基準：研究態度は、研究計画の進捗状況や論文作成の進捗状況は円滑であったか。プレゼンテーションは、先行研究の吟味を適切に行えているか、修士論文について論理的に発表ができているか。論文完成度は、研究計画書から論文作成まで一貫性をもって行えているか、論文の内容が適切であり、妥当なものであるか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 先行研究の文献検討する。	演習	太田
	2 脳と心の発達における研究計画（先行研究、目的、仮説の有無、 用語の定義、研究方法、プレテスト、研究依頼等）	演習	太田
	3 脳と心の発達における研究の実践（介入研究）と評価	演習	太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：先行研究の文献検討を行い、演習のための発表資料を準備する。 事後学修：演習で生じた検討課題について、文献検討や関連領域の学習などから課題の解決を図る。		
テキスト	なし		
参考書	授業時に紹介する		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 睡眠学特論　　授業コード：N231010

英文科目名称： Advanced Sleep Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
山内　基雄			
添付ファイル			

全担当教員	山内　基雄		
概要	睡眠は摂食と同様に生命活動にとって必要不可欠である。睡眠の本質的な意義は未だ完全に明らかにされていないものの、睡眠と心身の健康が関連していることは明らかである。睡眠側と心身側から両方向性に観察する力を養い、健全な生活を営むために必要な睡眠に関する知識と介入手法を学ぶ。		
目標	1)睡眠という生体活動を睡眠科学的側面から理解する。 2)健全な睡眠を害する要因を理解する。 3)不適切な睡眠が心身に及ぼす影響を理解する。 4)睡眠を害する睡眠呼吸障害を初めとした様々な睡眠関連疾患を理解し、看護学への応用を図る。		
評価方法	受講態度20%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法および表現力）、レポート30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 睡眠科学1　睡眠とは	講義	山内
	2 睡眠科学2　睡眠・覚醒調節と正常睡眠	講義	山内
	3 睡眠科学3　睡眠中の生理機能変化	講義	山内
	4 睡眠科学4　睡眠の役割（夢見と記憶固定など）	講義	山内
	5 睡眠科学5　年齢・性別・ライフスタイルと睡眠	講義	山内
	6 睡眠医学1　睡眠関連障害の国際分類	講義	山内
	7 睡眠医学2　不眠症・不眠障害	講義	山内
	8 睡眠医学3　睡眠呼吸障害の診断	講義	山内
	9 睡眠医学4　睡眠呼吸障害の治療	講義	山内
	10 睡眠医学5　睡眠中から始まる慢性期呼吸管理	講義	山内
	11 睡眠医学6　中枢性過眠症	講義	山内
	12 睡眠医学7　概日リズム睡眠・覚醒異常および睡眠時随伴症（行動異常症）	講義	山内
	13 睡眠社会学1　職域における睡眠問題	講義	山内
	14 睡眠社会学2　教育現場における睡眠問題	講義	山内

	15 まとめ	講義	山内
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	なし		
参考書	講義時に紹介予定		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 睡眠学演習　　授業コード：N231020

英文科目名称： Sleep Medicine Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	４	選択
担当教員			
山内　基雄			
添付ファイル			

全担当教員	山内　基雄
概要	睡眠に関連した基礎研究や臨床研究論文を用いてその結果内容および研究手法について理解し研究立案する力をつける。
目標	1）英文の学術論文を読むことに慣れる。 2）学術論文から研究方法の構築を理解する。 3）研究課題を立案できるようになる。 4）論文を作成する。
評価方法	受講態度20%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法および表現力）、レポート30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 英語の学術論文の構成	講義・演習	山内
2 論文を読む	演習	山内
3 要約をまとめる	演習	山内
4 研究論文の紹介 目的に合わせたpresentation	演習	山内
5 抄読会と論文のreview	演習	山内
6 論文を書くために	演習	山内
7 研究テーマとReview	演習	山内
8 研究テーマとReview	演習	山内
9 研究テーマとReview	演習	山内
10~ 演習	演習	山内

授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	講義時に紹介予定
参考書	講義時に紹介予定
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 睡眠学特別研究　　授業コード：N231030

英文科目名称： Master’s Thesis of Sleep Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	８	選択
担当教員			
山内　基雄			
添付ファイル			

全担当教員	山内　基雄		
概要	睡眠科学・睡眠医学・睡眠社会学に関する研究テーマを決定し、研究方法を吟味し、結果とその適切な考察をまとめ、医学（科学）雑誌へ投稿する。		
目標	研究立案の段階から 結果・考察の公表として論文投稿するまでを実際に体験する。 研究成果は内容次第であり夜間、休日に施行せざるを得ないこともある。 研究の成果ならびに進捗状況によっては、資料の解析による文献研究とする。		
評価方法	研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、中間報告、修士論文作成（100%）までの進捗状況、論文提出とその完成度にて評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 研究テーマを決める	講義・演習	山内
	2～4 研究実施		山内
	5 進捗状況の報告会		山内
	6～ 以下、同様。3週毎に報告会。		山内
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	講義開始時に紹介予定		
参考書	講義開始時に紹介予定		
学生へのメッセージ等	研究の準備、実施、結果の解析など、どの段階も自ら積極的にすることが重要。サイエンスを実感できます。		

講義科目名称： 基礎看護学特論　　授業コード：N121180

英文科目名称： Advanced Fundamentals of Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
松田　明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田　明子		
概要	科学的思考過程に基づく高度な看護実践の意義を理解し、看護技術と医療安全管理に着眼し、必要となる看護実践の根拠をふまえて、より効果的な看護実践方法を探求する。		
目標	1）看護実践の質の向上が的確な判断力に基づくことを理解し、医療安全管理に必要となる能力について説明できる。 2）看護技術を医療安全管理の視点で分析できる視点を習得し、その視点で観察できる。 3）患者の治療過程に焦点をあて、看護実践における看護援助技術の意義とその方法について探求する。		
評価方法	課題：看護実践の中から看護事故を１つ挙げ、医療安全管理の視点で分析をし、より効果的な看護実践について考察する。 授業参加度 30%、プレゼンテーション 40%（妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法）、 レポート30%（論理性・一貫性・適切性）総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~2 医療事故と看護業務（診療補助業務/療養上の世話）	講義	松田
	3~6 事故防止の考え方とその教授方法 医療安全管理の思考過程 リスクマネージメント・セイフティマネージメント 看護事故の構造/看護事故防止の考え方	講義・演習	松田
	7~10 診療補助業務および療養上の世話における事故とその予防策立案 薬物療法を受ける患者の観察の視点と事故予防策 業務プロセスに沿った事例を取り上げ、その事例を分析する。	講義・演習	松田
	11~15 患者の治療過程と看護の役割 症状マネージメント/患者の意思決定等/事例検討	講義・演習	松田
授業外学修（事前学修・事後学修）	各課題に沿って事前・事後学修に取り組む。		
テキスト	講義開始時に紹介予定		
参考書	講義開始時に紹介予定 医療安全 医学書院 看護治療学の基本 ライフサポート社 2013		
学生へのメッセージ等	開講時、予定曜日に開講。学生に相談の上、講義日を変更することがあります。		

講義科目名称： 基礎看護学演習　　授業コード：N121190

英文科目名称： Fundamentals of Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	４	選択
担当教員			
松田　明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田　明子
概要	患者の治療過程に焦点をあて、看護実践における生活援助技術の意義とその方法について探求する。患者の薬物治療・療養過程においてその支援方法について検討する。科学的思考過程に基づく意義を理解するとともに、看護実践で活用する。 患者へ教育方法や支援方法を探求する。また、看護の役割として、安全管理の視点で分析し新たな知見を得て、より効果的な看護実践方法を探求するための研究的能力を習得する。
目標	1）患者への教育的関わりとその評価方法について理解する。 2）治療を受ける事例を臨床薬理学分野や医療安全管理の視点から分析する方法を理解する。 3）薬物治療を受ける事例を抽出し、臨床薬理学分野や医療安全管理の視点で分析し、対象者の生活支援に反映できる視点を説明できる。
評価方法	授業参加度 30%、プレゼンテーション40%（妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法）、レポート30%（論理性・一貫性・適切性）総合的に評価する。 レポート課題 自己の看護実践から臨床薬理学分野の視点から看護技術について、科学的思考過程をふまえてその適用と効果についての分析を記述・説明し、自己の関心ある課題を記述する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1~11 患者教育のための援助技術の基盤となる学習理論 看護職による教育・相談機能の体系化/方法/評価	講義・演習	松田
12~16 看護における臨床薬理学分野や医療安全管理の視点 看護業務と臨床薬理学分野の観察の視点（患者の特性、薬効評価他） 看護業務と添付文書の読み方/事例紹介とその観察	演習	松田
17~20 薬物治療をうける患者の生活管理とその評価の視点 生物学的製剤使用とその観察 患者の症状管理と患者教育	演習	松田
21~26 看護実践方法に関するエビデンスの検証１ 文献 クリ―ティーク	演習	松田
27~30 薬物治療学における看護実践方法に関するエビデンスの検証２ 自ら経験してきた看護技術や看護実践に関し、関連があると思われる文献を検索し、科学的な根拠に基づいて分析し、説明・記述する。	演習	松田

授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	講義開始時に紹介予定
参考書	講義開始時に紹介予定 必要に応じて、随時紹介する。
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 基礎看護学特別研究　　授業コード：N121200

英文科目名称： Master’s Thesis of Fundamentals of Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	８	選択
担当教員			
松田　明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田　明子		
概要	看護実践を通して研究課題を見出し、その課題に関して研究のプロセスを踏み、看護実践に寄与することができる知見を明らかにする。また、看護実践を科学的に分析する力を養う。		
目標	１）自己の関心領域における看護の現象から研究的視点をもち、研究課題を見出す。 ２）研究課題について倫理的課題を踏まえ、研究計画書の作成ができる。 ３）研究プロセスに沿って研究を実施し、その成果を論述できる。		
評価方法	研究に取り組む姿勢10%、研究計画書の作成10%、中間報告20%、修士論文作成までの進捗状況、論文提出とその完成度60%で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~8 看護実践の現象から文献を検討し、研究課題を探索する。学会や研修に参加し、情報収集し研究課題を探求する。	演習	松田
	9~12 研究課題をもとに文献研究をおこない研究課題を明確にする。学会や研修に参加し、情報収集し研究課題を探求する。	演習	松田
	13~15 研究課題から研究方法を選択し、研究計画書を作成する。	演習	松田
	16~30 研究計画書に沿って研究を実施し、データ収集する。	演習	松田
	31~40 収集したデータを分析する。学会や研修に参加し、分析方法を探求する。	演習	松田
	41~50 分析した結果をまとめる 研究課題にそって分析結果を整理する。 新たな知見を明らかにする。	演習	松田
	51~60 研究結果を文献や動向から考察し、論述する。	演習	松田
授業外学修（事前学修・事後学修）	課題に対して事前・事後学修に臨む		
テキスト	講義開始時に紹介予定		
参考書	講義開始時に紹介予定 必要に応じて、随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	大学院で自己の看護実践を探求し、研究プロセスを理解し、自分なりに計画遂行できるように日々励んでください。		

講義科目名称： 看護実践応用学特論　　授業コード：N201010

英文科目名称： Advanced Applied Nursing Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子
概要	成人看護学領域の急性期で重要と考えられる理論や概念、モデルの分析を行い、関連領域の研究論文をクリティークし研究の動向と課題を探究する。ストーマをはじめとした排泄管理学と褥瘡、下腿潰瘍等の創傷管理における臨床に則した専門的看護実践技術について、理解を深めエビデンスに基づいた看護実践能力を向上する。
目標	1)成人看護学領域の急性期看護に活用できる理論の構築方法や、理論と研究デザインとの関連について文献クリティークを用いて探究し、主に急性期看護学領域の研究の概念枠組みに用いられる中範囲理論について理解を深める 2)ストーマ、褥瘡、下腿潰瘍等の臨床におけるスキンケアおよび創傷管理論、ストーマに関連する排泄管理学などの専門的看護実践技術について研究能力を高める
評価方法	授業参加状況20%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法および表現力）、レポート30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 オリエンテーション	講義	石澤
2~3 成人看護学領域（急性期）における看護に関する代表的な危機理論、各理論の概念、解決モデル	講義・演習	石澤
4~6 急性期、周手術期看護における疾患と代表的な看護理論・概念との関連性患者および家族との関係構築、コミュニケーション理論 講義 演習 石澤 関連領域の文献クリティーク	講義・演習	石澤
7~8 急性期、周手術期看護における代表的な疾患に関連する排泄管理論（ストーマ、失禁等）	講義・演習	石澤
9~11 急性期、周手術期看護における代表的な疾患に関連する急性創傷管理論（ドレッシング、手術創管理等）生活支援、患者教育、患者および家族に生じる心理社会的問題、関連領域の文献クリティーク	講義・演習	石澤
12 排泄管理が必要とされる患者・家族を取り巻く諸問題（ストーマ局所管理、身体・心理・社会的問題、がんとストーマ）	講義・演習	石澤
13 褥瘡、下腿潰瘍等の創傷管理、スキンケアー1（慢性創傷の管理、創傷治癒理論等）	講義・演習	石澤
14 褥瘡、下腿潰瘍等の創傷管理、スキンケアー2 講義（慢性創傷の管理、事例展開）	講義・演習	石澤
15 まとめ	講義	石澤

授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。
テキスト	講義の中で適宜紹介する。

参考書	講義の中で適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	成人看護学の理論と実践を確実に習得していってください。

講義科目名称： 看護実践応用学演習　　授業コード：N201020

英文科目名称： Applied Nursing Practice Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	4	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子
概要	成人看護学領域の主に急性期で重要と考えられる理論や概念、モデルの分析を行うべき関連領域の研究論文をクリティークできる能力を養う。患者および家族を取り巻く身体的、心理的社会的問題、さらにそれらに影響を及ぼす排泄管理、創傷管理に関連する文献についての活用方法を知り、先行研究を理解し、新しい知見を得て課題を見出すことができる応用力を養う。
目標	1) 系統的かつ効果な文献検索・検討を行う能力を養う。 2)臨床で起こっている現象や看護実践を記述、分析し、新しい概念や理論の構築を試みることにより、理論化の能力を養う。また、理論化されたものを検証する研究方法論を検討する。 3) 事例をとおして患者および家族の問題点を抽出し、看護理論と統合させてプレゼンテーションとディスカッション 、サマライズを行うことができる。
評価方法	授業参加状況20%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法および表現力）、レポート30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 オリエンテーション 学習の方法と演習の予定	演習	石澤美保子
2-8 急性期、周手術期看護における看護理論、概念に関する文献検索、クリティーク、サマライズ	演習	石澤美保子
9-19 急性期、周手術期における排泄管理（ストーマ、失禁）、創傷管理に関する文献検索、クリティーク、サマライズ	演習	石澤美保子
20-30 各自のテーマ、関心のある課題に基づいた関連文献のプレゼンテーション、ディスカッション まとめ	演習	石澤美保子

授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。
テキスト	演習の中で適宜紹介する。
参考書	演習の中で適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	大学院生として、自ら調べ、理解し学習を進めていけるよう準備をしっかり行って授業にのぞむようにして下さい。

講義科目名称： 看護実践応用学特別研究　　授業コード：N201030

英文科目名称： Master’s Thesis of Applied Nursing Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	８	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子		
概要	各自が捉えたい成人看護学領域における課題について 、フィールドワークから論文作成に必要なプロセスを踏み、研究実践能力を養うことができる。		
目標	1)各自の成人看護学領域において、フィールドワークから研究課題に相応しい研究方法を選択できる。 2)資金、予算、時間、倫理等の側面から吟味し、実行可能な研究計画を立案できる。 3)研究計画書を作成し、研究計画にそってデータ収集、分析ができる。 4)研究ゼミをとおして研究内容をプレゼンテーションし、討議ができる。 5)研究論文として作成、完成できる。		
評価方法	研究への取り組み姿勢10%、研究計画書の作成10%、中間報告10%、修士論文作成までの進捗状況10%、論文提出とその完成度60%にて評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	１．研究課題に適切なフィールドを設定し、フィールドワークを実施する。	演習	石澤美保子
	２．　実行可能な研究計画の立案、作成、データ収集、分析方法の討議	演習	石澤美保子
	３．　ゼミナールをとおして研究討議を行う。	演習	石澤美保子
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。		
テキスト	授業中に適宜紹介する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	大学院での研究プロセスを理解し、自分なりに計画遂行できるように日々進めて行ってください。		

講義科目名称： がん看護学特論　　授業コード：N201040

英文科目名称： Cancer Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章
概要	がん看護の基盤となる概念・理論について、その歴史的背景、定義、構成要素などを文献より読み解くことで理解を深める。さらに、看護実践の場面を想起して、学んだ概念や理論を用いて対象を分析し解釈することで看護実践への適用について探求する。
目標	１）がん看護の基盤となる概念・理論を理解する。 ２）学んだ概念や理論、研究結果のがん看護実践への適用について考究する。
評価方法	担当した授業の作成資料内容（40点：論理性・一貫性・適切性）、担当した授業のプレゼンテーション内容および方法（20点：論理性・一貫性・適切性）、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容（20点：論理性・一貫性・適切性・積極性）、最終課題レポート（20点：論理性・一貫性・適切性）により総合的に評価する。 最終課題レポートは、概念・理論を１つ選択して（授業の中で取り組んだものでも、以外のものでもよい）、テーマ「概論・理論を用いたがん看護実践への適応」としてまとめる。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1~2 授業展開のオリエンテーション がん患者を理解するための概念・理論(1) ストレス・コーピング ・ストレスの概念 ・コーピングプロセス ・ラザルスのストレス・コーピングモデル ・看護実践・研究への活用	講義・演習	升田茂章
3 がん患者を理解するための概念・理論(2) 喪失と悲嘆の概念 ・喪失の定義・種類 ・悲嘆の定義・関連する要因 ・正常な悲嘆と複雑性悲嘆 ・予期的悲嘆 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
4~5 がん患者を理解するための概念・理論の理解(3) 危機と危機介入に関する理論 ・アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル ・フィンクの危機理論 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
6 がん患者を理解するための概念・理論(4) 自己概念 ・自己概念とは ・ボディイメージの定義・影響する要因 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
7 がん患者を理解するための概念・理論(5) ミッシェルの不確かさに関する概念 ・不確かさの定義・種類 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
8 がん患者を理解するための概念・理論(6) レジリエンス ・レジリエンスの定義・ 構成要素、レジリエンスモデル ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
9~10 がん患者を理解するための概念・理論(7) オレムのセルフケア不足理論 ・セルフケアの概念 ・セルフケア不足理論 ・看護システム理論 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
11 がん患者を理解するための概念・理論(8) 自己効力理論 ・自己効力の概念	演習	升田茂章

	・自己効力を高める情報源 ・看護実践・研究への活用		
	12 がん患者を理解するための概念・理論(9) ソーシャル・サポート ・ソーシャル・サポートの概念・機能 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
	13 がん患者を理解するための概念・理論(10) エンパワメント ・エンパワメントの概念 ・エンパワメント・アプローチ ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
	14 がん患者を理解するための概念・理論(11) がんサバイバーシップ ・がんサバイバーの概念 ・がんサバイバーの抱える課題 ・がんサバイバーシップの支援 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
	15 がん患者を理解するための概念・理論(12) がん予防に関する理論 ・保健信念モデル ・変化ステージモデル ・乳がん・子宮がんなどの啓発教育に関する研究 ・看護実践（がん教育を含む）・研究への活用	演習	升田茂章
授業外学修（事前学修・事後学修）	担当した授業内容に対する事前学修として、学修内容を参考に、それぞれの課題に対して文献をもとに資料を作成し、発表・討議に臨んでください。また、授業に参加する際は、事前に配布された資料、学習課題に関する文献・レポートなどの課題を行い授業に参加してください。 授業終了後は学修内容を復習することで学びを深めることを期待します 。		
テキスト	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
参考書	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
学生へのメッセージ等	講義ならびに文献学習、発表・討議をとおして、履修している学生の臨床経験を振り返りながら、がん看護領域の研究や実践、教育に必要な概念や理論を理解する力や応用する力を習得していきます。そのため、文献学習や発表・討議は、学生の主体性を重視して進めます 。		

講義科目名称： がん看護学演習Ⅲ　　授業コード：N201120

英文科目名称： Cancer Nursing Seminar Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	４	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章
概要	この授業では、がん看護学特論で学んだ概念・理論を基盤として、がん患者およびその家族の抱えるさまざまな臨床上の問題および看護について実践的に探究していきます。さらに、これらの探求から具体的な支援方法を構築するための研究能力の向上を養うことを目指します。
目標	１）がん看護学領域における研究課題について理解する。 ２）がん患者の抱えるさまざまな臨床上の問題および看護について述べることができる。 ３）家族の抱えるさまざまな臨床上の問題および看護について述べることができる。 ４）がん患者およびその家族への看護における課題を明確にし、解決方法について検討する。
評価方法	授業への貢献度20%、プレゼンテーション30%（資料の作成・発表内容と方法、妥当性）、レポート50%（論理性・一貫性・適切性）により総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1・2 授業展開のオリエンテーション　がん看護領域おける研究の外観	講義・演習	升田茂章
3～10 がん患者が抱えるさまざまな臨床上の問題および看護に関する文献を検討する	演習	升田茂章
11・12 がん患者が抱えるさまざまな臨床上の問題および看護のあり方について明らかにする	演習	升田茂章
13～18 がん患者の家族の抱えるさまざまな臨床上の問題および看護に関する文献を検討する	演習	升田茂章
19・20 がん患者の家族の抱えるさまざまな臨床上の問題および看護のあり方について明らかにする	演習	升田茂章
21～23 がん患者を対象とした研究方法について検討する	演習	升田茂章
24・25 がん患者の家族を対象とした研究方法について検討する	演習	升田茂章
26～30 自分の関心のある課題の明確化と解決方法について検討する	演習	升田茂章

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、自分の臨床上の関心や研究疑問を言語化しましょう。そのうえで、関心領域の研究論文検索、選んだ論文の分析を行い、自分の意見・考えをもって授業に参加してください。 また事後学修として、授業のなかでのディスカッションや学びを振り返り、一つ一つ丁寧に考えをまとめていってください。
テキスト	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	がん看護学に関する研究論文を通して現象を理解してその解決方法を学んでいけるように、自分の感じている臨床疑問と真摯に向き合い主体的な姿勢で受講してくれることを期待します。

講義科目名称： がん看護学特別研究　　授業コード：N201050

英文科目名称： Master’s Thesis of Cancer Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	８	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章
概要	がん看護学領域の自分の関心のある現象や援助に関して、がん看護領域の研究に必要な概念や理論、専門的知識を用いて、研究計画書を作成する力およびデータの収集力・解釈・分析力、結果を統合する力、論理的思考力を身につけるとともに、プレゼンテーション能力を習得する。一連の過程を通して、研究能力の基礎を養う。
目標	１）がん看護領域の自分の関心領域における研究課題を見出すことができる。 ２）研究課題を解明するための研究計画書を作成できる。 ３）研究の倫理的配慮について学び、倫理申請書類を作成できる。 ４）研究に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 ５）研究のプロセスにそって研究を行い、成果を論文としてまとめることができる。
評価方法	研究への取り組み姿勢10%、研究計画書の作成10%、中間報告20%、修士論文の作成60%など総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1～8 自分の関心のある現象や援助から研究課題を明確にする。	演習	升田茂章
9～12 研究課題をもとに文献研究を行い、研究課題を明確にする。 先行文献をクリティークする。	演習	升田茂章
13～15 研究課題から研究方法を選択し、研究計画書を作成する。 倫理申請書を作成し、倫理審査を受ける。	演習	升田茂章
16～30 研究環境を整備し、データを収集する。	演習	升田茂章
31～40 収集したデータを分析する。	演習	升田茂章
41～50 分析した結果をまとめる。 研究課題にそって分析結果を整理する。 研究結果から新たな知見を明らかにする。	演習	升田茂章
51～60 修士論文を作成する。	演習	升田茂章

授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	がん看護学特論で学んだ概念・理論、がん看護学援助論を基盤として、主体的に研究プロセスをふむことにより、研究の意義を実感できることを期待します。

講義科目名称： 高齢者看護学特論　　授業コード：N121240

英文科目名称： Advanced Gerontological Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
澤見　一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見　一枝
概要	エイジング（加齢）は年齢を重ねることを指すが、非常に幅広い研究分野であり、健康関連だけに限定されず、社会・心理・経済・ライフワーク・Quality of life など、裾野はさらに拡大しつつある。アンチエイジング（抗加齢）・ヘルシィエイジング（健康的な加齢）・アクティブエイジング（活力ある高齢期）・プロダクティブエイジング（生産的・創造的な高齢期）など、その到達点も多岐に及ぶ。このような幅広い見地から、多様な加齢研究を探求し、多様化する高齢者の生活に適した支援を考察する。
目標	1)エイジングに関する研究の概観をつかむ 2)エイジングに関する文献レビューをまとめて発表できる 3)高齢期の健康および生活上の課題を考察することができる 4)自己の研究において関心のあるエイジングの理論をまとめ、考察することができる
評価方法	出席10%、プレゼンテーション40%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法）、課題レポート50%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1~2 エイジングに関する研究の概観	講義	澤見
3~5 エイジングに関する文献レビュー	講義/演習	澤見
6 エイジングに関する文献レビュー（プレゼン）	演習	澤見
7~9 サクセスフル・エイジング-幸福な高齢期について考察する	講義/演習	澤見
10 サクセスフル・エイジングのまとめ（プレゼン）	演習	澤見
11~13 エンド・オブ・ライフケアの文献レビュー	講義/演習	澤見
14 エンド・オブ・ライフケアのまとめ（プレゼン）	演習	澤見
15 自己の研究において関心のあるエイジングの理論をまとめる（プレゼン）	演習	澤見

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマについて検索しておく。 事後学修：授業の内容および研究手法について振り返り理解を深める。
テキスト	適宜資料を配布する。
参考書	適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	多様化する高齢者の生活に適した支援について、多角的に考えましょう。

講義科目名称： 高齢者看護学演習　　授業コード：N121250

英文科目名称： Gerontological Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	４	選択
担当教員			
澤見　一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見　一枝		
概要	高齢者看護学領域における自己の研究テーマに関する文献のクリティークから、研究課題を絞り込む。研究の方法と解析方法を習得する。		
目標	1)高齢者看護学領域の研究の文献クリティークから、自己の研究課題を明らかにする。 2)研究計画を立案できる。 3)研究の方法と解析方法を習得する。		
評価方法	出席10%、プレゼンテーション40%（妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法） レポート50%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~2 高齢者看護学領域の研究の概要を知る	講義	澤見
	3~4 研究課題の明確化：文献検討	演習	澤見
	5~6 研究計画の検討：研究の方法論	演習	澤見
	7~8 研究計画の検討：研究の方法論	演習	澤見
	9~10 質問表の設計	演習	澤見
	11~12 質問表の設計	演習	澤見
	13~14 研究計画書の作成	演習	澤見
	15~16 研究計画書の作成	演習	澤見
	17~19 データ集約の方法（エクセル）	演習	澤見
	20~21 データ解析の方法(SPSS)	演習	澤見
	22~23 データ解析の方法(SPSS)	演習	澤見
	24~25 データ解析の方法(SPSS)	演習	澤見
	26~27 研究論文の書き方	演習	澤見
	28~29 研究論文の書き方	演習	澤見
	30	演習	澤見

	研究論文の書き方		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行う。 事後学修：授業の内容および研究手法について振り返り理解を深める。		
テキスト	演習の中で適宜紹介する。		
参考書	演習の中で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	関連分野の先行研究の検討から、様々な研究手法を学習しましょう		

講義科目名称： 高齢者看護学特別研究　　授業コード：N121260

英文科目名称： Master’s Thesis of Gerontological Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	８	選択
担当教員			
澤見　一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見　一枝
概要	老年看護学の領域でまだ明らかにされていない研究課題を選択する。その課題を解決するための研究計画書を作成し、データ収集・分析・考察を経て研究論文を完成する。一連の過程を通じて、研究能力の基礎を養う。
目標	1)高齢者看護学の領域の研究課題を決定することができる。 2)抽出した研究課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。 3)研究課題を解決するために最も適切な研究方法を選択し、研究計画書を作成できる。 4)研究課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 5)信頼性、妥当性のある分析ができる。 6)分析結果を踏まえ、適切な考察ができる。 7)研究成果を修士論文としてまとめることができる。
評価方法	研究への取り組み姿勢10%、研究計画書の作成10%、中間報告20%、研究成果60%から総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1~5 研究課題の明確化	演習	澤見
6~10 先行研究のクリティーク	演習	澤見
11~15 研究方法の選択、研究計画書作成	演習	澤見
16~20 倫理申請書作成、倫理審査を受ける	演習	澤見
21~25 リクルート開始	演習	澤見
26~35 データ収集、分析	演習	澤見
36~45 分析結果を明確にする	演習	澤見
46~50 結果を考察する	演習	澤見
51~60 修士論文の作成	演習	澤見

授業外学修（事前学修・事後学修）	課題の文献を検索しておくこと
テキスト	適宜資料を配布する。
参考書	適宜提示する。
学生へのメッセージ等	独創性のある研究を行い、看護実践に生かしましょう

講義科目名称： 小児看護学特論　　授業コード：N121270

英文科目名称： Advanced Child Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
川上　あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上　あずさ		
概要	小児期にある人（子ども）がもっている能力や環境との相互作用をふまえながら、理論や現象を理解し看護への活用を検討する。		
目標	1）小児期に特徴的な発達理論について理解し説明できる。 2）小児看護の中心概念である、発達と健康と生活について理解し説明できる。 3）小児期に特徴的な現象・課題について理解し説明できる。 4）発達と健康と生活を統合し看護への活用について述べることができる。		
評価方法	授業への貢献20%、プレゼンテーション（資料の作成・発表内容の方法、妥当性）40%、レポート（論理性・一貫性・適切性）40%により総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1　2024年4月8日（月） オリエンテーション　子どもとは	講義	川上
	2　2024年4月15日（月） 成長・発達とは 小児看護における倫理	講義	川上
	3　2024年4月22日（月） 概念の成り立ちや背景、変遷について検討する 子どもの健康	講義・演習	川上
	4　2024年4月25日（木） 概念の成り立ちや背景、変遷について検討する 子どもの生活	講義・演習	川上
	5　2024年5月9日（木） 理論の成り立ちや背景を理解し看護への活用について検討する 1)エリクソンの自我発達理論と小児看護	講義・演習	川上
	6　2024年5月13日（月） 理論の成り立ちや背景を理解し看護への活用について検討する 2)ピアジェの認知発達理論と小児看護	講義・演習	川上
	7　2024年5月20日（月） 理論の成り立ちや背景を理解し看護への活用について検討する 3)ハヴィガーストの発達理論と小児看護	講義・演習	川上
	8　2024年5月27日（月） 理論の成り立ちや背景を理解し看護への活用について検討する 4)ブロンフェンブレナーの生態学的視点と小児看護	講義・演習	川上
	9　2024年6月3日（月） 小児期に特徴的な現象・課題を理解し看護への活用について検討する 1)遊びの発達と看護への活用	講義・演習	川上
	10　2024年6月10日（月） 小児期に特徴的な現象・課題を理解し看護への活用について検討する 2)愛着の発達と看護への活用	講義・演習	川上
	11　2024年6月17日（月） 小児期に特徴的な現象・課題を理解し看護への活用について検討する 3)死の理解と看護への活用	講義・演習	川上
	12　2024年6月24日（月） 小児期に特徴的な現象・課題を理解し看護への活用について検討する 4)ストレスに関する考え方と看護への活用	講義・演習	川上
	13　2024年7月1日（月） 小児各期の健康課題と看護について文献や経験をもとに検討する	講義・演習	川上

	14	2024年7月8日（月） 地域で生活する子どもの健康課題と看護について文献や経験をもとに検討する	講義・演習	川上
	15	2024年7月18日（木） 小児各期の健康課題と生活を統合し看護上の課題を追及する	講義・演習	川上
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修については、授業内容に関連する文献を精読しておく。 事後学修については、授業時の資料をもとに内容を振り返り理解を深める。			
テキスト	特に指定なし			
参考書	適宜紹介			
学生へのメッセージ等	積極的な授業への参加、有意義なディスカッションにより学びが深まることを期待します。			

講義科目名称： 小児看護学演習　　授業コード：N121280

英文科目名称： Child Health Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	4	選択
担当教員			
川上　あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上　あずさ		
概要	病気や障害のある小児と家族及び特殊な状況下にある小児と家族に対する看護援助について実践的に探究する。また、これらの探究から具体的な支援方法を構築するための研究能力を養う。		
目標	1)病気や障害のある小児とその家族の特徴について説明できる。 2)特殊な状況下にある小児とその家族の特徴について説明できる。 3)病気や障害のある小児と家族への援助における課題を明確にし、解決方法について検討する。		
評価方法	授業への貢献20%、プレゼンテーション40%（資料の作成・発表内容と方法、妥当性）、レポート40%（論理性・一貫性・適切性）により総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 オリエンテーション 小児にとっての病気とは、障害とは	講義	川上
	2~6 病気や障害のある小児と家族の看護援助に関する文献を検討する	演習	川上
	7・8 病気や障害のある小児と家族の援助のあり方について明らかにする	演習	川上
	9~12 特殊な状況下にある小児と家族の看護援助に関する文献を検討する	演習	川上
	13・14 特殊な状況下にある小児と家族の援助のあり方について明らかにする	演習	川上
	15~20 小児と家族を対象とした研究方法について検討する	演習	川上
	21~25 自己の関心のある課題の明確化と解決方法について検討する	演習	川上
	26~30 関心のある課題について検討した内容（文献検討）を総説としてまとめる	演習	川上
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修については、授業内容に関連する文献を精読しておく。 事後学修については、授業時の資料をもとに内容を振り返り理解を深める。 自主体的に学習を深める。		
テキスト	特に指定なし		
参考書	適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	積極的に、真摯に、関心のある研究課題や研究方法を探求しましょう。		

講義科目名称： 小児看護学特別研究　　授業コード：N121290

英文科目名称： Master’s Thesis of Child Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	８	選択
担当教員			
川上　あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上　あずさ		
概要	見い出した研究課題に関して、研究のプロセスをふみ、小児看護実践に寄与することのできる知見や援助を明らかにする研究実践能力を修得する。		
目標	1）自己の関心領域における研究課題を見い出すことができる。 2）研究課題を解明するための研究計画書を作成できる。 3）研究のプロセスにそって研究を行い論文にまとめることができる。		
評価方法	研究への取り組み姿勢10%、研究計画書の作成10%、中間報告20%、修士論文の作成60%など総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~8 関心のある現象や援助から研究テーマを導き出す	演習	川上
	9~12 研究テーマをもとに文献研究をおこない研究課題を明確にする	演習	川上
	13~15 研究課題から研究方法を選択し、研究計画書を作成する	演習	川上
	16~30 研究環境を整備し、データを収集する	演習	川上
	31~40 収集したデータを分析する	演習	川上
	41~50 分析した結果をまとめる 研究課題にそって分析結果を整理する 新たな知見を明らかにする	演習	川上
	51~60 論文を作成する	演習	川上
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	特に指定しない		
参考書	適宜紹介する		
学生へのメッセージ等	看護における研究の意義を実感できることを期待します。		

講義科目名称： 女性健康学特論　　授業コード：N121300

英文科目名称： Advanced Women’s Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子		
概要	ウィメンズヘルスの概念と歴史を理解し、性差医療やプレコンセプションケアを中心に女性の健康課題や最近の研究について学ぶ。		
目標	1)女性の健康に関する国内外の歴史的背景と考え方を理解する。 2)女性の健康に関する課題を明確化できる。 3)女性の健康に関する研究のクリティークの技法を習得する。 4)女性の健康に関する自らの研究課題を見出す。		
評価方法	授業でのプレゼンテーションおよびディスカッションへの貢献度で評価する。 ＜評価基準＞ ①事前学習により、授業に参加する準備が出来ている（40%） ②自らの意見を簡潔かつ明確に述べることができる（20%） ③他者の意見を尊重しながらディスカッションすることができる（20%） ④ディスカッションの促進に貢献する発言や姿勢である（20%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 授業オリエンテーション　性差医療とプレコンセプションケア	講義	五十嵐
	2 発表オリエンテーションと準備	講義・演習	五十嵐
	3 女性の健康・プレコンセプションケアから考える栄養・体重管理	講義・演習	五十嵐
	4 女性の健康・プレコンセプションケアから考える慢性疾患	講義・演習	五十嵐
	5 女性の健康・プレコンセプションケアから考える嗜好品（喫煙、アルコール）、DV	講義・演習	五十嵐
	6 エビデンスに基づいた生殖計画と避妊	講義・演習	五十嵐
	7 女性の健康・プレコンセプションケアから考える予防接種、STI、薬	講義・演習	五十嵐
	8 論文クリティーク　オリエンテーション・発表準備	講義・演習	五十嵐
	9 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク1	講義・演習	五十嵐
	10 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク2	講義・演習	五十嵐
	11 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク3	講義・演習	五十嵐
	12 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク4	講義・演習	五十嵐
	13	講義・演習	五十嵐

	女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク5		
	14 総合演習	講義・演習	五十嵐
	15 総合演習	講義・演習	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：テーマに関する発表の準備 事後学修：発表後の学びをまとめる。		
テキスト	講義の都度、適宜提示する。		
参考書	講義の都度、適宜提示する。		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 女性健康学演習　　授業コード：N121310

英文科目名称： Women’s Health Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	４	選択
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／乾　つぶら／森兼　眞理／上田　佳世／木村　奈緒美／山崎　愛		
概要	女性健康学特論で学習した概念や理論を基盤として、女性とその家族が抱える問題や課題を明確化し、自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。		
目標	1)女性の健康に関する研究で用いられる概念について説明できる。 2)女性の健康に関する量的研究・質的研究を実践するための研究デザインが説明できる。 3)量的研究・質的研究を理解し、データ収集および分析に必要な基本的技術を修得する。 4)自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。		
評価方法	受講態度（30%）、プレゼンテーション（70%）で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 講義のオリエンテーション	講義	五十嵐
	2~7 女性の健康に関する研究の変遷と問題や課題を明確化する。 クリニカル・クエスチョンからリサーチクエスチョンへ 研究課題に適切な研究方法の選択	講義・演習	五十嵐 乾 森兼 上田 木村 山崎
	8~13 女性の健康に関連した量的研究・質的研究のクリティークができる。量的研究・質的研究を理解し研究実施に必要な基本的技術を修得する ・調査用紙の作成方法 ・インタビュー・ガイドの作成・面接技術 ・データ入力と分析方法 ・系統的レビューの方法	講義・演習	五十嵐 乾 森兼 上田 木村 山崎
	14~28 自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。 ・研究計画書作成の技術を修得する。 ・研究の倫理的配慮について理解する。	講義・演習	五十嵐 乾 森兼 上田 木村 山崎
	29~30 まとめ	講義	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	講義の都度、資料を配布する。		
参考書			
学生へのメッセージ等	後期の講義は集中で行うことがある。		

講義科目名称： 女性健康学特別研究　　授業コード：N121320

英文科目名称： Master’s Thesis of Women’s Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	８	選択
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子		
概要	女性健康学に関する課題に対して研究計画書を作成し倫理審査を得たうえで、研究に取り組む。その研究プロセスを経て、看護・助産の実践に役立つ新しい知見や支援方法を明らかにし、研究論文を完成する。一連の過程を通じて、研究実践能力の基礎を養う。		
目標	1)女性の健康に関する変遷や現状を分析し、課題を明確にできる。 2)課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。 3)研究課題を解明するための研究計画書を作成できる。 4)研究の倫理的配慮について学び、倫理申請書類が作成できる。 5)課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 6)研究プロセスに沿って研究を実施し、 研究成果を修士論文としてまとめることができる。		
評価方法	研究に取り組む姿勢、研究計画書の作成、中間報告、修士論文作成までの進捗状況、論文提出とその完成度（100%）にて評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~28 1）研究課題の明確化 これまで女性健康学特論・演習を通して学んだことを踏まえ、女性の健康に関する自己の研究課題を明確化する。 2）研究課題をもとに先行研究のクリティークを行う。 先行研究をシステマティックに検索し、適切にクリティークする。そこから自己の研究課題を絞る。 3）研究方法の選択・研究計画書作成 研究課題の解決に適した研究方法を選択し、実施可能な研究計画書を作成する。 4）倫理申請書作成、倫理審査を受ける 倫理審査を受ける一連の過程を通して、研究者として必要な倫理感について理解を深める。	講義 演習	五十嵐
	29~60 5）データ収集 適切なデータを得るためのフィールドを開拓し、データを収集する。 6）データ分析・論文作成 信頼性・妥当性のあるデータ分析を行う。 先行研究の結果も踏まえながら、自己の研究結果について考察を深め、研究成果を修士論文として作成する。	講義 演習	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	適宜資料を提示、配布する。		
参考書			
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 周産期看護学特論　　授業コード：N121330

英文科目名称： Advanced Perinatal Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子		
概要	周産期看護や助産の実践に関する研究の動向を知り、根拠のある助産ケア実践について学ぶ。その過程から、自身の研究課題を考える。		
目標	1)周産期看護・助産実践に関する国内外の研究の動向を知る。 2)周産期看護・助産実践の課題を明確化できる。 3)周産期看護・助産実践に関する研究のクリティークの技法を習得する。 4)周産期看護・助産実践に関する自らの研究課題を見出す。		
評価方法	授業でのプレゼンテーションおよびディスカッションへの貢献度で評価する。 ＜評価基準＞ ①事前学習により、授業に参加する準備が出来ている（40%） ②自らの意見を簡潔かつ明確に述べることができる（20%） ③他者の意見を尊重しながらディスカッションすることができる（20%） ④ディスカッションの促進に貢献する発言や姿勢である（20%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 授業オリエンテーション　根拠に基づく助産学・周産期看護学について	講義 演習	五十嵐
	2 発表オリエンテーションと準備	講義・演習 演習	五十嵐
	3 周産期ケアに活かすエビデンス　～ケースコントロール・スタディ～	講義・演習	五十嵐
	4 周産期ケアに活かすエビデンス　～質的研究～	講義・演習	五十嵐
	5 周産期ケアに活かすエビデンス　～ランダム化比較試験～	講義・演習	五十嵐
	6 周産期ケアに活かすエビデンス　～システマティック・レビュー～	講義・演習	五十嵐
	7 周産期ケアに活かすエビデンス　～ガイドライン～	講義・演習	五十嵐
	8 論文クリティーク　オリエンテーション・発表準備	講義・演習	五十嵐
	9 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク1	講義・演習	五十嵐
	10 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク2	講義・演習	五十嵐
	11 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク3	講義・演習	五十嵐
	12 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク4	講義・演習	五十嵐
	13	講義・演習	五十嵐

	周産期に関する研究の動向 論文クリティーク5		
	14 総合演習	講義・演習	五十嵐
	15 総合演習	講義・演習	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：テーマに関する発表の準備 事後学修：発表後の学びをまとめる		
テキスト	別途提示する		
参考書			
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 周産期看護学演習　　授業コード：N121340

英文科目名称： Perinatal Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	4	選択
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／乾　つぶら／森兼　眞理／上田　佳世／木村　奈緒美／山崎　愛		
概要	周産期看護特論で学習した概念や理論を基盤として、母と子およびその家族が抱える問題や疑問を明確化し、自己の研究テーマや課題を明らかにする。		
目標	1)周産期看護に関する研究で用いられる概念について説明できる。 2)周産期看護に関する量的研究・質的研究を実践するための研究デザインが説明できる。 3)量的研究・質的研究を理解し、データ収集および分析に必要な基本的技術を修得する。 4)自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。		
評価方法	受講態度（30%）、プレゼンテーション（70%）で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 講義のオリエンテーション	講義	五十嵐
	2~7 周産期看護に関する研究の技法 クリニカル・クエスチョンからリサーチクエスチョンへ 研究課題に適切な研究方法の選択	講義・演習	五十嵐 乾 森兼 上田 木村 山崎
	8~13 周産期看護に関連した量的研究・質的研究のクリティーク・レビューがで きる。 量的研究・質的研究を理解し研究実施に必要な基本的技 術を修得する 調査用紙の作成方法 系統的レビューの方法 インタビュー・ガイドの作成	講義・演習	五十嵐 乾 森兼 上田 木村 山崎
	14～28 自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。 ・研究計画書作成の技術を修得する。 ・研究の倫理的配慮について理解する。	講義・演習	五十嵐 乾 森兼 上田 木村 山崎
	29～30 まとめ	講義	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	講義の都度、資料を配布する。		
参考書	講義の都度、適宜提示する。		
学生へのメッセージ等	＊後期の講義は集中で行うことがある。		

講義科目名称： 周産期看護学特別研究　　授業コード：N121350

英文科目名称： Master’s Thesis of Perinatal Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	8	選択
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子		
概要	周産期看護学領域で改善や新しい知見が必要とされている研究課題について、自己の関心のある研究課題を選択する。その課題を解決するための研究計画書を作成し、データ収集・分析・考察を経て研究論文を完成する。また一連の過程を通じて、研究能力の基礎を養う。		
目標	1)周産期看護に関する変遷や現状を分析し、課題が抽出できる。 2)課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。 3)研究課題解決するために最も適切で実施可能な研究方法を選択し、研究計画書を作成できる。 4)研究の倫理的配慮について学び、倫理申請書類が作成できる。 5)課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 6)信頼性・妥当性のある分析ができる。 7)分析結果を踏まえ、適切な考察ができる。 8)研究成果を修士論文としてまとめることができる。		
評価方法	研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、中間報告、修士論文作成までの進捗状況、論文提出とその完成度（100%）にて評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~28 1）研究課題の抽出 これまで周産期看護学特論・演習を通して学んだことを踏まえ、周産期看護に関する自己の研究課題を明確化する。 2）先行研究のクリティーク 先行研究をシステマティックに検索し、適切にクリティークする。そこから自己の研究課題を絞る。 3）研究方法の選択・研究計画書作成 研究課題の解決に適した研究方法を選択し、実施可能な研究計画書を作成する。 4）倫理申請書作成、倫理審査を受ける 倫理審査を受ける一連の過程を通して、研究者として必要な倫理感について理解を深める。	講義・演習	五十嵐
	29~60 5）データ収集 適切なデータを得るためのフィールドを開拓し、データを収集する。 6）データ分析 信頼性・妥当性のあるデータ分析を行う。 7）結果の考察 先行研究の結果も踏まえながら、自己の研究結果について考察を深める。 8）論文作成 研究成果を修士論文として作成する。	講義・演習	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	適宜資料を配布する。		
参考書	適宜提示する。		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 精神看護学特論　　授業コード：N121360

英文科目名称： Advanced Psychiatric and Mental Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
奥田　淳			
添付ファイル			

全担当教員	奥田　淳		
概要	精神保健医療福祉の歴史や現状から今後の精神保健医療福祉の課題を探求する。また、精神看護学に関連した理論やモデル、概念を学習し、看護実践への活用について考察する。		
目標	１）精神看護学に関連した理論やモデル、概念を理解できる。 ２）こころの健康問題を抱えた人とその家族に対して、包括的なアセスメントに基づいた援助を考えることができる。 ３）精神保健医療福祉の歴史や現状を理解し、今後の課題を探求し看護師の役割を考察することができる。		
評価方法	講義に取り組む姿勢・態度（30%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（35%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1～2 オリエンテーション　精神保健医療福祉の歴史と関連法規の変遷	講義・演習	奥田
	3～4 心のはたらき、自我機能、自我の防衛機制	講義・演習	奥田
	4~5 オレム・アンダーウッドのセルフケアモデル	講義・演習	奥田
	6~7 精神に障害がある人の家族への支援	講義・演習	奥田
	8~9 精神に障害がある人への地域における支援（リカバリー、ストレングスモデル）	講義・演習	奥田
	10~11 災害時における心の健康問題と支援	講義・演習	奥田
	12～13 現代社会における心の健康問題（うつ、アディクション、適応障害、自殺）	講義・演習	奥田
	14~15 司法精神医療と看護	講義・演習	奥田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：授業内容に関連した文献を読み、知識を習得する。 事後学習：講義に参加して感じたこと・考えたことを振り返り学習する。		
テキスト	指定なし		
参考書	適宜提示する		
学生へのメッセージ等	積極的に取り組み知識を広げてください。		

講義科目名称： 精神看護学演習　　授業コード：N121370

英文科目名称： Psychiatric and Mental Health Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	４	選択
担当教員			
奥田　淳			
添付ファイル			

全担当教員	奥田　淳
概要	精神保健・看護に関連した研究に関連する先行研究をもとに、今後の研究課題について検討する。研究課題を解決するための研究方法、分析方法を理解する。
目標	１）和文、英文の学術論文のクリティークをすることができる。 ２）学術論文を読み、研究デザインや分析方法、論文の述べ方を理解することができる。 ３）研究課題を見出すことができる。
評価方法	授業に参加する姿勢・態度（35%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（25%）

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 オリエンテーション	講義	奥田
2 研究論文のクリティーク	講義・演習	奥田
3~6 精神看護関連の論文抄読とクリティーク（和文・英文）	演習	奥田
7~9 研究方法	演習	奥田
10~16 調査方法 研究フィールド 研究対象者 データ収集方法 分析方法 倫理的配慮	演習	奥田
17~20 研究計画書の書き方	演習	奥田
21～23 文献検討	演習	奥田
24~26 文献検討のまとめ	演習	奥田
27～28 研究課題の明確化	演習	奥田
29～30 研究計画書	演習	奥田

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：授業のテーマに関する論文を検索し読み、理解をしておく 事後学習：研究のプロセスを理解できるように振り返り復習をする
テキスト	参考資料を配布する
参考書	適宜提示する
学生へのメッセージ等	自己の興味・関心を見つけると共に研究テーマを絞り込んでください。

講義科目名称： 精神看護学特別研究　　授業コード：N121380

英文科目名称： Master’s Thesis of Psychiatric and Mental Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	８	選択
担当教員			
奥田　淳			
添付ファイル			

全担当教員	奥田　淳		
概要	自身の研究課題に対して、その課題を解消するための研究のプロセスを経て、精神保健看護に活用できる知見を明らかにする研究実践能力を培うことができる。		
目標	1)精神保健看護を取り巻く状況において、自身の関心のある領域における研究課題を抽出することができる。 2)研究課題を解決するための研究計画書を作成することができる。 3)研究課題に適切なフィールドを開発し、データを収集し分析することができる。 4)分析結果をふまえ考察をすることができる。 5)研究の成果を修士論文としてまとめることができる。		
評価方法	評価方法：研究への取り組み姿勢（10%）、研究計画書の作成（30%）、中間報告（10%）、修士論文の作成（50%） 評価基準：計画的に研究を進めることができているか。わかりやすいプレゼンテーションが行えてるか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~8 精神保健看護における関心のある事象から研究課題を抽出する	演習	奥田
	9~12 文献検討を行い、リサーチクエスチョンを明確にする	演習	奥田
	13～16 研究計画書を作成する	演習	奥田
	17～31 研究フィールドを開拓し、データを収集する	演習	奥田
	32～41 収集したデータを分析する	演習	奥田
	42～50 分析した結果をまとめ、考察を行う	演習	奥田
	51～60 修士論文を作成する	演習	奥田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：自ら必要であると考えたことを学習する 事後学習：新たな学びを研究に活かす		
テキスト	指定なし		
参考書	授業中に適宜提示する。		
学生へのメッセージ等	看護研究の考え方及び進め方を実際を通して学んでください。		

講義科目名称： 在宅看護学特論　　授業コード：N171010

英文科目名称： Advanced Home Care Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
小竹　久実子			
添付ファイル			

全担当教員	小竹　久実子、佐藤郁代、栗田　麻美、小澤竹俊
概要	在宅看護における対象の理解を深め、在宅の視点を探究する 。
目標	1)在宅療養生活に関連する社会保障制度が理解できる。 2)対象をライフステージで捉え理解できる。 3)対象をライフヒストリーで捉え理解できる。 4)在宅療養をとりまく人々の支援とつながりが理解できる。 5)対象者に合わせた在宅療養移行支援が理解できる。 6)在宅における倫理的配慮について理解できる。 7)対象者に合わせた意思決定支援について理解できる。 8)在宅の視点について具体的に説明できる。
評価方法	プレゼンテーション力30%、発表資料10%、ディスカッション力20%、体験学習20%、レポート20%

授業計画

授業内容		授業形態	担当者
1	2024年4月8日（月） オリエンテーション	講義・演習	小竹。佐藤、栗田
2	2024年4月15日（月） 対象者に応じた社会保障制度の現状と課題	講義・演習	佐藤、小竹
3-4	2024年4月20日（土） 在宅療養者とその家族に対する看取りの支援 ライフステージの異なる療養者の看護過程展開	講義・演習	小澤/小竹
5	2024年4月22日（月） 在宅療養をとりまく人々の支援のつながりの現状と課題	講義・演習	小竹
6	2024年5月13日（月） 在宅における倫理的配慮の現状と課題	講義・演習	小竹
7	2024年5月20日（月） ライフステージの異なる療養者の看護過程展開 ・小児期：重症心身障害等、		小竹
8-9	2024年5月27日（月） 意思決定支援、在宅療養移行支援とは	講義・演習	小竹、栗田
10-13	2024年6月10日（月） ライフステージの異なる療 養者の看護過程展開 ・成人期：就労中の療養者等 （訪問看護ステーション、地域医療連携室でのおよび支援体験）	講義・演習	小竹
14	2024年6月24日（月） 在宅看護の視点とは	講義・演習	小竹
15	2024年7月8日（月） まとめ	講義・演習	小竹

授業外学修（事前学修・事後学修）	授業毎に以下をパワーポイントでまとめてきて授業で発表できるように準備すること、また授業後、修正点を修正しまとめなおすこと 1)在宅療養生活に関連する社会保障制度について調べて現状と課題、地域包括ケアとは？ 2)在宅看護とは？在宅看護の対象、在宅看護のそれぞれの部門の役割について、在宅療養を可能にする条件 3)入退院支援、退院調整について、今まで経験した事例の紹介 4)今まで経験した事例から看護の対象がどのようなライフステージにあり、振り返ってどうすべきであったか考察する 5)今まで経験した事例からその患者の人生ストーリーをとらえ、どの時期にケアが必要であったか考察する 6)倫理的配慮について調べて、在宅看護へ適用をするために実際の事例からとらえまとめること

	7)今まで経験した事例から意思決定支援について考察すること 8)在宅の視点とは何か、奈良の在宅看護の歴史 9)訪問看護ステーションを立ち上げる方法を具体的にまとめること
テキスト	特に指定しない
参考書	前田樹海他訳：APA論文作成マニュアル第2版,医学書院,2014. Lorraine Olszewski Walker & Kay Coalson Avant: Strategies Theory Construction in Nursing, Fourth Edition, Pearson Education, 2005. 中木高夫, 川崎修一訳：看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008. 園城寺康子, 田代順子他訳：看護論文を英語で書く, 医学書院, 2011.
学生へのメッセージ等	在宅看護における対象の理解を深めていき、在宅の視点とは何かを探究しましょう。

講義科目名称： 在宅看護学演習　　授業コード：N171020

英文科目名称： Home Care Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	４	選択
担当教員			
小竹　久実子			
添付ファイル			

全担当教員	小竹　久実子、木下康仁、鈴鴨よしみ、増澤祐子
概要	療養・生活支援をする対象の人生をストーリーラインで捉え、QOLを探究する。 1.システマティックレビューにより研究テーマを見出す。 2.質的データの分析から療養者と重要他者との相互作用をモデル化する質的研究法M-GTAの探究をする。 3.生活の質を捉える健康関連QOLについて学習し、量的研究による探究をする。
目標	①システマティックレビューを理解し、療養生活支援に関するテーマを見出す。 ②M-GTAを理解し、療養者と重要他者の相互作用をモデル化する。 ③健康関連QOL尺度(SF-36V2)の特徴を理解し、量的解析しながら療養生活者や介護者等のQOLについて考察する。
評価方法	プレゼンテーション力30%、発表資料20%、ディスカッション力30%、レポート20%

授業計画

授業内容		授業形態	担当者
1	2024年4月8日（月） 研究テーマを模索する 文献検索を行う(Pub Med他）、現状と課題の探究	講義・演習	小竹
2-3	2024年4月12日（金） システマティックレビューを学ぶ システマティックレビューとは？システマティックに文献検討をする。	講義・演習	増澤/小竹
4-5	2024年4月26日（金） システマティックレビューを学ぶ 得られた結果をまとめる	演習	増澤/小竹
6-7	2024年5月10日（金） システマティックレビューを学ぶ 分析し、考察する	講義・演習	増澤/小竹
8-9	2024年5月24日（金） システマティックレビューを学ぶ 発表する	演習	増澤/小竹
10-11	2024年6月7日（金） Quality of Lifeを探究する 健康関連QOLとは？SPSSによるデータ解析	演習	鈴顔/小竹
12-13	2024年6月21日（金） Quality of Lifeを探究する 結果と考察を発表する	演習	鈴鴨/小竹
14-15	2024年7月5日（金） 療養生活者およびその家族の相互作用をモデル化して捉える 分析結果の実践的活用を目的とするM-GTAとは？	講義・演習	木下/小竹
16-17	2024年7月19日（金） 療養生活者およびその家族の相互作用をモデル化して捉える 主要な方法論的用語である分析テーマ、分析焦点者、継続的比較分析などを理解する,データから概念を生成する	演習	木下/小竹
18^19	2024年8月23日（金） 療養生活者およびその家族の相互作用をモデル化して捉える 概念間の関係からカテゴリーへのプロセスの統合化	演習	木下/小竹
20-21	2024年9月6日（金） 療養生活者およびその家族の相互作用をモデル化して捉える 結果図とストーリーラインによるモデル化と実戦への応用	演習	木下/小竹
22-23	2024年9月20日（金） 療養生活者およびその家族の相互作用をモデル化して捉える 発表する	演習	木下/小竹
24	2024年9月27日（金） 本研究テーマを決定する	演習	小竹
25-26	2024年10月4日（金）	演習	小竹

		研究計画を立案する		
	27-28	2024年10月11日（金） 倫理的配慮を考え記述する	演習	小竹
	29-30	2024年10月18日（金） 研究計画書を完成させる	演習	小竹
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修課題：発表できるようにパワーポイントでまとめておくこと 1)システマティックレビューについて学習したことをまとめること 2)健康関連QOLについて学習しておくこと 3)授業で配布されたデータをSPSSで解析し、内容をまとめること 4)定本M-GTAを読み、パワーポイントで要点をまとめること 5)授業で配布されたデータを分析ワークシートでまとめ、結果図を作成し、解析すること 事後学修課題 6)担当教員ごとにテーマに沿って学習内容をレポートすること			
テキスト	1)『定本 M-GTA：実践の理論化をめざす質的研究方法論』木下康仁著、医学書院、2020 2)下妻晃二郎監修、能登真一編集：臨床・研究で活用できる！QOL評価マニュアル医学書院、2023 3)竹上未沙、福原俊一．「誰も教えてくれなかったQOL活用法」第2版．健康医療評価研究機構、2012			
参考書	『質的研究と記述の厚み：M-GTA・事例・エスノグラフィー』木下康仁著、弘文堂、2009 『Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions』 Julian P. T. Higgins（編集）, James Thomas（編集）, Wiley-Blackwell.2019			
学生へのメッセージ等	研究者としての基礎的な知識と倫理観を養いながら、研究を進めるための知識と方法を学んでいきます。療養生活をする対象とその家族を支えるためにリサーチクエスチョンを明らかにして、エビデンスある研究を行う力を養っていきましょう。			

講義科目名称： 在宅看護学特別研究　　授業コード：N171030

英文科目名称： Master’s Thesis of Home Care Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	8	選択
担当教員			
小竹　久実子			
添付ファイル			

全担当教員	小竹　久実子
概要	在宅看護学を創造していく研究能力を養う。
目標	1)在宅看護における研究課題を明確化し、計画立案できる。 2)倫理的配慮をふまえて研究を遂行できる。 3)収集したデータを解析できる。 4)解析した結果から考察できる。 5)研究の限界と課題を明確化できる。 6)今回の研究をもとに、段階を踏んで在宅看護学に関する研究を継続して探究するきっかけづくりができる。
評価方法	研究への取り組み姿勢10%、研究計画書の作成20%、解析の解釈の深さ10%、プレゼンテーション10%、研究成果50%から総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1~10 研究課題から研究計画立案(概念枠組み・仮説)	演習	小竹
11~25 計画立案（研究方法:内容・分析方法・サンプルサイズ設計)	演習	小竹
26~30 計画立案(倫理的配慮)	演習	小竹
31~40 データ収集	演習	小竹
41~50 分析・結果まとめ	演習	小竹
51~58 考察・結論	演習	小竹
59~60 論文発表会	演習	小竹

授業外学修（事前学修・事後学修）	構造化抄録を作成しながら文献をまとめ、論文を読んだ見解を記載してまとめること。 作成した構造化抄録は授業後に修正をかけること。 文献を読むごとに本研究にどのように反映できそうかまとめること。 リサーチクエスチョンを明確にすること。 緒言を先行研究を踏まえて論理的に作成すること。 予備研究からテーマを導き出すこと。 研究計画を熟考し、妥当性のある分析方法で研究を実施できるように準備すること。 研究を進めるスケジュールを作成し、そのプランにのっとって進めていく準備をすること。
テキスト	特に指定しない
参考書	前田樹海他訳：APA論文作成マニュアル第2版,医学書院,2014. Lorraine Olszewski Walker & Kay Coalson Avant: Strategies Theory Construction in Nursing, Fourth Edition, Pearson Education, 2005. 中木高夫，川崎修一訳：看護における理論構築の方法，医学書院，2008. 園城寺康子，田代順子他訳：看護論文を英語で書く，医学書院，2011.
学生へのメッセージ等	研究に近道はありません。じっくりと確実に進めていくことが大切です。研究能力を養うには、地道な努力と苦労が必要です。研究者としての倫理を習得し、看護の質の向上のために貢献できる研究を積み重ねていく基礎を創ってきましょう。

講義科目名称： 公衆衛生看護学特論　　授業コード：N171040

英文科目名称： Advanced Public Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
坂東　春美			
添付ファイル			

全担当教員	坂東　春美／堀内　沙央里		
概要	公衆衛生看護を実践、展開していくための基礎理論・概念を学ぶとともに、公衆衛生看護領域の研究手法について理解を深める。		
目標	１）公衆衛生看護学の基礎となる理論・モデルを理解する。 ２）公衆衛生看護学で用いる研究方法を理解する。		
評価方法	受講態度（質問・積極性）50%、プレゼンテーション50%で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~2 公衆衛生看護学の基本理論 ①ヘルスプロモーションとMIDORIモデル	講義	坂東
	3~4 公衆衛生看護学の基本理論 ②コミュニティアズパートナーモデルとシステムモデル	講義	坂東
	5~6 公衆衛生看護の研究方法を理解する ①乳幼児健診データを用いた量的研究	講義	坂東
	7~8 公衆衛生看護の研究方法を理解する ②ハイリスク児の地域ネットワークを目指した質的研究	講義	坂東
	9~10 公衆衛生看護の研究方法を理解する ③母子を対象としたタバコ研究	講義	坂東
	11~12 公衆衛生看護の研究方法を理解する ④健康教育を用いた研究	講義	坂東
	13~14 公衆衛生看護の研究方法を理解する ⑤疫学的手法を用いた研究	講義	坂東
	15 公衆衛生看護の研究方法を理解する ⑥環境と健康をテーマとした実験研究	講義	堀内
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回のテーマに関する論文・文献を読み理解しておく。 事後学修：修得した知見を考察し、自身の研究テーマの焦点化にむけた準備を行う。		
テキスト	必要に応じて文献を紹介するとともに資料を配布する。		
参考書	授業のなかで適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護の実践に役立て、向上させるための基本的な知識を習得し、自己の研究課題と研究方法を見出してください。		

講義科目名称： 公衆衛生看護学演習　　授業コード：N171050

英文科目名称： Public Health Nursing Senminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	４	選択
担当教員			
坂東　春美			
添付ファイル			

全担当教員	坂東　春美／堀内　沙央里
概要	公衆衛生看護領域における研究課題の特性と、研究課題に適した研究方法を明らかにする。さらに研究遂行に必要な技術を体験・習得し、自己の研究課題を焦点化することができる。
目標	１．文献検討により研究課題の焦点化ができる ２．研究課題に適した研究方法が選択できる ３．データ収集の方法の理解と、データ収集のスキルが習得できる ４．研究方法に適した分析方法の理解と、データ分析のスキルが習得できる ５．計画策定のプロセスが理解できる
評価方法	出席・参加20～30%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法）、レポート20～30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 演習の進め方	講義	坂東/堀内
2~10 公衆衛生看護領域に関する研究課題を明らかにできる。 文献検索とクリティーク 文献のレビュー	講義	坂東/堀内
11~15 研究課題の焦点化と研究方法の選択が理解できる 質的探索的研究 量的帰納的研究	演習	坂東/堀内
16~19 調査方法の検討 対象選定 調査方法 分析方法	演習	坂東/堀内
20~25 研究遂行のための技術の習得 量的研究法：エクセル統計・SPSS等 質的研究：インタビュー法・観察法と分析の枠組みの検討 統計処理：スーパーバイズの求め方	演習	坂東/堀内
26~28 研究計画書の検討 倫理的配慮 倫理審査の手順	演習	坂東/堀内
29~30 まとめ	演習	坂東/堀内

授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	授業のなかで紹介する
参考書	進捗のなかで適宜提示する
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 公衆衛生看護学特別研究　　授業コード：N171060

英文科目名称： Master’s Thesis of Public Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	8	選択
担当教員			
坂東　春美			
添付ファイル			

全担当教員	坂東　春美		
概要	公衆衛生看護領域の研究課題を見出し研究計画が立案できる。課題を解明するための適切な研究方法を用いて研究を遂行し報告書（学位論文）を作成する。また、その一連の過程を通して研究者としての能力を養う。		
目標	1)公衆衛生看護領域における研究課題を抽出することができる 2)研究課題に関連した先行研究論文を収集しクリティークすることができる 3)研究課題を明らかにするための研究方法を決定し、研究を遂行するために必要な技術・技法を習得できる 4)データ収集のためのフィールドを開発することができる 5)分析に耐えうるデータ収集ができる 6)信頼性、妥当性のある分析ができる 7)分析結果を踏まえ、文献検討により考察を深めることができる 8)研究過程をまとめ、研究報告書を完成させることができる		
評価方法	研究への取組姿勢、研究計画書の作成、中間報告、修士論文作成までのプロセスを考慮し、論文の完成度（100%）にて評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~60 １．研究テーマの決定 ２．文献検討 ３．研究計画書の作成 ４．研究計画書の審査を受ける ５．研究の実施 データ収集 データ分析　文献検討　考察 ６．研究報告書の作成・提出	演習・個別指導	坂東春美
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	適宜、資料を提示する		
参考書			
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 急性病態治療学　　授業コード：N181040

英文科目名称： Acute Pathophysiology and Therapeutics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
川口　昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	川口　昌彦／中川　一郎／甲谷　太一／惠川　淳二／内藤　祐介／位田　みつる／園部　奨太／田中　優／中川　雅史		
概要	急性、重症患者の代謝病態生理とアセスメント、管理について学修する。		
目標	１）急性・重症患者の疾患における集中治療の概論を理解する。 ２）危機的状況にある脳疾患の病態、主な治療・管理、検査について理解する。 ３）呼吸不全の病態、主な治療・管理、検査について理解する。 ４）循環不全の病態、主な治療・管理、検査について理解する。 ５）循環、水分・電解質を中心とする代謝異常の病態、主な治療・管理、検査について理解する。 ６）腎不全、肝不全、多臓器不全の病態、主な治療・管理、検査について理解する。		
評価方法	授業参加度（30%）、課題レポート（70%）の割合で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	呼吸、循環、水分・電解質に関する代謝病態生理、身体侵襲に対する生体反応、およびそれらのアセスメント、治療管理について学修する。 講義ならびに文献学習と個別指導をとおして、急性看護学領域の実践や研究に必要な医学及び看護学の専門知識を統合する力を駆使して学修を進める。		
	1 急性、重症患者の集中治療管理概論	講義	惠川
	2 急性期、重症脳障害患者の病態	講義	中川一郎
	3 脳疾患患者の全身管理 脳循環代謝、頭蓋内圧の調節法	講義	川口
	4 鎮静・鎮痛管理とせん妄対策	講義	甲谷
	5 呼吸管理 呼吸器疾患の病態、低酸素血症、高炭素ガス血症の機序、人工呼吸での安全管理	講義	惠川
	6 呼吸不全の病態と治療	講義	惠川
	7 循環 心機能、循環血液量、自律神経系の影響などを学ぶ	講義	内藤
	8 輸血と止血凝固	講義	位田
	9 急性・重症患者における栄養管理	講義	園部
	10 多臓器不全の病態と治療	講義	内藤
	11 腎不全・肝不全の病態と治療	講義	園部

	12 心臓および小児の外科での管理	講義	内藤
	13 アウトカムの評価法	講義	田中
	14 ショックと救急処置法	講義	中川雅史
	15 多職種による周術期管理とその役割 まとめ	講義	川口
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
参考書	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
学生へのメッセージ等	1年前期の「病態生理学」と関連させて本授業の知識を深める。		

講義科目名称： 急性看護学特論　　授業コード：N181050

英文科目名称： Advanced Acute Care Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子		
概要	危機理論および関連する概念から、危機状態にある人間の反応の変化と過程について理解する。クリティカル状況にある患者と家族に用いられる危機理論および関連する概念・理論、ならびにそれらを活用した看護援助について探求する。		
目標	１）クリティカル状況にある患者と家族の衝撃的な体験に際しての人間の反応や危機から回復・立ち向かう過程を理解するための危機理論および関連する概念・理論を理解する。 ２）危機理論および関連する概念・理論を活用した看護判断・評価方法および看護援助を文献と合わせて理解する。 ３）クリティカル状況にある患者・家族への看護介入モデルの作成および実践・研究への適用について考察する。		
評価方法	課題レポート(60%)、発表・討議における発表内容（20%）と討議への参加状況（20%）の割合で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	・危機理論を中心に関連する概念・理論の変遷、特徴・構造などについて、文献学習をもとに資料を作成し、発表・討議する。さらに、急性看護領域の実践・研究・教育の動向や今後の課題について追及する。次に、理論を活用した看護実践あるいは研究論文を取り上げ、患者の状況・苦痛の理解、看護判断・評価および援助について資料を作成し、発表・討議する。 ・共通科目の看護研究の学びをもとに文献選択、資料作成をおこなう。また、発表、質疑など、すべてのプロセスで学習が効果的に進むように教員からの指導を受ける。 ・文献は英文（少なくとも5年以内に報告されたもの：必要性の高い場合はこの限りではない、用いられている研究方法に注意する）を中心に選択する。		
	1 危機理論の概観と歴史的変遷	講義	石澤美保子
	2 危機理論の実際・研究の変遷と動向	講義	石澤美保子
	3 危機理論と危機モデル(1) 危機モデルの概観、特徴・構造	講義	石澤美保子
	4 危機理論と危機モデル(2) 危機モデルの概観、特徴・構造	講義	石澤美保子
	5 危機理論と事例分析(1) 危機理論を用いた看護実践事例をとりあげ事例分析	講義・演習	石澤美保子
	6 危機理論と事例分析(2) 危機理論を用いた看護実践事例の分析と看護介入評価	講義・演習	石澤美保子
	7 危機理論と事例分析(3) 危機理論を用いた看護実践事例の分析と看護介入評価	講義・演習	石澤美保子
	8 Stress・coping(1) ストレス理論の概観と歴史的変遷	講義・演習	石澤美保子
	9 Stress・coping(2) ストレス・コーピング理論を用いた看護実践事例をとりあげ分析する。	講義・演習	石澤美保子
	10	講義・演習	石澤美保子

	Social support Social Supportの歴史的概観、特徴・構造 Social Supportの理論を活用した実践あるいは看護研究を分析をする。		
	11 Body image Body Imageの歴史的概観、特徴・構造 Body Imageの理論を活用した実践あるいは看護研究を分析をする。	講義・演習	石澤美保子
	12 危機的な状況にある患者・家族の看護介入モデル(1)	講義・演習	石澤美保子
	13 危機的な状況にある患者・家族の看護介入モデル(2)	講義・演習	石澤美保子
	14 危機的な状況にある患者・家族の看護介入モデルを用いた看護実践事例の分析(1)	講義・演習	石澤美保子
	15 危機的な状況にある患者・家族の看護介入モデルを用いた看護実践事例の分析(2)	講義・演習	石澤美保子
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。		
テキスト	クラスの中で適宜紹介する。		
参考書	クラスの中で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	本科目はクリティカルケア領域において基本となる理論であるので、自身のこれまでの実践経験をふまえて学びを深めてほしい。		

講義科目名称： 急性看護学援助特論Ⅰ　　授業コード：N181060

英文科目名称： Advanced Acute Care Nursing Assistant Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子／村上　香織／辻本　雄大／長嶋　智美／森脇　裕美		
概要	クリティカル状況にある患者の回復に向けたケアとキュアが融合した看護介入の方法を学修するとともに、患者および家族の苦悩を理解し、援助的な関わりを発展させるための理論をもとにした介入方法を学修する。		
目標	１）クリティカル状況にある患者の回復に向けたケアとキュアが融合した看護介入のための方法を理解する ２）クリティカル状況にある患者および家族に対して援助的な関わりを発展させるための理論を理解し介入方法を学ぶ。		
評価方法	課題レポート(60%)、発表・討議における発表内容(20%)と討議への参加状況(20%)の割合で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	・文献学習および臨床における看護実践の経験、個別指導をとおして、急性看護学領域の研究や実践に必要な概念や理論、専門的知識・技術を統合する力を駆使して学修を進める。　・看護介入の事例の作成と分析：学生のこれまでの経験事例、もしくはこれまでの経験事例、文献から作成した事例などを提示し分析する。分析結果を発表し討議する。教員は学生の主体的な学習を支援するために、助言・資料提供などを行う。		
	1 クリティカルケアにおける援助関係論	講義・演習	石澤美保子
	2 クリティカル状況にある患者の家族とのパートナーシップ形成、苦痛の緩和	講義・演習	村上香織
	3 家族アセスメントおよび家族看護介入モデル	講義・演習	村上香織
	4 クリティカルケアにおける援助関係論（1） 家族への看護介入困難事例について、モデル・理論を活用して事例の分析・検討	講義・演習	村上香織
	5 クリティカルケアにおける援助関係論（2） 家族への看護介入困難事例について、モデル・理論を活用して事例の分析・検討	講義・演習	村上香織
	6 チーム医療 キュアとケアを融合した看護援助、家族への看護援助のためのチーム医療	講義・演習	辻本雄大
	7 クリティカルケアにおける専門看護師の役割（1） クリティカルケアにおける教育的活動	講義・演習	辻本雄大
	8 クリティカルケアにおける専門看護師の役割（2） クリティカルケアにおけるコーディネーション、コンサルテーション	講義・演習	辻本雄大
	9 急性呼吸器障害のある患者とその家族を対象としたケアとキュアを融合した看護介入(1)	講義・演習	村上香織
	10 急性呼吸器障害のある患者とその家族を対象としたケアとキュアを融合した看護介入(2)	講義・演習	村上香織

	11 急性中枢障害のある患者とその家族を対象としたケアとキュアを融合した看護介入(1)	講義・演習	長嶋智美
	12 急性中枢障害のある患者とその家族を対象としたケアとキュアを融合した看護介入(2)	講義・演習	長嶋智美
	13 多臓器不全患者とその家族を対象としたケアとキュアを融合した看護介入	講義・演習	長嶋智美
	14 急性循環障害のある患者とその家族を対象としたケアとキュアを融合した看護介入(1)	講義・演習	森脇裕美
	15 急性循環障害のある患者とその家族を対象としたケアとキュアを融合した看護介入(2)	講義・演習	森脇裕美
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考書	適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	学生のこれまでの事例をとおし経験と理論を組み合わせて単元ごとに深めていってください。		

講義科目名称：　急性看護学援助特論Ⅱ(治療管理)　　授業コード：N181070

英文科目名称：　Advanced Acute Care Nursing AssistantⅡ(Treatment and Management)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	２	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子／川口　昌彦／井上　聡己／惠川　淳二／青木　久美子／阿部　美佐子／土田　敏恵		
概要	急性・重症患者に必要とされる治療・処置を理解し、患者中心の医学・看護学の視点から治療・療養過程全般における管理に必要な知識、援助方法を学修する。		
目標	１）急性・重症患者に必要な治療・処置を理解し、治療・療養過程全般を管理するための知識、方法を理解する。　２）急性・重症患者に必要な治療・処置を理解し、治療とケアを統合させた実践をおこなうための知識、援助方法を理解する。		
評価方法	課題レポート(60%)、発表・討議における発表内容(20%)と討議への参加状況(20%)の割合で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	急性看護学領域における医学の知識と実践、看護学の専門知識を単元ごとに整理しながら文献的知識、個別指導を通じて学修する。		
	1　気管切開と胸腔ドレナージ	講義	井上聡己
	2　アナフィラキシーの病態と治療	講義	井上聡己
	3　大量出血時の対応	講義	井上聡己
	4　術後モニタリングと安全管理	講義	惠川淳二
	5　急性・重症患者の補助循環について	講義	井上聡己
	6　術後疼痛と患者調節鎮痛法	講義	川口昌彦
	7　急性・重症患者における口腔内管理とケア	講義	青木久美子
	8　クリティカルな治療環境にある患者・家族のアセスメント(1)	講義・演習	阿部美佐子
	9　クリティカルな治療環境にある患者・家族のアセスメント(2)	講義・演習	阿部美佐子
	10　拘束・不動状況にある患者とその家族のアセスメント	講義・演習	阿部美佐子
	11　クリティカル状況にある患者・家族の看護支援(1)	講義・演習	阿部美佐子
	12　感染管理(1) 重症・集中治療を要する状態にある患者の感染管理	講義	土田敏恵
	13　感染管理(2)	講義	土田敏恵

	重症・集中治療を要する状態にある患者の感染管理		
	14 創傷管理(1) 創傷の種類とその治癒過程	講義	石澤美保子
	15 創傷管理(2) MDRPU（医療関連機器圧迫創傷）の発生機序とその管理	講義	石澤美保子
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。		
テキスト	クラスの中で適宜紹介する。		
参考書	クラスの中で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	1年前期の「病態生理学」、「急性病態治療学」と関連させて本科目の知識を深める。		

講義科目名称： 急性看護学演習Ⅰ　　授業コード：N181080

英文科目名称： Acute Care Nursing Seminar Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	２	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子／升田　茂章／辻本　雄大／四宮　敏章／川西　秀明／亀井　有子		
概要	急性・重症患者が直面している個人の意思の選択と自由の問題を扱い、倫理的問題を解決するための理論的基礎と分析力を養う。さらに、クリティカルケアにおける倫理的問題を解決するための高度実践看護師の役割を考究する。		
目標	（１）クリティカルケアを受ける患者の個人の選択と自由の問題についてアセスメントできる知識・技術・態度を学修する。 （２）クリティカルケアにおける倫理的問題を解決するための高度実践看護師の役割を考察する。		
評価方法	課題レポート(60%)、発表・討議における発表内容（20%）と討議への参加状況（20%）の割合で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	・文献学習および臨床における看護実践、カンファレンス、個別指導をとおして、重症・集中治療を受ける患者の権利、意思決定などの問題をとりあげ、倫理的問題を解決するための理論的基礎を学修する。生命の危機状態にあり、拘束状態にある患者・家族に生じやすい問題を取り上げ、倫理的問題分析モデルを活用して分析する。 ・分析結果をもとに倫理的調整および問題解決のための看護介入について検討する。		
	1 生命倫理の理論的基礎	講義	石澤美保子
	2 家族看護と倫理問題(1)	講義・演習	升田茂章
	3 家族看護と倫理問題(2)	講義・演習	升田茂章
	4 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(1)	講義・演習	辻本雄大
	5 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(2)	講義・演習	辻本雄大
	6 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(3)	講義・演習	辻本雄大
	7 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(4)	講義・演習	辻本雄大
	8 急性期医療における緩和ケアと家族への介入(1)	講義	四宮敏章
	9 急性期医療における緩和ケアと家族への介入(2)	講義	四宮敏章
	10 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(1)	講義・演習	辻本雄大
	11 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(2)	講義・演習	辻本雄大
	12	講義・演習	辻本雄大

	クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(3)		
	13 ME機器に関連する配慮と安全対策	講義	川西秀明
	14	講義・演習	亀井有子
	15	講義・演習	亀井有子
	16~30 フィールド演習 本科目で学修した援助方法を活かして、患者とその家族への倫理的課題を抽出し、解決に向けた看護介入を計画・実践し、評価する。 実践期間は5日間とする。 実践場所：奈良県立医科大学附属病院 実践における指導は担当教員と急性・重症患者看護専門看護師とが緊密な連携をとり、協力して教育を行う。 実践した内容をケースレポート・実践報告にまとめる。 フィールドでの指導担当者：急性・重症患者看護専門看護師、集中治療医あるいは麻酔科医 （詳細は演習要項を参照）	演習	石澤美保子 辻本雄大
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。		
テキスト	特に指定しない。		
参考書	クラスの中で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	この演習では、これまでの実践と講義の内容をつなげながら、基盤となる急性期看護学の理論を学んでいってください。		

講義科目名称： 急性看護学演習Ⅱ　　授業コード：N181090

英文科目名称： Acute Care Nursing Seminar Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	２	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子／升田　茂章／辻本　雄大／村上　香織		
概要	クリティカル状況にある患者とその家族が有する全人的苦痛を緩和・軽減するための知識・技術を学修する。		
目標	1)患者が有する心身の苦痛、社会的苦痛を緩和・軽減するためのケア理論、原理、方法、効果判定について理解する。 2)クリティカル状況にあり苦痛を抱える患者とその家族への苦痛緩和のための援助技術を修得する。		
評価方法	課題レポート(60%)、発表・討議における発表内容(20%)と討議への参加状況(10%)、フィールド演習状況（10%）の割合で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	・文献学習および臨床における看護実践、カンファレンス、個別指導をとおして、急性看護学領域の研究や実践に必要な概念や理論、専門的知識・技術を統合する力を駆使して学修を進める。　・文献学習・プレゼンテーション、討議をとおして学ぶ。　・関連文献の検索とクリティーク：学生が主体的に行い、教員の助言・指導を受ける。　・看護介入の事例の作成と分析：学生のこれまでの経験事例、もしくは演習の体験事例、文献から作成した事例などを提示し分析する。分析結果を発表し討議する。		
	1 トータルペインとは	演習	石澤美保子
	2 トータルペインと看護援助 経験事例の分析を通して看護援助法を探究	演習	石澤美保子
	3 トータルペインを考慮した患者とその家族への援助	演習	石澤美保子
	4 鎮痛と鎮静(1) クリティカルケアにおける鎮痛・鎮静の意義 クリティカルケアにおける鎮痛・鎮静の薬理作用	演習	石澤美保子
	5 鎮痛と鎮静(2) クリティカルケアにおける鎮静の評価法	演習	石澤美保子
	6 鎮痛と鎮静(3) クリティカルケアにおけるペインコントロールの方法と効果判定	演習	石澤美保子
	7 鎮痛と鎮静(4) 重症呼吸不全患者の鎮静、神経系障害患者の鎮静と鎮痛などの看護実践の経験事例についての事例分析	演習	石澤美保子
	8 クリティカル状況にある患者の創部、瘻孔管理	講義	石澤美保子
	9 ストーマ管理 クリティカルな状況における周術期ストーマ管理、SSIとストーマ管理	講義	石澤美保子
	10 術後疼痛対策 人工呼吸を要する術後患者の疼痛対策と効果判定	演習	辻本雄大

	11 症状マネージメント(1) 呼吸器系、循環器系症状のマネージメント	演習	辻本雄大
	12 症状マネージメント(2) 消化器系症状のマネージメント	演習	石澤美保子
	13 せん妄と看護援助 クリティカルな状況にある患者のせん妄とそのアセスメント	演習	石澤美保子
	14 クリティカルケアにおける苦痛緩和に関する研究 クリティカルケアにおける苦痛緩和に関する研究についての文献検討 （現状と今後の動向と課題の明確化）	演習	石澤美保子
	15 終末期ケア クリティカル状況にある患者・家族の終末期ケア （文献および経験事例を通して学ぶ）	演習	升田茂章
	16~30 フィールド演習 患者の心身の苦痛からの解放とその家族への看護を実践し、評価することで学修を深める。 実践期間は5日間とする。 実践場所：近畿大学医学部附属病院 実践における指導は担当教員と急性・重症患者看護専門看護師とが緊密な連携をとり、協力して教育を行う。 実践した内容をケースレポート・実践報告にまとめる。（詳細は演習要項を参照）	演習	石澤美保子 村上香織
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。		
テキスト	適宜紹介する		
参考書	適宜紹介する		
学生へのメッセージ等	実践場所での演習と繋げられるように理論を確実に学んでください。		

講義科目名称： 急性看護学演習Ⅲ　　授業コード：N181100

英文科目名称： Acute Care Nursing Seminar Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	２	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子／岡崎　理絵／亀井　有子／長嶋　智美		
概要	救命・救急患者・家族の看護ケアに必要な看護判断、評価方法および看護援助を学修するとともにそれぞれの看護ケアの専門性を理解し探求する。		
目標	1)救命救急看護を受ける患者・家族に必要な看護判断、評価方法および看護援助について理解する。 2)文献・事例検討をとおして救命・救急看護の専門性を考察する。		
評価方法	課題レポート(60%)、発表・討議における発表内容(20%)と討議への参加状況(20%)の割合で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	・文献学習、カンファレンス、個別指導をとおして、急性看護学領域の研究や実践に必要な概念や理論、専門的知識・技術を統合する力を駆使して学修を進める。 ・文献学習、プレゼンテーション、討議をとおして学ぶ。 ・関連文献の検索と詳読：学生が主体的に行い、教員の助言・指導を受ける。 ・看護介入の事例の作成と分析：学生のこれまでの経験事例、もしくは演習の体験事例、文献から作成した事例などを提示し分析する。分析結果を発表し討議する。教員は学生の主体的な学習を支援するために、助言・資料提供などを行う。		
	1~2 救命・救急における看護の特徴 救命・救急における看護体制と役割、看護の場、法律と倫理	演習	岡崎理絵 石澤美保子
	3~4 救命・救急における初期対応 救命・救急治療を受ける患者・家族の特徴と初期対応	演習	岡崎理絵
	5~6 外傷患者(1) 救命・救急治療を受ける外傷患者・家族のアセスメントと看護援助	演習	岡崎理絵
	7~8 外傷患者(2) 救命・救急治療を受ける外傷患者・家族の看護援助 ＜事例分析＞	演習	岡崎理絵
	9~10 急性腹症 救命・救急治療を受ける急性腹症患者・家族のアセスメントと看護援助	演習	亀井有子
	11~12 熱傷患者(1) 救命・救急治療を受ける熱傷患者・家族のアセスメントと看護援助	演習	亀井有子
	13~14 熱傷患者(2) 救命・救急治療を受ける熱傷患者・家族の看護援助 ＜事例分析＞	演習	亀井有子
	15~16 中毒患者 救命・救急治療を受ける中毒患者・家族のアセスメントと看護援助	演習	亀井有子
	17~18 ショック患者 集中治療を受けるショック患者・家族のアセスメントと看護援助	演習	長嶋智美
	19~20	演習	長嶋智美

	ＳＩＲＳ・ＣＡＲＳ患者 集中治療を受けるＳＩＲＳ・ＣＡＲＳ患者・家族のアセスメントと看護援助		
	21~22 敗血症（Sepsis）、多臓器不全症候群（MODS）患者 集中治療を受けるSepsis, MODS患者・家族のアセスメントと看護援助	演習	長嶋智美
	23~24 中枢神経系救急疾患（脳血管障害、中枢神経系感染症、痙攣）患者・家族のアセスメントと看護援助	演習	岡崎理絵
	25~26 熱中症、溺水、高山病、酸欠症、窒息患者・家族のアセスメントと看護援助	演習	石澤美保子
	27~28 その他各科救急(1)（腎泌尿器系疾患、婦人科系救急疾患、産科系救急疾患、小児科系救急疾患）患者・家族のアセスメントと看護援助	演習	岡崎理絵
	29~30 その他各科救急(2)(代謝内分泌系救急疾患、精神科救急疾患)患者・家族のアセスメントと看護援助	演習	岡崎理絵
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。		
テキスト	適宜紹介する		
参考書	適宜紹介する		
学生へのメッセージ等	救命救急看護分野に特徴的な内容をしっかり捉えていってください。		

講義科目名称： 急性看護学実習Ⅰ　　授業コード：N181110

英文科目名称： Clinical Practice in Acute Care Nursing Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子
概要	クリティカルケア領域におけるコンサルテーション機能、調整、スタッフや他職種への教育的・指導的役割、研究的姿勢などの高度実践看護師としての役割を果たすために必要な基礎的能力を養う。
目標	1)クリティカル状況にある患者・家族の尊厳を守り、倫理的問題の対処のため基礎的な活動ができる。 2)クリティカルケアの提供者に対するコンサルテーションの基礎的な活動ができる。 3)クリティカルケアにおいて、必要なケアが円滑に提供されるために他の専門職者間の調整方法を学ぶ。 4)実践の評価、システムの改善、倫理的問題への対処のための研究的態度を養う。
評価方法	実習への取り組み・態度(30%)、カンファレンス・事例検討会などの取り組み(20%)、高度実践看護師の役割などの課題レポート(50%) の内容の割合で評価する。
授業計画	急性・重症患者看護専門看護師が果たす役割（卓越した実践・スタッフや他職種への教育的・指導的役割、相談、連携調整、研究、倫理的問題への対処など）の実際の活動を体験するとともにその役割を担う基礎的な力を養うための基礎的な力を養う。 授業内容 臨床における看護実践やカンファレンス、文献学習、個別指導をとおして急性看護学領域の実践に必要な概念や理論、専門的知識を統合する力および熟練した看護技術を適切に用いる力を駆使して学修を進める。 方法： 1.専門看護師として必要なリーダーシップと卓越した実践・教育・相談・連携調整・倫理調整・研究について、急性・重症患者専門看護師の指導のもと実際の体験を通して役割を学ぶ。 2.複雑で困難な実践状況において、看護職者やケア提供者に対し、クリティカルケア看護の専門的な立場での相談、意見の掲示を行い、問題の対処にあたる機会をもち、コンサルテーション機能の本質について考える機会を持つ。 3.複雑な背景や困難な問題を有する対象を受け持ち、継続看護のための他部門・関係職種との連絡・調整を図る機会を持つ。その実践から他部門や関係職種と意見調整を図り協働するための方法を学ぶ。 4.クリティカルケア看護における倫理的問題に積極的に取り組み、問題解決や対処のために情報収集・面接、アセスメント、介入計画を立案し、患者をとりまく関係者間の調整を図るなどの具体的な方法を学ぶ。 実習期間：１年次後期 実習施設： ・奈良県立医科大学附属病院 ・近畿大学医学部附属病院 ・大阪市立大学附属病院 実習体制：実習指導は教員と専門看護師または専門看護師担当のものと協力して教育を行う。 実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）： ・奈良県立医科大学附属病院 辻本雄大 ・近畿大学医学部附属病院 村上香織 ・大阪市立大学附属病院 阿部美佐子 記録： ・実習日ごとに、①実践、②指導・教育、③調整、④相談、⑤倫理的問題への対処のうち、主に実習した内容を記録し、その内容をもとに実習目標の達成度をはかり、目標達成に向けた実習計画を修正・実行する。 ・①実践、②指導・教育、③調整、④相談、⑤倫理的問題への対処に関し、対応した事例をもとにレポートを作成し提出する。 （詳細は実習要項参照）
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。
テキスト	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	本実習で達成すべき課題をしっかりと捉えて実習に臨んでください。

学生へのメッセージ等	本実習で達成すべき課題をしっかりと捉えて実習に臨んでください。

講義科目名称： 急性看護学実習Ⅱ　　授業コード：N181120

英文科目名称： Clinical Practice in Acute Care Nursing Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	２	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子
概要	クリティカルケア領域におけるコンサルテーション機能、調整、スタッフや他職種への教育的・指導的役割、研究的姿勢などの高度実践看護師としての役割を果たすために必要な能力を養う。
目標	1)クリティカル状況にある患者・家族の尊厳を守り、倫理的問題に対処することができる。 2)クリティカルケアの提供者に対するコンサルテーションができる。 3)クリティカルケアにおいて、必要なケアが円滑に提供されるために他の専門職者間の調整を行うことができる。 4)実践の評価、システムの改善、倫理的問題への対処のための研究的態度を養う。 5)重症・集中治療環境の総合的な管理ができ、クリティカルケアの質向上に向けた貢献を考えることができる。
評価方法	実習への取り組み・態度(30%)、カンファレンス・事例検討会などの取り組み(20%)、高度実践看護師の役割などの課題レポート(50%) の内容の割合で評価する。
授業計画	急性・重症患者看護専門看護師が果たす役割（卓越した実践・スタッフや他職種への教育的・指導的役割、相談、連携調整、研究、倫理的問題への対処など）の実際の活動を体験するとともにその役割を担う能力を養う。 授業内容 臨床における看護実践やカンファレンス、文献学習、個別指導をとおして急性看護学領域の実践に必要な概念や理論、専門的知識を統合する力および熟練した看護技術を適切に用いる力を駆使して学修を進める。 方法： 1.専門看護師として必要なリーダーシップと卓越した実践・教育・相談・連携調整・倫理調整・研究について、急性・重症患者専門看護師の指導のもと実際の体験を通して役割を学ぶ。 2.複雑で困難な実践状況において、看護職者やケア提供者に対し、クリティカルケア看護の専門的な立場での相談、意見の掲示を行い、問題の対処にあたる機会をもち、コンサルテーション機能の本質について考える機会を持つ。 3.複雑な背景や困難な問題を有する対象を受け持ち、継続看護のための他部門・関係職種との連絡・調整を図る機会を持つ。その実践から他部門や関係職種と意見調整を図り協働するための方法を学修する。 4.クリティカルケア看護における倫理的問題に積極的に取り組み、問題解決や対処のために情報収集・面接、アセスメント、討議を行い、介入計画を立案し、患者をとりまく関係者間の調整を図る。急性看護学援助論Ⅱで学修した理論・モデルを活用してアセスメントを実施する。 実習期間：2年次 実習施設： ・奈良県立医科大学附属病院 ・近畿大学医学部附属病院 ・大阪市立大学附属病院 実習体制：実習指導は教員と専門看護師または専門看護師担当のものと協力して教育を行う。 実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）： ・実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）： ・奈良県立医科大学附属病院 辻本雄大 ・近畿大学医学部附属病院 村上香織 ・大阪市立大学附属病院 阿部美佐子 記録： ・実習日ごとに、①実践、②指導・教育、③調整、④倫理的問題への対処のうち、主に実習した内容を記録し、その内容をもとに実習目標の達成度をはかり、目標達成に向けた実習計画を修正・実行する。 ・①実践、②指導・教育、③調整、④相談、⑤倫理的問題への対処に関し、対応した事例をもとにレポートを作成し提出する。 （詳細は実習要項参照）
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。
テキスト	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する

講義科目名称： 急性看護学実習Ⅲ　　授業コード：N181130

英文科目名称： Clinical Practice in Acute Care Nursing Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	２	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子
概要	救命・救急看護を提供する場で、クリティカル状況にある患者とその家族に対し、高度実践看護師として高度な知識と的確な看護判断・熟練した看護技術を用いた卓越した看護実践、倫理的な態度に基づいた看護実践ができる能力を養う。
目標	1)クリティカル状況にある患者・家族に対し、高度な知識に基づいて看護判断ができる。 2)クリティカル状況にある患者・家族に対し、看護判断に基づいて計画的な実践と評価ができる。 3)クリティカル状況にある患者・家族の全人的な苦痛を緩和するために熟練した看護技術を用いた卓越した看護実践ができる。 4)クリティカル状況にある患者・家族に対し、倫理的感受性を高め、倫理的態度をとることができる。 5)選択した看護の専門性を考察する。
評価方法	実習への取り組み・態度(30%)、カンファレンス・事例検討会などの取り組み(20%)、課題レポート・ケースレポート(50%) の内容の割合で評価する。
授業計画	クリティカル状況にある患者とその家族に対し、専門看護師として高度な知識と的確な看護判断・熟練した看護技術を用いた卓越した看護実践と倫理的な態度に基づいた看護実践ができる能力を養う。 授業内容 臨床における看護実践やカンファレンス、事例検討会、討論セミナー、文献学習、個別指導をとおして急性看護学領域の実践に必要な概念や理論、専門的知識を統合する力および熟練した看護技術を適切に用いる力を駆使して学修を進める。 方法： 1.複雑で困難な問題を有する対象を受け持ち、急性・重症患者看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら、アセスメントを行い、ケアプランの計画立案、質の高い看護実践・評価を行い、看護実践能力を高める。 2.全身管理を受ける患者・家族中心の治療がすすめられるよう、治療環境を総合的に管理するための実践を行う。 3.対象の状況に応じて、教育、相談、他部門・関係職種との連携・調整、ケアチームによる協働などの実践を行う。 実習期間：2年次 実習施設： ・奈良県立医科大学附属病院 ・近畿大学医学部附属病院 ・大阪市立大学附属病院 実習体制：実習指導は教員と専門看護師または専門看護師担当のものと協力して教育を行う。 実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）： ・実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）： ・奈良県立医科大学附属病院 辻本雄大 ・近畿大学医学部附属病院 村上香織 ・大阪市立大学附属病院 阿部美佐子 記録： ・実践した内容を実習記録に記入する。 ・情報、アセスメント、計画、実践、評価などを含んだケースレポートをまとめる。 ・救命・救急看護、重症・集中治療看護、周術期看護の専門性についてレポートにまとめる。 （詳細は実習要項参照）
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。
テキスト	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	本実習で達成すべき課題をしっかりと捉えて実習に臨んでください。

講義科目名称： 急性看護学実習Ⅳ　　授業コード：N181140

英文科目名称： Clinical Practice in Acute Care Nursing Ⅳ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	4	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子
概要	全身管理が必要な患者とその家族に対し、高度実践看護師として高度な知識と的確な看護判断・熟練した看護技術を用いた卓越した実践、倫理的な態度に基づいた看護実践ができる能力を養う。
目標	1)全身管理が必要な患者・家族に対し、的確な知識と方法で、患者のアセスメントができる。 2)クリティカル状況にある患者・家族の全人的な苦痛を緩和するために熟練した看護技術を用いた卓越した看護実践ができる。 3)クリティカル状況にある患者・家族の尊厳を守り、倫理的問題に対処することができる。 4)クリティカルケアにおいて、必要なケアが円滑に提供されるために他の専門職者間の調整を行うことができる。 5)実践の評価、システムの改善、倫理的問題への対処のための研究的態度を養う。 6)重症・集中治療環境の総合的な管理ができ、クリティカルケアの質向上に向けた貢献ができる。
評価方法	実習への取り組み・態度(30%)、カンファレンス・事例検討会などの取り組み(20%)、専門看護師の役割などの課題レポート・ケースレポート(50%) の内容の割合で評価する。
授業計画	全身管理が必要な患者とその家族に対し、専門看護師として高度な知識と的確な看護判断・熟練した看護技術を用いた卓越した実践、倫理的な態度に基づいた看護実践ができる能力を養う。 授業内容 臨床における看護実践やカンファレンス、事例検討会、討論セミナー、文献学習、個別指導をとおして急性看護学領域の実践に必要な概念や理論、専門的知識を統合する力および熟練した看護技術を適切に用いる力を駆使して学修を進める。 方法： 1.複雑で困難な問題を有する対象を受け持ち、急性・重症患者看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら、アセスメントを行い、ケアプランの計画立案、質の高い看護実践・評価を行い、看護実践能力を高める。その際は、専門看護師として、ケアの質の向上を図るために、提供システムやチーム医療の視点で看護スタッフの役割モデルになることをめざす。また、実習の中で、異なるクリティカル状況の対象に対する実践例を分析・評価することで、専門性が意味する本質を考察する。 2.全身管理を受ける患者・家族中心の治療がすすめられるよう、治療環境を総合的に管理するための実践を行う。 3.対象の状況に応じて、教育、相談、他部門・関係職種との連携・調整、ケアチームによる協働などの実践を行う。ケースカンファレンスをチームメンバーとともに開催し、ケースの看護ケアについて討議する。 4.クリティカルケア看護領域のスタッフに継続ケアを視野に入れた教育を企画、実施、評価する。企画案を作成し、必要な教材・資料を作成する。 5.目標を達成するために、実習はクリティカル期として救命・救急センター、ICU・CCU病棟、ポストクリティカル期として外科病棟、継続ケアとして関連した看護外来などで実習を行う。 実習期間：2年次 実習施設： ・奈良県立医科大学附属病院 ・近畿大学医学部附属病院 ・大阪市立大学附属病院 実習体制：実習指導は教員と専門看護師または専門看護師担当のものと協力して教育を行う。 実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）： ・実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）： ・奈良県立医科大学附属病院 辻本雄大 ・近畿大学医学部附属病院 村上香織 ・大阪市立大学附属病院 阿部美佐子 記録： ・実践した内容を実習記録に記入する。 ・情報、アセスメント、計画、実践、評価などを含んだケースレポートをまとめる。 ・実習日ごとに、実践内容を記録し、その内容をもとに実習目標の達成度をはかり、目標達成に向けた実習計画を修正、実行する。 ・対応した事例をもとに実践報告書を作成する。 ・ケース検討会などの

	・教育計画の計画書、教材を提出する。 ・ケースカンファレンスのカンファレンス記録を提出する。 （詳細は実習要項参照）
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。
テキスト	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	本実習で達成すべき課題をしっかりと捉えて実習に臨んでください。

講義科目名称： 急性看護学課題研究　　授業コード：N181150

英文科目名称： Research Project in Acute Care Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	２	選択
担当教員			
石澤　美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤　美保子		
概要	周術期またはクリティカルな状況にある患者および家族の看護および看護援助に関する研究課題、特に看護実践に関するものを選定し、系統的な文献検索を行った上で適切な研究手法を用いて研究を行い、課題研究成果物を作成する。		
目標	1)学生各自が関心のある周術期またはクリティカルな状況にある患者および家族の看護に関する研究課題を見出すことができる. 2)研究課題を見出すための系統的な文献検索を自ら行うことができ、適切な研究手法を選択することができる。 3)課題研究成果物作成までの必要なプロセスを構築できる。		
評価方法	課題研究に取り組む姿勢・課題研究過程・提出された課題研究成果物(100%)を総合して評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~20 クリティカルな状況の患者および家族の看護に関するテーマを選定し、研究計画書を作成できる。	演習	石澤美保子
	21~30 作成した研究計画書に基づき、適切な研究手法を用いてデータを収集する。収集したデータを適切な方法で分析し結果・考察を行い、成果物を作成する。	演習	石澤美保子
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。		
テキスト	適宜紹介する		
参考書	適宜紹介する		
学生へのメッセージ等	講義、演習、実習を通じて学修した内容をふまえ取り組んでください。		

講義科目名称： がん病態治療学　　授業コード：N201060

英文科目名称： Cancer Pathophysiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
未定			
添付ファイル			

全担当教員	本津茂人／小山文一／北東大督／池田直也／田中宣道／四宮敏章／小川朝生
概要	がん医療の動向、がんの病態生理および診断、検査、最新治療について学び、がん看護学における高度な臨床判断と看護実践に必要な医学的専門知識を深める。
目標	１）がん医療の動向とがんの対策について理解する。 ２）がんの病態と診断、治療の基本的考え方について理解を深める。 ３）代表的な悪性腫瘍の診療ガイドラインに基づいた標準治療および最新の治療戦略ついて理解を深める。 ４）がん・がん治療に伴う症状の臨床判断および専門的介入について理解を深める。
評価方法	各授業終了後の学修内容のレポート（７点×12回＝84点：妥当性・適切性）と最終課題レポート（16点：論理性・一貫性・適切性）を総合的して評価する。 最終課題レポート：がん看護学の高度な臨床判断と看護実践における自己の課題

授業計画

	授業内容	授業形態	担当者
1	4限目 授業展開のオリエンテーション　がん医療の動向と対策 １）がんの疫学 ２）日本におけるがん対策（がん対策基本法、がん対策推進基本計画） ３）がん予防・がん検診 ４）がん医療における臨床試験の役割 ５）がん診療における診断から治療までの流れ	講義	がんセンター長
2	5限目 がんの病理学 １）がんの発生 ２）がん遺伝子、がん抑制遺伝子 ３）がん細胞の増殖・分化異常、浸潤・転移の病態 ４）がんの病理学的診断 ５）腫瘍マーカーの臨床的意義 ６）ゲノム医療	講義	病理診断学 教授
3	5限目 がん の 治療 （１）がん 薬物療法-1 １）薬物療法 に関する概念と治療戦略 （殺細胞性 抗がん剤、分子標的 治療 薬 、免疫治療 薬、 遺伝子治療薬） ２）薬物療法に関連する 有害事象の 病態および マネジメント ３）個別化治療、ゲノム医療	講義	がんゲノム・ 腫瘍内科学 教授
4	5限目 がん の 治療 （１）がん 薬物療法-2 １）薬物療法 に関する概念と治療戦略 （殺細胞性 抗がん剤、分子標的 治療 薬 、免疫治療 薬、 遺伝子治療薬） ２）薬物療法に関連する 有害事象の 病態および マネジメント ３）個別化治療、ゲノム医療	講義	がんゲノム・ 腫瘍内科学 教授
5	4限目 がん の 治療 （２）がん 放射線療法-1 １）放射線療法の原理と治療戦略 （根治照射・緩和照射、外部照射・小線源治療 ・ 内用療法） ２）放射線療法に関連する 有害事象の病態およびマネジメント オンコロジック・エマージェンシーの病態、診断プロセスと治療戦略 １）がんの骨転移による脊髄圧迫症候群	講義	放射線腫瘍医学 教授
6	4限目 がん の 治療 （２）がん 放射線療法-2 １）放射線療法の原理と治療戦略 （根治照射・緩和照射、外部照射・小線源治療 ・ 内用療法） ２）放射線療法に関連する 有害事象の病態およびマネジメント オンコロジック・エマージェンシーの病態、診断プロセスと治療戦略 １）がんの骨転移による脊髄圧迫症候群	講義	放射線腫瘍医学 教授

	7 3限目 代表的な悪性腫瘍と治療（1） 1）肺がんの疫学、病態、診断プロセス、集学的治療 オンコロジック・エマージェンシーの病態、診断プロセスと治療戦略 2）心タンポナーデ 3）上大静脈症候群	講義	呼吸器内科学 講師 本津茂人
	8 5限目 代表的な悪性腫瘍と治療（2） 1）胃がんの疫学、病態、診断プロセス、集学的治療 2）大腸がんの疫学、病態、診断プロセス、集学的治療	講義	中央内視鏡部 病院教授 小山文一
	9 5限目 代表的な悪性腫瘍と治療（3） 1）肝臓がんの疫学、病態、診断プロセス、標準治療 2）転移性肝臓がんの疫学、病態、診断プロセス、治療戦略 オンコロジック・エマージェンシーの病態、診断プロセスと治療戦略 4）肺血栓塞栓症	講義	消化器・ 総合外科学 助教 北東大督
	10 5限目 代表的な悪性腫瘍と治療（4） 1）乳がんの疫学、病態、診断プロセス、集学的治療 2）遺伝性乳がん卵巣がん症候群の疫学、病態、診断プロセス、治療戦略	講義	消化器・ 総合外科学 乳腺センター 准教授 池田直也
	11 4限目 代表的な悪性腫瘍と治療（5）-1 1）白血病の疫学、病態、診断プロセス、治療戦略 2）造血幹細胞移植、GVHD への対応 3）悪性リンパ腫の疫学、病態、診断プロセス、治療戦略 オンコロジック・エマージェンシーの病態、診断プロセスと治療戦略 5）腫瘍崩壊症候群 6）敗血症	講義	血液内科学
	12 4限目 代表的な悪性腫瘍と治療（5）-2 1）白血病の疫学、病態、診断プロセス、治療戦略 2）造血幹細胞移植、GVHD への対応 3）悪性リンパ腫の疫学、病態、診断プロセス、治療戦略 オンコロジック・エマージェンシーの病態、診断プロセスと治療戦略 5）腫瘍崩壊症候群 6）敗血症	講義	血液内科学
	13 5限目 代表的な悪性腫瘍と治療（6） 1）前立腺がんの疫学、病態、診断プロセス、集学的治療 2）ホルモン治療による有害事象の病態およびマネジメント	講義	前立腺癌小線源治療講座 寄付講座教授 田中宣道
	14 5限目 がん・がん治療に伴う症状の臨床判断および専門的介入（1） 身体的症状に対する緩和医療 1）がん性疼痛 がん性疼痛の薬物療法における診療ガイドラインに沿った臨床判断プロセスと治療戦略、その効果判定 2）がん・がん治療に伴う身体的症状（呼吸困難、倦怠感など） 診療ガイドラインに沿った臨床判断プロセスと治療戦略、その効果判定	講義	緩和ケアセンター センター長/ 病院教授 四宮敏章
	15 4限目 がん・がん治療に伴う症状の臨床判断および専門的介入（2） サイコオンコロジー・アプローチ 1）サイコオンコロジーの概念 2）がんによってもたらされる患者や家族の一般的な反応 3）不安・適応障害・抑うつのアセスメントと治療的介入 4）せん妄のアセスメントと治療的介入	講義	国立研究開発法人 国立がん研究センター/先端医療開発センター 精神腫瘍学開発分野 分野長 小川朝生
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業内容は、がんの専門医師からの高度な臨床判断と医学的専門知識をオムニバス形式で学びます。 事前学修：授業内容の項目に沿って既存の知識を整理して、不足する場合は予習をして授業に参加しましょう。 事後学修：学びを深めて自分の看護アセスメント・実践などに生かせるように、学修内容を各授業終了後に振り返りながらレポートしていきましょう。		
テキスト	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		

参考書	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。
学生へのメッセージ等	がん病態治療学は、１年前期の「病態生理学」と関連させて本授業の知識を深め、かつ、がんの専門医師からの高度な臨床判断と医学的専門知識をオムニバス形式で学びます。学びを深めて自分の看護アセスメント・実践などに生かせるように、学修内容を各授業終了後に振り返りながらレポートしていきましょう。

講義科目名称： がん看護学特論　　授業コード：N201040

英文科目名称： Cancer Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章
概要	がん看護の基盤となる概念・理論について、その歴史的背景、定義、構成要素などを文献より読み解くことで理解を深める。さらに、看護実践の場面を想起して、学んだ概念や理論を用いて対象を分析し解釈することで看護実践への適用について探求する。
目標	１）がん看護の基盤となる概念・理論を理解する。 ２）学んだ概念や理論、研究結果のがん看護実践への適用について考究する。
評価方法	担当した授業の作成資料内容（40点：論理性・一貫性・適切性）、担当した授業のプレゼンテーション内容および方法（20点：論理性・一貫性・適切性）、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容（20点：論理性・一貫性・適切性・積極性）、最終課題レポート（20点：論理性・一貫性・適切性）により総合的に評価する。 最終課題レポートは、概念・理論を１つ選択して（授業の中で取り組んだものでも、以外のものでもよい）、テーマ「概論・理論を用いたがん看護実践への適応」としてまとめる。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1~2 授業展開のオリエンテーション がん患者を理解するための概念・理論(1) ストレス・コーピング ・ストレスの概念 ・コーピングプロセス ・ラザルスのストレス・コーピングモデル ・看護実践・研究への活用	講義・演習	升田茂章
3 がん患者を理解するための概念・理論(2) 喪失と悲嘆の概念 ・喪失の定義・種類 ・悲嘆の定義・関連する要因 ・正常な悲嘆と複雑性悲嘆 ・予期的悲嘆 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
4~5 がん患者を理解するための概念・理論の理解(3) 危機と危機介入に関する理論 ・アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル ・フィンクの危機理論 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
6 がん患者を理解するための概念・理論(4) 自己概念 ・自己概念とは ・ボディイメージの定義・影響する要因 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
7 がん患者を理解するための概念・理論(5) ミッシェルの不確かさに関する概念 ・不確かさの定義・種類 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
8 がん患者を理解するための概念・理論(6) レジリエンス ・レジリエンスの定義・ 構成要素、レジリエンスモデル ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
9~10 がん患者を理解するための概念・理論(7) オレムのセルフケア不足理論 ・セルフケアの概念 ・セルフケア不足理論 ・看護システム理論 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
11 がん患者を理解するための概念・理論(8) 自己効力理論 ・自己効力の概念	演習	升田茂章

	・自己効力を高める情報源 ・看護実践・研究への活用		
	12 がん患者を理解するための概念・理論(9) ソーシャル・サポート ・ソーシャル・サポートの概念・機能 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
	13 がん患者を理解するための概念・理論(10) エンパワメント ・エンパワメントの概念 ・エンパワメント・アプローチ ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
	14 がん患者を理解するための概念・理論(11) がんサバイバーシップ ・がんサバイバーの概念 ・がんサバイバーの抱える課題 ・がんサバイバーシップの支援 ・看護実践・研究への活用	演習	升田茂章
	15 がん患者を理解するための概念・理論(12) がん予防に関する理論 ・保健信念モデル ・変化ステージモデル ・乳がん・子宮がんなどの啓発教育に関する研究 ・看護実践（がん教育を含む）・研究への活用	演習	升田茂章
授業外学修（事前学修・事後学修）	担当した授業内容に対する事前学修として、学修内容を参考に、それぞれの課題に対して文献をもとに資料を作成し、発表・討議に臨んでください。また、授業に参加する際は、事前に配布された資料、学習課題に関する文献・レポートなどの課題を行い授業に参加してください。 授業終了後は学修内容を復習することで学びを深めることを期待します 。		
テキスト	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
参考書	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
学生へのメッセージ等	講義ならびに文献学習、発表・討議をとおして、履修している学生の臨床経験を振り返りながら、がん看護領域の研究や実践、教育に必要な概念や理論を理解する力や応用する力を習得していきます。そのため、文献学習や発表・討議は、学生の主体性を重視して進めます 。		

講義科目名称： がん看護学援助特論Ⅰ　　授業コード：N201070

英文科目名称： Advanced Cancer Nursing Assistant Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章／梅岡　京子
概要	この授業では、がん看護学特論での学びを基盤として、さらにがんの臨床経過および療養の場における複雑ながん患者と家族の特徴を理解し、がん患者および家族への効果的かつ包括的な看護介入について探求していきます。
目標	１）診断期、治療期、再発・進行期、ターミナル期におけるがん患者の抱えるTotal painおよび包括的アセスメントを理解する。 ２）がん治療（手術療法・放射線療法）を受ける患者の特徴とアセスメント、看護を理解する。 ３）がん患者の家族の特徴とアセスメント、支援について理解する。 ４）症状マネジメントの概念の理解と効果的・包括的な援助方法について理解する。 ５）看護介入モデルの概念の理解と効果的・包括的な援助方法について探究する。 ６）がん患者への療養支援における看護実践について探究する。
評価方法	担当した授業の作成資料内容（40点：論理性・一貫性・適切性）、担当した授業のプレゼンテーション内容および方法（20点：論理性・一貫性・適切性）、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容（20点：論理性・一貫性・適切性・積極性）、最終課題レポート（20点：論理性・一貫性・適切性）により総合的に評価する。 最終課題レポートは、授業での学びを通してテーマ「がん患者と家族の特徴および効果的かつ包括的な看護介入」としてまとめる。

授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~2 授業展開のオリエンテーション　臨床経過におけるがん患者の抱えるTotal painと包括的アセスメント １．Total painの概念 ２．診断期にあるがん患者の抱えるTotal painおよび包括的アセスメント ３．治療にあるがん患者の抱えるTotal painおよび包括的アセスメント ４．再発・進行期にあるがん患者の抱えるTotal painおよび包括的アセスメント ５．ターミナル期のがん患者の抱えるTotal painおよび包括的アセスメント	講義・演習	升田茂章
	3~4 がん患者の家族の特徴とアセスメント、支援 １．がん患者の家族の特徴、おかれている状況と看護問題 ２．がん患者の家族のアセスメント ３．家族に対する支援	演習	升田茂章
	5~6 がん治療を受ける患者の特徴とアセスメント、看護（1） 最新のがん手術療法と看護 １．手術療法を受けるがん患者の特徴、おかれている状況と看護問題 ２．術前のアセスメント、看護目標・実践および評価 ３．術後のアセスメント、看護目標・実践および評価	演習	升田茂章
	7~8 がん治療を受ける患者の特徴とアセスメント、看護（2） 最新のがん放射線療法と看護 １．放射線療法を受けるがん患者の特徴、おかれている状況と看護問題 ２．治療前・中・後のアセスメント ３．放射線療法を受けるがん患者の看護目標 ４．有害事象へのセルフケア教育および看護実践の評価	演習	梅岡京子
	9 がん患者の 症状マネジメント １．症状マネジメント（Symptom Management ）の概念 ２．がん患者の抱える症状に対する IASM an integrated approach to symptom management を用いた 効果的・包括的な援助方法	講義	升田茂章
	10 がん看護における看護介入モデル １．Intervention Modelの概念 ２．Intervention Modelを用いた分析	演習	升田茂章

	３.がん患者を対象とした看護介入研究を1つ選択し、 Intervention Modelを用いて分析・吟味する。		
	11~12 がん患者への療養支援（1）　がん患者への教育アプローチ １．患者教育の概念 ２．大人の学習理論（andragogy） ３．がん患者への教育的アプローチ	演習	升田茂章
	13 がん患者への療養支援（2）　がん看護領域における倫理的課題への看護 １．がん看護実践における倫理的課題 ２．がん患者が抱える倫理的課題への看護 ３．倫理的課題 に対する 医療者への教育的アプローチ	演習	梅岡京子
	14~15 がん患者への療養支援(3))がん患者の意思決定への支援 １．意思決定の概念 ２．Advance Care Planning（ACP） ３．がん患者の意思決定への支援	演習	升田茂章
授業外学修（事前学修・事後学修）	担当した授業内容に対する事前学修として、学修内容を参考に、それぞれの課題に対して文献をもとに資料を作成し、発表・討議に臨んでください。また、授業に参加する際は、事前に配布された資料、学習課題に関する文献・レポートなどの課題を行い授業に参加してください。 授業終了後は学修内容の復習をすることで学びを深めることを期待します。		
テキスト	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
参考書	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
学生へのメッセージ等	学生の臨床経験をいかし、かつ、がんの臨床経過および療養の場における複雑ながん患者と家族の特徴を理解する力や効果的かつ包括的な看護介入の応用する力を身につけるため、文献学習や発表・討議は、学生の主体性を重視して進めます。 担当した授業内容に対する事前学修として、学修内容を参考に、それぞれの課題に対して文献をもとに資料を作成し、発表・討議に臨んでください。また、授業に参加する際は、事前に配布された資料、学習課題に関する文献・レポートなどの課題を行い授業に参加してください。 授業終了後は学修内容の復習をすることで学びを深めることを期待します。		

講義科目名称： がん看護学援助特論Ⅱ　　授業コード：N201080

英文科目名称： Advanced Cancer Nursing Assistant Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章／中村　由美
概要	この授業では、がん病態治療学での学びを基盤として、代表的ながん種を看護の視点でとらえなおすことで、がん種による患者の特徴、患者の抱える看護上の課題などについての理解を深めます。さらに、がん看護学援助論Ⅰでの学び、がん薬物療法看護に関する文献を用いて、がん薬物療法看護、がん薬物療法に伴う有害事象に対する看護、がん薬物療法中のセルケア能力を高める方略について探究していきます。
目標	１)がん薬物療法を受けるがん患者の状況、アセスメントおよび看護について理解する。 ２）代表的ながん種（肺がん、大腸がん、乳がん、急性白血病、前立腺がん）によるがん薬物療法を受ける患者への看護について理解する。 ３）がん薬物療法に伴う主な有害事象を抱える患者に対する臨床判断 、予防、 早期発見・早期対処に関する看護について理解する。
評価方法	担当した授業の作成資料内容（40点：論理性・一貫性・適切性） 、担当した授業のプレゼンテーション内容および方法（20点：論理性・一貫性・適切性）、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容（20点：論理性・一貫性・適切性・積極性）、最終課題レポート（20点：論理性・一貫性・適切性）により総合的に評価する。 最終課題レポートは、テーマ「がん薬物療法看護におけるがん看護専門看護師の役割」としてまとめる。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1~2 授業展開のオリエンテーション がん薬物療法を受ける患者の看護概論（1） がん薬物療法を受ける患者への看護 １．がん薬物療法を受ける患者の特徴、おかれている状況と看護問題 ２．治療前・中・後のアセスメント ３．がん薬物療法を受ける患者の看護目標 ４．有害事象へのセルフケア教育および看護実践の評価	講義・演習	升田茂章
3 がん薬物療法を受ける患者の看護概論（2） 抗 がん剤の薬物管理 １．抗がん剤（殺細胞性抗がん剤、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤、遺伝子治療薬、ホルモン治療薬） の特徴 ２．抗がん剤の曝露 および対策 ３．安全な 抗がん剤の取り扱い および患者への教育	演習	升田茂章
4 代表的ながんのがん薬物療法における看護（1） がん薬物療法を受ける肺がん患者への看護 １．がん薬物療法を受ける肺がん患者の特徴、おかれている状況と看護問題 ２．がん薬物療法を受ける肺がん患者のアセスメント ３．がん薬物療法を受ける肺がん患者の看護目標、看護および評価	演習	升田茂章
5 代表的ながんのがん薬物療法における看護（2） がん薬物療法を受ける大腸がん患者への看護 １．がん薬物療法を受ける大腸がん患者の特徴、おかれている状況と看護問 題 ２．がん薬物療法を受ける大腸がん患者のアセスメント ３．がん薬物療法を受ける乳がん患者の看護目標、看護および評価	演習	升田茂章
6 代表的ながんのがん薬物療法における看護（3） がん薬物療法を受ける乳がん患者への看護 １．がん薬物療法を受ける乳がん患者の特徴、おかれている状況と看護問題 ２．がん薬物療法を受ける乳がん患者のアセスメント ３．がん薬物療法を受ける乳がん患者の看護目標、看護および評価	演習	升田茂章
7 代表的ながんのがん薬物療法における看護（4） 急性白血病患者の治療と看護 １．急性白血病患者の特徴、おかれている状況と看護問題	演習	升田茂章

	２．造血幹細胞移植を受ける急性白血病患者のアセスメント ３．造血幹細胞移植を受ける急性白血病患者の看護目標、看護および評価		
	8 代表的ながんのがん薬物療法における看護（5）がん薬物療法を受ける前立腺がん患者への看護 １．がん薬物療法を受ける前立腺がん患者の特徴、おかれている状況と看護問題 ２．がん薬物療法を受ける前立腺がん患者のアセスメント ３．がん薬物療法を受ける前立腺がん患者の看護目標、看護および評価	演習	升田茂章
	9~10 がん薬物療法に伴う有害事象への看護（1）消化器症状（悪心・嘔吐、下痢、便秘など）を抱える患者への看護 １．がん薬物療法に伴う消化器症状（悪心・嘔吐、下痢、便秘など）の発生機序 ２．消化器症状を抱える患者のTotal pain ３．消化器症状に関するアセスメントおよび薬剤使用の臨床判断 ４．消化器症状の予防、緩和のための看護および評価	講義・演習	中村由美
	11~12 がん薬物療法に伴う有害事象への看護（2）骨髄抑制（易感染、出血傾向、貧血）を抱える患者への看護 １．がん薬物療法に伴う骨髄抑制（易感染、出血傾向、貧血）の発生機序 ２．易感染状態にある患者のアセスメントと援助 １）感染リスクを抱える患者のTotal pain ２）感染リスクに関するアセスメントおよび薬剤使用の臨床判断 ３）感染リスクの予防、緩和のための看護および評価 ３．出血傾向にある患者のアセスメントと援助 １）出血リスクを抱える患者のTotal pain ２）出血リスクに関するアセスメントおよび薬剤使用の臨床判断 ３）出血リスクの予防、緩和のための看護および評価 ４．貧血状態にある患者のアセスメントと援助 １）貧血を抱える患者のTotal pain ２）貧血に関するアセスメントおよび薬剤使用の臨床判断 ３）貧血の予防、緩和のための看護および評価	講義・演習	中村由美
	13 がん薬物療法に伴う有害事象への看護（3）末梢神経障害を抱える患者への看護 １．がん薬物療法に伴う末梢神経障害の発生機序 ２．末梢神経障害を抱える患者のTotal pain ３．末梢神経障害に関するアセスメントおよび薬剤使用の臨床判断 ４．末梢神経障害の予防、緩和のための看護および評価	講義	升田茂章
	14 がん薬物療法に伴う有害事象への看護（4）皮膚障害を抱える患者への看護 １．がん薬物療法に伴う皮膚障害の発生機序 ２．皮膚障害を抱える患者のTotal pain ３．皮膚障害に関するアセスメントおよび薬剤使用の臨床判断 ４．末梢神経障害の予防、緩和のための看護および評価	講義	升田茂章
	15 がん薬物療法に伴う有害事象への看護（5）性機能障害を抱える患者への看護 １．がん薬物療法に伴う性機能障害の発生機序 ２．セクシュアリティを含む性機能障害を抱える患者のTotal pain ３．セクシュアリティを含む性機能障害に関するアセスメント ４．性機能障害・セクシュアリティに対する 看護および 評価	講義・演習	升田茂章
授業外学修（事前学修・事後学修）	担当した授業内容に対する事前学修として、学修内容を参考に、それぞれの課題に対して文献をもとに資料を作成し、発表・討議に臨んでください。また、授業に参加する際は、事前に配布された資料、学習課題に関する文献・レポートなどの課題を行い授業に参加してください。 授業終了後は学修内容の復習をすることで学びを深めることを期待します。		
テキスト	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
参考書	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
学生へのメッセージ等	がん薬物療法看護について専門的知識および効果的かつ包括的な看護介入の応用する力を身につけるため、文献学習や発表・討議は、学生の主体性を重視して進めます。 担当した授業内容に対する事前学修として、学修内容を参考に、それぞれの課題に対して文献をもとに資料を作成し、発表・討議に臨んでください。また、授業に参加する際は、事前に配布された資料、学習課題に関する文献・レポートなどの課題を行い授業に参加してください。 授業終了後は学修内容の復習をすることで学びを深めることを期待します。		

講義科目名称： がん看護学援助特論Ⅲ　　授業コード：N201090

英文科目名称： Advanced Cancer Nursing Assistant Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章／梅岡　京子
概要	この授業では、がん看護学特論およびがん看護学援助特論Ⅰの学び、緩和ケアに関する文献などを用いることで、がん患者が抱える身体的・心理社会的・spiritualなpainについて理解を深めます。さらに、がん患者および家族の苦悩への包括的な看護介入およびEnd-of-Life Careについて、臨床的な視点から看護の役割や実践について探求していきます。包括的な看護介入およびEnd-of-Life Careについて、臨床的な視点で看護について探求していきます。
目標	１）がん患者および家族への緩和ケアについて理解する。 ２）がん患者に対する補完替補完療法について理解する。 ３）がん患者に生じやすい身体的苦痛症状の定義・頻度・原因・発生機序、アセスメントおよび看護について理解する。 ４）がん患者が抱える心理社会的苦痛・spiritual painのアセスメントおよび看護について理解する。 ５）がん患者のEnd-of-Life Careおよび家族のGrief Careについて理解する。
評価方法	担当した授業の作成資料内容（40点：論理性・一貫性・適切性）、担当した授業のプレゼンテーション内容および方法（20点：論理性・一貫性・適切性）、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容（20点：論理性・一貫性・適切性・積極性）、最終課題レポート（20点：論理性・一貫性・適切性）により総合的に評価する。 最終課題レポートは、テーマ「緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割」としてまとめる。

授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~2 授業展開のオリエンテーション　がん患者および家族への緩和ケア １．緩和ケアの概念と歴史的変遷 ２．Total painと緩和ケア ３．チームアプローチ ４．がんサバイバーに対する支援 がん患者サポートプログラム（I Can Cope Program） がんサロンなど ５．緩和ケアに関する医療者への教育の概要 End-of-Life Nursing Education Consortium Japan ; ELNEC-J Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education ; PEACE	講義・演習	升田茂章
	3 がん患者に対する補完代替療法 １．補完代替療法の定義、種類、目的 ２．がん患者に適用できる補完代替療法 ３．がん患者へ補完代替療法を利用する際の留意点、方法および評価	演習	升田茂章
	4~5 がん患者の抱える身体的苦痛症状のアセスメントおよび看護（1） １．がん性疼痛の定義、頻度、原因、発生機序 ２．がん性疼痛が患者に与える影響 ３．がん性疼痛を抱える患者のアセスメント 初期アセスメント、継続アセスメント ４．がん性疼痛に対する治療および薬剤使用の臨床判断 ５．がん性疼痛を抱える患者への看護および評価	演習	梅岡京子
	6 がん患者の抱える身体的苦痛症状のアセスメントおよび看護（2） １．呼吸困難の定義、頻度、原因、発生機序 ２．呼吸困難が患者に与える影響 ３．呼吸困難を抱える患者のアセスメント ４．呼吸困難に対する治療および薬剤使用の臨床判断 ５．呼吸困難を抱える患者への看護および評価	演習	梅岡京子
	7 がん患者の抱える身体的苦痛症状のアセスメントおよび看護（3） １．倦怠感の定義、頻度、原因、発生機序 ２．倦怠感が患者に与える影響 ３．倦怠感を抱える患者のアセスメント	演習	升田茂章

	４．倦怠感に対する治療および薬剤使用の臨床判断 ５．倦怠感を抱える患者への看護および評価		
	8 がん患者の抱える身体的苦痛症状のアセスメントおよび看護（4） １．せん妄の定義、頻度、原因、発生機序 ２．せん妄が患者に与える影響 ３．せん妄患者のアセスメント ４．せん妄に対する治療および薬剤使用の臨床判断 ５．せん妄ハイリスク患者への予防ケア ６．せん妄患者への看護および評価	演習	升田茂章
	9~10 がん患者に特有な心理社会的苦痛のアセスメントおよび看護 １．不安・抑うつ・適応障害の定義、頻度、原因、発生機序 ２．不安・抑うつ・適応障害が患者に与える影響 ３．不安・抑うつ・適応障害を抱える患者のアセスメント ４．不安・抑うつ・適応障害に対する治療および薬剤使用の臨床判断 ５．不安・抑うつ・適応障害を抱える患者への看護および評価	演習	升田茂章
	11 がん患者の抱えるspiritual painとspiritual care １．がん患者の抱えるspiritual pain ２．spiritual painを抱える患者のアセスメント ３．spiritual careとその評価	演習	升田茂章
	12 苦痛緩和のための鎮静に関する看護 １．苦痛緩和のための鎮静のガイドライン作成の経緯と目的 ２．ガイドラインの適応の注意 ３．鎮静の定義と分類 ４．鎮静の倫理的妥当性 ５．鎮静の医学的適応および治療の実際および看護	演習	升田茂章
	13 End-of-Life Care １．End-of-Life Careの概念 ２．日本における死を取り巻く状況とEnd-of-Life Careにおける課題 ３．老いの過程にある高齢がん患者のEnd-of-Life Care ４．死への準備教育	演習	升田茂章
	14~15 終末期がん患者の家族への看護 １．終末期がん患者の家族の特徴および家族が抱える苦悩 ２．終末期がん患者の家族へのGrief Care ３．臨死期にあるがん患者の看取り ４．遺族ケア	演習	升田茂章
授業外学修（事前学修・事後学修）	担当した授業内容に対する事前学修として、学修内容を参考に、それぞれの課題に対して文献をもとに資料を作成し、発表・討議に臨んでください。また、授業に参加する際は、事前に配布された資料、学習課題に関する文献・レポートなどの課題を行い授業に参加してください。 授業終了後は学修内容の復習をすることで学びを深めることを期待します。		
テキスト	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
参考書	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
学生へのメッセージ等	がん患者およびその家族への緩和ケアについての専門的知識および効果的かつ包括的な看護介入の応用する力を身につけるため、文献学習や発表・討議は、学生の主体性を重視して進めます。 担当した授業内容に対する事前学修として、学修内容を参考に、それぞれの課題に対して文献をもとに資料を作成し、発表・討議に臨んでください。また、授業に参加する際は、事前に配布された資料、学習課題に関する文献・レポートなどの課題を行い授業に参加してください。 授業終了後は学修内容の復習をすることで学びを深めることを期待します。		

講義科目名称： がん看護学演習Ⅰ　　授業コード：N201100

英文科目名称： Cancer Nursing SeminarⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章／中村　由美／梅岡　京子／中濱　絢／小木曽　照子
概要	この授業では、がん看護学特論で学んだ概念・理論を基盤として、またがん看護専門看護師による講義などを受けることで、がん薬物療法看護・緩和ケアを中心に、がん患者およびその家族の抱えるさまざまな臨床上の問題および看護について検討していきます。また、がん医療施設における演習においては、受け持ったがん患者およびその家族の状態・状況に対応した質の高い看護を探求していきます。
目標	１）がん看護領域における課題について研究を中心に理解する。 ２）医療・看護の場で、看護職を含むケア提供者が職務上出会う実践的な問題を自ら解決していけるように、看護におけるコンサルテーションの概念と理論、コンサルタントの役割、実践モデルを活用したCNSが行うコンサルテーションについて理解する。 ３）がん診断期において、喪失を体験している患者１名を受けもち、悲嘆および喪失に対する質の高い看護を考究する。 ４）がん薬物療法によりボディイメージが変容して苦悩している患者１名を受け持ち、ボディイメージの変容に対する質の高い看護について考究する。 ５）再発期もしくはターミナル期にTotal painを抱える患者１名を受け持ち、Total painに対する質の高い看護について考究する。
評価方法	がん医療施設での演習（7～12・13～18・21～30）への積極性・課題内容（60点：論理性・一貫性・適切性）、演習成果の資料内容・プレゼンテーション内容および方法（30点：論理性・一貫性・適切性）、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容（10点：論理性・一貫性・適切性・積極性）により総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1~2 授業展開のオリエンテーション　【がん薬物療法看護】【緩和ケア】 がん看護領域おける課題について がん看護領域における課題について研究を中心に理解する １．がん薬物療法を受ける患者の看護 ２．緩和ケアを受ける患者の看護	講義・演習	升田茂章
3~4 【がん薬物療法看護】【緩和ケア】 がん患者および家族が抱える課題とその対応（１） がん看護コンサルテーション １．看護におけるコンサルテーションの概念と理論 ２．コンサルタントの役割 ３．実践モデルを活用したCNSが行うがん看護コンサルテーション	講義	升田茂章
5~6 【がん薬物療法看護】【緩和ケア】 がん患者および家族が抱える課題とその対応（２） がん相談 １．がん対策基本法におけるがん診療連携拠点病院の役割、がん相談支援センターの位置づけと役割 ２．がん相談を受けるうえで必要な知識・スキル、がん相談支援のプロセス ３．がん看護専門看護師が行うがん相談の実際 ・発達段階・発達課題に応じた意思決定の支援の実際 ・がんの病期に応じた意思決定支援の実際　など	講義	小木曽照子
7~12 【がん薬物療法看護】 診断期・治療期の患者の看護（１） がん診断期において、喪失を体験している患者１名を受けもち、悲嘆および喪失に対する質の高い看護を考究する。 がん医療施設のがん患者の入院病棟・外来においての臨床演習 １．がんの診断期において、喪失を体験している患者１名を受け持ち、悲嘆および喪失を分析、看護計画を立案して、質の高い看護を提供する。 ２．実践した看護を評価して、悲嘆および喪失に対する質の高い看護について考究する。 ３．受け持ち患者の状況に応じて、危機回避もしくは危機の速やかな回復に向けて、概念・モデルを活用して、質の高い看護を提供する。	臨床演習	升田茂章 中村由美
13~18 【がん薬物療法看護】 診断期・治療期の患者の看護（２） がん薬物療法によりボディイメージが変容して苦悩している患者１名を受け持ち、ボディイメージの変容に対する質の高い看護について考究する。	臨床演習	升田茂章 梅岡京子

	がん医療施設のがん患者の入院病棟・外来においての臨床演習 １．がん薬物療法によりボディイメージが変容して苦悩している患者１名を受け持ち、ボディイメージの変容を分析、看護計画を立案して、質の高い看護を提供する。 ２．実践した看護を評価して、ボディイメージの変容に対する質の高い看護について考究する。		
	19~20 【緩和ケア】 再発期もしくはターミナル期にTotal Painを抱える患者およびその家族に対する緩和ケアチームのかかわり １．緩和ケアをサブスペシャリティとしているがん看護専門看護師の役割（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）および役割開発 ２．がん患者とその家族にかかわる他職種、専門看護師、認定看護師との協働の実際 ３．再発期もしくはターミナル期にTotal Painを抱える患者およびその家族へのがん看護コンサルテーションの実際 ・療養の場の選択と退院支援の実際 ・退院調整と社会資源の活用の実際 ・地域包括ケアにおけるがん看護専門看護師の役割および看護など	講義	中濱絢
	21~30 【緩和ケア】 再発期もしくはターミナル期の患者への看護 再発期もしくはターミナル期にTotal painを抱える患者１名を受け持ち、Total painに対する質の高い看護について考究する。 がん医療施設のがん患者の入院病棟・外来においての臨床演習 １．再発期もしくはターミナル期にTotal painを抱える患者１名を受け持ち、Total painを分析、看護計画を立案して、質の高い看護を提供する。 ２．実践した看護を評価して、Total painに対する質の高い看護について考究する。	臨床演習	升田茂章 梅岡京子
授業外学修（事前学修・事後学修）	臨床演習は、学生の主体性・創造性を重視して進めていきます。 授業への取組みとして、学修内容を参考に学びが深まるよう、主体的な姿勢で受講してくれることを期待します。		
テキスト	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
参考書	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
学生へのメッセージ等	がん看護学特論で学んだ概念・理論を基盤として、がん薬物療法看護・緩和ケアを中心に、がん患者およびその家族の抱えるさまざまな臨床上の問題および看護について検討し、がん医療施設における臨床演習ではがん患者およびその家族の状態・状況に対応した質の高い看護を提供して学びを深めます。臨床演習は、学生の主体性・創造性を重視して進めていきます。授業への取組みとして、学修内容を参考に学びが深まるよう、主体的な姿勢で受講してくれることを期待します。		

講義科目名称： がん看護学演習Ⅱ　　授業コード：N201110

英文科目名称： Cancer Nursing Seminar Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章／中濱　絢／中村　由美／宮城　恵／菊谷　光代／四宮　敏章／藤野　崇
概要	この授業では、がん看護学援助特論Ⅰ・がん看護学援助特論Ⅱ・がん看護学援助特論Ⅲでの学びを基盤として、またがん看護専門看護師による講義などを受けることで、がん薬物療法看護・緩和ケアを受けるがん患者およびその家族が抱える課題に対する効果的な看護介入技法の基礎知識を学びます。また、がん医療施設における演習においては、受け持ったがん患者およびその家族の状態・状況に対応した高度な看護技術を習得するとともに、がん看護専門看護師の役割と展望について探求していきます。
目標	１）がん看護専門看護師の役割および機能を理解し、自己の課題を見出すことができる。 ２）がんの臨床試験を受ける患者を対象とした文献を用いて、患者の特徴、看護上の課題、看護の基礎知識を基盤として、CNSとしての役割を考究する。 ３） AYA（Adolescent and Young Adult）世代の患者、遺伝カウンセリングを受ける患者およびその家族が抱える課題とその看護を理解する。 ４）がん薬物療法を受ける患者のセルフケア教育の重要性を認識したうえで、患者教育を実践し評価できる。 ５）がん薬物療法を受ける患者が抱える課題と治療の継続を支える看護（就業・就労支援、グループアプローチ）を理解する。 ６） Total Pain を抱えるがん患者へのケア（家族ケア、ポジショニング、アロマテラピー、リラグゼーション、リンパ浮腫に対する複合的理学療法）を理解する。 ７） がんチーム医療の中でのがん看護専門看護師のかかわりの分析を通して、がんチーム医療の中でのがん看護専門看護師の独自の役割および調整の役割における今後の展望について洞察する。
評価方法	担当した授業（1・2・3・17・18・23）の作成資料内容・プレゼンテーション内容および方法（20点：論理性・一貫性・適切性）、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容（20点：論理性・一貫性・適切性・積極性）、がん医療施設での演習（9～14、25・26、27～30）への積極性・課題内容（40点：論理性・一貫性・適切性）、最終課題レポート（20点：論理性・一貫性・適切性）により総合的に評価する。 最終課題レポートは、テーマ「がん看護専門看護師の役割および機能、自己の課題」としてまとめる。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1~2 授業展開のオリエンテーション　【がん薬物療法看護】【緩和ケア】 がん看護専門看護師の役割および機能、展望 １．専門看護師制度の歴史的変遷 ２．専門看護師制度の目的 ３．がん看護専門看護師の役割（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）および機能 ４．がん看護専門看護師教育の変遷および展望 ５．がんチーム医療におけるがん看護専門看護師の役割および機能	講義・演習	升田茂章
3 【がん薬物療法看護】【緩和ケア】 がんの臨床試験を受ける患者への看護 がんの臨床試験を受ける患者を対象とした文献を用いて、患者の特徴、看護上の課題、看護の基礎知識を基盤として、CNSとしての役割を考究する。 １． がんの臨床試験を受ける患者の特徴、看護上の課題 ２． 治験ナースの役割および実践内容 ３． がんの臨床試験を受ける患者に対する看護 ４． がんの臨床試験を受ける患者にかかわる医療者間連携について	演習	升田茂章
4~5 【がん薬物療法看護】【緩和ケア】 がん患者および家族が抱える課題とその対応（１） AYA（Adolescent and Young Adult）世代の患者に対する看護 １．AYA世代の患者が抱える課題および看護 ２．妊孕性の温存に関するAYA世代の患者への意思決定支援の実際 ３．妊孕性の温存を希望するAYA世代の患者への生殖へのサポートの実際	講義	中濱絢
6 【がん薬物療法看護】【緩和ケア】 がん患者および家族が抱える課題とその対応（２） 遺伝カウンセリングを受ける患者および家族への看護の役割と実際 １．がん医療におけるゲノム医療の位置づけ ２．遺伝性乳がん・卵巣がん症候群（Hereditary Breast and Ovarian Cancer Syndrome:HBOC）の遺伝カウンセリングにおける看護の役割と実	講義	宮城恵

	際		
	7~8 【がん薬物療法看護】がん薬物療法を受ける患者のセルフケア能力向上のための患者教育（1） 1．がん薬物療法における患者教育の重要性 2．学習ニーズのアセスメント 3．学習計画の立案・実施・評価	講義	升田茂章
	9~14 【がん薬物療法看護】がん薬物療法を受ける患者のセルフケア能力向上のための患者教育（2） 【がん医療施設での演習：外来化学療法センター】 がん薬物療法を受ける患者を1名受け持ち、以下の課題に取り組む。 1．学習ニーズをアセスメントする。 2．学習ニーズに基づき、学習計画を立案する。 ・一般目標、行動目標の設定 ・学習内容の立案 ・教材の選択 3．学習計画に基づいて患者教育を行う。 4．患者教育のプロセスを評価する。 5．実施した患者教育プロセスについての分析・評価をレポートにまとめる。	臨床演習	中村由美 升田茂章
	15~16 【がん薬物療法看護】がん薬物療法を受ける患者が抱える課題と治療の継続を支える看護　（1）　がん薬物療法を受ける患者への就業・就労支援 1．働く世代のがん患者の抱える問題と施策 2．がん薬物療法を受ける患者への就業・就労支援	講義	升田茂章
	17~18 【がん薬物療法看護】がん薬物療法を受ける患者が抱える課題と治療の継続を支える看護　（2）がん薬物療法の継続を支えるグループアプローチ 1．治療の継続を支えるグループ介入の種類と特徴 2．サポートグループおよびセルフヘルプグループの概念、介入の具体的な技法、介入の実際、有用性	演習	升田茂章
	19~20 【緩和ケア】Total Painを抱えるがん患者へのケア（1） 1．　がんチーム医療における家族支援専門看護師の専門性を活かした家族への看護の実際 2．　がん看護専門看護師との協働の実際	講義	藤野崇
	21~22 【緩和ケア】Total Painを抱えるがん患者へのケア（2） 1．ポジショニングの原理と適応 2．具体的なポジショニング方法 3．ポジショニング法の演習	講義・演習	升田茂章
	23 【緩和ケア】Total Painを抱えるがん患者へのケア（3） 1．　アロマテラピー原理 2．　アロマテラピーの禁忌 3．　アロマテラピーの看護への適応 Total Painを抱えるがん患者へのケア（4） 1．　リラクゼーションの原理 2．　リラクゼーションの看護への適応	演習	升田茂章
	24~26 【緩和ケア】Total Painを抱えるがん患者へのケア（5） リンパ浮腫をもつ患者へのケア① 1.リンパ浮腫の発生機序、診断・検査、臨床分類 2．リンパ浮腫の治療法 3．複合的理学療法 リンパ浮腫を持つ患者へのケア② 複合的理学療法の実際 【がん医療施設での臨床演習：リンパ浮腫外来 2コマ】 1．スキンケア 2．リンパドレナージ 3．圧迫療法 4．圧迫下上での運動療法	講義・臨床演習	菊谷光代
	27~30 【緩和ケア】がんチーム医療の中でのがん看護専門看護師の独自の役割および調整の役割 【がん医療施設での臨床演習：がんサロン・緩和ケア外来・緩和ケアチーム】 1．　がんサロン・緩和ケア外来・緩和ケアチームにおいて、がんサバイバーとがん看護専門看護師のやりとりを見学し、ケアの意図および効果を分析する。 2．　がんサロン・緩和ケア外来・緩和ケアチームなどのがん	臨床演習	中濱絢 升田茂章 四宮敏章

	チーム医療の中でのがん看護専門看護師 と他職種とのやりとりを見学し、チーム医療の中でのがん看護専門看護師の調整の役割を分析する。 ３． チームの中でのがん看護専門看護師のかかわりの分析を通して、がんチーム医療の中でのがん看護専門看護師の独自の役割および調整の役割における今後の展望について洞察する。		
授業外学修（事前学修・事後学修）	臨床演習は、学生の主体性・創造性を重視して進めていきます。授業への取組みとして、学修内容を参考に学びが深まるよう、主体的な姿勢で受講してくれることを期待します。		
テキスト	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
参考書	講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。		
学生へのメッセージ等	がんチーム医療のさまざまな場面において専門性を活かしてがん看護を提供している看護職からの講義、臨床演習があり、実践能力を深めます。主体的な姿勢で受講してくれることを期待します。		

講義科目名称： がん看護学実習Ⅰ　　授業コード：N201130

英文科目名称： Clinical Practice in Cancer Nursing Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章
概要	この授業では、がんの専門医によるがんの診断プロセス、がんの治療を受ける患者の臨床検査・治療・身体症状管理・評価における臨床判断を学び、そのプロセスに必要な知識・技術を習得し、看護への適用について考究していく。
目標	１）がんの診断、がん薬物療法を受ける患者の臨床検査・治療・身体症状の管理・評価における身体管理の知識・技術および臨床判断を理解し、指導のもと患者の身体管理の技術を実践する。 ２）がん放射線療法を受ける患者の臨床検査・がん放射線療法の適応・身体症状の管理・評価における身体管理の知識・技術および臨床判断を理解し、指導のもと患者の身体管理の技術を実践する。 ３）複雑な問題を抱えるがん患者に対して、学んだ臨床判断および身体管理の方法をもとに、看護師の視点での包括的アセスメント、看護実践への適用について考究する。
評価方法	実習目標に基づいて、自己評価および他者評価（40％：積極性・適切性）を行う。また、カンファレンスの内容（30％：積極性・適切性）、ケースレポートの内容（30％：論理性・一貫性・適切性）を総合して評価する。
授業計画	外来および病棟において、がんの診断や苦痛症状の診断プロセス、治療計画、身体管理および治療評価における臨床判断について、実習指導者（医師、がん看護専門看護師）の指導のもと、以下の体験学習をする。 １．　がんの診断・治療戦略における臨床判断、がん薬物療法を受ける患者の身体管理および治療評価の臨床判断 １）がんの診断プロセス（病歴聴取、フィジカルアセスメント、画像診断、血液データの解釈、病理診断等）における臨床判断 ２）がんの集学的治療における治療戦略の臨床判断 ３）がん薬物療法中の患者の有害事象を含めた身体症状の管理および治療評価 　　プロセスにおける臨床判断 ＜実習方法＞ １）外来の診察場面に同席し、医師の指導のもと、患者の病歴聴取およびフィジカルアセスメントを実施する。 ２）医師の指導のもと、がんの存在診断（画像の読影、血液データの解釈）・確定診断（病理組織の解釈）・病期診断（画像の読影）の臨床判断プロセスを学ぶ。 ３）医師のカンファレンス、複数科・多職種で構成されているキャンサーボード に参加し、がんの確定診断プロセス、および集学的治療を踏まえた治療戦略の判断プロセスなどの臨床判断を学ぶ。 ４）外来の診察場面に同席し、医師の指導のもと、がん薬物療法を受ける患者の有害事象を含めた身体症状の管理および治療の評価プロセスにおける臨床判断を学ぶ。 実習場所：奈良県立医科大学附属病院 腫瘍センターおよび該当病棟 実習指導者：奈良県立医科大学附属病院 　　呼吸器内科学　講師　本津茂人 　　がん看護専門看護師　梅岡京子 　　がん看護専門看護師　中濱絢 　　がん看護専門看護師　中村由美 ２．がん放射線療法を受ける患者の身体管理および治療評価の臨床判断 １）がんの集学的治療における治療戦略の臨床判断 ２）がん放射線療法中の患者の有害事象を含めた身体症状の管理および治療評価プロセスにおける臨床判断 ＜実習方法＞ １）放射線治療科 外来の診察場面に同席し、医師の指導のもと、患者の病歴聴取およびフィジカルアセスメントを実施する。 ２）医師の指導のもと、治療計画（画像の読影）、マーキングなどの臨床判断プロセスを学ぶ。 ３）医師のカンファレンス、複数科・多職種で構成されているキャンサーボードに参加し、 集学的治療を踏まえた治療戦略の判断プロセスなどの臨床判断を学ぶ。 ４）放射線療法外来の診察場面に同席し、医師の指導のもと、がん放射線療法を受ける患者の有害事象を含めた身体症状の管理および治療の評価プロセスにおける臨床判断を学ぶ。 実習場所：奈良県立医科大学附属病院放射線治療科 実習指導者：奈良県立医科大学附属病院 　　放射線腫瘍医学 教授 　　がん看護専門看護師　梅岡京子 　　がん看護専門看護師　中濱絢

	がん看護専門看護師　中村由美 ３．実習の総括 １）病歴聴取およびフィジカルアセスメントを実践した事例については、結果をもとに臨床判断を行い、ケースレポートとしてまとめる。 ２）本実習のまとめとして、実習指導者および教員を交えた学生主体のカンファレンスを計画し、プレゼンテーションを行う。 ３）カンファレンスでの助言も含めて、複雑な問題を抱えるがん患者に対して、学んだ臨床判断および身体管理の方法をもとに、看護師の視点での包括的アセスメント、看護実践への適用について考究する。
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、「がん病態生理学」、その他学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。 事後学修として、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を考察してください 。
テキスト	実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。
参考書	実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。
学生へのメッセージ等	１年前期の「がん病態生理学」と関連させて本実習においては専門的知識・実践・評価を統合するために、主体的に取り組むことを期待します。実習前にあらかじめ、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。実習中は、主体的に実習場所の実習指導者やスタッフ、教員に相談をして、自己の実習目標が達成できるよう努力してください。 実習終了後は、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を明確にできることを期待します 。

講義科目名称： がん看護学実習Ⅱ　　授業コード：N201140

英文科目名称： Clinical Practice in Cancer Nursing Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章
概要	この授業では、都道府県がん診療連携拠点病院におけるがん看護専門看護師が果たす実践、教育、相談、調整、倫理的調整、研究の役割・機能について探求することを通して、自分のサブスペシャリティを見据えた今後の展望、役割開発をする能力について考究する。
目標	１）がん看護専門看護師の役割（実践、教育、相談、調整、倫理的調整、研究）・機能、役割開発について理解できる。 ２）都道府県がん診療連携拠点病院において活動しているがん看護専門看護師の役割（実践、教育、相談、調整、倫理的調整、研究）・機能、役割開発について理解できる。 ３）がん薬物療法看護・緩和ケアをサブスペシャリティにもつがん看護専門看護師の役割と機能、役割開発を考察することを通して、自分のサブスペシャリティを見据えた今後の展望、役割開発をする能力について洞察を深める。
評価方法	実習目標に基づいて、自己評価および他者評価（40％：積極性・適切性）を行う。また、カンファレンスの内容（30％：積極性・適切性）、ケースレポートの内容（30％：論理性・一貫性・適切性）を総合して評価する。
授業計画	１．がん看護専門看護師が果たす実践、教育、相談、調整、倫理的調整、研究の実際： がん看護専門看護師が行う実践、教育、相談、調整、倫理的調整、研究の役割の実際の場面に参加し、その判断過程を分析することを通して、がん看護専門看護師の役割・機能について学ぶ。 １）がん看護専門看護師が行う実践： 　病棟や外来において複雑な問題を抱えているがん患者・家族に対する、専門的知識を用いた包括的アセスメント・看護介入技術、評価などの問題解決思考過程について分析する。 ２）がん看護専門看護師が行う教育： 　看護実践場面でのがん看護専門看護師が行うロールモデルの見学、自施設のがん看護教育に関するがん看護専門看護師の教育計画のインタビューを行い、教育に関する役割・機能を分析する。 ３）がん看護専門看護師の行う相談： 　病棟や外来においてがん看護専門看護師が行っている相談場面に参加し、相談のタイプ、目標設定、予測される成果、用いる技術・戦略などのアセスメントについて分析する。 ４）がん看護専門看護師の行う調整： 　病棟や外来においてがん看護専門看護師が行っている調整場面に参加し、対応を必要とした問題、調整の方向性、予測される成果、用いる技術・戦略などのアセスメントについて分析する。 ５）がん看護専門看護師の行う倫理的調整： 　病棟や外来においてがん看護専門看護師が行っている倫理的調整場面に参加し、対応を必要とした問題、目標設定、予測される成果、用いる技術・戦略などのアセスメントについて分析する。 ６）がん看護専門看護師の行う研究： 　がん看護専門看護師が行っている研究役割、研究の看護実践への活用などのインタビューを行い、研究に関する役割・機能を分析する。 ２．がん看護専門看護師の役割開発 １）都道府県がん診療連携拠点病院における、がん看護専門看護師の組織における位置づけ、がん看護の質の向上のための方略、体制づくりなどをインタビューし、組織におけるがん看護専門看護師の役割開発とその方法について学ぶ。 ３．実習の総括 １）がん看護専門看護師の各々の役割について見学・インタビューした結果の分析は、各々の記録用紙にまとめる。 ２）本実習のまとめとして、実習指導者および教員を交えた学生主体のカンファレンスを計画し、プレゼンテーションを行う。 ３）カンファレンスでの助言も含め実習のまとめとして、「自分のサブスペシャリティを見据えた今後の展望、役割開発をする能力についての課題」についてのレポートを作成し、洞察する。 ＜実習方法＞ 実習期間：約２週間

	実習場所・実習指導者：奈良県立医科大学附属病院 がん看護専門看護師　梅岡京子 がん看護専門看護師　中濱絢 がん看護専門看護師　中村由美 具体的な実習時期・内容・方法については、 実習要項を参照する。
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題 ・実習目標を明確にしてください。 事後学修として、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で 自己の課題を考察してください。
テキスト	実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。
参考書	実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。
学生へのメッセージ等	実習前にあらかじめ、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。実習中は、主体的に実習場所の実習指導者やスタッフ、教員に相談をして、自己の実習目標が達成できるよう努力してください。 実習終了後は、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を明確にできることを期待します。

講義科目名称： がん看護学実習Ⅲ　　授業コード：N201150

英文科目名称： Clinical Practice in Cancer Nursing Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章
概要	この授業では、治療期・再発期にあり、複雑な問題を抱えがん薬物療法を受ける患者・家族を受け持ち、高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いて、専門看護師としての倫理観に基づいて、質の高いケアを提供する実践能力を養う。さらに、がん薬物療法看護領域における教育、相談、調整、倫理的調整が自立して行える能力を養う。
目標	１）治療期・再発期にあり、複雑な問題を抱えがん薬物療法を受ける患者・家族に対して、高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いて、質の高いケアを提供できる。 ２）治療期・再発期にあり、がん薬物療法看護による苦痛症状を有しているがん患者・家族に関わる看護師を対象に、教育、相談、調整、倫理的調整を実践し、がん薬物療法を受けるがん患者・家族の苦痛の緩和に関するがん看護専門看護師の役割・機能 について洞察を深める。
評価方法	実習目標に基づいて、自己評価および他者評価（40％：積極性・適切性）を行う。また、カンファレンスの内容（30％：積極性・適切性）、ケースレポートの内容（30％：論理性・一貫性・適切性）を総合して評価する。
授業計画	１．高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いた質の高いケア １）都道府県がん診療連携拠点病院の病棟あるいは外来において、治療期・再発期にあり、複雑な問題を抱えがん薬物療法を受ける患者１名以上を受け持ち、実習指導者および教員の指導のもと、最新の知識や概念・理論に基づいて、包括的、個別的な視点からアセスメントし、エビデンスに基づいた高度な看護実践を提供する。 ２）包括的・個別的アセスメント、立案した看護計画、看護実践内容と結果、評価については、看護スタッフのカンファレンスなどに積極的に提示し、看護スタッフと連携して行う。 ２．看護師を対象にした教育、相談、調整、倫理的調整 １）看護師の教育ニーズを把握し、学習目標、学習計画を立案し、講義を実施・評価する。 ２）受け持ち患者の看護実践を通して、看護師に対しての相談、調整、倫理的調整を実施する。 ３．実習の総括 １）受け持った患者の看護実践については、ケースレポートを作成する。 ２）実施した教育、相談、調整、倫理的調整に関しては、各々適した記録用紙を用いて、簡潔にまとめる。 ３）本実習のまとめとして、実習指導者および教員を交えた学生主体のカンファレンスを計画し、プレゼンテーションを行い、事例の学びを深める。 ４）カンファレンスでの助言も含め実習のまとめとして、「がん薬物療法を受けるがん患者・家族の苦痛の緩和に関するがん看護専門看護師の役割・機能」についてのレポートを作成し、自己の実践能力や看護観・倫理観を洞察する。 ＜実習方法＞ 実習期間： 約３週間 実習場所・実習指導者：奈良県立医科大学附属病院 がん看護専門看護師　梅岡京子 がん看護専門看護師　中濱絢 がん看護専門看護師　中村由美 具体的な実習時期・内容・方法については、実習要項を参照する。
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。 事後学修として、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてど のように活動を広げていくのかという視点で 自己の課題を考察してください 。
テキスト	実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。
参考書	実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。
学生へのメッセージ等	実習前にあらかじめ、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。実習中は、主体的に実習場所の実習指導者やスタッフ、教員に相談をして、自己の実習目標が達成できるよう努力してください。 実習終了後は、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を明確にできることを期待します。

講義科目名称： がん看護学実習Ⅳ　　授業コード：N201160

英文科目名称： Clinical Practice in Cancer Nursing Ⅳ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章
概要	この授業では、再発期・終末期にあり、複雑な問題を抱え苦痛症状を有しているがん患者・家族を受け持ち、高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いて、専門看護師としての倫理観に基づいて、質の高いケアを提供する実践能力を養う。さらに、緩和ケア領域における教育、相談、調整、倫理的調整が自立して行える能力を養う。
目標	１）再発期・終末期にあり、複雑な問題を抱え苦痛症状を有しているがん患者・家族に対して、高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いて、質の高いケアを提供できる。 ２）再発期・終末期にあり、苦痛症状を有しているがん患者・家族に関わる看護師を対象に教育、相談、調整、倫理的調整を実践し、緩和ケア領域におけるがん患者・家族の苦痛の緩和に関するがん看護専門看護師の役割・機能について洞察を深める。
評価方法	実習目標に基づいて、自己評価および他者評価（40％：積極性・適切性）を行う。また、カンファレンスの内容（30％：積極性・適切性）、ケースレポートの内容（30％：論理性・一貫性・適切性）を総合して評価する。
授業計画	１．高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いた質の高いケア １）緩和ケア病棟、都道府県がん診療連携拠点病院の一般病棟あるいは外来において、再発期・終末期にあり、複雑な問題を抱え苦痛症状を有しているがん患者１名以上を受け持ち、実習指導者および教員の指導のもと、最新の知識や概念・理論に基づいて、包括的、個別的な視点からアセスメントし、エビデンスに基づいた高度な看護実践を提供する。 ２）包括的・個別的アセスメント、立案した看護計画、看護実践内容と結果、評価については、看護スタッフのカンファレンスなどに積極的に提示し、看護スタッフと連携して行う。 ２．看護師を対象にした教育、相談、調整、倫理的調整 １）看護師の教育ニーズを把握し、学習目標、学習計画を立案し、講義を実施・評価する。 ２）受け持ち患者の看護実践を通して、看護師に対しての相談、調整、倫理的調整を実施する。 ３．実習の総括 １）受け持った患者の看護実践については、ケースレポートを作成する。 ２）実施した教育、相談、調整、倫理的調整に関しては、各々適した記録用紙を用いて、簡潔にまとめる。 ３）本実習のまとめとして、実習指導者および教員を交えた学生主体のカンファレンスを計画し、プレゼンテーションを行い、事例の学びを深める。 ４）カンファレンスでの助言も含め実習のまとめとして、「緩和ケア領域におけるがん患者・家族の苦痛の緩和に関するがん看護専門看護師の役割・機能」についてのレポートを作成し、自己の実践能力や看護観・倫理観を洞察する。 ＜実習方法＞ 実習期間： 約３週間 実習場所・実習指導者：社会医療法人松本快生会西奈良中央病院 奈良県立医科大学附属病院 がん看護専門看護師　梅岡京子 がん看護専門看護師　中濱絢 がん看護専門看護師　中村由美 具体的な実習時期・内容・方法については、実習要項を参照する。
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。 事後学修として、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を考察してください。
テキスト	実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。
参考書	実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。
学生へのメッセージ等	実習前にあらかじめ、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。実習中は、主体的に実習場所の実習指導者やスタッフ、教員に相談をして、自己の実習目標が達成できるよう努力してください。 実習終了後は、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を明確にできることを期待します 。

講義科目名称： がん看護学実習Ⅴ　　授業コード：N201170

英文科目名称： Clinical Practice in Cancer Nursing Ⅴ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章
概要	この授業では、在宅療養をしているがん患者を受け持ち、がん患者が住み慣れた自宅に、住み慣れた地域に最期まで過ごせるための多職種連携、がん患者の在宅療養支援に関するがん看護専門看護師の実践を行い、その役割・機能を考究する。
目標	１）がん患者に活用できる社会資源および多職種との医療連携について理解する。 ２）複雑な問題を抱えて在宅療養を希望するがん患者の在宅支援に関する高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いた質の高いケアを実践する。 ３）がん患者が住み慣れた自宅に、住み慣れた地域に最期まで過ごせるための多職種連携、がん患者の在宅療養支援に関するがん看護専門看護師の役割・機能について洞察を深める。
評価方法	実習目標に基づいて、自己評価および他者評価（40％：積極性・適切性）を行う。また、カンファレンスの内容（30％：積極性・適切性）、ケースレポートの内容（30％：論理性・一貫性・適切性）を総合して評価する。
授業計画	１.がん患者に活用できる社会資源および多職種との医療連携の理解 １）がん患者に活用できる社会資源の内容、利用する際の具体的方法について学ぶ。 ２）がん患者の退院支援・退院調整の場、退院合同カンファレンスに同席し、医療介護の多施設のスタッフが連携・協働するために行う方略、調整、連携の実際を学ぶ。 ３）がん患者の訪問に同行し、訪問看護・在宅療養支援における調整・連携の実際を学ぶ。 ４）複雑な問題を抱え在宅療養をしているがん患者の訪問に同行し、専門的知識を用いた包括的アセスメント、看護介入技術、評価などの問題解決思考過程について分析する。 ５）がん患者の訪問診療場面に同席し、医師の指導のもと、患者の身体症状の管理および療養上の問題についての評価プロセスにおける臨床判断を学ぶ。 ６）がん患者の訪問診療場面に同席し、医師の指導のもと、患者のフィジカルアセスメントを実施する。 ２．高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いた質の高いケア １）複雑な問題を抱えて在宅で暮らすがん患者１名以上を受け持ち、実習指導者および教員の指導のもと、最新の知識や概念・理論に基づいて、包括的、個別的な視点からアセスメントし、エビデンスに基づいた高度な看護実践を提供する。 ２）地域包括ケアシステムの視点をもって対象者（患者および家族）を理解したうえでの包括的・個別的アセスメント、立案した看護計画、看護実践内容と結果、評価については、看護スタッフのカンファレンスなどに積極的に提示し、看護スタッフと連携して行う。 ３．実習の総括 １）がん患者の退院支援・退院調整の場、退院合同カンファレンスで見学した結果をもとに臨床判断を行い、ケースレポートとしてまとめる。 ２）本実習のまとめとして、実習指導者および教員を交えた学生主体のカンファレンスを計画し、プレゼンテーションを行う。 ３）カンファレンスでの助言も含めて、「がん患者が住み慣れた自宅に、住み慣れた地域に最期まで過ごせるための多職種連携、がん患者の在宅療養支援」についてレポートを作成し、自己の課題を考察する。 ＜実習方法＞ 実習期間：約３週間 実習場所・実習指導者：公益社団法人奈良県看護協会橿原訪問看護ステーション　所長：池之畑直子 リンクハート株式会社ゆい訪問看護ステーション　訪問看護CN：森本広子 【訪問看護ステーションと主に連携しているクリニック・病院　】 ・ちゆうわ往診クリニック（橿原市：院長　河田安浩医師） ・社会医療法人健生会大福診療所（桜井市：所長　朝倉健太郎医師） ・公益社団法人地域医療振興協会明日香村国民健康保険診療所（高市郡明日香村：所長　武田以知郎医師） ・きむクリニック（大和高田市：院長　金東実医師） ・医療法人坂根医院（磯城群田原本町：院長　坂根俊輔医師） ・大和高田市立病院（大和高田市　がん診療連携支援病院） ・社会医療法人健生会土庫病院（大和高田市　在宅療養支援病院、退院調整加算届出病院） ・奈良県立医科大学附属病院（橿原市　がん診療連携拠点病院）　など 具体的な実習時期・内容・方法については、実習要項を参照する。
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。 事後学修として、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を考察してください。
テキスト	実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。

参考書	実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。
学生へのメッセージ等	実習前にあらかじめ、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。実習中は、主体的に実習場所の実習指導者やスタッフ、教員に相談をして、自己の実習目標が達成できるよう努力してください。 実習終了後は、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を明確にできることを期待する。

講義科目名称： がん看護学課題研究　　授業コード：N201180

英文科目名称： Research Project in Cancer Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	２	選択
担当教員			
升田　茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田　茂章
概要	がん看護学領域の自分の関心のある現象や援助に関して、がん看護領域の研究に必要な概念や理論、専門的知識を用いて、研究計画書を作成する力およびデータの収集力・解釈・分析力、結果を統合する力、論理的思考力を身につけるとともに、プレゼンテーション能力を習得する。一連の過程を通して、研究能力の基礎を養う。
目標	１）がん看護領域の自分の関心領域における研究課題を見出すことができる。 ２）研究課題を解明するための研究計画書を作成できる。 ３）研究の倫理的配慮について学び、倫理申請書類を作成できる。 ４）研究に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 ５）研究のプロセスにそって研究を行い、成果を論文としてまとめることができる。
評価方法	研究への取り組み姿勢20%、研究計画書の作成20%、課題研究論文の作成60%など総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1～4 自分の関心のある現象や援助から研究課題を明確にする。	演習	升田茂章
5～8 研究課題をもとに文献研究を行い、研究課題を明確にする。 先行文献をクリティークする。	演習	升田茂章
9～12 研究課題から研究方法を選択し、研究計画書を作成する。 倫理申請書を作成し、倫理審査を受ける。	演習	升田茂章
13～16 研究環境を整備し、データを収集する。	演習	升田茂章
17～20 収集したデータを分析する。	演習	升田茂章
21～25 分析した結果をまとめる。 研究課題にそって分析結果を整理する。 研究結果から新たな知見を明らかにする。	演習	升田茂章
26～30 成果物を論文としてまとめる。		升田茂章

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、がん看護学に関する興味のあるテーマ、現象などについて、自分のことばでまとめておいてください。 事後学修として、修了後の研究計画を立てましょう。
テキスト	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	がん看護学特論で学んだ概念・理論、がん看護学援助論を基盤として、主体的に研究プロセスをふむことにより、研究の意義を実感できることを期待します。

講義科目名称： 周麻酔期看護学特論Ⅰ　　授業コード：N181160

英文科目名称： Advanced Perianesthesia Nursing Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
川口　昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	川口　昌彦／位田　みつる／内藤　祐介／岡本　直子／佐藤　眞理子／中谷　仁美／川西　秀明／中川　雅史／石澤　美保子
概要	周麻酔期看護を取り巻く現状について理解する。また、必要となる看護ケアを実践するために、周麻酔期の管理について必要な基礎知識を習得する。
目標	周麻酔期の管理についての基本知識を知る。 全身麻酔、局所麻酔に伴う生体反応と術前・術後の周麻酔期看護を取り巻く現状について理解する。また、必要となる看護ケアを実践するために、周麻酔期の管理について必要な基礎知識を習得する。 全身管理について学ぶ。医療安全管理に必要な知識について学ぶ。
評価方法	授業参加度20%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料作成・発表内容と方法）、課題レポート30%（理論性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 オリエンテーション 周麻酔期とは，周術期看護師の役割・業務	講義	川口
2 全身麻酔 全深麻酔についてその概要について説明を行う	講義	佐藤
3 区域麻酔 ―脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔	講義	中谷
4 麻酔を受ける患者の術前評価と看護，術前の薬剤とその管理， 注意すべき患者とその評価	講義	佐藤
5 麻酔とモニタリング	講義	中谷
6 人工呼吸、気管チューブによる呼吸管理	講義	内藤
7 人工呼吸器のメカニズム、種類、構造と管理	講義	川西
8 動脈血液ガス分析と橈骨動脈確保	講義	中谷
9 中心静脈カテーテルの安全管理	講義	中川
10 周術期肺塞栓予防策	講義	岡本
11 輸液管理	講義	佐藤
12 輸血と止血凝固	講義	内藤
13 術後疼痛管理 ―疼痛評価と管理の実際	講義	岡本
14 術後早期合併症	講義	岡本

	―術後嘔気嘔吐、嗄声とその対策		
	15 周術期の創傷管理	講義	石澤
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	適宜資料を配布、提示する		
参考書	社団法人日本麻酔科学会編：周術期管理チームテキスト． 川口昌彦．チーム医療による周術期管理まるわかり．羊土社		
学生へのメッセージ等	基本的な周麻酔期管理の知識を身につけてもらいます。		

講義科目名称： 周麻酔期看護学特論Ⅱ　　授業コード：N181170

英文科目名称： Advanced Perianesthesia Nursing Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
川口　昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	川口　昌彦／内藤　祐介／紀之本　茜／紺田　眞規子／松浦　秀記／川瀬　小百合／大井　彩子／坂本　悠巨／鈴鹿　隆教
概要	医師国家試験の麻酔科に関する問題を臨床問題形式で解くことによって得た医師の視点からの診断・治療方法をもとに、周術期での実践的な周麻酔期の看護の方法を考える。
目標	医師国家試験の麻酔科の問題を解くために必要な基礎知識を学習する（力の300題　麻酔科統合講義　真興交易（株）医書出版部） 医師の視点からの診断・治療判断方法（ガイドラインなど）を確認する。 周麻酔期に臨床的に必要な看護内容を考える力を養成する。
評価方法	授業参加度20%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料作成・発表内容と方法）、課題レポート30%（理論性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。全講義終了後に試験を実施する。筆記試験70%以上をもって合格とする。

授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 麻酔の安全 安全な麻酔のための機器やガイドラインについて理解する	講義	紀之本
	2 気道確保法 声門上器具、気管挿管、外科的気道確保について理解する	講義	内藤
	3 局所麻酔、区域麻酔 局所麻酔薬の作用と使用法、合併症について理解する	講義	紺田
	4 麻酔薬の薬理 全身麻酔薬の薬理作用について理解する	講義	紺田
	5 薬物投与 中心静脈路確保法と投与薬物の計算法について理解する	講義	松浦
	6 呼吸不全と血液ガス 動脈血ガス分析について活用法を理解する	講義	松浦
	7 小児、妊婦、高齢者の麻酔 小児、妊婦、高齢者の麻酔について特徴を理解する	講義	川瀬
	8 合併症患者の麻酔 呼吸器、循環器、他疾患の麻酔について理解する	講義	川瀬
	9 術後管理と合併症 術後早期の管理と合併症について理解する	講義	大井
	10 バイタルサイン バイタルサイン、各種急性期スコアの評価を理解する	講義	大井
	11 ショック 各種ショックの原因、鑑別、治療について理解する	講義	坂本
	12 周術期合併症 肺塞栓や循環器合併症について理解する	講義	坂本
	13 輸血 各種輸血製剤と疾患・手術ごとの使用法を理解する	講義	鈴鹿
	14 医の倫理 医の倫理、医療安全、終末期倫理、緩和医療を理解する	講義	鈴鹿

	15 心肺蘇生 AHA-ACLSについて理解する	講義	内藤
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	力の300題　麻酔科総合講義　真興交易（株）医書出版部 第60回（2021年度）麻酔科専門医認定筆記試験問題解説集		
参考書	力の300題　麻酔科総合講義　真興交易（株）医書出版部 第60回（2021年度）麻酔科専門医認定筆記試験問題解説集		
学生へのメッセージ等	麻酔の基礎となる生理学や解剖学を基礎から学びつつ、実臨床へと応用できる知識を集中的に座学で学んでもらいます。		

講義科目名称： 周麻酔期看護学特論Ⅲ　　授業コード：N181180

英文科目名称： Advenced Perianesthesia Nursing Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
川口　昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	川口　昌彦／内藤　祐介／紀之本　茜
概要	周麻酔期看護に必要となる看護ケアを実践するために、特殊な麻酔管理に必要や基礎知識を習得する。
目標	周麻酔期看護に必要な、各手術における特殊性を理解し、その管理に必要な知識を習得する。
評価方法	授業参加度20%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料作成・発表内容と方法）、課題レポート30%（理論性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 吸入麻酔薬，静脈麻酔薬 MAC，B/G比，作用機序，作用受容体（GABA，NMDA，グルタミン酸受容体など）	講義	内藤
2 薬物動態の基礎 分布容積，半減期，Context Sensitive Half Time，3コンパートメントモデル	講義	内藤
3 オピオイド オピオイド受容体のサブタイプ、代謝・排泄方法、代謝産物	講義	内藤
4 医療ガス・ME機器 ボンベの種類・色、ボンベ内残量の計算、ミクロショックとマクロショック	講義	内藤
5 非脱分極性筋弛緩薬 アセチルコリン受容体，受容体占拠率と臨床症状，モニタリング方法	講義	内藤
6 硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔 局所麻酔薬の分類，作用機序，添加薬剤とその作用，pKa，蛋白結合率	講義	内藤
7 区域麻酔に必要な神経の理解 腕神経叢、腸骨下腹神経、大腿神経、腰神経叢	講義	内藤
8 アドレナリン受容体と自律神経系 サブタイプの分類とアゴニスト	講義	内藤
9 呼吸生理学 肺胞方程式、胸郭・肺コンプライアンス、PEEP、V/Q mismatch	講義	内藤
10 体温管理 セットポイントとシバリングの機序、シバリング予防する薬剤、Hbの親和性の変化、αStatとpHStat	講義	内藤
11 産科麻酔の基礎 分娩第１・２期での疼痛、胎児循環、催奇形性のある薬物、硬膜外無痛分娩の方法、合併症	講義	内藤
12 心臓外科手術の基礎 IABPの作動原理・調整方法、肺動脈カテーテルの測定意義、熱希釈法の原理	講義	内藤

	13 小児麻酔の基礎 亜酸化窒素によるSecond Gas Effect，前投薬の種類，喉頭痙攣とその対応	講義	内藤
	14 ペインの基礎 三叉神経痛、群発頭痛、帯状疱疹後神経痛	講義	内藤
	15 ICUの基礎知識 血液浄化の原理，人工呼吸器非同調，意識の評価方法，脳死判定基準	講義	内藤
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	適宜資料を配布、提示する		
参考書	社団法人日本麻酔科学会編：周術期管理チームテキスト. 第60回（2021年度）麻酔科専門医認定筆記試験問題解説集 Miller's Anesthesia 9th edition		
学生へのメッセージ等	麻酔科専門医試験過去問題集を題材にしつつ成書を読み、自ら問題解決する能力を涵養します。 内容が一気に高度になりますが、一緒に頑張って勉強しましょう。		

講義科目名称： 周麻酔期看護学特論Ⅳ　　授業コード：N181190

英文科目名称： Advanced Perianesthesia Nursing Ⅳ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
川口　昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	川口　昌彦／田中　優／内藤　祐介／位田　みつる／吉田　奏
概要	周麻酔期看護に必要となる統計学と研究デザインについて理解する
目標	周麻酔期看護に必要な、統計学と研究デザインについて習得する。
評価方法	授業参加度20%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料作成・発表内容と方法）、課題レポート30%（理論性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。周麻酔期看護学特論Ⅳ修了後に、奈良県立医科大学付属病院高度医療技術者認定に必要となる筆記試験を実施する。試験は周麻酔期看護特論の内容を中心に、周術期管理に必要な知識を幅広く問う（別途試験出題範囲については公示する）。筆記試験は70%以上の正答をもって合格判定を行う。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 周麻酔期看護師の質的研究の重要性	講義	吉田
2 統計学の基礎 臨床研究と統計学、データのタイプ、平均、分布	講義	田中
3 統計学の基礎２ 統計手法の選び方、仮説検定	講義	田中
4 相関係数と相関の検定 ２つの変数の関係、二群間の検定	講義	田中
5 ３群以上の差の検定 一元配置分散分析、多重比較法	講義	田中
6 回帰分析・重回帰分析 疫学１　変数間の関係を知りたい	講義	田中
7 多重ロジスティック回帰分析 疫学２　２値のアウトカムに与える変数の影響をみる	講義	田中
8 診断や検査に必要な統計指標 感度　特異度　ROC曲線		田中
9 研究デザイン１ Clinical Questionから研究課題を作成する		位田・内藤
10 研究デザイン２ 文献検索を通して、過去の類似研究を把握する		位田・内藤
11 研究デザイン３ 前向き（コホート、RCT、クロスオーバーなど）、後向き研究を理解する		位田・内藤
12 研究デザイン４ 臨床研究法や遵守すべき研究倫理について理解する		位田・内藤
13 研究デザイン５ サンプルサイズ計算方法について理解する		位田・内藤
14 研究デザイン６		位田・内藤

	研究プロトコールの作成方法について理解する		
	15 周術期看護師の活動と患者アウトカム		吉田
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	適宜資料を配布、提示する		
参考書	社団法人日本麻酔科学会編：周術期管理チームテキスト． 川口昌彦．チーム医療による周術期管理まるわかり．羊土社		
学生へのメッセージ等	麻酔科関連領域の実践における知識や管理法を身につけてもらいます。		

講義科目名称： 周麻酔期看護学演習Ⅰ　　授業コード：N181200

英文科目名称： Perianesthesia Nursing SeminarⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
川口　昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	川口　昌彦／阿部　龍一／西和田　忠/内藤　祐介／位田　みつる/王　暁瑩
概要	周麻酔期看護師として基本とされる知識ならびに技術についてシミュレーションを通し獲得する。
目標	・下記に掲げた手技における技能の取得 ・下記に掲げた手技実施時に周麻酔看護師として遵守する必要がある手順書の理解 ・下記に掲げた手技に必要な知識（解剖生理、適応、禁忌、発生しうる合併症とその対策方法）の獲得。 ・手技を実施するにあたり、必要となる患者の心身ケアの取得
評価方法	・参加度・実習への取り組み度・修得度（100%）で総合的に評価 ・手技の習得度については、シミュレーターを用いて評価を行う。全ての手技において合格水準に達したのちに周麻酔器看護学実習Ⅰを開始する。
授業計画	以下の周麻酔期看護師に必要な技能および必要な知識（解剖生理、発生しうる合併症とその対策法）についてシミュレーション教育をもとに習得する。 １）　気管挿管（困難気道への対応含む） ２）　声門上器具 ３）　末梢静脈確保 ４）　橈骨動脈直接穿刺法による動脈血採血 ５）　橈骨動脈ライン確保 ６）　中心静脈カテーテル挿入 また、麻酔関連の検討会に参加することにより実際の症例の管理方法などについて学ぶ。 授業形態：演習 担当者：王、阿部、内藤、位田、惠川、西和田、川口
授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	適宜紹介
参考書	適宜紹介
学生へのメッセージ等	周麻酔期に実施する頻度の高い基本的手技をシミュレーションを通じて獲得してもらいます。その際、必要となる守るべき手順や理解しておくべき法令や根拠についてもしっかり理解しましょう。

講義科目名称： 周麻酔期看護学演習Ⅱ　　授業コード：N181210

英文科目名称： Perianesthesia Nursing SeminarⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	選択
担当教員			
川口　昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	中谷仁美/ 川口　昌彦／内藤　祐介／位田　みつる／紀之本　茜／岡本　直子
概要	周麻酔期看護師として必要とされる知識ならびに技術についてシミュレーションを通し獲得する。また、術前データを取集、麻酔計画の立案、症例検討などにより問題解決能力を身につける。
目標	安全な看護ケアの提供に必要な知識ならびに技術を習得する。
評価方法	参加度・実習への取り組み度・修得度（100%）で評価 ペーパーペイシェントを用いて、上記課題に対して複数のシナリオを用意し演習を実施する。
授業計画	１）　術前患者評価と麻酔説明シミュレーション ２）　術後患者の評価と合併症への対応 ３）　疼痛評価方法 ４）　手術室外での麻酔シミュレーション ５）　無痛分娩施行中の妊婦の評価方法 ６）　MRI，内視鏡などにおける鎮静 授業形態：演習 担当者：中谷、内藤、位田、岡本、紀之本、恵川、西和田、川口
授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	適宜紹介
参考書	適宜紹介
学生へのメッセージ等	演習で実施するいくつかのシミュレーションは実際に周麻酔看護師は実施が認められていないものも含まれますが、これらの手技をシミュレーションを通じて経験しておくことで、多職種間でのコミュニケーションが図やすくなります。

講義科目名称： 周麻酔期看護学実習Ⅰ　　授業コード：N181220

英文科目名称： Clinical Practice in Perianesthesia NursingⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	４	選択
担当教員			
川口　昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	川口　昌彦/内藤　祐介/ 西和田　忠/野村　泰充/園部　奨太/田中　暢洋/植村　景子/紀之本　茜/甲谷　太一/位田　みつる
概要	早期実践につなげる為、合併症のない患者の麻酔管理と麻酔の役割の範囲全般について実習を通して学ぶ。その中から周麻酔期看護師の役割や必要性について考える。
目標	・合併症のない患者の麻酔管理と麻酔の役割の範囲全般を麻酔科指導医の指導のもとで実施し、周麻酔期看護を科学的、安全な看護方法で実施する。 ・周麻酔期看護学演習Ⅰで合格水準に達した手技について安全に実践する。 【手技必要経験数】（全て周麻酔器看護学実習Ⅰ―Ⅲでの合計） ・ASA-PS 1-2の患者の全身麻酔管理　50例 ・侵襲的陽圧換気の設定の変更 50例 ・人工呼吸期からの離脱　50例 ・脱水症状に対する輸液による補正　50例 ・持続点滴中の糖質輸液または電解質輸液の投与量の調整　50例 ・末梢静脈確保　30例 ・用手マスク換気　50例 ・気管内挿管　30例 ・声門上器具挿入　30例 ・橈骨動脈直接穿刺法による採血　5例 ・橈骨動脈ライン確保　15例 ・硬膜外カテーテルからの薬剤投与 15例 ・気管支ファイバー検査補助　5例 ・経食道心エコー検査補助　5例
評価方法	参加度・実習への取り組み度・修得度（100%）で評価
授業計画	１）麻酔科指導医のもとで、術中の麻酔管理の実際を学ぶ ２）麻酔科指導医のもとで、麻酔導入の実際とその注意点について学ぶ ３）麻酔科指導医のもとで、麻酔終了と抜管の実際について学ぶ ４）麻酔科指導医とともに、術前評価をもとに個々の患者に応じた麻酔プランを作成し実践する。 ５）麻酔科指導医の指導のもとで周麻酔看護学演習Ⅰで合格水準に達した手技の実習を行う。 授業形態：実習 担当者:内藤、西和田、岩田、野村、園部、田中、植村、紀之本、甲谷、位田、川口、石澤
授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	適宜紹介
参考書	適宜紹介
学生へのメッセージ等	周麻酔期管理としてその核となる手術室での麻酔・手術の実際について担当教官のもとで学習してもらいます。

講義科目名称： 周麻酔期看護学実習Ⅱ　　授業コード：N181230

英文科目名称： Clinical Practice in Perianesthesia NursingⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	6	選択
担当教員			
川口　昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	川口　昌彦/内藤　祐介/ 西和田　忠/野村　泰充/園部　奨太/田中　暢洋/植村　景子/紀之本　茜/甲谷　太一/位田　みつる
概要	周麻酔期看護学実習Ⅰで修得した内容を踏まえ、合併症のない患者の麻酔管理と麻酔の役割の範囲全般について実習を通して学ぶ。その中から周麻酔期看護師の役割や必要性について考え、重症患者管理へ向けての基礎作りを行う。
目標	合併症のない患者の麻酔管理と麻酔の役割の範囲全般を麻酔科指導医の指導のもとで実施し、周麻酔期看護を科学的、安全性な看護方法で実施する。 【必要経験数】（全て周麻酔器看護学実習Ⅰ―Ⅲでの合計） ・術前患者訪問　50例 ・術後患者診察　50例 ・ASA-PS 3以上の患者の麻酔管理の見学　10例
評価方法	参加度・実習への取り組み度・修得度（100%）で評価
授業計画	１）麻酔科指導医の指導のもと、術前の患者評価について学ぶ ２）麻酔科指導医の指導のもと、術後患者の合併症評価とその対応について学ぶ ３）麻酔科指導医の指導のもと、術中麻酔管理について実践する ４）緊急手術などハイリスク患者の麻酔管理の実際を学ぶ ５）麻酔科指導医のもとで痛みの治療の実際について学ぶ 授業形態：実習 担当者:川口、内藤、西和田、野村、園部、田中、植村、紀之本、甲谷、位田
授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	適宜紹介
参考書	適宜紹介
学生へのメッセージ等	周麻酔期看護実習Ⅱは実習Ⅰの内容を踏まえて、より広範囲に周術期患者について学ぶことを目的としています。具体的には麻酔中のみならず、入院から退院まで周術期管理について麻酔科医の個別指導を中心に学修していただきますので事前学習を十分にしてのぞんでください。

講義科目名称： 周麻酔期看護学実習Ⅲ　　授業コード：N181240

英文科目名称： Clinical Practice in Perianesthesia Nursing Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	6	選択
担当教員			
川口　昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	川口 昌彦/内藤 祐介/ 西和田 忠/野村 泰充/園部 奨太/田中 暢洋/植村 景子/紀之本 茜/甲谷 太一/位田 みつる
概要	産科・小児・心臓など特殊な麻酔事例の周麻酔期管理、緊急手術などハイリスク麻酔管理、集中治療における重症患者の管理の実際について実習を通し学ぶ。その中から周麻酔期看護の役割について考えることができる。
目標	産科・小児・心臓手術など特殊な麻酔事例、緊急手術などハイリスク症例の麻酔管理、集中治療における重症患者の管理について麻酔科指導医の下で実践する。 【必要経験数】（全て周麻酔器看護学実習Ⅰ―Ⅲでの合計） ・小児麻酔の見学　10例 ・産科麻酔の見学　10例 ・呼吸器外科麻酔の見学　10例 ・心臓血管外科麻酔の見学　10例
評価方法	参加度・実習への取り組み度・修得度（100%）で評価
授業計画	１）　麻酔科指導医のもとで妊婦の術前～術後の麻酔管理の実際を学ぶ ２）　麻酔科指導医のもとで小児患者の術前～術後の麻酔管理の実際を学ぶ ３）　麻酔科指導医のもとで心臓手術患者の術前～術後の麻酔管理の実際を学ぶ ４）　麻酔科指導医のもとで呼吸器外科手術患者の術前～術後の麻酔管理の実際を学ぶ ５）　麻酔科指導医のもとで集中治療における重症患者の管理の実際について学ぶ 授業形態：実習 担当者：川口、内藤、西和田、野村、園部、田中、植村、紀之本、甲谷、位田
授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	適宜紹介
参考書	適宜紹介
学生へのメッセージ等	周麻酔期管理における特殊症例や緊急症例などを学習することで、より深い知識と対応能力を修得するようにしてください。

講義科目名称： 周麻酔期看護学課題研究　　授業コード：N181250

英文科目名称： Research Project in Perianesthesia Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	4	選択
担当教員			
川口　昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	川口　昌彦／内藤　祐介／位田　みつる／石澤　美保子		
概要	周麻酔期の全身管理、麻酔管理に必要な知識・技術に関する研究課題を見出し、研究計画書を作成したうえで研究に取り組み、論文形式でまとめる。		
目標	1）周麻酔期に関する変遷や現状を分析し、課題を明確にできる。 2）課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。 3）研究課題を解決するために最も適切で実施可能な研究方法を選択し、研究計画書を作成できる。 4）研究の倫理指針ついて学び、倫理申請書類が作成できる。 5）課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 6）信頼性・妥当性のある分析ができる。 7）分析結果を踏まえ、適切な考察ができる。 8）研究成果を修士論文としてまとめることができる。		
評価方法	研究への取り組み態度、研究計画書の作成、中間報告、研究成果、修士論文（100%）から総合的に評価する		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1~30 1）研究課題の明確化 これまで周麻酔期看護学特論・演習を通して学んだことを踏まえ、周麻酔期医療を取り巻く現状を分析し、取り組むべき課題を検索する。 2）研究論文のクリティーク 明らかになった課題について、国内外の研究論文のクリティークを行い、研究状況を把握する。 3）研究方法の選択 課題の解明あるいは探求に適したデータの収集および分析の方法について学習する。 4）研究計画書の作成 研究計画書を作成する方法を学習し、研究計画書を作成する。また、研究者として必要な倫理観について理解を深める。	講義・演習	岡本 川口 田中 惠川 西和田 内藤 位田 石澤
	31~60 5）データ収集 適切なデータを得るためのフィールドを開拓し、データを収集する。 6）データ分析・論文作成 データに適した信頼性・妥当性のある手法を用いて、分析を進める。 先行研究の検討を踏まえ、分析結果を多角的に検討し考察を深め、修士論文としてまとめる。	講義・演習	岡本 川口 田中 惠川 西和田 内藤 位田 石澤
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	適宜資料を掲示、配布する		
参考書	適宜掲示する		
学生へのメッセージ等	研究課題を通じて、研究の実施法を学習するとともに科学的な視点で診療ができるような姿勢を身につけてもらいます。		

講義科目名称： 女性健康学特論　　授業コード：N121300

英文科目名称： Advanced Women’s Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子		
概要	ウィメンズヘルスの概念と歴史を理解し、性差医療やプレコンセプションケアを中心に女性の健康課題や最近の研究について学ぶ。		
目標	1)女性の健康に関する国内外の歴史的背景と考え方を理解する。 2)女性の健康に関する課題を明確化できる。 3)女性の健康に関する研究のクリティークの技法を習得する。 4)女性の健康に関する自らの研究課題を見出す。		
評価方法	授業でのプレゼンテーションおよびディスカッションへの貢献度で評価する。 ＜評価基準＞ ①事前学習により、授業に参加する準備が出来ている（40%） ②自らの意見を簡潔かつ明確に述べることができる（20%） ③他者の意見を尊重しながらディスカッションすることができる（20%） ④ディスカッションの促進に貢献する発言や姿勢である（20%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 授業オリエンテーション　性差医療とプレコンセプションケア	講義	五十嵐
	2 発表オリエンテーションと準備	講義・演習	五十嵐
	3 女性の健康・プレコンセプションケアから考える栄養・体重管理	講義・演習	五十嵐
	4 女性の健康・プレコンセプションケアから考える慢性疾患	講義・演習	五十嵐
	5 女性の健康・プレコンセプションケアから考える嗜好品（喫煙、アルコール）、DV	講義・演習	五十嵐
	6 エビデンスに基づいた生殖計画と避妊	講義・演習	五十嵐
	7 女性の健康・プレコンセプションケアから考える予防接種、STI、薬	講義・演習	五十嵐
	8 論文クリティーク　オリエンテーション・発表準備	講義・演習	五十嵐
	9 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク1	講義・演習	五十嵐
	10 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク2	講義・演習	五十嵐
	11 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク3	講義・演習	五十嵐
	12 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク4	講義・演習	五十嵐
	13	講義・演習	五十嵐

	女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク5		
	14 総合演習	講義・演習	五十嵐
	15 総合演習	講義・演習	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：テーマに関する発表の準備 事後学修：発表後の学びをまとめる。		
テキスト	講義の都度、適宜提示する。		
参考書	講義の都度、適宜提示する。		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 女性健康学演習　　授業コード：N121310

英文科目名称： Women’s Health Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	4	選択
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／乾　つぶら／森兼　眞理／上田　佳世／木村　奈緒美／山崎　愛		
概要	女性健康学特論で学習した概念や理論を基盤として、女性とその家族が抱える問題や課題を明確化し、自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。		
目標	1)女性の健康に関する研究で用いられる概念について説明できる。 2)女性の健康に関する量的研究・質的研究を実践するための研究デザインが説明できる。 3)量的研究・質的研究を理解し、データ収集および分析に必要な基本的技術を修得する。 4)自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。		
評価方法	受講態度（30%）、プレゼンテーション（70%）で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 講義のオリエンテーション	講義	五十嵐
	2~7 女性の健康に関する研究の変遷と問題や課題を明確化する。 クリニカル・クエスチョンからリサーチクエスチョンへ 研究課題に適切な研究方法の選択	講義・演習	五十嵐 乾 森兼 上田 木村 山崎
	8~13 女性の健康に関連した量的研究・質的研究のクリティークができる。量的研究・質的研究を理解し研究実施に必要な基本的技術を修得する ・調査用紙の作成方法 ・インタビュー・ガイドの作成・面接技術 ・データ入力と分析方法 ・系統的レビューの方法	講義・演習	五十嵐 乾 森兼 上田 木村 山崎
	14~28 自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。 ・研究計画書作成の技術を修得する。 ・研究の倫理的配慮について理解する。	講義・演習	五十嵐 乾 森兼 上田 木村 山崎
	29~30 まとめ	講義	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	講義の都度、資料を配布する。		
参考書			
学生へのメッセージ等	後期の講義は集中で行うことがある。		

講義科目名称： 女性健康学課題研究　　授業コード：N191010

英文科目名称： Research Project in Women’s Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	4	選択
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子		
概要	女性健康学に関する課題に対して研究計画書を作成したうえで、研究に取り組む。その研究プロセスを経て、看護・助産の実践に役立つ知見や支援方法を明らかにし、課題研究を完成する。		
目標	1)女性の健康に関する変遷や現状を分析し、課題を明確にできる。 2)課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。 3)研究課題を解明するための研究計画書を作成できる。 4)課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 5)研究プロセスに沿って研究を実施し、研究成果を課題研究としてまとめることができる。		
評価方法	研究に取り組む姿勢、研究計画書の作成、課題研究作成までの進捗状況、論文提出とその完成度（100%）にて評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1～14 1）研究課題の明確化 これまで女性健康学特論・演習を通して学んだことを踏まえ、女性の健康に関する自己の研究課題を明確化する。 2）研究課題をもとに先行研究のクリティークを行う。 先行研究をシステマティックに検索し、適切にクリティークする。そこから自己の研究課題を絞る。 3）研究方法の選択・研究計画書作成 研究課題の解決に適した研究方法を選択し、実施可能な研究計画書を作成する。	演習	五十嵐
	15～30 4）データ収集 適切なデータを得るためのフィールドを開拓し、データを収集する。 5）データ分析・論文作成 信頼性・妥当性のあるデータ分析を行う。 先行研究の結果も踏まえながら、自己の研究結果について考察を深め、研究成果を課題研究として作成する。	演習	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	適宜資料を提示、配布する。		
参考書			
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 周産期看護学特論　　授業コード：N121330

英文科目名称： Advanced Perinatal Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	選択
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子		
概要	周産期看護や助産の実践に関する研究の動向を知り、根拠のある助産ケア実践について学ぶ。その過程から、自身の研究課題を考える。		
目標	1)周産期看護・助産実践に関する国内外の研究の動向を知る。 2)周産期看護・助産実践の課題を明確化できる。 3)周産期看護・助産実践に関する研究のクリティークの技法を習得する。 4)周産期看護・助産実践に関する自らの研究課題を見出す。		
評価方法	授業でのプレゼンテーションおよびディスカッションへの貢献度で評価する。 ＜評価基準＞ ①事前学習により、授業に参加する準備が出来ている（40%） ②自らの意見を簡潔かつ明確に述べることができる（20%） ③他者の意見を尊重しながらディスカッションすることができる（20%） ④ディスカッションの促進に貢献する発言や姿勢である（20%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 授業オリエンテーション　根拠に基づく助産学・周産期看護学について	講義 演習	五十嵐
	2 発表オリエンテーションと準備	講義・演習 演習	五十嵐
	3 周産期ケアに活かすエビデンス　～ケースコントロール・スタディ～	講義・演習	五十嵐
	4 周産期ケアに活かすエビデンス　～質的研究～	講義・演習	五十嵐
	5 周産期ケアに活かすエビデンス　～ランダム化比較試験～	講義・演習	五十嵐
	6 周産期ケアに活かすエビデンス　～システマティック・レビュー～	講義・演習	五十嵐
	7 周産期ケアに活かすエビデンス　～ガイドライン～	講義・演習	五十嵐
	8 論文クリティーク　オリエンテーション・発表準備	講義・演習	五十嵐
	9 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク1	講義・演習	五十嵐
	10 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク2	講義・演習	五十嵐
	11 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク3	講義・演習	五十嵐
	12 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク4	講義・演習	五十嵐
	13	講義・演習	五十嵐

	周産期に関する研究の動向 論文クリティーク5		
	14 総合演習	講義・演習	五十嵐
	15 総合演習	講義・演習	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：テーマに関する発表の準備 事後学修：発表後の学びをまとめる		
テキスト	別途提示する		
参考書			
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 周産期看護学演習　　授業コード：N121340

英文科目名称： Perinatal Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	4	選択
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／乾　つぶら／森兼　眞理／上田　佳世／木村　奈緒美／山崎　愛		
概要	周産期看護特論で学習した概念や理論を基盤として、母と子およびその家族が抱える問題や疑問を明確化し、自己の研究テーマや課題を明らかにする。		
目標	1)周産期看護に関する研究で用いられる概念について説明できる。 2)周産期看護に関する量的研究・質的研究を実践するための研究デザインが説明できる。 3)量的研究・質的研究を理解し、データ収集および分析に必要な基本的技術を修得する。 4)自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。		
評価方法	受講態度（30%）、プレゼンテーション（70%）で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 講義のオリエンテーション	講義	五十嵐
	2~7 周産期看護に関する研究の技法 クリニカル・クエスチョンからリサーチクエスチョンへ 研究課題に適切な研究方法の選択	講義・演習	五十嵐 乾 森兼 上田 木村 山崎
	8~13 周産期看護に関連した量的研究・質的研究のクリティーク・レビューがで きる。 量的研究・質的研究を理解し研究実施に必要な基本的技 術を修得する 調査用紙の作成方法 系統的レビューの方法 インタビュー・ガイドの作成	講義・演習	五十嵐 乾 森兼 上田 木村 山崎
	14～28 自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。 ・研究計画書作成の技術を修得する。 ・研究の倫理的配慮について理解する。	講義・演習	五十嵐 乾 森兼 上田 木村 山崎
	29～30 まとめ	講義	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	講義の都度、資料を配布する。		
参考書	講義の都度、適宜提示する。		
学生へのメッセージ等	＊後期の講義は集中で行うことがある。		

講義科目名称： 周産期看護学課題研究　　授業コード：N191020

英文科目名称： Research Project in Perinatal Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年	4	選択
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子		
概要	周産期看護学に関する課題に対して研究計画書を作成したうえで、研究に取り組む。その研究プロセスを経て、看護・助産の実践に役立つ知見や支援方法を明らかにし、課題研究を完成する。		
目標	1)周産期看護に関する変遷や現状を分析し、課題を明確にできる。 2)課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。 3)研究課題を解明するための研究計画書を作成できる。 4)課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 5)研究プロセスに沿って研究を実施し、研究成果を課題研究としてまとめることができる。		
評価方法	研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、中間報告、課題研究作成までの進捗状況、論文提出とその完成度（100%）にて評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1～14 1）研究課題の明確化 これまで周産期看護学特論・演習を通して学んだことを踏まえ、周産期看護に関する自己の研究課題を明確化する。 2）研究課題をもとに先行研究のクリティークを行う。 先行研究をシステマティックに検索し、適切にクリティークする。そこから自己の研究課題を絞る。 3）研究方法の選択・研究計画書作成 研究課題の解決に適した研究方法を選択し、実施可能な研究計画書を作成する。	演習	五十嵐
	15～30 4）データ収集 適切なデータを得るためのフィールドを開拓し、データを収集する。 5）データ分析・論文作成 信頼性・妥当性のあるデータ分析を行う。 先行研究の結果も踏まえながら、自己の研究結果について考察を深め、研究成果を課題研究として作成する。	演習	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	適宜資料を配布する。		
参考書	適宜提示する。		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 助産学特論Ⅰ-助産学概論-　　授業コード：N121420

英文科目名称： Advanced Midwifery　Ⅰ: Introduction to Midwifery

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	必修
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／ 木村 文則		
概要	助産の基本概念と理論、母子保健および助産の変遷と課題、助産学教育の動向など、現代の助産を取り巻く状況を把握し、あるべき助産および助産学の方向性について理解を深める。		
目標	1)助産の概念について理解できる。 2)助産の歴史や母子保健の動向について説明できる。 3)助産および助産学の将来展望について理解できる。 4)助産活動に必要 な母性心 理・社会について理解できる。 5)安心して子どもを産み育てるために他職種との連携と調整および必要な社会資源の活用について説明できる。 6)助産師としての役割・責務を自覚し、専門職として自律する能力について理解できる。 7)女性と子どもおよびその家族の尊厳と権利を尊重する倫理観を養う。		
評価方法	授業参加度（30%）、定期試験（70%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1　2024年4月8日（月）　３限目 助産の定義と助産師の役割 国内外における助産・助産師の定義 コアコンピテンシー	講義	五十嵐
	2　2024年4月15日（月）　３限目 女性中心のケア・ 継続ケア 共有意思決定支援 周産期における継続したケア 多職種による切れ目のない支援	講義	五十嵐
	3　2024年4月22日（月）　３限目 生殖補助医療と妊孕性温存	講義	木村
	4　2024年5月13日（月）　3限目 児童虐待の現状と支援	講義	吉岡（ゲストスピーカー）
	5　2024年5月20日（月）　3限目 助産師の様々な活動	講義	高橋ゲストスピーカー）
	6　2024年5月30日（木）　3限目 助産師としての責務と裁量権・助産ケアの基盤となる概念 助産師として自律した態度 これからの助産師に求められる役割と機能 助産に関連する理論・概念	講義	五十嵐
	7　2024年6月3日（月）　3限目 周産期における法律と法医学	講義	羽竹ゲストスピーカー）
	8　2024年6月3日（月）　4限目 法医学における助産師の役割	講義	羽竹ゲストスピーカー）
	9　2024年6月5日（水）　３限目 助産師の教育	講義	脇田ゲストスピーカー）
	10　2024年6月5日（水）　4限目 助産師の倫理	講義	脇田ゲストスピーカー）
	11　2024年6月10日（月）　3限目 出産と助産の変遷 日本および諸外国の助産の歴史と今後の方向性	講義	五十嵐
	12　2024年6月24日（月）　3限目 母子保健・医療・福祉制度	講義	五十嵐

		母子とその家族および女性に関連した社会の動向や特性 日本における社会保障制度の変遷		
	13	2024年7月1日（月）　　3限目 環境と母子とその家族および女性の健康 社会・文化的環境が母子や女性の健康・生活に及ぼす影響 物理・化学的環境が母子や女性の健康・生活に及ぼす影響 健康支援と環境への働きかけ 災害や紛争が母子や女性の健康・生活に与える影響	講義	五十嵐
	14	2024年7月2日（火）　　3限目 ライフスタイルと女性の健康 ライフスタイルの背景にある文化の理解と多様性 栄養・食生活、身体活動・運動、休養・睡眠と健康との関連 人の行動変容支援に必要な基礎理論	講義	五十嵐
	15	2024年7月22日（月）　　3限目 まとめ	講義	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：授業内容について教科書の該当範囲を読んでおく 事後学修：授業内容をまとめる			
テキスト	助産学講座 基礎助産学［１］助産学概論 医学書院 助産学講座 基礎助産学［２］母子の基礎科学 医学書院 助産学講座 基礎助産学［３］母子の健康科学 医学書院 助産学講座 基礎助産学［４］母子の心理・社会学 医学書院			
参考書	院内助産・助産師外来ガイドライン 日本看護協会 助産師業務要覧〈1〉基礎編 日本看護協会出版会 助産師業務要覧〈2〉実践編 日本看護協会出版会			
学生へのメッセージ等				

講義科目名称： 助産学特論Ⅱ-基礎助産学-　　授業コード：N121430

英文科目名称： Advanced Midwifery　Ⅱ: Fundamental Midwifery

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	必修
担当教員			
乾　つぶら			
添付ファイル			

全担当教員	乾　つぶら／産婦人科医師／ゲストスピーカー
概要	周産期における母子の正常な経過と健康逸脱の予防、異常予測のヘルスアセスメント、及び、ケアに必要な知識・技術を理解する。 さらに、周産期における母子とその家族への助産師としての支援のあり方について考察する。
目標	１）周産期における母子の正常な経過と健康逸脱の予防、異常予測のヘルスアセスメントとケアに必要な知識・技術を理解できる 。 ２）周産期における母子とその家族の個別性に応じた援助とは何か 、助産師としての支援のあり方を考えることができる。
評価方法	評価方法：講義演習への参加・貢献度40%、提出課題40%、筆記試験20% 評価基準： ・講義演習への参加は、プレゼンテーション、発表、討論内容、運営全体への貢献度で評価する。 ・提出課題はレポートと助産過程に関する課題で、レポートはテーマに沿って論理的に論述し、焦点を明確にしたサブタイトルをつけ、簡潔明瞭に深めることができているか。 ・筆記試験は助産学に必要な医学的知識を選択式・記述式で評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 女性性周期、妊娠の成立、出生前診断	講義	産婦人科医師
2 妊娠期の経過と診断1：母体の健康・胎児の発育・胎児付属物の状態	講義	産婦人科医師
3 妊娠期の経過と診断2：診察・臨床検査・超音波検査	講義	産婦人科医師
4 助産活動の基礎となる知識・技術1	講義	乾
5 助産活動の基礎となる知識・技術2	講義	乾
6 助産診断とは	講義	乾
7 分娩第１期の特性と分娩開始に関する診断・技術	講義	乾
8 分娩経過と分娩予測の助産診断	講義	乾
9 分娩機転と産痛のメカニズム	講義	乾
10 分娩第２期の特性とフィジカルアセスメント技術	講義	乾
11 分娩第３期の特性とフィジカルアセスメント技術	講義	乾
12 妊娠分娩の評価と産褥期・新生児期の経過予測	講義	乾

	13 産後/生後の健康診査	講義	乾
	14 周産期における助産過程	講義	乾
	15 多様な助産師活動	講義	ゲストスピーカー 乾
授業外学修（事前学修・事後学修）	受講前に該当する授業内容に関する教科書・参考書を精読し、自分なりに考えと疑問をまとめた上で講義に臨んで下さい。 また、各講義で提示する課題に自主的に取り組み、指定した期日までに提出して下さい。		
テキスト	助産学講座2　基礎助産学[2]　母子の基礎科学　医学書院 助産学講座3　基礎助産学[3]　母子の健康科学　医学書院 助産学講座4　基礎助産学[4]　母子の心理・社会学　医学書院 助産学講座5　助産診断・技術学Ⅰ　医学書院 助産学講座6　助産診断・技術学Ⅱ［1］妊娠期　医学書院 助産学講座7　助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期　医学書院 助産学講座8　助産診断・技術学Ⅱ［3］新生児期・乳幼児期　医学書院 産婦人科診療ガイドライン　産科編　2023　日本産婦人科学会 助産業務ガイドライン　2019　日本助産師会 実践 マタニティ診断 第5版 日本助産診断実践研究会編 医学書院		
参考書	今日の助産 改訂第4版　北川眞理子・内山和美編 南江堂 標準産科婦人科科学　第5版　綾部琢哉・板倉敦夫　医学書院 助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全　2021年版　日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア 2021年版　日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 2021年版 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア、新生児期・乳幼児期のケア 2021年版 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア　2021年版 日本看護協会出版会 マタニティ診断ガイドブック 第6版 日本助産診断実践研究会編 医学書院 他、講義の際に紹介予定		
学生へのメッセージ等	講義・演習を通して、助産師を志す皆さんが主体的に学ぶ姿勢を重視します。		

講義科目名称： 助産学特論Ⅲ-胎児新生児学-　　授業コード：N121440

英文科目名称： Advanced Midwifery　Ⅲ: Fetus ＆ Newborn

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	1	必修
担当教員			
内田 優美子			
添付ファイル			

全担当教員	内田 優美子　／　乾　つぶら
概要	胎児、新生児の発育・発達や生理的特徴について理解を深め、ヘルスアセスメント及びケアに必要な知識と評価方法について学習する。 また、新生児医療の背景と胎児新生児学における倫理を学ぶ。
目標	１）胎児期の身体的発育および機能の発達について説明できる。 ２）新生児の生理的特徴や胎外生活適応過程について理解を深め、必要なケアについて説明できる。 ３）ハイリスク新生児やNICU入院児の管理とその家族への支援について説明できる。 ４）新生児医療における生命倫理について説明できる。 ５）胎児・新生児期に発症しやすい異常とその病態・検査・治療について説明できる。
評価方法	授業に対する態度と姿勢（10%）、筆記試験（90%）から総合して評価します。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 ＮＩＣＵ入院児の管理	講義・演習	内田
2 発育・発達とその評価 胎児・新生児の発育、成熟度の判定法	講義・演習	内田
3 新生児診断学 新生児の診察法、新生児に特徴的な所見	講義・演習	内田
4 新生児診断学 母体・胎児情報の読み方、異常所見及び検査結果の読み方	講義・演習	内田
5 新生児の養護と管理 正常新生児の管理・ハイリスク新生児の管理	講義・演習	内田
6 新生児の特徴と臨床 内分泌、代謝、呼吸器、循環器、黄疸、血液、免疫	講義・演習	内田
7 新生児医療の現状と生命倫理	講義・演習	内田
8 ハイリスク新生児の看護ケア	講義・演習	乾

授業外学修（事前学修・事後学修）	受講前に該当する授業内容に関する教科書・参考書を精読し、自分なりに考えと疑問をまとめた上で講義に臨んで下さい。 また、各講義で提示する課題に自主的に取り組み、指定した期日までに提出して下さい。
テキスト	助産学講座8　助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期　医学書院 仁志田博司編：新生児学入門　第5版　医学書院 日本新生児成育医学会(編)：新生児学テキスト　メディカ出版 細野茂春監修：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト第4版　メジカルビュー社
参考書	助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 2021年版 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 2021年版　日本看護協会出版会 Neonatal Network-The Journal of Neonatal Nursing-Spring Publishing Company： 大学図書からダウンロード可能
学生へのメッセージ等	講義・演習を通して、助産師を志す皆さんが主体的に学ぶ姿勢を重視します。

講義科目名称： 助産学特論Ⅳ-健康教育-　　授業コード：N121450

英文科目名称： Advanced Midwifery Ⅳ: Health Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	1	必修
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／木村　奈緒美／山崎　愛
概要	次世代の健全な育成と、ライフサイクル各期における女性とその家族が健康的な生活を送ることを目的とし、セルフケア能力の向上につながる健康教育の理論や技術を学ぶ。対象者や対象集団の特性に応じた健康教育の方法に対する理解を深め、それに必要な助産実践の技術を学修する。
目標	1）健康教育に関する理論を理解できる。 2）対象者および対象集団の特性に応じた健康教育の方法が理解できる。 2）個人および集団への健康教育を企画し、発表できる。
評価方法	・グループワークでの取り組み、グループへの貢献度 ・ロールプレイや発表の完成度 ・指導案や媒体の成果物 上記の項目を総合的に評価する。

授業計画

	授業内容	授業形態	担当者
1	2024年4月10日（水）　2限目 健康教育の対象者の理解、健康教育に活用する理論、助産過程と保健指導案、保健指導案作成の技術と媒体	講義・演習	五十嵐
2	2024年4月17日（水）　2限目 個別指導に使う指導案の作成：演習１　指導案の作成 健康教育のテーマの検討と指導案の作成の方法	講義・演習	五十嵐
3	2024年4月22日（月）　４限目 個別指導に使う指導案の作成：演習２ 媒体の作成	演習	五十嵐
4	2024年5月13日（月）　４限目 保健指導のロールプレイ	演習	五十嵐、木村、山崎
5	2024年5月20日（月）　４限目 集団指導の指導案 健康教育のテーマの検討と指導案作成の方法	講義・演習	五十嵐
6	2024年6月10日（月）　４限目 集団指導に使う指導案の作成：演習１ 指導案の発表	講義・演習	五十嵐
7	2024年6月17日（月）　４限目 集団指導に使う指導案の作成：演習２ 媒体の作成	演習	五十嵐
8	2024年6月24日（月）　４限目 集団指導　ロールプレイ	演習	五十嵐、木村、山崎

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前・事後学修：各講義・演習で提示する課題を指定した日程までに取り組んでおいてください。
テキスト	助産学講座５助産診断・技術学Ⅰ：我部山キヨ子、武谷雄二編．医学書院
参考書	講義の際に紹介します。
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 助産学特論Ⅴ-地域母子保健1-　　授業コード：N221010

英文科目名称： Advanced Midwifery Ⅴ-Community Maternal & Child Health 1-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	1	必修
担当教員			
森兼　眞理			
添付ファイル			

全担当教員	森兼　眞理
概要	母子保健行政の体系を理解し課題を考える。 世界の母子保健の現状から助産師の役割を考える。
目標	1) 母子保健行政の体系を説明できる 2) 助産師が行う地域母子保健活動の実際を説明できる 3) 諸外国の母子保健問題について助産師の役割を考えることができる 4) 関心がある母子保健の健康課題についてプレゼンテーションができる
評価方法	1.「母子保健の主なる統計」を活用し関心あるテーマ（統計）に基づき現状と課題について考えをまとめ発表する。 2. 第3回,4回および第5,6回の講義レポートは「地域母子保健分野における助産師の役割と課題」について講師ごとに提出する。 ★評価　1. プレゼンテーション（統計に基づいている、法律や施策に基づいている、自己の考えを述べている）　60% 2. 各レポート　10%×2つ 3. 授業への積極的な参加(20 %)

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 地域母子保健行政の体系	講義	森兼
2 関心がある母子保健の課題について統計を使って分析してみよう ＊母子保健の主なる統計を使って資料を作成する	演習	森兼
3 助産師が行う性教育の実際１ ＊レポートあり	講義	ゲストスピーカー
4 助産師が行う性教育の実際２	講義	ゲストスピーカー
5 妊婦および新生児訪問活動の実際１ ＊レポートあり	講義	ゲストスピーカー
6 妊婦および新生児訪問活動の実際２	講義	ゲストスピーカー
7 1.諸外国の母子保健活動　2.在日外国人の母子保健	講義	森兼
8 私が考える地域母子保健の現状と課題　発表	院生によるプレゼンテーション	森兼

授業外学修（事前学修・事後学修）	★事前学修　事前に授業テーマに関するキーワードを提示するので、自己の考えをまとめておくこと ★事後学修　プレゼンテーション資料の提出
テキスト	・助産学講座９ 地域母子保健・国際母子保健 第5版 医学書院 ・母子保健の主なる統計 最新版 母子保健事業団
参考書	・国民衛生の動向 最新版 厚生統計協会 ・UNICEF　世界子供白書（日本ユニセフ協会サイトからダウンロード可）
学生へのメッセージ等	地域母子保健（世界を含む）に関心をもち、助産師として活動の可能性を拡げよう。

講義科目名称： 助産学特論Ⅵ-助産管理-　　授業コード：N121470

英文科目名称： Advanced Midwifery Ⅵ: Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	必修
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／芝田　和美／高橋　律子／森重　圭子
概要	助産業務管理に必要な知識や助産業務に付随する法的責任を修得し、助産師としてのセーフティマネジメントについての対策を考察できる能力を養う。
目標	１）施設（病院、開業助産所等）における助産業務の管理、および関連する法規と責任を説明できる。 ２）周産期における医療事故を予防するために必要な基本的な管理を学び、助産師としてのセーフティマネジメントのあり方を考察できる。 ３）独立開業を行う場合に必要な資源、人材等の経営的視点について考察できる。 ４）周産期医療システムの連携について理解する。
評価方法	授業参加度(30%)、筆記試験(70%)

授業計画

	授業内容	授業形態	担当者
1	2024年4月25日（木）　2限目 助産管理とは・助産ケアの質保証 助産管理体制と協働・管理者に求められる能力 基本資源の管理 PDCAサイクル、サービス評価 快適な出産環境管理 助産業務ガイドライン 助産評価委機構	講義・演習	五十嵐
2	2024年5月2日（木）　２限目 周産期の管理に関係する法律・母子保健施策 助産の意義と定義 助産師の法的義務 助産師を規定する法律や関連法規 助産に関する制度や法規（医療法、戸籍法、児童福祉法など）	講義・演習	五十嵐
3	2024年5月15日（水）　２限目 助産と経済・社会福祉制度 日本における社会保障制度の変遷 助産の医療政策の変遷	講義・演習	五十嵐
4	2024年5月22日（水）　２限目 周産期における医療事故と安全対策・感染管理 自身の健康管理 標準予防策 インシデント・アクシデント対応 損害賠償保険 産科医療報奨制度 医療事故調査制度	講義・演習	五十嵐
5	2024年5月29日（水）　２限目 災害時の助産管理 災害対策 災害対応 災害時の母子女性家族の特徴 対象への災害教育	講義・演習	五十嵐
6	2024年6月4日（火）　2限目 助産所の管理と運営の実際1	講義	芝田
7	2024年6月5日（水）　２限目 周産期の医療体制と多職種との連携・コミュニケーション能力 MFICU、NICU、GCU 周産期医療ネットワーク オープンシステム	講義・演習	五十嵐
8	2024年6月17日（月）　1限目 助産所運営の活動と実際（助産所見学を含む）1 カンガルーホーム見学	講義・演習	高橋
9	2024年6月17日（月）　2限目 助産所運営の活動と実際（助産所見学を含む）2	講義・演習	高橋

		カンガルーホーム見学		
	10	2024年6月17日（月）　3限目 助産所運営の活動と実際（助産所見学を含む）3 カンガルーホーム見学	講義・演習	高橋
	11	2024年6月18日（火）　2限目 助産所の管理と運営の実際2	講義・演習	芝田
	12	2024年6月19日（水）　２限目 生涯教育とキャリアパス キャリアパス・キャリア開発 多様な生涯学習機会の獲得方法 同僚・後輩育成の必要性	講義・演習	五十嵐
	13	2024年6月25日（火）　1限目 助産所の管理と運営の実際3	講義	芝田
	14	2024年7月3日（水）　2限目 専門看護（CNS）の役割，CNSの活動場所と助産管理	講義	森重
	15	2024年7月17日（水）　2限目 看護理論の活用と助産実践	講義	森重
授業外学修（事前学修・事後学修）				
テキスト	助産学講座（10）　助産管理(第5版）医学書院 助産所業務ガイドライン 社団法人日本助産師会			
参考書	産科医療補償制度 各報告書（http://www.sanka-hp.jcqhc.or.jp/documents/committee/index.html） 日本助産評価機構 資料（https://josan-hyoka.org/） 助産師業務要覧〈1〉基礎編　日本看護協会出版会 助産師業務要覧〈2〉実践編　日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 2019年版 第３巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会			
学生へのメッセージ等				

講義科目名称： 助産学特論Ⅶ-地域母子保健2-　　授業コード：N221020

英文科目名称： Advanced Midwifery Ⅶ-Community Maternal &&Child Health 2-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年	1	必修
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／乾　つぶら／木村　奈緒美／山崎　愛		
概要	妊娠から産後まで切れ目ない母子への支援及び全てのライフステージにある女性の健康支援を目的として、地域における助産ケアの実践に必要な知識・技術を学ぶ。		
目標	1)市町村における助産師の役割を知る。 2)地域における多職種連携について学ぶ。 3)幼児の健康診査および乳幼児健康診査後の事後フォローの必要性を学ぶ。 3)産後の母子に必要なさまざまな支援の方法を学ぶ。 4)育児期の母親の行動拡大を促すための相談・支援を学ぶ。 5)乳幼児の健やかな成長発達を促すための親への相談と支援を学ぶ。		
評価方法	授業への参加度30% レポート70%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 授業オリエンテーション　奈良県の母子保健事業	講義	五十嵐
	2 奈良市における母子保健事業①	講義・演習	五十嵐 乾 木村 山崎
	3 奈良市における母子保健事業②	講義・演習	五十嵐 乾 木村 山崎
	4 奈良市における母子保健事業③	講義・演習	五十嵐 乾 木村 山崎
	5 香芝市における母子保健事業①	講義・演習	五十嵐 乾 木村 山崎
	6 香芝市における母子保健事業②	講義・演習	五十嵐 乾 木村 山崎
	7 香芝市における母子保健事業③	講義・演習	五十嵐 乾 木村 山崎
	8 まとめ	講義	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）	奈良県の市町村における母子保健事業についてまとめておく。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考書	適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 助産診断・技術学演習Ⅰ-妊娠期-　　授業コード：N121480

英文科目名称： Midwifery Diagnostics and Practice Ⅰ: Care During Pregnancy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
上田　佳世			
添付ファイル			

全担当教員	上田佳世
概要	ヘルスプロモーションの視点に基づいた妊娠期における健康問題・課題を見出すことに対し助産過程を展開して助産診断技術・援助技術を修得する。 尊いいのちを家族とともに迎え、健やかで豊かな母性を育み、出産や育児に向かう女性にとってより良い助産ケアを提供するために、必要な専門知識や理論を統合し、専門家として姿勢や倫理を養う。
目標	1.妊娠期の女性の健康と胎児の成長・発達必要な解剖・生理学の基礎を説明できる 2.妊娠期の女性と胎児の健康の診断技術を学び、妊娠期における女性とその家族の身体的、心理的、社会的な健康状態について考慮した助産過程の展開ができ、基本的な支援を学修する
評価方法	●　助産診断や保健指導計画書の作成、発表やロールプレイでの表現、内容、参加状態40% ●　試験（小テスト、定期試験）60%

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 授業ガイダンス　妊娠期の心理的・社会的変化	講義	上田
2 妊娠期の助産診断のための基本知識① 妊娠の生理　胎児の成長と発達　妊娠の診断	講義	上田
3 妊娠期の助産診断のための基本知識② 母体の生理学的変化　胎児の発育・健康状態	講義	上田
4 妊娠期の助産診断のための基本知識③ 妊娠の生理と関連した検査	講義	上田
5 妊婦への支援　日常生活の適応のケア	講義	上田
6 妊婦への助産ケア技術 妊婦健診：腹部触診、胎児心音聴取、骨盤外計測	演習	上田
7 妊婦への支援　マイナートラブルの支援	講義	上田
8 出生前診断と遺伝カウンセリング	講義	遺伝カウンセラー 増井先生
9 妊婦への支援　心理・社会的ケア	講義	上田
10 助産診断　妊娠期の事例演習 妊娠初期　アセスメント・助産診断	演習	上田
11 妊娠期からの母乳育児	講義	上田
12 周産期メンタルヘルス	講義	臨床心理士 山本先生
13 妊娠期の事例演習 妊娠初期・中期　アセスメント・助産診断	演習	上田
14 妊娠期の事例演習 妊娠中期　アセスメント・助産診断	演習	上田

	15 妊娠・授乳とくすり	講義	薬剤師 宮原先生
	16 妊娠期の事例演習 妊娠後期　アセスメント・助産診断	演習	上田
	17 妊娠期の事例演習 妊娠後期　助産計画と保健指導計画	演習	上田
	18 妊娠期の事例演習 妊娠後期　保健指導計画の発表	演習	上田
	19 妊娠期の事例演習 保健指導のロールプレイ	演習	上田
	20 助産外来・院内助産	講義	臨床教育講師
	21 助産外来・院内助産	講義	臨床教育講師
	22 妊娠期の事例演習 妊娠後期　保健指導のロールプレイ	演習	上田
	23 ハイリスク妊娠 切迫流早産　子宮内胎児発育遅延	講義	上田
	24 妊娠期の事例演習 ハイリスク妊娠　切迫流早産　子宮内胎児発育遅延	演習	上田
	25 ハイリスク妊娠 妊娠高血圧症	講義	上田
	26 妊婦への助産ケア技術 清潔ケア、輸液管理	演習	上田
	27 ハイリスク妊娠 糖代謝異常	講義	上田
	28 ハイリスク妊娠 多胎	講義	上田
	29 ハイリスク妊娠 その他合併症　前置胎盤、精神疾患、甲状腺疾患、子宮筋腫	講義	上田
	30 妊娠期　まとめ	講義	上田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前・事後学修：各講義・演習で提示する課題を指定した日程までに取り組んでおいてください。		
テキスト	助産学講座４　母子の心理・社会学　医学書院 助産学講座５　助産診断・技術学Ⅰ　医学書院 助産学講座６　助産診断・技術学Ⅱ〔1〕　医学書院 病気がみえる　Vol.9　婦人科・乳腺外科　医療情報科学研究所(編)　メディックメディア 病気がみえる　Vol.10　産科　医療情報科学研究所(編)　メディックメディア 助産師のためのフィジカルイグザミネーション　我部山キヨ子／大石時子　医学書院 実践マタニティ診断　第5版　日本助産診断・実践研究会　医学書院		
参考書	産婦人科診療ガイドライン　産科編2023　日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会 エビデンスに基づく助産ガイドライン-妊娠期・分娩期・産褥期　2020年　日本助産学会		
学生へのメッセージ等	妊娠した女性は出産や育児に向けて親になっていく心と身体を整えます。女性やその家族にとっての助産師の支援は新たないのちを育んでいく上でとても重要な役割を担っています。この講義や演習を通して助産師を目指す皆さんにとって助産ケアの重要性を体感し学び合えればと思っております。		

講義科目名称： 助産診断・技術学演習Ⅱ-分娩期-　　授業コード：N121490

英文科目名称： Midwifery Diagnostics and Practice Ⅱ: Care During Labor & Birth

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	３	必修
担当教員			
乾 つぶら			
添付ファイル			

全担当教員	乾 つぶら／木村 奈緒美／山崎 愛／岩田 塔子／内田 優美子／産婦人科医師
概要	分娩経過についての助産診断を基に、個別性に応じた助産計画を立案する能力を養い、分娩期において母子の安全と安楽を提供できる助産技術を修得する。
目標	１）分娩期における助産実践の基盤となる理論が理解できる。 ２）助産診断に基づいて、分娩期における母子、および、その家族の個別性に応じた助産過程の展開ができる。 ３）分娩経過について助産診断を行い、正常を逸脱する可能性についての予測ができる。 ４）分娩介助技術の原理及び出生直後の新生児管理が理解できる。 ５）母子関係確立と家族関係の再構築に向けた支援ができる。
評価方法	評価方法：筆記試験20-30%、技術試験10%、講義演習への参加30%、提出課題30-40% 評価基準： ・筆記試験は分娩期の助産診断と知識を選択式・記述式で評価する。 ・技術試験は科学的根拠に基づいた分娩介助技術の修得で評価する。 ・講義演習への参加は、グループワーク・ロールプレイ・発表・討論の内容、運営全体への貢献度で評価する。 ・提出課題はマタニティ診断に沿って分娩期の助産過程を展開できているかで評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 授業ガイダンス	講義	乾
2 分娩期の看護 知識・ 技術 試験	講義・演習	乾
3 分娩時における胎児の健康（CTG）1	講義	産婦人科医師
4 分娩時における胎児の健康（CTG）2	講義・演習	産婦人科医師
5 超音波診断法演習 1	講義	産婦人科医師
6 超音波診断法演習 2	講義・演習	産婦人科医師
7 分娩期の診断技術1	講義	乾
8 分娩期の診断技術2	講義・演習	乾
9 産痛緩和	講義	乾
10 分娩期の助産ケア	講義・演習	乾
11 分娩介助の原理と介助方法 1	演習	乾
12	演習	乾

	分娩介助の原理と介助方法 2		
	13 出生直後の新生児ケア・分娩直後の産婦ケア	講義	乾
	14 分娩期助産過程の実際1	講義	乾
	15 分娩期助産過程の実際2	講義	乾
	16 助産院における正常分娩の助産診断・技術とケア	講義	岩田
	17 正常からの逸脱時の助産診断・技術とケア	講義	岩田
	18 分娩介助演習(技術試験) 1	講義	乾/木村/山崎
	19 分娩介助演習(技術試験) 2	演習	乾/木村/山崎
	20 分娩介助演習(技術試験) 3	演習	乾/木村/山崎
	21 児の出生時の対応と蘇生(NCPR) 1	講義	内田
	22 児の出生時の対応と蘇生(NCPR) 2	講義・演習	内田
	23 児の出生時の対応と蘇生(NCPR) 3	講義・演習	内田
	24 フリースタイル分娩演習 1	演習	岩田/乾
	25 フリースタイル分娩演習 2	演習	岩田/乾
	26 分娩期の標準計画と保健指導 1	講義・演習	乾
	27 分娩期の標準計画と保健指導 2	講義・演習	乾
	28 事例による分娩介助演習 1	演習	乾
	29 事例による分娩介助演習 2	演習	乾
	30 まとめ	講義	乾
授業外学修（事前学修・事後学修）	受講前に該当する授業内容に関する教科書・参考書を精読し、自分なりに考えと疑問をまとめた上で講義に臨んで下さい。 また、各講義で提示する課題に自主的に取り組み、指定した期日までに提出して下さい。		
テキスト	助産学講座2　基礎助産学[2]　母子の基礎科学　医学書院 助産学講座3　基礎助産学[3]　母子の健康科学　医学書院 助産学講座4　基礎助産学[4]　母子の心理・社会学　医学書院 助産学講座5　助産診断・技術学Ⅰ　医学書院 助産学講座6　助産診断・技術学Ⅱ［1］妊娠期　医学書院 助産学講座7　助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期　医学書院 助産学講座8　助産診断・技術学Ⅱ［3］新生児期・乳幼児期　医学書院 産婦人科診療ガイドライン　産科編　2023　日本産婦人科学会		

	助産業務ガイドライン　2019　日本助産師会 実践 マタニティ診断 第5版 日本助産診断実践研究会編 医学書院 仁志田博司編：新生児学入門　第5版　医学書院 日本新生児成育医学会(編)：新生児学テキスト　メディカ出版 細野茂春監修：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト第4版　メジカルビュー社
参考書	今日の助産 改訂第4版　北川眞理子・内山和美編 南江堂 標準産科婦人科科学　第5版　綾部琢哉・板倉敦夫　医学書院 助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全　2021年版　日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア 2021年版　日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 2021年版 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア、新生児期・乳幼児期のケア 2021年版 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア　2021年版 日本看護協会出版会 マタニティ診断ガイドブック 第6版 日本助産診断実践研究会編 医学書院 THE 分娩: ビジュアルで学ぶ 生理学・助産診断・分娩介助のすべて 石川紀子・中川有加編 村越毅監修　メディカ出版 他、講義の際に紹介予定
学生へのメッセージ等	講義・演習を通して、助産師を志す皆さんが主体的に学ぶ姿勢を重視します。

講義科目名称： 助産診断・技術学演習Ⅲ-産褥・新生児期-　　授業コード：N121500

英文科目名称： Midwifery Diagnostics and Practice Ⅲ: Care During Postpartum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	２	必修
担当教員			
木村　奈緒美			
添付ファイル			

全担当教員	木村奈緒美／山崎愛／越山茂代
概要	産褥期、新生児期および乳児期における専門的知識を統合し、助産過程を展開できる能力を養う。また、対象の背景や価値観、志向を理解し、対象者やその家族が心身の健康が保てるような助産ケア技術を修得する。
目標	1)母児の生理的経過が正常から逸脱していないかをアセスメントし、予防や対処するための支援を説明できる 2)新生児と乳児の身体変化をアセスメントし、胎外生活への適応や成長発達を促す支援を説明できる 3)産褥婦や新生児に助産ケアを提供する基本的な技術方法を説明できる 4)親子の絆や相互作用をアセスメントし、新たな家族形成を促す支援を説明できる 5)産褥婦、児とその家族の全体像を説明できる
評価方法	講義や演習への取り組む姿勢や態度（主体性、積極性）10%、課題への取り組み（課題の内容、ロールプレイ実施の方法）30%、技術の習得度10%、レポート10%、筆記テスト40%に基づき総合的に評価する。

授業計画

	授業内容	授業形態	担当者
1	授業ガイダンス　　産褥期の心理社会的変化と助産ケア	講義	木村
2	産褥期の生理的変化と助産ケア	講義	木村
3	産褥期の身体・精神的な問題と助産ケア	講義	木村
4	褥婦のフィジカルアセスメントとケア	演習	木村・山崎
5	褥婦のフィジカルアセスメントとケア	演習	木村・山崎
6	産褥期の事例演習 アセスメント・助産診断・計画立案	演習	木村
7	産褥期の事例演習 アセスメント・助産診断・計画立案	演習	木村
8	産褥期の事例演習 アセスメント・助産診断・計画立案	演習	木村・山崎
9	新生児の適応生理と正常からの逸脱	講義	木村
10	新生児　出生直後と24時間以降のケア	講義	木村
11	新生児のフィジカルアセスメント	講義	木村
12	新生児のフィジカルアセスメントと諸計測	演習	木村
13	母乳育児	講義・演習	越山 開業助産師
14	母乳育児	講義・演習	越山 開業助産師

	15 産後健診と産後のメンタルヘルス	講義	木村
	16 家族計画と受胎調節実地指導	講義・演習	木村
	17 新生児のケア 沐浴、抱っこ、オムツ交換、寝衣交換	演習	木村
	18 授乳支援 授乳指導、搾乳と人工乳の授乳方法	演習	木村
	19 授乳支援 授乳指導、搾乳と人工乳の授乳方法	演習	木村
	20 授乳支援 授乳指導、搾乳と人工乳の授乳方法	演習	木村
	21 NICU/GCUに入院するハイリスク新生児の特徴とケア	講義・演習	臨床教育講師
	22 ハイリスク新生児のケアの基本	講義・演習	臨床教育講師
	23 新生児の事例演習 アセスメント・助産診断・計画立案	演習	木村
	24 新生児の事例演習 アセスメント・助産診断・計画立案	演習	木村
	25 新生児の事例演習 アセスメント・助産診断・計画立案	演習	木村・山崎
	26 乳児の発育発達と乳児健診	講義	木村
	27 産褥婦や新生児を対象にした保健指導　計画 母児同室と保清指導、産後指導、新生児指導、退院指導、家族計画	演習	木村・山崎
	28 産褥婦や新生児を対象にした保健指導　計画 母児同室と保清指導、産後指導、新生児指導、退院指導、家族計画	演習	木村・山崎
	29 産褥婦や新生児を対象にした保健指導　実施 母児同室と保清指導、産後指導、新生児指導、退院指導、家族計画	演習	木村・山崎
	30 産褥婦や新生児を対象にした保健指導　実施 母児同室と保清指導、産後指導、新生児指導、退院指導、家族計画	演習	木村・山崎
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前・事後学修：各講義・演習で提示する課題を指定した日程までに取り組んでおいてください。		
テキスト	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期　（医学書院） 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期　（医学書院） 助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア、新生児期・乳幼児期のケア（日本看護協会出版会） 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア（日本看護協会出版会） 母乳育児支援スタンダード 編集NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会　（医学書院） 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 第3版（医学書院） 実践マタニティ診断 第5版（医学書院）		
参考書	助産学実習プレブック　助産過程の思考プロセス（医歯薬出版） ウェルネスからみた 母性看護過程 第4版（医学書院） 新生児学入門 仁志田博司 改訂第5版　（医学書院） 受胎調節指導用テキスト　（日本家族計画協会） 病気がみえる　Vol.10　産科　医療情報科学研究所(編)　メディックメディア		
学生へのメッセージ等	現在の女性は多様な価値観を持ち、社会的にも多くの役割をこなしながら母親としての役割も遂行しています。このようなニーズに対応しながらも、母親やその家族が新たに生まれてきた命を守ることができるような力をつけることができるように助産師が支援することが重要です。この講義や演習では、産褥期の女性や新生		

	児が心身共に健康な状態を維持向上できるために必要な助産師としての観察の視点、技術を習得していただきたいと思っています。

講義科目名称： 助産診断・技術学演習Ⅳ-ハイリスク-　　授業コード：N121510

英文科目名称： Midwifery Diagnostics and Practice Ⅳ: Care of the Newborn

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	3	必修
担当教員			
乾　つぶら			
添付ファイル			

全担当教員	乾　つぶら／産婦人科医師／看護教育講師／ゲストスピーカー
概要	周産期における母子の健康状態をアセスメントし、リスクを評価するための知識を修得する。また、周産期に発症しやすい異常について知識を得て、異常分娩の介助、ハイリスク妊産褥婦への助産ケア、緊急時の対応に関する理解を深める。
目標	１）周産期における母児の健康逸脱、異常予測のヘルスアセスメントとケアに必要な知識を説明できる。 ２）妊娠期・分娩期・産褥期に発症しやすい異常とその要因、発生機序、病態生理、検査、治療について説明できる。 ３）出生直後の新生児管理が説明できる。 ４）周産期における医療と看護、ハイリスク妊産褥期への助産ケアを説明できる。 ５）周産期における正常からの逸脱を予測し、その予防的関わりについて説明できる。 ６）ハイリスク妊産褥婦への看護・助産ケアの計画立案ができる。
評価方法	評価方法：筆記試験60%、講義演習への参加と貢献度20%、提出課題20% 評価基準： ・筆記試験はハイリスク妊娠分娩産褥の医学的知識を選択式・記述式で評価する。 ・講義演習への参加は、グループワーク・ロールプレイ・発表・討論の内容、運営全体への貢献度で評価する。 ・提出課題は正常からの逸脱がある場合の助産過程を展開できているか、蒸散計画が立案できているかで評価する。

授業計画

授業内容	授業形態	担当者
1 周産期におけるハイリスク母児と助産師の役割	講義	乾
2 妊娠期のリスクと医療1	講義	産婦人科医師
3 妊娠期のリスクと医療2	講義	産婦人科医師
4 妊娠期のリスクと医療3	講義	産婦人科医師
5 妊娠期のリスクと医療4	講義	産婦人科医師
6 分娩期のリスクと医療1	講義	産婦人科医師
7 分娩期のリスクと医療2	講義	産婦人科医師
8 分娩期のリスクと医療3	講義	産婦人科医師
9 産科出血と妊産婦管理・産科ショック	講義	産婦人科医師
１０ 産褥期のリスクと医療1	講義	産婦人科医師
１１ 産褥期のリスクと医療2	講義	産婦人科医師
１２	講義	産婦人科医師

	会陰切開と縫合術1		
	１３ 会陰切開と縫合術2	講義・演習	産婦人科医師
	１４ 硬膜外麻酔分娩と産科麻酔1	講義	麻酔科医師
	１５ 硬膜外麻酔分娩と産科麻酔2	講義	麻酔科医師
	１６ ハイリスク妊産褥婦への助産ケア1	講義	看護教育講師
	１７ ハイリスク妊産褥婦への助産ケア2	講義	看護教育講師
	１８ ハイリスク妊産褥婦への助産ケア3	講義	ゲストスピーカー
	１９ ハイリスク妊産褥婦への助産ケア4	講義・演習	乾
	２０ ハイリスク妊産褥婦への助産ケア5	講義・演習	乾
	２１ ハイリスク妊産褥婦への助産ケア6	講義・演習	乾
	２２ ハイリスク妊産褥婦への助産ケア7	講義・演習	乾
	２３ ハイリスク妊産褥婦への助産ケア8	講義・演習	乾
	２４ ハイリスク妊産褥婦への助産ケア9	講義・演習	乾
	２５ ハイリスク妊産褥婦への助産ケア10	講義・演習	乾
	２６ ハイリスク事例の標準計画と保健指導1	講義	乾
	２７ ハイリスク事例の標準計画と保健指導2	講義	乾
	２８ ハイリスク事例の標準計画と保健指導3	講義・演習	乾
	２９ ハイリスク事例の標準計画と保健指導4	講義・演習	乾
	３０ まとめ	講義	乾
授業外学修（事前学修・事後学修）	受講前に該当する授業内容に関する教科書・参考書を精読し、自分なりに考えと疑問をまとめた上で講義に臨んで下さい。 また、各講義で提示する課題に自主的に取り組み、指定した期日までに提出して下さい。		
テキスト	助産学講座2　基礎助産学[2]　母子の基礎科学　医学書院 助産学講座3　基礎助産学[3]　母子の健康科学　医学書院 助産学講座4　基礎助産学[4]　母子の心理・社会学　医学書院 助産学講座5　助産診断・技術学Ⅰ　医学書院 助産学講座6　助産診断・技術学Ⅱ［1］妊娠期　医学書院 助産学講座7　助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期　医学書院 助産学講座8　助産診断・技術学Ⅱ［3］新生児期・乳幼児期　医学書院 産婦人科診療ガイドライン　産科編　2020　日本産婦人科学会		

	助産業務ガイドライン　2019　日本助産師会
参考書	今日の助産 改訂第4版　北川眞理子・内山和美編 南江堂 標準産科婦人科科学　第5版　綾部琢哉・板倉敦夫　医学書院 助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全　日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア、新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア　日本看護協会出版会 実践 マタニティ診断 第5版 日本助産診断実践研究会編 医学書院 マタニティ診断ガイドブック 第6版 日本助産診断実践研究会編 医学書院 他、講義の際に紹介予定
学生へのメッセージ等	講義・演習を通して、助産師を志す皆さんが主体的に学ぶ姿勢を重視します。

講義科目名称： 助産学実習Ⅰ-基礎-　　授業コード：N191030

英文科目名称： Clinical Practice in Midwifery Ⅰ-Basic-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	1	必修
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／乾　つぶら／木村　奈緒美／山崎　愛
概要	妊産褥婦とその家族を対象とした健康教育の実際を見学し、妊娠期・産褥期にある対象者のニーズや健康課題に対する助産師の関わりを学び、看護学の知識技術も応用して助産学の基盤となる科学的思考力の基礎を培う。また、分娩を担当する助産師の周産期チーム医療における役割を知り、実習を通して、助産師としての倫理を意識し、理想とする助産師モデルを思い描く。
目標	1. 妊産褥婦とその家族の特性、ニーズ、健康課題について説明できる。 2. 妊産褥婦とその家族に実施される助産計画の臨床的根拠を述べることができる。 3. 分娩期において、助産師が提供する対象者への安全への配慮、安楽を考慮したケアについて説明できる。 4. 周産期のチーム医療における助産師の役割について説明できる。
評価方法	実習要項を参照
授業計画	【実習場所】 奈良県立医科大学附属病院 【実習時期】 1年前期 【実習内容】 集団健康教育を見学する。奈良県立医科大学附属病院での分娩に立会う（詳細は実習要項参照）。 １）集団健康教育の実際を見学し、集団における健康教育の運営とともに、妊産褥婦とその家族の個別性にも対応した保健指導のあり方を学ぶ。 ２）分娩に立会い、産婦の助産診断と助産ケアおよび分娩介助、間接介助および出生直後の児のケアを学ぶ。
授業外学修（事前学修・事後学修）	実習要項を参照
テキスト	別途提示する。
参考書	
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 助産学実習Ⅱ-病院-　　授業コード：N191040

英文科目名称： Clinical Practice in MidwiferyⅡ-Hospital-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	9	必修
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／乾　つぶら／木村　奈緒美／山崎　愛
概要	周産期にある母子や家族を対象に、既習の知識技術を活用して助産過程を展開し、対象に応じた助産診断とその診断に基づく継続的な助産ケアを選択する。実習を通して、助産師としての倫理観を養い、理想とする助産師像を描く。
目標	１．分娩介助実習 １）分娩期にある母児とその家族を統合して捉えた助産診断をもとに助産計画が立案できる。 ２）分娩期にある母児を対象に対象者のニーズと臨床的根拠に基づき安全安楽に配慮した助産ケアが実施できる。 ３）母児の経過を通して、臨床助産師および教員と助産計画を振り返ることができる。 ４）自己の助産師像を描くことができる。 ２．継続事例実習 １）母児とその家族を統合して捉え助産診断ができる。 ２）対象のニーズと臨床的根拠に基づいた安全安楽な助産ケアが実施できる。 ３）退院後の母児の健康と育児を見据えた助産ケアを計画し実施できる。 ４）母児とその家族との信頼関係を結び、生命の尊厳を守る。 ５）周産期における継続ケアの必要性が説明できる。 ６）自己の助産師像を描くことができる。
評価方法	助産学実習要項を参照
授業計画	【実習場所】 病院、産婦人科医院等において、助産学実習を行う。 【実習時期】 １年後期　(9月～ 2月) 【実習内容】 分娩介助実習、継続事例実習、産褥・新生児期の実習を含む周産期助産実践実習（詳細は実習要項参照）。
授業外学修（事前学修・事後学修）	助産学実習要項を参照
テキスト	別途提示する。
参考書	適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 助産学実習Ⅲ-ハイリスク-　　授業コード：N191050

英文科目名称： Clinical Practice in Midwifery Ⅲ-High Risk-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	２	必修
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／乾　つぶら／木村　奈緒美／山崎　愛
概要	１，ハイリスク妊産褥婦実習 ハイリスク妊産褥婦、児とその家族を対象に、妊娠・分娩経過と対象の特徴をとらえた助産診断を展開する。親子の相互作用を促し、生涯をとおしてより健康な生活が過ごせるよう最善の助産ケアを目指した、助産ケア実践に必要な技術を習得する。実習をとおして、周産期医療における助産師としての倫理観を養う。 ２．ハイリスク児実習 ハイリスク児と家族を対象に、胎児期から生後の経過と対象の特徴を捉えた上で、生涯をとおして健全な成長発育や生活ができるよう、より良い支援を学ぶ。実習をとおして、新生児医療における専門職としての倫理観を養う。
目標	１．ハイリスク妊産褥婦実習 １）妊産褥婦と児の状態や健康問題をアセスメントできる。 ２）統合した情報を基に的確な助産診断ができる。 ３）対象のニーズと臨床的根拠に基づいた助産計画が立案できる。 ４）安全安楽に配慮した助産ケアの必要性と方法を説明できる。 ５）母児とその家族の主体性を尊重した信頼関係について説明できる。 ６）生命の尊厳を守る態度や行動がとれる。 ７）助産師としての自律した態度を身につけることができる。 ２．ハイリスク児実習 １）児の状態や健康問題をアセスメントできる。 ２）統合した情報を基に的確な助産診断ができる。 ３）対象のニーズと臨床的根拠に基づいた助産計画が立案できる。 ４）安全安楽に配慮したケアが実施できる。 ５）児とその家族の主体性を尊重した信頼関係について説明できる。 ６）倫理観をもって生命の尊厳を守る態度や行動をとることができる。 ７）助産師としての自律した態度を身につけることができる。
評価方法	助産学実習要項参照
授業計画	【実習場所】 奈良県立医科大学附属病院産科病棟およびNICU/GCU 【実習時期】 1年後期 【実習方法】 ハイリスク妊産褥婦およびハイリスク児を受持ち、助産過程を展開する（詳細は実習要項参照）。
授業外学修（事前学修・事後学修）	助産学実習要項参照
テキスト	別途提示する。
参考書	適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 助産学実習Ⅳ-保健指導-　　授業コード：N191060

英文科目名称： Clinical Practice in Midwifery Ⅳ-Health Instruction-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	1	必修
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／乾　つぶら／木村　奈緒美／山崎　愛
概要	妊産褥婦やその家族の集団が経験する出産や育児生活に対して抱く個々のニーズや特徴をとらえる。 保健指導により対象となる集団個々の良い出産体験につながり、産後の生活や育児にも不安なく自信をもって過ごせるような助産ケアの技術を習得する。
目標	1.対象集団の特性、ニーズ、健康課題の特徴を説明できる 2.対象集団に合った目的、目標、教育内容、教育方法を考察し、説明できる 3.対象集団が参加しやすい雰囲気や環境づくりについて考察し、助言を得ながら実施できる出産や育児を迎える妊 産褥婦とその家族に対して、集団健康教育の企画、立案、　準備、実施、振り返りをすることができる。 4.集団健康教育や参加型クラスでの必要な技術を学ぶことを通して、自己課題を振り返ることができる。 5.集団健康教育を創り上げるにあたり、個々人が状況に応じてメンバーシップやリーダシップをとりチームダイナ ミクスを発揮する技能を習得できる。
評価方法	グループ作業への参加状況や教員、指導者との調整力、対象集団へのわかりやすい媒体の工夫、実施時の状況,レポートなど総合的に判断する。
授業計画	【実習場所】 奈良県立医科大学附属病院 【実習時期】 1年後期 【実習内容】 集団健康教育を企画し運営する（詳細は実習要項参照） 1）集団健康教育の計画の立案、修正と媒体の作成を行う。 集団健康教育の計画を立案後に臨床指導者や教員からの助言に基づき、評価と修正を行う。 2）集団健康教育の指導計画の立案、修正、準備、実施をグループメンバーで議論し協働して行う。
授業外学修（事前学修・事後学修）	別途提示する。
テキスト	別途提示する。
参考書	
学生へのメッセージ等	この実習では、対象となる妊婦や産褥期の母児やその家族という集団に対して保健指導を行います。個別性だけでなく、集団に対する保健指導という視点を学びます。また、グループ作業が中心となりますので、グループダイナミクスによって得られることの学びや達成感を感じてください。

講義科目名称： 助産学実習Ⅴ-助産所-　　授業コード：N191070

英文科目名称： Clinical Practice in Midwifery Ⅳ-Maternity home-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	２	必修
担当教員			
五十嵐　稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐　稔子／乾　つぶら／木村　奈緒美／山崎　愛
概要	助産所での分娩を選択した女性やその家族を対象に、既習の知識技術を活用して助産過程を展開し、根拠に基づく自立した助産実践を学ぶ。さらに、高い倫理観と助産師としてのアイデンティティの形成を目指す。
目標	１）助産所を選んだ女性とその家族を統合して捉え助産診断・計画立案ができる。 ２）自然分娩に向けた対象のニーズと、臨床的根拠に基づいた安全安楽な助産ケアが実践できる。 ３）助産所の管理運営について説明できる。 ４）母児とその家族との信頼関係を結び、生命の尊厳を守る。 ５）助産師としてのアイデンティティ形成を目指すことができる。
評価方法	助産学実習要項を参照
授業計画	【実習内容】 継続事例を1事例受け持ち、妊娠中期から育児期までの継続事例実習を通して望ましい助産のあり方を追求する。 詳細は実習要項参照。
授業外学修（事前学修・事後学修）	助産学実習要項を参照
テキスト	別途提示する。
参考書	適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	

大学院看護学研究科 博士前期課程 研究指導教員・研究指導補助教員一覧

科目名	研究指導教員			研究指導補助教員		
	職名	氏名	部屋番号等	職名	氏名	部屋番号等
健康科学（心と脳の発達学）	教授	太田　豊作	505			
健康科学（睡眠学）	教授	山内　基雄	405			
基礎看護学	教授	松田　明子	403			
看護実践応用学	教授	石澤　美保子	503			
がん看護学	准教授	升田　茂章	507			
高齢者看護学	教授	澤見　一枝	504			
小児看護学	教授	川上　あずさ	502			
女性健康・助産学	教授	五十嵐　稔子	401	講師	乾　つぶら	514
				講師	上田　佳世	513
				講師	木村　奈緒美	406
精神看護学	教授	奥田　淳	508	講師	橋本　顕子	407
在宅看護学	教授	小竹　久実子	402	准教授	佐藤　郁代	404
				講師	栗田　麻美	513
公衆衛生看護学	准教授	坂東　春美	509	講師	堀内　沙央里	408
周麻酔期看護学	教授	川口　昌彦	麻酔科医局	講師	林　浩伸	麻酔科医局
				講師	恵川　淳二	麻酔科医局
				講師	内藤　裕介	麻酔科医局

博士後期課程

奈良県立医科大学大学院看護学研究科博士後期課程
ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー

看護学研究科博士後期課程においては、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格することが、課程の修了と学位授与の必要条件である。修了時には以下の能力が求められる。

１高度化・専門分化及び多様化していく医療に要求される学識を有し、看護学の発展を牽引できる能力を修得している。
２深い専門知識や技能を持って、国際的視野から幅広く看護学を探究し、自立して研究及び教育を行うことができる能力を修得している。
３豊かな感性・人間性と高度専門職業人としての倫理観に基づき、創造的な研究を行い、看護実践につなげ、地域・社会に展開できる能力を修得している。

カリキュラム・ポリシー

教育理念・目的に基づき、豊かな感性、人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化、専門分化および多様化していく医療に要求される学識を修得、発展させながら、実践科学としての看護学の深奥を極め、自立して研究を行うに必要な、高度な能力を育成するために２つの分野を設けカリキュラムを配置する。

１様々な健康レベルや健康に対するニーズを持つ人のライフサイクルに応じ、より個別性を見据えた健康回復・維持・増進に対応するため、生涯発達看護学分野及び療養・生活支援看護学分野を設ける。生涯発達看護学分野は、発達し続ける人間の存在に対する深い理解を基盤に看護を探究する分野であり、療養・生活支援看護学分野は、人々の生活を基盤に高度な専門性と実践を探究する分野である。
２系統的・段階的に学修できるよう、教育課程では共通科目、専門科目及び研究科目の3つの区分を設け、専門科目及び研究科目に生涯発達看護学分野及び療養・生活支援看護学分野を配置する。
３共通科目は、必修科目として、実践科学としての看護学の学識を深めるため看護の理論と概念を配置し、研究遂行の基盤を養うため看護学研究法を配置する。
また、選択科目として、高度な病態生理学的思考を養うため看護病態学を、国際的な発信力を養うためアカデミックライティングを、地域及び国際社会に活用可能なケアシステムを創造する能力を養うため看護ケアシステム開発を、生涯教育としての教育のあり方を探究する能力を養うため看護人材育成論を配置する。
４専門科目は、看護学の発展に寄与する創造的な研究課題を導き出し、研究に取り組む能力を養うため分野ごとに特論を配置し、医療、看護に関する深い学識と幅広い視野から自立して研究及び教育を行う能力を養うため分野ごとに演習を配置する。
５研究科目は、高度専門職業人及び研究者としての高い倫理感と、創造的な研究を看護実践につなげ、地域・社会に展開できる能力を養うため分野ごとに特別研究を配置する。

［教育方法］
授業形態は講義・演習とし、主体的な学習を推進するために、アクティブラーニングを基本とする多様な学修方法の提供を行う。

［教育評価］
学習成果は、授業における授業貢献度、課題、レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、中間報告会及び研究成果等で総合的に評価する。

アドミッション・ポリシー

１　豊かな感性・人間性と生命倫理や医療倫理を身につけている人
２　看護学に対する深い関心があり、専攻する学問分野の専門知識と応用能力を身につけている人
３　学際的・国際的視野を持ち、自ら進んで課題に取り組む意欲と探究心がある人
４　看護学の教育、研究、実践の分野で地域社会に貢献する意志があり、牽引することができる人

令和6年度 大学院看護学研究科 博士後期課程 年間教務日程

日程		学事	備考
令和6年	4月 1日(月)～ 4月 15日(月)	履修届提出期間	
	4月 5日(金)	入学式	
	4月 8日(月)	前期授業開始	
	7月 22日(月)	前期授業終了	
	7月 23日(火)～ 9月 19日(木)	夏期休暇[注1]	
	8月 19日(月)		大学院入学試験（1次募集）[注2]
	9月 19日(木)	修士論文中間発表会(予定)	
	9月 20日(金)	後期授業開始	
	11月 17日(日)		看護学科推薦入試（学校推薦型選抜）[注2]
	12月 2日(月)		大学院入学試験（2次募集）（予定）[注2]
	12月 24日(火)～ 1月 5日(日)	冬期休暇	
令和7年	1月 6日(月)	後期授業再開	
	1月 18日(土)～ 1月 19日(日)		大学入学共通テスト[注2]
	1月 27日(月)	後期授業終了	
	2月 20日(木)	博士前期課程公聴会	
	2月 25日(火)～ 2月 26日(水)		一般選抜（前期日程）試験[注2]
	3月 12日(水)～ 3月 13日(木)		一般選抜（後期日程）試験[注2]
	3月 14日(金)	学位授与式（予定）	
	3月 15日(土)～入学式前日	春期休暇	

[注1] 夏期休暇中に、修士論文中間発表会、助産学実践コース1・2年生の助産学実習を行う。
[注2] 入学試験及び準備に当たる日は、校舎内立入禁止

令和６年度 大学院看護学研究科博士後期課程 時間割

【前期】（4～9月）

曜日・学年 ＼ 時限		1 9：00～10：30	2 10：40～12：10	3 13：00～14：30	4 14：40～16：10	5 16：20～17：50	6 18：00～19：30	7 19：40～21：10
月	1年							療養・生活支援看護学分野特論・演習 （健康科学（睡眠学））
	2年							
	3年							
火	1年							
	2年					療養・生活支援看護学分野特別研究 （看護実践応用学）		
	3年					療養・生活支援看護学分野特別研究 （看護実践応用学）		
水	1年						看護学研究法	
	2年							
	3年							
木	1年					療養・生活支援看護学分野特論・演習 （基礎看護学） 療養・生活支援看護学分野特論・演習 （看護実践応用学）	生涯発達看護学分野特論・演習 （小児看護学） 生涯発達看護学分野特論・演習 （健康科学（心と脳の発達学）） 生涯発達看護学分野特論・演習 （高齢者看護学） 生涯発達看護学分野特論・演習 （女性健康・助産学）	
	2年					療養・生活支援看護学分野特別研究 （基礎看護学）		生涯発達看護学分野特別研究 （小児看護学） 療養・生活支援看護学分野特別研究 （健康科学（睡眠学）） 生涯発達看護学分野特別研究 （高齢者看護学）
	3年					療養・生活支援看護学分野特別研究 （基礎看護学）		生涯発達看護学分野特別研究 （小児看護学） 療養・生活支援看護学分野特論・演習 （健康科学（睡眠学）） 生涯発達看護学分野特別研究 （高齢者看護学）
金	1年						看護人材育成論	看護ケアシステム開発
	2年					生涯発達看護学分野特別研究 （女性健康・助産学）		生涯発達看護学分野特別研究 （健康科学（心と脳の発達学））
	3年					生涯発達看護学分野特別研究 （女性健康・助産学）		生涯発達看護学分野特別研究 （健康科学（心と脳の発達学））
土	1年		療養・生活支援看護学分野特論・演習 （在宅看護学）					
	2年	療養・生活支援看護学分野特別研究 （在宅看護学）						
	3年	療養・生活支援看護学分野特別研究 （在宅看護学）						

：共通科目

令和６年度 大学院看護学研究科博士後期課程 時間割

【後期】（9～3月）

曜日・学年 ＼ 時限		1 9：00～10：30	2 10：40～12：10	3 13：00～14：30	4 14：40～16：10	5 16：20～17：50	6 18：00～19：30	7 19：40～21：10
月	1年							アカデミック・ライティング
	2年							
	3年							
火	1年					看護ケアシステム開発		
	2年					療養・生活支援看護学分野特別研究 （看護実践応用学）		
	3年					療養・生活支援看護学分野特別研究 （看護実践応用学）		
水	1年					療養・生活支援看護学分野特論・演習 （基礎看護学）	看護の理論と概念	生涯発達看護学分野特論・演習 （高齢者看護学） 生涯発達看護学分野特論・演習 （女性健康・助産学）
	2年							療養・生活支援看護学分野特別研究 （健康科学（睡眠学））
	3年							療養・生活支援看護学分野特別研究 （健康科学（睡眠学））
木	1年					看護病態学	生涯発達看護学分野特論・演習 （小児看護学） 生涯発達看護学分野特論・演習 （健康科学（心と脳の発達学））	療養・生活支援看護学分野特論・演習 （看護実践応用学）
	2年					療養・生活支援看護学分野特別研究 （基礎看護学） 生涯発達看護学分野特別研究 （小児看護学） 生涯発達看護学分野特別研究 （女性健康・助産学）		生涯発達看護学分野特別研究 （高齢者看護学）
	3年					療養・生活支援看護学分野特別研究 （基礎看護学） 生涯発達看護学分野特別研究 （小児看護学） 生涯発達看護学分野特別研究 （女性健康・助産学）		生涯発達看護学分野特別研究 （高齢者看護学）
金	1年						看護人材育成論	療養・生活支援看護学分野特論・演習 （健康科学（睡眠学））
	2年							生涯発達看護学分野特別研究 （健康科学（心と脳の発達学））
	3年							生涯発達看護学分野特別研究 （健康科学（心と脳の発達学））
土	1年		療養・生活支援看護学分野特論・演習 （在宅看護学）					
	2年	療養・生活支援看護学分野特別研究 （在宅看護学）						
	3年	療養・生活支援看護学分野特別研究 （在宅看護学）						

：共通科目

Ⅰ　看護学研究科博士後期課程の概要

１　設置の趣旨

（１）奈良県立医科大学の沿革

平成 8 年度から地域医療の中核機関である奈良県立医科大学は、看護短期大学部を併設し、看護師及び助産師の養成を進めてきた。今後も引き続きその責務を果たし、さらに発展させていくには、豊かな人間性を育てる教育の強化を図るとともに、効率的なカリキュラムのもとで、看護学及び助産学の教育に保健学の分野も加えて教育し、専門教育をさらに充実させる必要がある。併せて、地域医療・福祉の向上に寄与するため、看護学の研究体制の充実強化も図る必要がある。

このような状況をふまえ、平成 16 年４月、奈良県立医科大学看護短期大学部看護学科（3 年制課程）及び専攻科助産学専攻（1 年課程）を統合発展させる形で、奈良県立医科大学医学部看護学科を設置した。

平成 24 年度には、奈良県立医科大学大学院看護学研究科修士課程を設立。高い倫理観や科学的思考力を育てると共に、学際的視野を広げ、看護学における研究課題を自発的・具体的に研究し、質の高い看護学を学習し、実践できる能力を養うことを目標としている。なお、本県にはそれまで看護学研究科はなく、奈良県では初めての看護学における大学院研究科であり、県内の看護学の教育・研究をリードする場となっている。また、加えて本学修士課程においては、専攻科助産学専攻（1 年課程）を助産学実践コースとして設置し、高度な知識と技術を有し、高度な実践能力を持つ質の高い助産師を養成し、地域に輩出することを目指してきた。

平成 28 年度には、看護学科に在宅看護学を設置すると同時に、大学院看護学研究科修士課程にも在宅看護学を設置し、奈良県の地域包括ケアシステム体制を構築する人材を育てる教育を打ち立てた。さらに、奨学金制度を活用して、奈良県立医科大学（以後、奈良医大）、奈良医大附属病院、奈良県看護協会、在宅看護専門家のサポート連携体制の下、在宅看護のリーダーを育てる在宅看護特別教育プログラムを構築し、優秀な人材を育成している。プログラムには、看護学生、看護学大学院生ともに 6 年コースと 4 年コースがあり、いずれも、「Interest（おもしろい、興味・関心）」を引き出しながら、「在宅看護力」、最終的なアウトカムは「人間力」を高める教育を目指したプログラムである。

平成 30 年 4 月に看護学コースに、高度な知識と技術を有する看護師の養成を目指すべく高度実践看護師教育課程（クリティカルケア看護分野）及び周麻酔期看護師教育課程を設置した。さらに、近年の高度化、複雑化する医療情勢において、がんは今や２人に１人が罹患する疾患となり、患者や家族への看護においては、高度な専門知識に基づいた判断能力、技術、態度及び高い倫理観が求められていることや都道府県がん診療連携拠点病院である附属病院における看護機能を高めるために、がん看護分野を令和 2 年 4 月に設置した。修士課程開設から 13 年が経過し、87 名の修了生を輩出している。この修了生の研究・実践・教育力の発展を支援する必要がある。

（２）奈良県の保健医療の課題

近年、医療の進歩とともに看護学の進歩も著しく、看護領域が高度専門化され、専門看護師、認定看護師、特定行為研修を受けた看護師などが養成されてきている。この看護学の進歩に対応できる人材の育成が必要である。また同時に細分化、専門化するほどこれらの領域を有機的につな

げ、さらに他の職種との連携においてもリーダーとして活躍できる能力を有する看護職者の養成が必要となってきている。

また、本県の特徴として、大阪経済圏に距離的に近い北部の都会型の環境と、へき地が多く存在する南部の過疎地型の環境が共存しており、地域によるニーズの違いも生じている。このような状況の中で保健・医療・福祉に関する様々な問題に対して、的確な対応ができる高度な専門的知識・技術を有する看護職者の育成が重要な課題となってきている。

なお、へき地が本県の 67%を占めており、へき地を中心とした地域医療対策が急務となっている。医師の確保が困難な状況においてはへき地住民の健康を維持し、疾病予防や医療相談を受けられる保健師や助産師、看護師が必要であり、高度な実践能力を有する看護職者およびその看護職者を指導する教育者の育成が重要となっている。

２　教育研究上の理念及び教育目的

本学の理念である「本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。」と教育の理念である「豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。」に基づき、社会的ニーズ、奈良県の保健医療の課題を解決すべく博士後期課程で求められる教育者及び研究者の育成を視野に、以下の博士後期課程の教育研究上の理念及び教育目的を策定した。

教育研究上の理念では、博士後期課程に求める実践科学としての看護学の深奥を究め、自立して研究・教育を行うに必要な、高度な能力を有する人材の育成をめざす。

また、教育目的は、養成する人材として、看護学の発展を牽引できる人材を育成すること、研究者・教育者の育成として、国際的視野を併せ持ち幅広く看護学を探究できる研究者・教育者を育成すること、また、社会貢献として地域・社会に展開できる人材を育成することの 3 つの柱で構成する。

ここでいう教育者とは、次世代を育てる教育力をもつ者をさし、看護基礎教育に従事する教員のみならずキャリア開発、看護実践の指導、実践の場で行われる研究活動を支援・指導する指導者をいう。

〈教育研究上の理念〉

豊かな感性・人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化・専門分化および多様化していく医療に要求される学識を有し、実践科学としての看護学の深奥を究め、自立して研究・教育を行うに必要な、高度な能力を有する人材の育成をめざす。

〈教育目的〉

１優秀かつ柔軟な資質を併せもち、生涯にわたって自ら学び、看護学の発展を牽引できる人材を育成する。

２深い専門知識や技能を持って、国際的視野から幅広く看護学を探究できる研究者・教育者を育

成する。

３人間性豊かな高い倫理観に基づいた高度な看護実践能力と創造的な研究能力をもって地域・社会に展開できる人材を育成する。

３　分野の特色

本博士後期課程は、既存の修士課程の 12 領域のうち 11 領域を統合・再編のうえ、生涯発達看護学分野と療養・生活支援看護学分野の 2 つの分野で構成する。

修士課程においては、本県の地勢的な特徴や少子・高齢化に関する特徴及び高度機能病院を附属病院に持つということを鑑み、地域に居住する住民の疾病予防や健康維持・増進を担う高度な実践能力を有する看護職の育成を目指してきた。しかし、少子・高齢化は加速し、少子・超高齢化、多死社会が到来している。このことへの保健医療対策は本県のみならず我が国の課題である。人々の健康課題は複雑になり、求められる支援は多様化している。様々な健康レベルや健康に対するニーズを持つ人の、ライフサイクルに応じた、しかも、より個別性を見据えた、健康回復・維持・増進に関する方策が求められている。そのためには、修士課程を発展させ、より高度で専門性の高い研究者・教育者の育成が必須である。それに対応するため、人間の存在に対する深い理解を基盤に看護を探究する分野と人々の生活を基盤に高度な専門性と実践を探究する分野を設け、看護を実践・研究・教育することのできる人材の育成を目指す。

生涯発達看護学分野は、人間を「生涯発達し続ける存在」という観点からとらえ、受胎から死に至るまでの人間の発達段階及び発達課題を理解し健康と生活を統合的に追求する看護学分野である。人々の発達や課題、老いや障害とともに生活する人々の健康状態・生活行動からその特性や課題を明らかにする。また、その特性や課題と少子・超高齢化との関連や影響を考慮し支援方法・方策を検討することで看護を探究する。そのために既存の発達段階に沿った女性健康・助産学、小児看護学、高齢者看護学、に加え健康科学（心と脳の発達学）、発達課題と関連の深い精神看護学、家族・集団・地域を対象とする公衆衛生看護学を統合して構成する。

療養・生活支援看護学分野は、人々が生活する場にとらわれず、病状の回復・安定と療養生活の質の維持向上を支援する看護を探究する分野である。健康障害や治療により生活に様々な影響を受けながら療養する人々を専門的知識をもとに論理的に理解したうえで、課題や苦痛を考察し、療養者やその家族に対して QOL（生活の質）の視点に立ち、高度な専門的知識・技術を有する看護実践を検討することで看護を探究する。そのために、看護実践応用学、がん看護学、在宅看護学、基礎看護学に加え、生命維持および心身の健康に不可欠である健康科学（睡眠学）を統合し構成した。

４　研究科、専攻等の名称及び学位の名称

（１）研究科の名称

奈良県立医科大学看護学研究科

（英訳名称）Graduate School of Nursing

（２）専攻の名称

看護学専攻

（英訳名称）Science in Nursing

（３）課程の名称

博士後期課程

（英訳名称）Doctor course

（４）学位の名称

博士（看護学）

（英訳名称）Doctor of Philosophy in Nursing Science

大学院看護学研究科 博士後期課程 カリキュラムマップ

区分		授業科目の名称	配当	単位数		ディプロマ・ポリシー		
						看護学研究科博士後期課程においては、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格することが、課程の修了と学位授与の必要条件である。修了時には以下の能力が求められる。		
						1	2	3
			年次	必修	選択	高度化・専門分化及び多様化していく医療に要求される学識を有し、看護学の発展を牽引できる能力を修得している。	深い専門知識や技能を持って、国際的視野から幅広く看護学を探究し、自立して研究及び教育を行うことができる能力を修得している。	豊かな感性・人間性と高度専門職業人としての倫理観に基づき、創造的な研究を行い、看護実践につなげ、地域・社会に展開できる能力を修得している。
共通科目		看護学研究法	1前	1			◎	○
		看護の理論と概念	1後	1		◎		
		看護病態学	1通		1	◎		
		看護ケアシステム開発	1通		1	○		◎
		アカデミックライティング	1通		1		◎	
		看護人材育成論	1通		1	○	◎	
専門科目	生涯発達看護学分野	生涯発達看護学分野特論	1通	2		◎		
		生涯発達看護学分野演習	1通	2			◎	
	療養・生活支援看護学分野	療養・生活支援看護学分野特論	1通	2		◎		
		療養・生活支援看護学分野演習	1通	2			◎	
研究科目	生涯発達看護学分野	生涯発達看護学分野特別研究	2～3通	6		○	○	◎
	療養・生活支援看護学分野	療養・生活支援看護学分野特別研究	2～3通	6		○	○	◎

◎：より該当　○：該当

Ⅱ　教育課程等の概要

１　奈良県立医科大学大学院看護学研究科博士後期課程履修要項

（目　的）
第１条　この要項は、奈良県立医科大学大学院学則（平成 20 年 4 月 1 日。以下「学則」という。）第 7 条第 2 項の規定により、奈良県立医科大学大学院博士後期課程の授業科目（以下「科目」という。）の名称、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

（科目等）
第２条　開設する科目、単位数、時間数及び履修年次は、別表のとおりとする。

（科目の履修）
第３条　学生は履修しようとする選択科目について、各学期の指定期間内に履修登録を行わなければならない。
２　学生は、前項の登録をした後においては、任意に履修科目の変更又は取り消しをすることはできない。 ただし、学長が正当な理由と認めた場合はこの限りでない。
３　科目は、原則として定められた年次に履修するものとする。
４　単位を修得した科目は、再び履修することはできない。

（単位の計算方法）
第４条　科目の単位数は､1 単位 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、学習方法に応じ、次の基準により、計算するものとする。
一　講義については、15 時間をもって 1 単位とする。ただし、科目の内容によっては、30 時間をもって 1 単位とすることができる。
二　演習については、30 時間をもって 1 単位とする。ただし、科目の内容によっては、15 時間をもって 1 単位とすることができる。
三　実習、実技及び実験については、45 時間をもって 1 単位とする。ただし、科目の内容によっては、30 時間をもって 1 単位とすることができる。

（修了の要件）
第５条　看護学研究科博士後期課程を卒業するためには、本大学院に 3 年以上在学し、科目について 13 単位以上修得し、かつ、学位論文を提出しその審査及び最終試験に合格しなければならない。
一　履修科目
　修了要件に必要な科目の履修は、次のとおりである。
ア　共通科目　必修科目　2 単位
　　選択科目　1 単位以上
イ　専門科目　特論　2 単位
　　演習　2 単位
ウ　研究科目　特別研究　6 単位
ニ　学位論文
　学位論文に関する必要事項は別に定める。

（単位認定の資格）
第６条　学生は、次の各号に該当しなければ、履修する科目の単位認定を認めない。
一　履修する科目の出席時間が､当該科目の授業時間数の 3 分の 2(実習科目にあっては 5 分の 4)以上の者
二　出席時間数が前号に達しない者のうち、担当教員が前号に達した者と同等の能力があると認めた者

（成績の評価）
第７条　成績の表示は 100 点を満点とし、次の基準により行う。

100～80点	79～70点	69～60点	60点未満
A	B	C	D

（単位の認定）
第８条　科目の単位認定は、成績の評価により、A、B 及び C を「合格」、D を「不合格」とし、合格者に対し所定の単位を与えるものとする。
２　単位の認定は、当該科目の担当教員が行い、成績判定会議で審議を行う。
３　成績判定会議は、看護学研究科博士後期課程の教授をもって組織する。
４　単位の認定は、看護学研究科長が学長に報告し、学長が決定するものとし、その結果は、看護学研究科博士後期課程委員会で報告するものとする。

（不正行為）
第９条　不正行為があったときは、当該科目の単位を無効とする。ただし、不正行為が悪質であると判断された場合は、学則第 32 条による懲戒処分を行う。

（雑　則）
第 10 条　この要領に定めるもののほか、科目の履修に関し必要な事項は別に定める。

附　則（令和 5 年 9 月 4 日）
この要領は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

別表　看護学研究科博士後期課程の教育課程

区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	主担当教員	頁	修了要件履修単位
共通科目		看護学研究法	1前	1		15	石澤　美保子	216	選択　1単位以上
		看護の理論と概念	1後	1		15	川上　あずさ	218	
		看護病態学	1通		1	15	太田　豊作	220	
		看護ケアシステム開発	1通		1	15	小竹　久実子	222	
		アカデミックライティング	1通		1	15	五十嵐　稔子	224	
		看護人材育成論	1通		1	15	水田　真由美	226	
専門科目	生涯発達看護学分野	生涯発達看護学分野特論	1通		2	30	川上　あずさ	228	専攻分野 特論　2単位以上 演習　2単位以上 特別研究　6単位以上
		生涯発達看護学分野演習	1通		2	60	川上　あずさ	235	
	療養・生活支援看護学分野	療養・生活支援看護学分野特論	1通		2	30	石澤　美保子	241	
		療養・生活支援看護学分野演習	1通		2	60	石澤　美保子	248	
研究科目	生涯発達看護学分野	生涯発達看護学分野特別研究	2～3通		6	180	川上　あずさ	255	
	療養・生活支援看護学分野	療養・生活支援看護学分野特別研究	2～3通		6	180	石澤　美保子	261	

学位又は称号　：　博士（看護学）	学位又は学科の分野　：　保健衛生学関係

修了要件及び履修方法	
本大学院に3年以上在学し、科目について13単位以上修得し、かつ、学位論文を提出しその審査及び最終試験に合格しなければならない。	１学年の学期区分　２期 １学期の授業期間　１５週 １時限の授業時間　９０分

２　履修指導及び研究指導の方法

（１）研究指導の方法

①　研究指導教員及び副指導教員の決定

研究指導は、指導教員 1 名、副指導教員 2 名の計 3 名体制で行い、指導教員は研究指導教員の身分を持つもの、副指導教員は 2 名のうちいずれか 1 名は研究指導教員の身分を持つものとする。指導教員は、学生の研究テーマに応じて、研究の計画の立案から論文作成までの過程の指導を主として担当する。副指導教員は、研究指導の補助を担当する。なお、学生が研究テーマに即した研究計画を立案する段階で、研究内容を理解し、研究指導を補助できるよう、当該学生と同じ分野の中から 1 名、客観的な立場から研究方法等に指導を行うことができるよう、当該学生と異なる分野の中から 1 名とする。

主として担当する指導教員は、学生の入学前から決定を行う。受験希望者は、出願前に自身の研究テーマが博士後期課程に入学し、研究指導を受けることができるか事前に確認する必要があるため、本課程の募集要項に、2 分野の各専門領域の研究指導教員及び講義等の内容を記載することで、受験希望者が事前に確認することができるようにすると供に、受験に際して、事前相談することを募集要項に明記する。相談があった指導教員は、受験希望者の研究テーマに基づき、入学後の研究指導の進め方を具体的に提示する。また、学生が入学後の学習の進め方やスケジュールを認識できるように、本課程の教育課程、教育方法や履修方法等についても説明を行う。当初の指導教員と相談後、受験希望者が考える研究テーマと当該教員の研究指導内容が合致しない場合は、本課程内で他の研究指導教員が研究指導することが可能であるかを確認し、紹介をする等柔軟な対応を行う。

副指導教員 2 名は、学生の入学後に決定する。

②　研究指導及び論文作成のスケジュール

1 年次は、「①　指導教員及び副指導教員の決定」に記載した指導教員と副指導教員の指導の下、研究計画書を作成する。学生は、基本となる共通科目並びに専門科目である各分野の特論及び演習を履修することと並行して、9 月から研究計画書の作成を開始する。入学前から実施している研究や入学後に研究テーマに沿って新たに設定した研究等、学生によって進捗度合が異なることから、9～2 月の期間で、研究計画報告会を実施する。研究計画報告会では、学生が研究計画書を指導教員及び副指導教員の前で報告し、指導教員及び副指導教員から指導及び助言を受け、計画書のブラッシュアップを図る。研究計画報告会後、学生は計画書を修正し、人を対象とする研究については、当該審査を行う本学の医の倫理審査委員会の審査を受け、承認後、研究を開始する。

2 年次は、1 年次に作成した研究計画書に基づき、研究を継続して実施し、研究科目の各分野の特別研究において、指導教員から研究内容の指導を受ける。9 月又は 2 月のどちらか一方で、中間報告会を実施する。報告会は、研究の進捗状況を本課程の研究指導教員及び学生に発表を行い、発表者の指導教員だけでなく、その他の指導教員から指導及び助言を得る機会を設け、今後の研究に修正等の必要がないか進捗確認を行う。報告会後は、報告会での指導及び助言を踏まえて、指導教員及び副指導教員と相談し、研究活動を行う。

3 年次は、2 年次までの研究活動を踏まえて、学位請求論文の作成を開始する。研究指導教員

及び２名の副指導教員は、1 月の学位申請に向けて研究データの分析や研究成果をまとめ方等の指導を行う。

（２）履修及び論文作成のプロセス

時期		事項	概要
1年次	4月	オリエンテーション	教育課程、履修方法、研究指導の進め方等について説明する。
	4月	指導体制の決定	・指導教員は、出願時に希望した教員とする。 ・同じ研究分野の研究指導教員又は研究指導補助教員から１名、指導教員との協議により副指導教員を決定する。
	4月	履修計画	指導教員と共通科目、専門科目、研究科目の履修スケジュールを相談のうえ、選択科目の履修を決定する。
	9月	研究計画書の作成	・指導教員と副指導教員と相談のうえ、他分野の副指導教員を決定する。 ・上記３名から、学生のこれまでの実績に基づき研究課題や研究計画について指導を受け、12 月までに研究計画書を作成する。
	1月	研究計画報告会	研究計画書を指導教員及び副指導教員の前で発表し、指導及び助言を得て、計画書のブラッシュアップを図る。
	2月	医の倫理審査委員会に申請	人を対象とする研究については、医の倫理審査委員会に申請を行う。
	3月	研究活動Ⅰ	医の倫理審査委員会で承認後、研究計画書に基づき研究活動を行う。
2年次	9月又は2月	中間報告会	9 月又は 2 月のどちらか一方で研究活動の進捗状況を指導教員、副指導教員及び研究指導教員の前で発表し、指導及び助言を受ける。
	9月又は2月	研究活動Ⅱ	中間報告会での指導及び助言を踏まえて、指導教員及び副指導教員と相談の上、研究活動を行う。
3年次	4月	研究活動Ⅲ	研究活動の継続及び論文の作成を開始する。
	1月	学位申請	論文とともに必要書類を提出する。
	2月	資格審査	修了に必要な単位を取得又は取得見込みであること確認する。
	2月	予備審査	学位請求論文の内容を確認する。
	2月	公聴会	最終試験として申請者は審査委員に対し論文内容を口頭発表し、試問を行う。 （審査委員長は最終試験終了後、博士論文及び最終試験の評価について審議）
	3月	本審査	学位請求論文の審査結果を博士課程委員会において審査委員長から報告し、博士後期課程委員会委員による可否投票により出席委員の 3 分の 2 以上の「可」票を持って「合格」と認定される。

（３）論文の審査及び最終試験

①　資格要件

以下 2 点のどちらかの要件を満たした者で、資格審査は大学院看護学研究科博士後期課程運営委員会で行う。

・博士後期課程に在学し、必要単位を取得済みまたは取得見込みの者

・博士後期課程に 3 年以上在学し、学位未取得で記載の必要単位のみ取得して退学した者で、退学後 3 年以内の者

②　学位論文の要件

・専門学術誌に受理又は掲載された英語原著論文であること。

ただし、日本学術会議に学術団体登録されている団体の学会誌に原著として受理又は掲載された論文であれば、和文論文も可とする。

③　予備審査

「②学位論文の要件」は、大学院看護学研究科博士後期課程委員会で行う予備審査で、学位請求論文の受理の可否を決定する。

④　審査体制

学位請求論文を審査する審査委員会は、3 名で構成し、「③予備審査」で学位請求者の研究指導教員が推薦し、承認を得る必要がある。審査委員は、看護学研究科の研究指導教員とする。ただし、学位請求者の研究指導教員を除き、学位請求論文の共著者はなることができない。また、審査委員 3 名のうち、1 名が審査委員長となり、学位請求者とは異なる分野に所属する専任教授が務める。

⑤　学位公聴会

学位請求者は、審査委員長を含む審査委員 3 名と博士後期課程の研究指導教員の前で、学位請求論文の内容について、口頭でプレゼンテーションを行い、最終試験を受ける。

⑥　最終試験

最終試験は、学位論文を中心とし、これに関する科目について行う。この試験は口頭試問とするが、筆記試験を併せて行うことができる。

⑦　学位請求論文の評価の視点

学生請求論文の評価の視点は、以下の 6 点である。

一　研究課題

文献検討が充分になされ、研究課題は明確に定まっているか。

二　研究方法の選定

研究対象の選定、研究デザインは適切に選択されているか。

三　倫理的配慮

研究デザインに添った倫理的配慮がなされているか。

四　研究データの収集

課題に対するデータ収集が適切になされているか。

五　結果とその解釈および研究の発表

・研究課題に対する答え、あるいは仮説の検定結果を示し、結果の意味や意義を解釈する考

察が示されているか。

・研究は独創的思考に基づいているか。研究の発展性もしくは今後の課題は示されているか。看護学研究への貢献が期待できるものであるか。

六　研究者としての能力

研究遂行能力及び論文作成能力において、自立した研究者たる能力を持ち合わせているか。

⑧　審査委員会

公聴会後、審査委員会を開催し、学位論文及び最終試験の審査を行う。「⑥学生請求論文の評価の視点」に基づき、審査委員3名のうち2名以上が適と判断した場合、審査委員長は、審査結果と理由を記載した審査要旨を作成する。

⑨　本審査

審査委員長は、審査要旨を大学院看護学研究科博士後期課程委員会で報告し、出席する委員は、当該報告及び「⑥学生請求論文の評価の視点」に基づき審査を行い、委員の3分の2以上の賛成によって学位授与の可否を決定する。

なお、学位授与の可否決定後、学長へ報告を行う。

⑩　学位論文の公表方法

本審査で学位の授与が決定し、学位を授与した際は、文部科学省学位規程第8条に従い、学位授与日から 3 か月以内に、当該学位論文の論文内容の要旨及び審査要旨を本学附属図書館が運用する奈良県立医科大学機関リポジトリ（Global Institutional repository of Nara Medical University（以下「GINMU」という。））で公開する。

また、学位授与者は、文部科学省学位規程第9条に従い、学位授与日から1年以内に、当該学位論文の全文をGINMUに登録し、公開する。公表について、やむを得ない事由がある場合は、学位論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表する。

⑪　審査の透明性、厳格性及び客観性

学位請求論文の審査を行う審査委員会の委員 3 名のうち 2 名は、学位請求者の指導に直接関わっていない研究指導教員であり、審査の可否は、審査委員会の 3 分 2 以上が適と判断する。また、審査委員会の委員長は、異なる分野に所属する専任教授が務め、学位授与の可否は、大学院看護学研究科博士後期課程委員会の 3 分の 2 の承認をもって決定することから厳格性及び客観性を担保する。透明性の観点からは、学位請求論文の口頭試問は、審査委員、大学院看護学研究科博士後期課程委員会委員及び学生の前で実施することで担保する。

⑫　研究の倫理審査体制

１）医の倫理審査委員会

本学において、人を対象とする生命科学・医学系研究及び医療行為等が、ヘルシンキ宣言及び人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針を含む国等の指針等に基づき行われることを目的として、医の倫理審査委員会を設置する。委員会は、医の倫理の在り方に関する基本的事項について調査審議するとともに、本学の研究者から申請された研究等の実施計画について、指針等に基づき、倫理的観点及び科学的観点から審査を行う。委員会は、以下の委員をもって組織する。

1　医学・医療の専門家等、自然科学の有識者
2　倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者
3　一般の立場から意見を述べることができる者
4　基礎教育部長
5　看護教育部長

2）研究倫理に関する教育・研修

研究に関わる者は、毎年度 1 回以上の研究倫理に関する講習会の受講を必須としている。講習会は、本学臨床研究センターが開催するもの又は国立がん研究センターが提供している教育プログラム「ICR 臨床研究入門（略称：ICRweb)」である。

3）申請方法

CT－Portal（治験・臨床研究支援クラウドサービス）に有効期限内の倫理講習会受講歴を登録し、資料 13「新規申請時 提出書類」に定める資料を作成する。CT－Portal を用いて、新規申請の手続きを行い、事務局による申請書類等の確認後、受理される。研究の内容によって、対面又は WEB 形式での審査か書面審査を医の倫理審査委員会が行い、承認後、当該研究の実施が可能となる。

3　長期履修期間の短縮

3 年間の課程を 6 年間で履修することができる長期履修制度を入学時に申請した学生が、長期履修期間の短縮を希望する場合、長期履修期間変更申請書を各年次の 12 月 1 日から 12 月 20 日までに学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

4　看護学研究科看護学専攻博士後期課程履修モデル

生涯発達看護学分野を専攻する者の履修モデル

区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後
共通科目		看護学研究法	1前	1		15	➡					
		看護の理論と概念	1後	1		15		➡				
		看護病態学	1通		1	15						
		看護ケアシステム開発	1通		1	15	|||	|||			
		アカデミックライティング	1通		1	15						
		看護人材育成論	1通		1	15						
専門科目	生涯発達看護学分野	生涯発達看護学分野特論	1通		2	30	➡	➡				
		生涯発達看護学分野演習	1通		2	60	➡	➡				
	療養・生活支援看護学分野	療養・生活支援看護学分野特論	1通		2	30						
		療養・生活支援看護学分野演習	1通		2	60						
研究科目	生涯発達看護学分野	生涯発達看護学分野特別研究	2～3通		6	180			➡	➡	➡	➡
	療養・生活支援看護学分野	療養・生活支援看護学分野特別研究	2～3通		6	180						
合計単位数				2	11							

➡：必修　|||：選択

療養・生活支援看護分野を専攻する者の履修モデル

区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後
共通科目		看護学研究法	1前	1		15	➡					
		看護の理論と概念	1後	1		15		➡				
		看護病態学	1通		1	15						
		看護ケアシステム開発	1通		1	15						
		アカデミックライティング	1通		1	15	|||	|||			
		看護人材育成論	1通		1	15						
専門科目	生涯発達看護学分野	生涯発達看護学分野特論	1通		2	30						
		生涯発達看護学分野演習	1通		2	60						
	療養・生活支援看護学分野	療養・生活支援看護学分野特論	1通		2	30	➡	➡				
		療養・生活支援看護学分野演習	1通		2	60	➡	➡				
研究科目	生涯発達看護学分野	生涯発達看護学分野特別研究	2～3通		6	180						
	療養・生活支援看護学分野	療養・生活支援看護学分野特別研究	2～3通		6	180			➡	➡	➡	➡
合計単位数				2	11							

➡：必修　|||：選択

Ⅲ　科目概要

講義科目名称　　看護学研究法

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1 単位	必修
担当教員			
石澤 美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤 美保子、川上 あずさ、小竹 久実子、山上 優紀、城戸 楓		
概要	看護における研究の意義と特徴を理解し、深い専門知識や技能を養い、研究における理論・概念枠組みおよび倫理枠組みの重要性、研究デザインと方法について理解を深める。特に量的研究方法として、実験研究、非実験研究デザインの原則、標本抽出法、データ収集法、測定用具に焦点をあて、研究目的に応じた推測統計法を理解する。質的研究方法としては、看護における質的研究の種類とその特徴、研究の動向を把握し自己の研究課題とその方法の検討につなげる。		
目標	１．先行研究の批判的分析を深め、看護現象をより妥当性の高いアプローチを用いて探究し、研究デザインならびに方法を開発できる。 ２．看護における量的研究、質的研究に関する高度な研究能力を修得し、国内外の動向を捉えつつ、自らの研究課題を明確にすることができる。		
評価方法	授業参加度 70%（クラス発表含む）、課題レポート 30%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回　看護における研究の意義と特徴について	講義	石澤
	第2回　看護における倫理的課題を捉え、国際的視野を取り入れた研究課題について議論し探究する。	講義・演習	石澤
	第3回　量的研究方法における実験研究の設計や研究デザイン、研究プロセスについて	講義	山上
	第4回　量的研究方法における非実験研究デザイン（質問紙調査等）のデータ収集法について	講義	城戸
	第5回　量的研究方法における非実験研究デザイン（質問紙調査等）の分析方法について	講義	城戸
	第6回　質的研究の特徴と評価基準、研究の動向について検討する	講義・演習	川上
	第7回　代表的な質的研究（グラウンデッド・セオリー、現象学等）の基盤となる理論、デザイン、データ分析の概要について	講義	川上

	第8回　質的研究方法におけるモデファイド・グラウンデッド・セオリー（M-GTA）を用いた解析について探究する。	講義/演習	小竹
授業外学修（事前学修・事後学修）	パワーポイントでまとめてきて発表できるように準備すること。授業後、修正点を追加修正し、まとめなおすこと。		
テキスト	木下康仁：定本 M-GTA-実践の理論家をめざす質的研究方法論、医学書院		
参考書	Hulley, S.B., et al.（訳 木原 正博, 木原 雅子）. 医学的介入の研究デザインと統計:ランダム化/非ランダム化研究から傾向スコア、操作変数法まで　メディカルサイエンスインターナショナル 山上優紀, 他. 若手研究者が挑む国際基準のエビデンス構築のための実験研究 徹底解説　看護研究. 2021；54（4）医学書院 野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門　医学書院 箕浦康子翻訳：質的研究のための理論入門―ポスト実証主義の諸系譜、ナカニシヤ出版 木下康仁：M-GTA グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践-質的研究の誘い-、弘文堂 木下康仁：M-GTA グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践-質的実証研究の再生-、弘文堂 黒田裕子・中木高夫・逸見功監訳：バーンズ＆グローブ　看護研究入門原著第７版 ELSEVIER Boslaugh S.（訳 黒川利明, 木下哲也, 中山智文, 本藤孝, 樋口匠）統計クイックリファレンス第２版　オライリージャパン		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称　　看護の理論と概念

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	１単位	必修
担当教員			
川上 あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上 あずさ、澤見 一枝		
概要	社会背景やニーズの変化に対応して発展してきた看護や看護の理論を理解し活用するために理論の構成を理解する。そのために必要な理論の分析方法、理論構築の方法を検討する。また、概念を明確化し分析する力を養う。そのうえで、今後の看護の発展について探求する。		
目標	・看護の変遷や看護における倫理と基盤となる理論を理解する ・看護理論の構造について批判的に分析する ・看護における現象の明確さを確保するための概念分析の方法を理解する ・看護の発展について考察する。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、課題レポート（40%）授業への参加度・貢献度によって総合的に評価する		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回　看護における倫理について	講義	川上・澤見
	第2回　倫理の基盤となる理論について	演習	川上・澤見
	第3回　看護理論の構造について	講義	澤見・川上
	第4回　看護理論の分析１	演習	澤見・川上
	第5回　看護理論の分析２	演習	澤見・川上
	第6回　概念分析の方法について	講義	川上・澤見
	第7回　概念分析の実際	演習	川上・澤見
	第8回　概念分析の実際（発表）	演習	川上・澤見
授業外学修(事前学修・事後学修)	授業内容に関する著書、文献により事前学習したうで授業に参加する。		
テキスト	講義の際提示		
参考書	片田紀子・山本あい子（2010）看護実践の倫理第３版倫理的意思決定のためのガイドライン　日本看護協会出版会 Meleis,A.I.(20　).Theoretical Nursing:Development and progress(6th revised Ed.)		

学生へのメッセージ等	研究の基盤となる授業です。主体的な取り組み姿勢を期待します。

講義科目名称　　看護病態学

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1単位	選択
担当教員			
太田 豊作			
添付ファイル			

全担当教員	山内 基雄、太田 豊作		
概要	呼吸器系および消化器系疾患、精神・行動・神経発達の疾患から代表的な疾患を取り上げ、その病態生理を深く、専門的に学習し、看護学の視点と統合させ、柔軟で高度な病態生理学的思考過程を創生する。		
目標	1）代表定な疾患の病態生理を理解し、その思考過程についても説明ができる。 2）病態生理に基づき、看護学の視点と統合させた適切な評価、柔軟な判断ができる。 3）多様な患者を論理的に理解し、探求できる力を習得する。		
評価方法	評価方法：授業参加度（２０％）、中間レポート（４０％）、期末レポート（４０％） 評価基準：授業参加度は、病態生理についての理解を深めるために、授業毎のコメントカードや授業中に意見や質問をおこなったか。中間レポートは、呼吸器系および消化器系疾患の病態生理について理解し、患者理解に繋げられているか。期末レポートは、精神・行動・神経発達の疾患の病態生理について理解し、患者理解に繋げられているか、論理的な柔軟な思考が行えているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回　呼吸器系疾患の病態生理	講義	山内
	第2回　呼吸器系疾患の病態生理－症例検討	演習	山内
	第3回　消化器系疾患の病態生理	講義	山内
	第4回　消化器系疾患の病態生理－症例検討	演習	山内
	第5回　精神・行動の疾患の病態生理	講義	太田
	第6回　精神・行動の疾患の病態生理－症例検討	演習	太田
	第7回　神経発達の疾患の病態生理	講義	太田
	第8回　神経発達の疾患の病態生理－症例検討	演習	太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行う。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。		
テキスト	特に指定しない		
参考書	講義時に紹介する		

学生へのメッセージ等	

講義科目名称　　看護ケアシステム開発

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1単位	選択
担当教員			
小竹 久実子			
添付ファイル			

全担当教員	小竹 久実子、松田 明子、山内 基雄		
概要	看護ケアシステム開発では、①健康生活および人生の最終段階における生活の支援プロセス（Advance Care Planning 含む)、②生活の質に影響を与える要因（例：食事と睡眠の関連性や薬物治療)、③Patient Centered Care の視点で意思決定を支えるための組織・地域のあり方や体制構築、④援助者の質の向上をめざした医療従事者への教育プログラム開発、を探究する。また、アウトカム指標として有用な尺度の開発についても学習する。看護ケアとは、看護師をはじめ、医師、栄養士、臨床検査技師、公認心理師、薬剤師など多職種との協働、連携支援を指す。		
目標	① 生活の質に与える要因を見出すことができる。 ② ケアの対象を支えるための組織・地域の体制について考え構想できる。 ③ 看護ケアシステム開発する指標について考案できる。 ④ ケアの対象者の生活を支える体制について考え、具体的に計画立案できる。		
評価方法	プレゼンテーション力 30%、発表資料（事前課題）20%、ディスカッション力 30%、レポート(事後課題・発表資料追加修正)20%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回　看護ケアシステム開発とは？	講義/演習	小竹
	第2回　薬物治療過程にある対象者の生活とその観察	講義/演習	松田
	第3回　睡眠が生活の質に影響を与えるメカニズム	講義/演習	山内
	第4回　睡眠およびライフスタイルへの介入手法とその効果	講義/演習	山内
	第5回　薬物治療過程にある対象者の生活とその支援	講義/演習	松田
	第6回　看護ケアシステムの指標となる尺度開発	講義/演習	小竹
	第7回　Patient Centered Care システム開発	講義/演習	小竹
	第8回　多職種連携のロードマップ作成	講義/演習	山内
授業外学修(事前学修・事後学修)	授業ごとにパワーポイントでまとめてきて発表できるように準備すること。授業後、修正点を追加修正し、まとめなおすこと。		
テキスト			

参考書	1) 宮崎総一郎ほか：健康・医療・福祉のための睡眠検定ハンドブック up to date（改訂版）全日本病院出版会 2) 日本睡眠学会編集　睡眠学 （第２版）　朝倉書店 3) 村上宣寛：心理尺度のつくり方、北大路書房 4) 宮本聡介ほか：質問紙調査と心理測定尺度―計画から実施・解析まで―、サイエンス社 5) 加藤隆一他：臨床薬物動態学　南江堂
学生へのメッセージ等	それぞれの職種の専門性を理解しましょう。そのうえで、チーム力を発揮するために、看護ケアシステムのなかで、それぞれの専門性をいつ、どこで、だれに、どのように介入して対象者に最大限に利益を享受させることができるかについて、リーダーシップをとることができる看護師/研究者/教育者になって欲しいと思います。

講義科目名称　　アカデミックライティング

英文科目名称　　Academic Writing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	１単位	選択
担当教員			
五十嵐 稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐 稔子、山内 基雄、山上 優紀		
概要	アカデミックライティングの技術を身に付けることを目的とし、論文の構造、文章の構成、文法やスタイル、引用の方法などを学ぶ。国際雑誌への投稿のために必要な一連の知識を習得する。またこれらの学習を通して論理的な思考を養い、学術的なコミュニケーションに参加できることを目指す。		
目標	1　アカデミックライティングのルールやスタイル、引用の方法がわかる。 2　正確で明確な文章を書き、自分の研究成果を効果的に伝えることができる。 3　国際雑誌への論文投稿に必要な知識がわかる。 4　論文の作成法を学ぶことを通して、論理的な思考を養うことができる。		
評価方法	授業でのプレゼンテーションおよびディスカッションへの貢献度で評価する。 ＜評価基準＞ ①事前学習により、授業に参加する準備が出来ている（40%） ②自らの意見を簡潔かつ明確に述べることができる（20%） ③他者の意見を尊重しながらディスカッションすることができる（20%） ④ディスカッションの促進に貢献する発言や姿勢である（20%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回　授業オリエンテーション 英語で論文を発表することの意味	講義	山上・山内・五十嵐
	第2回　アカデミックライティング 報告ガイドライン、引用スタイル	講義	山上・山内・五十嵐
	第3回　執筆からジャーナルへの投稿プロセス	講義	山上・山内・五十嵐
	第4回　国外の研究者とのコミュニケーション 国際雑誌への投稿の注意点	講義	山上・山内・五十嵐
	第5-8回　英語論文を読み、文章構成を学ぶ 論文を批判的に読む（クリティーク） 論文を査読者の目線から読んで査読コメントを作製する。	講義・演習	山上・山内・五十嵐

	査読者からのコメントに対するレスポンスロジックを学ぶ。		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に配布した資料・論文を読み、まとめておく。レポートを課す授業がある。		
テキスト	適宜提示する。		
参考書	なし		
学生へのメッセージ等	研究者として必要な論文作成の技術および論文投稿に必要な知識を学びます。事前準備をして積極的に参加してください。		

講義科目名称　　看護人材育成論

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1単位	選択
担当教員			
水田 真由美			
添付ファイル			

全担当教員	水田 真由美、笠松 由利		
概要	高度化・専門分化および多様化していく医療・保健・福祉領域において、看護学の教育、研究、実践の分野で地域社会へ貢献、牽引するためには、基礎教育の場および臨床の場における看護人材を育成する教育的役割が求められている。そこで、今日の看護教育に至った社会的背景や制度的な変遷、看護師のキャリア開発について理解し、看護教育が社会のニーズに合わせて変化していることを学ぶ。また、看護教育を基礎教育、継続教育という側面からとらえ、生涯教育としての教育のあり方や課題を探求する。		
目標	1. 看護とは何かを理解し、看護教育の目的が説明できる。 2. 看護教育の歴史的変遷と現在の看護師養成教育、看護学教育の法的基盤が理解できる。 3. 看護教育課程について学び、教育方法について理解できる。 4. 看護職のキャリア発達について学び、組織における人材育成方法について理解できる。 5. 看護人材育成と生涯教育における今後の課題を考察できる。		
評価方法	レポート（50%）、発表・討議（50%）により総合的に評価する		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回　看護教育の概念と目的	講義	水田
	第2回　看護教育の歴史的変遷 看護教育制度とその背景	講義	水田
	第3回　看護教育課程と教育方法、評価①	講義	水田
	第4回　看護教育課程と教育方法、評価②	講義	水田
	第5回　看護の継続教育と生涯教育	講義	笠松
	第6回　看護職のキャリア開発と教育方法	講義	笠松
	第7回　看護職のキャリア開発と組織における人材育成方法	講義	笠松
	第8回　看護人材育成と生涯教育における今後の課題	演習	笠松

授業外学修（事前学修・事後学修）	授業内容に応じて事前に指示する
テキスト	特に指定しない
参考書	杉森みど里・舟島なをみ（2021）「看護教育学　第７版」医学書院 その他、授業のなかで適宜紹介する
学生へのメッセージ等	

講義科目名称　　生涯発達看護学分野特論（健康科学（心と脳の発達学））

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
川上 あずさ、太田 豊作			
添付ファイル			

全担当教員	太田 豊作		
概要	人の心の発達を脳科学的な視点と精神心理学的な視点の両方から学習し、その両者の視点を統合させる。先進的な医療機器による脳科学を学び、個人の発達の理解を深め、発達的視点で人間を理解することを学ぶ。		
目標	1）脳の発達の脳科学的な理解を深める。 2）発達理論と愛着理論を学習し、人の心の発達との関連を理解する。 3）神経発達について、定型的な発達と特異な発達をする神経発達症の相違点を検討し、学習する。		
評価方法	評価方法：授業参加度（２０％）、中間レポート（４０％）、期末レポート（４０％） 評価基準：授業参加度は、理解を深めるために、授業毎のコメントカードや授業中に意見や質問をおこなったか。中間レポートは、脳の発達、発達理論・愛着理論について理解しているか。期末レポートは、脳科学的視点と精神心理学的視点を統合させ、深く人間を理解することができているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1-2回　脳の進化と仕組み	講義	太田
	第3回　脳の仕組みに関連する文献クリティーク	演習	太田
	第4-5回　脳の構造と機能的連関	講義	太田
	第6回　脳の構造と機能的連関に関連するクリティーク	演習	太田
	第7-8回　発達理論（エリクソンなど）	講義	太田
	第9回　発達理論に関連する文献クリティーク	演習	太田
	第10-11回　アタッチメント理論（ボウルビィ）	講義	太田
	第12回　アタッチメント理論に関連する文献クリティーク	演習	太田
	第13-14回　神経発達症	講義	太田
	第15回　神経発達症に関連する文献クリティーク	演習	太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行う。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。		

テキスト	特に指定しない
参考書	講義時に紹介する
学生へのメッセージ等	

講義科目名称　　生涯発達看護学分野特論（高齢者看護学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
川上 あずさ、澤見 一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見 一枝、太田 豊作、升田 茂章、森崎 直子、沼田 景三		
概要	医療の高度化・専門分化及び多様化に応じて求められる学識を習得し、高齢者看護学の発展を牽引する創造的な研究を行うための知識を得る。		
目標	1. 高齢者看護の発展的な研究と、その成果の活用のために必要な知識を習得できる。 2. 論文のクリティークを通して、高齢者看護学における創造的・発展的な研究を探索できる。 3. 高齢者看護学を充実・発展・革新させていくための研究について考察できる。		
評価方法	課題への取り組み状況、プレゼンテーションの内容によって総合的に評価する。（100%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1-2回　高齢者の身体機能と運動	講義	澤見・沼田
	第3回　高齢者の身体機能と運動 クリティークの発表	演習	澤見・沼田
	第4-5回　高齢者の口腔ケアの意義	講義	澤見・森崎
	第6回　高齢者の口腔ケアの意義 クリティークの発表	演習	澤見・森崎
	第7-8回　高齢者のメンタルヘルス	講義	太田・澤見
	第9回　高齢者のメンタルヘルス クリティークの発表	演習	太田・澤見
	第10-11回　高齢者の認知機能とケア	講義	澤見・沼田
	第12回　高齢者の認知機能とケア　クリティークの発表	演習	澤見・沼田
	第13-14回　高齢期がん患者への看護	講義	澤見・升田
	第15回　高齢期がん患者への看護　クリティークの発表	演習	澤見・升田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマについて検索しておく。 事後学修：授業の内容および研究手法について振り返り理解を深める。		
テキスト	特に指定しない		

参考書	授業の中で適宜紹介する
学生へのメッセージ等	高齢者看護における創造的・発展的な探究を目標として、主体的に課題に取り組みましょう。

講義科目名称　　生涯発達看護学分野特論（小児看護学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	２単位	選択
担当教員			
川上 あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上 あずさ		
概要	子どもの発達を多角的に理解し、研究に関連する課題や現象を焦点化し、 必要となる理論的源泉、諸理論と課題、研究方法の関係について検討する		
目標	子どもの発達を多角的に理解する。 焦点化する課題や現象を理解するための理論を検討する 焦点化する課題や現象と研究方法の関連を検討する		
評価方法	授業への取り組み姿勢と成果物で評価する 課題レポート（50%）プレゼンテーション（40%）　授業への貢献度（10%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1-2回　子どもの反応を分析するために必要な発達理論について理解する	講義	川上
	第3-5回　注目する課題や現象について発達理論以外の関連する理論について理解する	演習	川上
	第6-8回　注目する課題や現象を焦点化し研究課題となりうるかを検討する	演習	川上
	第8-10回　注目する課題や現象に関連する研究論文を検索し批判的に分析する	演習	川上
	第11-13回　研究課題として注目する現象の理論的枠組みと研究方法の整合性を検討する	演習	川上
	第14-15回　研究課題を明らかにする	演習	川上
授業外学修（事前学修・事後学修）	発達に関する理論について文献を活用し自己学習する		
テキスト	適宜提示する		
参考書	適宜提示する		
学生へのメッセージ等	主体的に学ぶ姿勢を期待します		

講義科目名称　　生涯発達看護学分野特論（女性健康・助産学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
川上 あずさ、五十嵐 稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐 稔子		
概要	ウィメンズヘルスの概念と歴史を理解し、性差医療やプレコンセプションケアを中心に女性の健康課題や最近の研究について学ぶ。また、周産期看護や助産の実践に関する研究の動向を知り、根拠のある助産ケア実践について学ぶ。これらの学びのプロセスから、自身の研究課題を考える。		
目標	1)ウィメンズヘルスならびに周産期医療・看護に関する研究の変遷と現状が説明できる。 2)ウィメンズヘルスならびに周産期医療・看護に関する研究のクリティークの技法を習得する。 3)ウィメンズヘルスならびに周産期医療・看護に関する課題を俯瞰的に理解し、自らの研究課題を見出す。		
評価方法	授業でのプレゼンテーションおよびディスカッションへの貢献度、および最終レポートで評価する。 ＜評価基準＞ ①事前学習により、授業に参加する準備が出来ている（40%） ②自らの意見を簡潔かつ明確に述べることができる（20%） ③他者の意見を尊重しながらディスカッションすることができる（20%） ④ディスカッションの促進に貢献する発言や姿勢である（20%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第 1-2 回　性差医療とプレコンセプションケア	講義・演習	五十嵐
	第 3-4 回　女性の健康と栄養・運動	講義・演習	五十嵐
	第 5-6 回　女性の健康と慢性疾患	講義・演習	五十嵐
	第 7-8 回　女性の健康と嗜好品・DV	講義・演習	五十嵐
	第 9-10 回　エビデンスに基づいた出産計画と避妊	講義・演習	五十嵐
	第 11-12 回　女性の健康と予防接種、薬	講義・演習	五十嵐
	第 13-14 回　女性のメンタルヘルス	講義・演習	五十嵐
	第 15 回　周産期と医療社会制度	講義・演習	五十嵐

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に配布する資料を読み、まとめておく。
テキスト	別途指定する。
参考書	別途指定する。
学生へのメッセージ等	ディスカッションの準備をして参加してください。

講義科目名称　　生涯発達看護学分野演習（健康科学（心と脳の発達学））

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
川上 あずさ、太田 豊作			
添付ファイル			

全担当教員	太田 豊作		
概要	脳科学研究の各視点から人の心の発達を学習し、脳科学的視点と精神心理学的視点を統合し、人間の発達をどのように捉えるかについて学ぶ。		
目標	1）脳科学的な研究手法について理解し、それを用いて発達的変化を説明できる。 2）神経発達症について、脳科学的視点と精神心理学的視点で説明できる。 3）症例について、脳科学的視点および精神心理学的視点で理解できる。		
評価方法	評価方法：授業参加度（２０％）、プレゼンテーション（６０％）、期末レポート（２０％） 評価基準：授業参加度は、理解を深めるために、授業毎のコメントカードや授業中に意見や質問をおこなったか。プレゼンテーションは、文献理解の正確性、客観的に文献を吟味しているか、また発表内容・方法を含めて適切に表現できているか。期末レポートは、脳科学的視点と精神心理学的視点を統合させ、人間の発達を理解することができているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第 1 回　オリエンテーション・脳科学と神経発達症	講義	太田
	第 2-6 回　構造的脳画像研究（小児、成人、高齢者）	演習	太田
	第 7-11 回　機能的脳画像研究（小児、成人、高齢者）	演習	太田
	第 12-16 回　脳波・脳磁図研究（小児、成人）	演習	太田
	第 17-21 回　事象関連電位（神経発達症、定型発達）	演習	太田
	第 22-26 回　近赤外線スペクトロスコピィ（神経発達症、定型発達）	演習	太田
	第 27-29 回　症例検討（小児、成人、高齢者）	演習	太田
	第 30 回　まとめ	講義	太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行い、事前に提示された各脳科学研究についての発表資料を作成する。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。		

テキスト	特に指定しない
参考書	講義時に紹介する
学生へのメッセージ等	

講義科目名称　　生涯発達看護学分野演習（高齢者看護学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
川上 あずさ、澤見 一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見 一枝、森崎 直子		
概要	国際的視野から幅広く国内外の高齢者看護文献を検討し、これを基盤として創造的な研究計画を立案する		
目標	1. 国内外の高齢者看護学領域の研究の文献を検討し、自己の研究課題を明らかにできる。 2. 様々な研究の方法と解析方法を検討し、研究計画を立案できる。		
評価方法	課題への取り組み状況、プレゼンテーションの内容によって総合的に評価する。（100%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第 1-2 回　高齢者の死とアドバンスケアプランニング	講義	澤見・森崎
	第 3-5 回　高齢者の死とアドバンスケアプランニング プレゼンテーション	講義 演習	澤見・森崎
	第 6-10 回　研究課題の明確化：文献検討、プレゼンテーション	演習	澤見
	第 11-15 回　研究計画の検討：研究方法の検討	演習	澤見
	第 16-20 回　研究尺度と分析方法の検討	演習	澤見
	第 21-25 回　データ解析の方法(SPSS)	演習	澤見
	第 26-30 回　研究計画書の作成	演習	澤見
授業外学修(事前学修・事後学修)	事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行う。 事後学修：授業の内容および研究手法について振り返り理解を深める。		
テキスト	演習の中で適宜紹介する。		
参考書	演習の中で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	高齢者看護における創造的・発展的な探究を目標として、主体的に課題に取り組みましょう。		

講義科目名称　　生涯発達看護学分野演習（小児看護学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
川上 あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上 あずさ、山田 晃子		
概要	小児の発達や障害に関連して行われている研究方法を概観し、方法論を批判的に検討することで自身の研究課題を解決するための研究方法を明らかにする		
目標	小児の発達や障害に関連して行われている、質的研究方法・量的研究方法についてその方法の実際や妥当性、信頼性について検討する 研究課題解決のための研究方法を明らかにする 研究倫理申請に係る文書が作成する		
評価方法	授業への取り組み姿勢と成果物で評価する 課題レポート（50%）プレゼンテーション（30%）　授業への取り組み（20%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第 1～4 回　小児の発達や障害に関する看護研究について研究の動向、最近の知見を明らかにする	講義・演習	川上・山田
	第 5～8 回　研究対象を検討する（子ども、家族、現象等）	演習	川上・山田
	第 9～12 回　子どもおよび家族を対象とした質的研究について検討する	講義・演習	川上・山田
	第 13～17 回　子どもおよび家族を対象とした量的研究について検討する	講義・演習	山田・川上
	第 18～22 回　注目する課題や現象を明らかにするための研究方法について検討する	演習	川上・山田
	第 23～27 回　研究計画の検討　研究計画報告会	演習	川上・山田
	第 28～30 回　研究計画の立案　倫理審査の申請	演習	川上・山田
授業外学修（事前学修・事後学修）	主体的に文献検索を行い、内容を把握しておくこと		
テキスト			
参考書	適宜提示する		
学生へのメッセージ等	研究計画書の立案が研究成果を左右します。真摯に取り組みましょう。		

講義科目名称　　生涯発達看護学分野演習（女性健康・助産学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 年	選択
担当教員			
川上 あずさ、五十嵐 稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐 稔子		
概要	女性の健康や周産期看護学に関する知識を基盤として、女性とその家族が抱える問題や課題を明確化する。これらの過程から、自己の研究テーマの方向性を定めて課題解決に向けた取り組みを行う。		
目標	1) ウィメンズヘルスならびに周産期看護に関する概念について説明できる。 2) ウィメンズヘルスならびに周産期医療・看護に関する文献レビューを行う。 3)文献レビューで作成した論文を投稿し、査読を受けることができる。 4)自己の研究テーマを定め、研究計画書を作成・申請できる。		
評価方法	授業でのプレゼンテーションおよびディスカッションへの貢献度、および最終の研究計画書で評価する。 ＜評価基準＞ ①事前学習により、授業に参加する準備ができている（30%） ②自分の研究課題に対して、自律して研究がすすめられる（30%） ③文献レビューを論文化し、投稿できる（40%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第 1-4 回　研究課題とは、クリニカル・クエスチョンからリサーチ・クエスチョンへ	講義・演習	五十嵐
	第 5-15 回　周産期看護に関連した量的研究・質的研究のクリティーク・レビュー	講義・演習	五十嵐
	第 16-20 回　研究課題に対する文献レビューを行う。	講義・演習	五十嵐
	第 21-25 回　文献レビューを論文化し投稿する。	講義・演習	五十嵐
	第 26-28 回　文献レビューを元に研究の背景を深め、研究計画書を作成する。	講義・演習	五十嵐
	第 29-30 回　研究計画書を医の倫理審査委員会に申請し、承認を受ける。	講義・演習	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に配布する資料を読み、まとめておく。		
テキスト	別途指定する。		

参考書	別途指定する。
学生へのメッセージ等	ディスカッションの準備をして参加してください。

講義科目名称　　療養・生活支援看護学分野特論（健康科学（睡眠学））

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
石澤 美保子、山内 基雄			
添付ファイル			

全担当教員	山内 基雄		
概要	生命維持に必要な睡眠をサイエンスとして学ぶ。具体的には、①睡眠の意義、②ヒトの睡眠・覚醒調節、③睡眠の役割、④睡眠そのものが心身の健康に及ぼす影響、⑤逆方向性として様々な疾病が睡眠に及ぼす影響、⑥睡眠時無呼吸症候群を初めとした多彩な睡眠関連疾患を学び、得た知識を看護実践に応用するための研究を行う。		
目標	1)睡眠という生体活動を睡眠科学的側面から理解する。 2)健全な睡眠を害する要因を理解する。 3)不適切な睡眠が心身に及ぼす影響を理解する。 4)睡眠呼吸障害を初めとした様々な睡眠関連疾患を理解し、看護実践への応用を探索する。		
評価方法	受講態度 20%、プレゼンテーション 50%（資料作成・発表の内容と方法および表現力）、レポート 30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1-2回　睡眠科学1 睡眠とは	講義/演習	山内
	第3-4回　睡眠科学2 睡眠の役割	講義/演習	山内
	第5-6回　睡眠医学1 睡眠関連疾患総論	講義/演習	山内
	第7-8回　睡眠医学2 睡眠関連疾患診断学	講義/演習	山内
	第9-10回　睡眠医学3 睡眠関連疾患治療学	講義/演習	山内
	第11-12回　睡眠医学4 睡眠医療における看護実践	講義/演習	山内
	第13-14回　睡眠社会学1 各年齢層における睡眠問題	講義/演習	山内
	第15回　睡眠社会学2 睡眠環境国際比較	講義/演習	山内
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業ごとに自身の考えをパワーポイントにまとめて発表できるように準備しておくこと。授業後、追加された知識や思考の変容などをまとめ直すこと。		
テキスト	講義開始時に紹介予定		
参考書	講義開始時に紹介予定		

学生へのメッセージ等	睡眠の重要性を理解してください。また睡眠は疾病や環境など様々な側面からの影響を受けること、くわえて、世代横断的および診療科横断的に睡眠が関わっていることを理解するようにしましょう。

講義科目名称　　療養・生活支援看護学分野特論（基礎看護学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
石澤 美保子、松田　明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子、宮脇 美保子		
概要	薬物治療を受ける療養者について医療安全や臨床薬理学的観点から理解を深める。療養者を取り巻く生活支援や服薬管理に関する研究や患者の薬物治療過程において意思決定支援等に関する研究等を知り、研究課題を明確にする。また、研究課題の評価や課題解決方法について探求する。		
目標	①　薬物治療を受ける療養者の生活支援について臨床薬理学や医療安全の観点から分析し、その支援体制について立案できる。 ②　薬物治療を受ける療養者の意思決定支援過程に応じた継続した支援体制について熟考し構想できる。		
評価方法	プレゼンテーション力 30%、発表資料 50%、ディスカッション 20%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1-2回　看護実践における医療安全管理の重要性 看護業務と医療安全の視点	講義	松田
	第 3-4 回 診療補助業務および療養上の世話における事故とその対策	講義	松田
	第 5-8 回　薬物治療を受ける療養者の服薬管理 臨床薬理学における看護の視点 薬物相互作用・薬物動態学の視点からの分析医薬品添付文書からの分析	講義	松田
	第 9-10 回　薬物治療を受ける療養者の意思決定支援	講義	宮脇
	第 11-12 回　薬物治療を受ける療養者への支援	講義	松田
	第 13-15 回　薬物治療を受ける療養者への支援および多職種連携体制の課題	講義	松田
授業外学修（事前学修・事後学修）	課題について発表できるように準備すること。授業後、課題について追加修正すること。		
テキスト	授業時紹介する。		
参考書	臨床薬物動態学　南江堂、薬理学　医学書院、医療安全　医学書院		

学生へのメッセージ等	薬物治療を受ける療養者を安全に支援する方法について多面的に捉え、研究課題を探求していきましょう。

講義科目名称　　療養・生活支援看護学分野特論（看護実践応用学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
石澤 美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤 美保子、玉井 奈緒、貝谷 敏子、土田 敏恵		
概要	褥瘡学、創傷看護学およびストーマをはじめとした排泄管理学における患者、家族、患者を取り巻く現在の社会環境、医療環境を多角的に捉え、各分野における概念と最新の知識、看護・医療技術の動向を吟味し探究する。		
目標	褥瘡学、創傷看護学およびストーマをはじめとした排泄管理学における患者とその家族のもつ健康問題を身体・心理・社会的ならびに倫理的視点から多角的に理解する。		
評価方法	主体的授業参加度、課題達成状況により総合的に判断する。100%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第 1-2 回　褥瘡学（褥瘡の疫学、褥瘡の生体反応、発生力学）	講義・演習	石澤
	第 3-4 回　褥瘡学（予測・予防、リスクアセスメントツール）	講義・演習	石澤
	第 5-6 回　創傷看護学（創傷アセスメント、褥瘡の評価ツール）	講義・演習	石澤
	第 7-8 回　創傷看護学（超音波画像診断技術を用いた褥瘡評価、褥瘡との判別が困難な創傷）	講義・演習	玉井
	第 9-10 回　創傷看護学（多職種連携によるチーム医療の意義）	講義・演習	貝谷
	第 11-12 回　排泄管理学（ストーマ関連、便・尿失禁ケア）	講義・演習	石澤
	第 13-14 回　排泄管理学（ストーマ関連、便・尿失禁ケア））	講義・演習	土田
	第 15 回　制度・政策、まとめ	講義・演習	石澤
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト			
参考書	クラスの中で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称　　療養・生活支援看護学分野特論（在宅看護学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
石澤 美保子、小竹 久実子			
添付ファイル			

全担当教員	小竹 久実子、小澤 竹俊		
概要	在宅での療養生活の現状と課題を見出し、支援のあり方を探究する。看取りの支援について、ディグニティセラピー、グリーフケアを含め、ロールプレイによる体験学習から学習を深める。個をとらえ、組織、そして地域へと視野を広げ、包括的な視点をもって、在宅看護とは何かをあらためて問いながら想像から創造へと発展させて具体化した構想を立案する。		
目標	①　地域の特徴を踏まえ、在宅療養における現状と課題を見出す。 ②　社会保障制度の変遷を捉える。 ③　在宅看取りおよび災害に対する支援のあり方を考察する。 ④　地域包括ケア体制の構築を模索する。 ⑤　へき地の医療ケアの現状と課題を理解し、具体策を立てる。		
評価方法	プレゼンテーション力 30%、発表資料 10%、ディスカッション力 20%、体験学習 20%、レポート 20%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第 1 回　在宅看護における生活の視点とは？	講義	小竹
	第 2 回　日本における在宅看護の現状と課題	講義･演習	小竹
	第 3 回　地域の特徴を捉える （奈良県と他都道府県の比較）	講義･演習	小竹
	第 4 回　介護保険制度の歴史の変遷と現在を比較し、 在宅ケアの未来を構想する	講義･演習	小竹
	第 5 回　介護保険制度の歴史の変遷と現在を比較し、 在宅ケアの未来を構想する	講義･演習	小竹
	第 6 回　医療保険の歴史の変遷と現在を比較し 今後の在宅医療のあり方を構想する	講義･演習	小竹
	第 7 回　医療保険の歴史の変遷と現在を比較し 今後の在宅医療のあり方を構想する	講義･演習	小竹
	第 8 回　在宅での看取り支援	講義･演習	小澤
	第 9 回　在宅での看取り支援	講義･演習	小澤

	第 10 回　在宅における災害看護のあり方を考察する	講義・演習	小竹
	第 11 回　在宅における災害看護のあり方を考察する	講義・演習	小竹
	第 12 回　地域包括ケア体制の変遷と構築を模索する	講義・演習	小竹
	第 13 回　地域包括ケア体制の変遷と構築を模索する	講義・演習	小竹
	第 14 回　へき地医療ケアの現状と対策を具体化する	講義・演習	小竹
	第 15 回　へき地医療ケアの現状と対策を具体化する	講義・演習	小竹
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業ごとにパワーポイントでまとめてきて発表できるように準備すること。授業後、修正点を追加修正しまとめなおすこと。		
テキスト	小澤竹俊：死を前にした人にあなたは何ができますか？医学書院		
参考書	1）小原真理子他：災害看護−心得ておきたい基本的な知識−、南山堂 2）Watson J：Human Caring Science, A Theory of Nursing, JONES & BARTLETT LEARNING		
学生へのメッセージ等	「在宅看護とは？」を、あらためて問いながら、現状と課題を見出し、エビデンスに基づいたプランニングを構想していきます。また、ロールプレイによる体験学習から在宅での看護実践力を養っていきます。個から組織、そして地域へと視野を広げて、包括的に捉えられるように一緒に探究していきましょう。		

講義科目名称　　療養・生活支援看護学分野演習（健康科学（睡眠学））

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
石澤 美保子、山内 基雄			
添付ファイル			

全担当教員	山内 基雄		
概要	生命維持に必要な睡眠をサイエンスとして学ぶ。具体的には、①睡眠の意義、②ヒトの睡眠・覚醒調節、③睡眠の役割、④睡眠そのものが心身の健康に及ぼす影響、⑤逆方向性として様々な疾病が睡眠に及ぼす影響、⑥睡眠時無呼吸症候群を初めとした多彩な睡眠関連疾患を学び、得た知識を看護実践に応用するための研究を行う。		
目標	1)実臨床を鑑みて、看護師が介入すべき“アンメット・メディカル・ニーズ”を見つけること。 2)見つけた“アンメット・メディカル・ニーズ”について、過去にどのような研究が行われてきたのか、あるいは行われていないのかを文献的に検索を行う。 3)“アンメット・メディカル・ニーズ”に対するどのような看護実践がどのような効果をもたらすのかについての仮説を立てる。		
評価方法	受講態度 20%、プレゼンテーション 50%（資料作成・発表の内容と方法および表現力）、レポート 30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1-5回　医療・職域・教育現場での睡眠に関する問題点を洗い出す	演習	山内
	第6-10回　見つけ出した問題点について、ニーズが満たされているかどうかを評価する	演習	山内
	第11-15回　“アンメット・メディカル・ニーズ”に対する看護実践介入がどのような効果をもたらすかを考え研究仮説を立てる	演習	山内
	第16-20回　立てた研究仮説に対する先行研究の有無や関連研究を検索する	演習	山内
	第 21-30 回　仮説を立証する研究手法を考える	演習	山内
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業前に、様々な事象と睡眠を関連付けて、どこに看護実践介入が必要とされている“アンメット・メディカル・ニーズ”があるのかを見つけておくこと。そのうえでそのアンメット・ニーズをどのように満たしていけば良いかをパワーポイントなどにまとめておくこと。		
テキスト	講義開始時に紹介予定		

参考書	講義開始時に紹介予定
学生へのメッセージ等	看護師が介入できる睡眠問題は沢山あると考えています。積極的に睡眠問題に取り組み、そして改善させる方策を探索していきましょう。

講義科目名称　　療養・生活支援看護学分野演習（基礎看護学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
石澤 美保子、松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子、宮脇 美保子		
概要	薬物治療を受ける療養者の生活とその支援について事例や文献から、課題を探求する。事例を通して、治療過程において生活や症状の変化を観察し、患者の支援方法を探索する。分析は、対象の現象について医療安全や臨床薬理学分野の視点等から分析を行う。		
目標	①　薬物治療を受ける療養者に対する研究について、研究の動向や医療安全、臨床薬理学的視点から分析し説明できる。 ②　薬物治療を受ける療養者に対する研究を実践するための研究デザインが説明できる。 ③　自己の関心ある課題について文献レビューを行い、自己の研究課題を見出す。 ④　自己の研究を実施するための方法や分析に必要な基本的知識について説明できる。		
評価方法	プレゼンテーション力 20%、発表資料 30%、ディスカッション 20%、レポート 30%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回　オリエンテーション	講義	松田
	第2-6回　薬物治療を受ける療養者の事例検討 臨床薬理学分野の視点から分析	講義・ 演習	松田
	第7-12回　薬物治療を受ける療養者に関する論文検討	演習	松田
	第13-18回　薬物治療を受ける療養者の事例検討 医療安全の視点から分析	演習	松田
	第19-22回　薬物治療を受ける療養者の治療過程の倫理的課題と意思決定支援/事例検討	演習	宮脇
	第23-26回　薬物治療を受ける療養者の指導の実際	講義	松田
	第27-30回　薬物治療を受ける療養者への支援体制 発表会	演習	松田
授業外学修(事前学修･事後学修)	授業ごとに発表できるように準備すること。課題について、授業後、課題追加修正する。		
テキスト	授業時紹介する。		
参考書	臨床薬物動態学　南江堂、薬理学　医学書院、医療安全　医学書院		

学生へのメッセージ等	看護実践を積極的に主体的に探究し、研究課題に取り組んでいきましょう。

講義科目名称　　療養・生活支援看護学分野演習（看護実践応用学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
石澤 美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤 美保子、藤井 誠		
概要	褥瘡学、創傷看護学およびストーマをはじめとした排泄管理学における患者、家族、患者を取り巻く社会環境、医療環境について国内外の文献をクリティークし自らの研究課題の焦点化および独創性に繋げる。		
目標	療養・生活支援看護学特論をふまえて、国内外の広範な学問分野を含めた文献から褥瘡学、創傷看護学およびストーマをはじめとした排泄管理学に関連する理論や概念、方法論について分析し理解できる。		
評価方法	主体的授業参加度、課題達成状況により総合的に判断する。100%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1-4回　褥瘡学（褥瘡の疫学、褥瘡の生体反応、発生力学）	講義・演習	石澤
	第5-8回　褥瘡学（予測・予防、リスクアセスメントツール）	講義・演習	石澤
	第9-12回　創傷看護学（創傷アセスメント、褥瘡の評価ツール）	講義・演習	石澤
	第13-16回　創傷看護学（超音波画像診断技術を用いた褥瘡評価、褥瘡との判別が困難な創傷、多職種連携によるチーム医療の意義）	講義・演習	石澤
	第17-22回　排泄管理学（ストーマ関連、便・尿失禁ケア）	講義・演習	石澤
	第23-27回　排泄管理学（ストーマ関連、便・尿失禁ケア））	講義・演習	石澤
	第28回　　制度・政策について	講義・演習	石澤
	第29-30回　研究課題における高度な統計解析について	講義・演習	藤井
授業外学修(事前学修・事後学修)			
テキスト			
参考書	クラスの中で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称　　療養・生活支援看護学分野演習（在宅看護学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2 単位	選択
担当教員			
石澤 美保子、小竹 久実子			
添付ファイル			

全担当教員	小竹 久実子、木下 康仁、鈴鴨 よしみ、増澤 祐子		
概要	療養・生活支援をする対象の人生をストーリーラインで捉え、QOL を探究する。 1.システマティックレビューにより研究テーマを見出す。 2.　質的データの分析から療養者と重要他者との相互作用をモデル化する質的研究法 M-GTA の探究をする。 3.生活の質を捉える健康関連 QOL について学習し、量的研究による探究をする。		
目標	①　システマティックレビューを理解し、療養生活支援に関するテーマを見出す。 ②　M-GTA を理解し、療養者と重要他者の相互作用をモデル化する。 ③　健康関連 QOL 尺度(SF-36V2)の特徴を理解し、量的解析しながら療養生活者や介護者等の QOL について考察する。		
評価方法	発表資料 20%、プレゼンテーション力 30%、ディスカッション力 30%、レポート 20%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1-2回　療養生活支援の現状と課題の探究 -システマティックレビュー-	講義・演習	増澤・小竹
	第3-4回　療養生活の現状と課題を分析する -システマティックレビュー-	講義・演習	増澤・小竹
	第5-6回　生活支援の現状と課題を分析する -システマティックレビュー-	講義・演習	増澤・小竹
	第7-8回　療養生活支援のあり方を分析する -システマティックレビュー-	講義・演習	増澤・小竹
	第9-10回　療養生活者およびその家族の相互作用をモデル化して捉える：分析結果の実践的活用を目的とする M-GTA とは？	講義・演習	木下・小竹
	第11-12回　療養生活者およびその家族の相互作用をモデル化して捉える：主要な方法論的用語である分析テーマ、分析焦点者、継続的比較分析などを理解する	講義・演習	木下・小竹

	第13-14回　療養生活者およびその家族の相互作用をモデル化して捉える：データから概念を生成する	講義・演習	木下・小竹
	第15-16回　療養生活者およびその家族の相互作用をモデル化して捉える：概念間の関係からカテゴリーへのプロセスの統合化	講義・演習	木下・小竹
	第17-18回　療養生活者およびその家族を人生ストーリーラインで捉える：結果図とストーリーラインによるモデル化と実践への活用	講義・演習	木下・小竹
	第19-20回　Quality of Life を探究する -健康関連 QOL について-	講義・演習	鈴鴨・小竹
	第21-22回　Quality of Life を探究する -健康関連 QOL の SF-36V2尺度・解析方法-	講義・演習	鈴鴨・小竹
	第23-24回　研究テーマを決定する	講義・演習	小竹
	第25-26回　研究計画を立案する	講義・演習	小竹
	第27-28回　研究計画を立案する	講義・演習	小竹
	第29-30回　倫理的配慮を考える	講義・演習	小竹
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業ごとにパワーポイントでまとめてきて発表できるように準備すること。授業後、修正点を追加修正しまとめなおすこと。		
テキスト	1)『定本　M-GTA：実践の理論化をめざす質的研究方法論』木下康仁著、医学書院、2020 2) 下妻晃二郎監修、能登真一編集：臨床・研究で活用できる！QOL 評価マニュアル医学書院、2023 3)竹上未沙、福原俊一.「誰も教えてくれなかった QOL 活用法」第 2 版. 健康医療評価研究機構、2012		
参考書	『質的研究と記述の厚み：M-GTA・事例・エスノグラフィー』木下康仁著、弘文堂、2009 『Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions』 Julian P. T. Higgins（編集）, James Thomas（編集）, Wiley-Blackwell.2019		
学生へのメッセージ等	研究者としての倫理観を基盤とし、新規性、独創性、発展性のある研究を進めるための知識と方法をここでは学んでいきます。療養生活をする対象とその家族を支えるためにリサーチクエスチョンを明らかにして、エビデンスある研究を行う力を養っていきましょう。		

講義科目名称　　生涯発達看護学分野特別研究（健康科学（心と脳の発達学））

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2～3 年	6 単位	選択
担当教員			
川上 あずさ、太田 豊作			
添付ファイル			

全担当教員	太田 豊作		
概要	人の心の発達を脳科学的な視点と精神心理学的な視点の両方から探求し、特に幼児期から青年期に至る神経発達症・精神疾患に関する研究を行う。その過程で先行研究のレビューを行い、研究に必要な能力を習得する。		
目標	個々の発達的視点のある研究課題について、研究プロセスをとおしてその成果を発表し、論文を作成することができる。		
評価方法	評価方法：研究態度（３０％）、プレゼンテーション（３０％）、論文完成度（４０％） 評価基準：研究態度は、自主性が高く、研究計画の進捗状況や論文作成の進捗状況は円滑であったか。プレゼンテーションは、先行研究の吟味を適切に行えているか、博士論文について論理的に発表ができているか。論文完成度は、研究計画書から論文作成まで一貫性をもって行えているか、論文の内容が適切であり、妥当なものであるか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1-30回　先行研究の文献検討を行う。	演習	太田
	第31-60回　心と脳の発達における研究計画（先行研究、目的、仮説の有無、用語の定義、研究方法、プレテスト、研究依頼等）を行う。	演習	太田
	第61-90回　心と脳の発達における研究の実践と評価・考察を行う。	演習	太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：先行研究の文献検討を行い、演習のための発表資料を準備する。 事後学修：演習で生じた検討課題について、文献検討や関連領域の学習などから課題の解決を図る。		
テキスト	特に指定しない		
参考書	講義時に紹介する		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称　　生涯発達看護学分野特別研究（高齢者看護学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2～3 年	6 単位	選択
担当教員			
川上 あずさ、澤見 一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見 一枝		
概要	１年時に習得した学識を生かし、高齢者看護学における創造的・発展的な研究を行い、看護実践につなげる。		
目標	1. 高齢者看護学における自己の研究課題を明確にできる。 2. 研究に必要な概念や理論、クリティークの結果を用いて、研究計画書を完成できる。 3. 研究の倫理的配慮に基づき、倫理申請書類を作成できる。 4. プロトコルに沿って研究を実践し、データ解析ができる。 5. 論文を作成し、学術誌に投稿、採択される。		
評価方法	研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、中間報告、研究成果から総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第 1-8 回　研究課題の明確化	演習	澤見
	第 9-15 回　先行研究のクリティーク	演習	澤見
	第 16-23 回　研究方法の選択、研究計画書作成	演習	澤見
	第 24-40 回　倫理申請書作成、医の倫理審査委員会で承認後にリクルートを開始する	演習	澤見
	第 41-38 回　データ収集、入力	演習	澤見
	第 39-53 回　データ解析	演習	澤見
	第 54-68 回　結果の検討	演習	澤見
	第 69-83 回　論文作成、学術誌に投稿	演習	澤見
	第 84-90 回　論文を修正し完成させる	演習	澤見
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の内容について事前準備（毎回準備の内容を指導する）。 事後学修：研究の準備、実施、結果の解析など、各回の内容を点検・確認する。		
テキスト	演習の中で適宜紹介する。		
参考書	演習の中で適宜紹介する。		

学生へのメッセージ等	高齢者看護における創造的・発展的な探究を目標として、主体的に課題に取り組みましょう。

講義科目名称　　生涯発達看護学分野特別研究（小児看護学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2～3 年	6 単位	選択
担当教員			
川上 あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上 あずさ		
概要	研究倫理をふまえ、研究協力者・対象者を尊重しながら、明確となった研究課題解決のために研究を実施し、研究論文を作成する		
目標	研究計画書を確認し、実行可能性を吟味する 研究計画が順調に進行しなかった場合の対策を考える 研究データの収集と分析を行う 研究結果の考察を行う 研究論文を作成する		
評価方法	研究に取り組む姿勢：真摯な姿勢、主体性等 30%）　論文完成度（50%） プレゼンテーション（20%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第 1-5 回　研究の進行に関する再吟味 パイロットスタディ	演習	川上
	第 6-30 回　研究データの収集	演習	川上
	第 31-60 回　データの分析　中間発表	演習	川上
	第 61-75 回　考察	演習	川上
	第 76-90 回　論文作成　公聴会発表	演習	川上
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト			
参考書			
学生へのメッセージ等	研究倫理をふまえ、研究対象者・協力者を尊重する姿勢を忘れず、研究プロセスを進めましょう		

講義科目名称　　生涯発達看護学分野特別研究（女性健康・助産学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2～3 年	6 単位	選択
担当教員			
川上 あずさ、五十嵐 稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐 稔子、上田 佳世		
概要	現代社会における、女性の健康や周産期・育児期の課題解決に向けた看護・助産ケアの研究を行う。研究課題を解決するための適切な研究デザインを組み、自律的な研究活動と論文作成ができる能力を育成する。		
目標	1)研究課題に関する予備研究を計画し、実施することができる。 2)予備研究の結果を基に、博士研究の研究目標・研究計画が設定できる。 3)研究の倫理的配慮について検討し、倫理申請書類が作成できる。 4)課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 5)信頼性・妥当性のある分析ができる。 6)分析結果を踏まえ、適切な考察ができる。 7)研究成果を博士論文として学術雑誌に投稿し、採択に向けた応答ができる。		
評価方法	研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、中間報告、論文作成までの研究活動の状況、論文投稿にて評価する。(100%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第 1 ～23 回 これまで特論を演習の授業を通して作成した研究課題を実施していく。 1） 予備研究を実施。 対象施設および対象者のリクルートを行う。 倫理的配慮を行いながらデータ収集する。 2） 予備研究の論文作成・投稿	講義・演習	五十嵐 上田
	第 24～45 回 中間報告会で発表し、研究課題をさらに深める。 1） 中間報告会での発表。 2）予備研究の結果を踏まえ、本研究の研究課題を深める。研究計画書を作成する。	講義・演習	五十嵐 上田
	第 46～55 回 1）本研究の研究計画を作成し、医の倫理審査委員会に申請。承認を得る。 2） 本研究の実施	講義・演習	五十嵐 上田

	対象施設および対象者のリクルートを行う。 倫理的配慮を行いながらデータ収集する。		
	第 56～90 回 1）データ分析 2）論文作成 3）論文投稿し査読を受ける 4）論文の掲載が確定したら公聴会で発表する	講義・演習	五十嵐 上田
授業外学修（事前学修・事後学修）	自分の研究資料をまとめ、授業に参加する。		
テキスト	別途指定する。		
参考書	別途指定する。		
学生へのメッセージ等	計画的に研究を進めましょう。		

講義科目名称　　療養・生活支援看護学分野特別研究（健康科学（睡眠学））

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2～3 年	6 単位	選択
担当教員			
石澤 美保子、山内 基雄			
添付ファイル			

全担当教員	山内 基雄		
概要	生命維持に必要な睡眠をサイエンスとして学ぶ。具体的には、①睡眠の意義、②ヒトの睡眠・覚醒調節、③睡眠の役割、④睡眠そのものが心身の健康に及ぼす影響、⑤逆方向性として様々な疾病が睡眠に及ぼす影響、⑥睡眠時無呼吸症候群を初めとした多彩な睡眠関連疾患を学び、得た知識を看護実践に応用するための研究を行う。		
目標	1)研究仮説を明確にする。 2)仮説を立証するための研究デザイン、および対象とサンプルサイズを設定する。 3)データ集積・解析・解釈を行う。 4)考察をまとめ、欧文論文を作製し投稿する。		
評価方法	受講態度 20%、研究実践力 50%、プレゼンテーション・ディスカッション力 30%で総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1-15回　仮説の妥当性を考える	演習	山内
	第16-30回　方法論を決定する	演習	山内
	第31-45回　データ収集を行う	演習	山内
	第46-60回　データ解析を行い解釈する	演習	山内
	第61-90回　学会発表・論文執筆	演習	山内
授業外学修(事前学修・事後学修)	自分の考えをしっかり描き、それをパワーポイントなどに書き起こしておくこと。		
テキスト	講義開始時に紹介予定		
参考書	講義開始時に紹介予定		
学生へのメッセージ等	看護師として学術活動に積極的に参画し、Nurse-Scientist を目指してください。学術での成果が看護実践のなかで活用されるようになると、あなたが行った学術活動が多くの対象者に恩恵を享受させることができるでしょう。		

講義科目名称　　療養・生活支援看護学分野特別研究（基礎看護学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2～3 年	6 単位	選択
担当教員			
石澤 美保子、松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子		
概要	この分野では、①薬物治療を受ける療養者を取り巻く生活支援や服薬管理に関する課題について医療安全や臨床薬理学的分野の視点で捉えた研究。②患者の薬物治療過程において意思決定支援等に関する研究。③援助者に対しての安全管理や臨床薬理学分野の視点から看護教育に関する研究について主に行う。この研究実践を通して、地域および施設の連携体制の構築の課題を明確にし、その調整を図る能力を育む。		
目標	①　自己の研究課題の文献レビューを行い、研究計画立案作成（概念枠組み・仮説の明確化）する。 ②　倫理的配慮を踏まえて研究計画に沿った研究を遂行できる。 ③　収集したデータを解析できる。 ④　解析した結果から考察・研究の限界・研究の課題を明確化できる。 ⑤　研究で得られた結果について公表し、臨床現場へ提言できる。		
評価方法	研究取り組み姿勢 10%、研究計画書の作成 20%、結果分析・考察 10%、 プレゼンテーション力 10%、研究成果物 50%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第 1 回　・オリエンテーション・指導体制の決定 ・履修計画	演習	松田
	第 2-10 回 研究課題の動向 研究課題から研究計画案（概念枠組み、仮説）	演習	松田
	第 10-20 回 研究計画書作成 研究方法：内容・分析方法の検討 研究の倫理的配慮	演習	松田
	第 20-25 回　研究計画報告会・医の倫理審査会申請	演習	松田
	第 25-30 回　研究活動Ⅰ	演習	松田
	第 30-40 回　研究活動Ⅱ	演習	松田
	第 40-50 回　データー収集/研究経過データー分析	演習	松田
	第 50-60 回　研究活動Ⅲ 研究課題に関連する文献のクリティーク	演習	松田

	データー分析・結果まとめ・考察・結論 論文作成		
	第 70-80 回　論文・学会発表	演習	松田
	第 80-86 回　公聴会	演習	松田
	第 86-90 回　研究フィールドへの報告会	演習	松田
授業外学修（事前学修・事後学修）	抄録を作成し、研究課題に関する文献をまとめ発表する。授業後、抄録を修正すること。 リサーチクエスチョンを明確にすること。 研究背景は、先行研究を踏まえて論理的に作成すること。 研究計画立案時、助言後修正した計画書を提出すること。 課題研究の文献クリティークを行い、研究を熟考すること。 研究が看護実践にどのように活用されるかを考え、研究を遂行していくこと。		
テキスト	特に指定なし。		
参考書	臨床研究のみちしるべ、健康医療評価研究機構		
学生へのメッセージ等	看護実践における研究的視点の「気づき」を探求し、実践力を臨床現場に還元していきましょう。		

講義科目名称　　療養・生活支援看護学分野特別研究（看護実践応用学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2～3 年	6 単位	選択
担当教員			
石澤 美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤 美保子、松田 常美		
概要	褥瘡学、創傷看護学およびストーマをはじめとした排泄管理学の概念や理論を学び、社会実装を目指すべく研究課題の発掘、自立的な研究活動の進め方、論文作成を教授する。		
目標	療養・生活支援看護学分野における講義および演習をふまえて、特定の研究テーマを選定し、データ収集・解析を行い、論文を作成する過程を通して自立して研究活動が行える能力を修得する。		
評価方法	授業参加度（クラス発表含む）にて評価する。100%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第 1-10 回　研究計画書	演習	石澤・松田
	第 11-15 回　研究倫理審査の申請	演習	石澤・松田
	第 16-30 回　研究開始・データ採取	演習	石澤・松田
	第 31-35 回　データ分析	演習	石澤・松田
	第 36-40 回　中間報告書の作成	演習	石澤・松田
	第 41-70 回　修正・データ再分析	演習	石澤・松田
	第 71-75 回　再分析追加データの収集	演習	石澤・松田
	第 76-90 回　博士論文作成	演習	石澤・松田
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト			
参考書	授業時に適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称　　療養・生活支援看護学分野特別研究（在宅看護学）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2～3 年	6 単位	選択
担当教員			
石澤 美保子、小竹 久実子			
添付ファイル			

全担当教員	小竹　久実子		
概要	在宅看護療養生活や支援におけるリサーチクエスチョンを明らかにして、新規性、独創性、発展性のあるエビデンスに基づいた質的/量的研究を探究する。		
目標	①　システマティックまたはスコーピングレビューにより、在宅療養生活や支援に関するリサーチクエスチョン（RQ）を明確化する。 ②　レビューにより明確化した RQ から在宅療養生活や支援に関する予備研究を行い、“概念”または“概念枠組み”の明確化の段階を経て本研究につなげる。 ③　在宅療養生活や支援に活かせる新たな見解、および、独創的で発展性のある論文を本研究でまとめる。		
評価方法	研究への取り組み姿勢 10%、研究計画書の作成 20%、解析の解釈の深さ 10%、プレゼンテーション 10%、研究成果 50%から総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1-6回　エビデンスに基づいた文献検討 （システマティック/スコーピングレビュー）	講義･演習	小竹
	第7-12回　予備研究の研究方法:内容・分析方法 （量的研究ではサンプルサイズ設計含む）	講義･演習	小竹
	第13-18回　予備研究の倫理的配慮	講義･演習	小竹
	第19-24回　予備研究計画立案	講義･演習	小竹
	第25-30回　予備研究の調査	講義･演習	小竹
	第31-36回　予備研究のデータ処理・解析	講義･演習	小竹
	第37-42回　予備研究の結果・考察	講義･演習	小竹
	第43-48回　本研究への課題抽出	講義･演習	小竹
	第49-54回　本研究の研究方法:内容・分析方法 （量的研究ではサンプルサイズ設計含む）	講義･演習	小竹
	第55-60回　本研究の倫理的配慮	講義･演習	小竹
	第61-66回　本研究計画立案	講義･演習	小竹
	第67-72回　本研究の調査	講義･演習	小竹

	第73-78回　本研究のデータ処理・解析	講義･演習	小竹
	第79-89回　本研究の結果・考察	講義･演習	小竹
	第90回　論文発表会	講義･演習	小竹
授業外学修(事前学修・事後学修)	構造化抄録を作成しながら文献をまとめ、論文を読んだ見解を記載してまとめること。 作成した構造化抄録は授業後に修正をかけること。 文献を読むごとに本研究にどのように反映できそうかまとめること。 リサーチクエスチョンを明確にすること。 緒言を先行研究を踏まえて論理的に作成すること。 予備研究からテーマを導き出すこと。 研究計画を熟考し、妥当性のある分析方法で研究を実施できるように準備すること。 研究を進めるスケジュールを作成し、そのプランにのっとって進めていく準備をすること。		
テキスト			
参考書	前田樹海他訳：APA 論文作成マニュアル第 2 版,医学書院,2014. Lorraine Olszewski Walker & Kay Coalson Avant: Strategies Theory Construction in Nursing, Fourth Edition, Pearson Education, 2005. 中木高夫, 川崎修一訳：看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008. 園城寺康子, 田代順子他訳：看護論文を英語で書く, 医学書院, 2011.		
学生へのメッセージ等	在宅看護学演習から学んだエビデンスある研究法を活かして、オリジナリティのある看護研究を探究していきましょう。		

大学院看護学研究科 博士後期課程 研究指導教員・研究指導補助教員一覧

分野	研究指導教員			研究指導補助教員		
	職名	氏名	部屋番号	職名	氏名	部屋番号
生涯発達看護分野	教授	太田　豊作	505	准教授	坂東　春美	509
	教授	澤見　一枝	504	講師	上田　佳世	513
	教授	川上　あずさ	502	講師	堀内　沙央里	408
	教授	五十嵐　稔子	401			
療養・生活支援看護分野	教授	山内　基雄	405	准教授	松田　常美	511
	教授	松田　明子	403	准教授	升田　茂章	507
	教授	石澤　美保子	503			
	教授	小竹　久実子	402			

規程集

奈良県立医科大学学位規則

（目的）
第１条　奈良県立医科大学学位規則は、学位規則（昭和２８年文部省令第９号。以下「省令」という。）第１３条及び奈良県立医科大学大学院学則（平成１９年４月１日。以下「学則」 という。）第１４条第２項の規定に基づき、奈良県立医科大学（以下「本学」という。）において授与する学位の専攻分野、論文審査及び試験又は学力の確認の方法、その他博士及び修士の学位に関し必要な事項を定めるものとする。

（学位の専攻分野）
第２条　本学において授与する博士の学位の専攻分野は医学又は看護学、修士の学位の専攻分野は医科学又は看護学とする。

（学位の授与の条件）
第３条　博士の学位は、学則の定めるところにより医学研究科博士課程又は看護学研究科博士後期課程を修了した者に授与する。
２　修士の学位は、学則に定めるところにより医学研究科修士課程又は看護学研究科博士前期課程を修了した者に授与する。
３　第１項に規定するもののほか、博士の学位は、本学大学院医学研究科に学位論文を提出して、その審査に合格し、かつ、博士課程を修了した者と同等以上の学力があると確認された者にも授与することができる。

（学位論文等の提出）
第４条　前条第１項に規定する学位の授与を受けようとする者は、学則第８条第１項第一号を専攻する者にあっては、所定の学位論文審査願に学位論文、論文内容の要旨、参考論文、論文目録及び履歴書、学則第８条第１項第四号を専攻する者にあっては、所定の学位論文審査願に学位論文、論文内容の要旨、副論文、論文目録及び履歴書、を添付の上、学長に提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。
２　前条第２項に規定する学位の授与を受けようとする者は、学則第８条第１項第二号及び第三号ア（１）を専攻する者にあっては、所定の学位論文審査願に学位論文、論文内容の要旨、論文目録及び履歴書、その他を専攻する者にあっては、所定の課題研究成果物審査願に課題研究成果物、課題研究成果物内容の要旨、課題研究成果物目録及び履歴書、を添付の上、学長に提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

（課程を経ない者の学位論文等の提出）
第５条　第３条第３項に規定する学位の授与を受けようとする者は、学位申請書に学位論文、論文内容の要旨、参考論文、論文目録、履歴書及び公立大学法人奈良県立医科大学料金等規程に定められている審査料を添え、学長に提出しなければならない。
２　学位論文の受理は大学院医学研究科博士課程委員会（以下「医学研究科博士課程委員会」という。） の審議を経て、学長が決定する。
３　学位論文を受理したときは、学位論文の審査のほか、本学大学院の博士課程において所定の単位を取得した者と同等以上の学力を有する者であることを確認しなければならない。
４　医学研究科博士課程委員会は学位論文の審査のため必要があるときは、学位論文の提出者に対して当該論文の副本、訳本、模型又は標本その他の提出を求めることができる。
５　学位論文の審査は、当該論文を受理してから、原則として１年以内に終了するものとする。

（課程の修了及び論文の審査の審議）
第６条　医学研究科博士課程委員会及び大学院看護学研究科博士後期課程委員会は、第３条第１項によるものについては、学則の定めるところにより、課程の修了の可否、同条第３項によるものについては、その論文の審査の可否について審議し、その結果を学長に報告する。
２　大学院医学研究科修士課程委員会及び大学院看護学研究科博士前期課程委員会は、第３条第２項によるものについては、学則の定めるところにより、課程の修了の可否について審議し、その結果

を学長に報告する。

（学位記の交付）
第７条　前条の規定に基づく報告を踏まえ、学長は学位授与の可否を決定し、学位の授与を可とするものには学位記を授与するものとし、学位を授与できないものと決定したものにはその旨を通知する。

（論文趣旨の公表）
第８条　本学は博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から３月以内 にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表 するものとする。

（学位論文の公表）
第９条　博士の学位の授与を受けた者は、当該博士の学位の授与を受けた日から１年以内 にその論文をインターネットの利用により公表するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでにインターネットの利用により公表したときはこの限りでない。

（学位の名称の使用）
第１０条　本学において、博士の学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、奈良県立医科大学博士（医学）又は奈良県立医科大学博士（看護学）、修士の学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、奈良県立医科大学修士（医科学）又は奈良県立医科大学修士（看護学）とする。
２　学位記の様式は別表第１、第２、第３、第４及び第５のとおりとする。

（学位授与の取消）
第１１条　学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき、又は不正の方 法により当該学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、医学研究科博士課程委員会、大学院医学研究科修士課程委員会、大学院看護学研究科博士前期課程委員会又は大学院看護学研究科博士後期課程委員会の審議を経て当該学位を取り消すことがある。

（学位記の再交付）
第１２条　学位記の再交付を受けようとするときは、その事由を具し、学長に願い出なけ ればならない。

（学位授与の報告）
第１３条　本学において、博士の学位を授与したときは、学長は省令第１２条の定めるところにより、文部科学大臣に報告するものとする。

（雑則）
第１４条　この規則に定めるもののほか、博士及び修士の学位に関し必要な事項については、学長が別に定める。

附　則
この規則は、昭和３６年１２月１３日から施行する。
附　則（昭和３７年６月１１日）
この規則は、昭和３７年６月１１日から施行する。
附　則（昭和６３年３月１６日）
（施行期日）
１　この規則は、昭和６３年４月１日から施行する。
（規程の廃止）
２　奈良県立医科大学学位規程（昭和３４年１１月１日）は廃止する。
附　則（平成元年１２月１９日）
この規則は、平成２年１月１日から施行する。
附　則（平成４年３月１０日）
この規則は、平成４年３月１０日から施行する。

附　則（平成１９年４月１１日）
この規則は、平成１９年４月１１日から施行する。
附　則（平成２２年３月４日）
この規則は、平成２２年３月４日から施行する。
附　則（平成２５年１０月３日）
この規則は、平成２５年１０月３日から施行する。
附　則（平成２８年４月１日）
１　この規則は、平成２８年４月１日から施行する。
２　改正後の本規則第５条の規定は、改正前の本規則第５条第１項の規定に基づき学位申請され同条第２項の規定に基づき学位論文を受理され平成３３年３月３１日までに審査されるときは、なお従前の例によるものとする。
附　則（令和２年１月７日）
１　この規則は、令和２年１月７日から施行する。
２　改正後の本規則第４条第２項の規定は、平成３０年度以前に学則第８条第１項二号イ（２）に入学した者は、なお従前の例によるものとする。
附　則（令和５年９月４日）
この規則は、令和５年９月４日から施行する。
ただし、改正前の規定による本学大学院看護学研究科修士課程の入学者については、なお従前の例による。

奈良県立医科大学大学院看護学研究科学位審査に関する内規

（目的）

第１条　奈良県立医科大学学位規則（以下「学位規則」という。）第 14 条の規定に基づき、大学院看護学研究科における学位審査に関して必要な事項を定めるものとする。

（資格要件）

第２条　学位規則第 3 条第 1 項の規定により学位を請求することができる者は、本学大学院看護学研究科博士後期課程（以下「博士後期課程」という。）に在学し、学則第 8 条第 4 号に定める単位を修得した者又は修得見込みの者とする。

２　第 1 項に規定するもののほか、学位規則第 3 条第 1 項の規定により学位を請求することができる者は、博士後期課程に 3 年以上在学し、学位未取得で所定の単位のみ修得して退学した者で、退学後 3 年以内（ただし、奈良県立医科大学看護学研究科長期履修に関する規程第 4 条第 1 項の規定による長期履修の許可を受けた者については、3 年から当該長期履修期間を控除した年数以内とする。）の者とする。

３　学位規則第 3 条第 2 項の規定により学位を請求することができる者は、本学大学院看護学研究科博士前期課程（以下「博士前期課程」という。）に在学し、学則第 8 条第 3 号に定める単位を修得した者又は修得見込みの者とする。

（資格審査）

第３条　前条の資格審査は、大学院看護学研究科博士前期課程運営委員会又は大学院看護学研究科博士後期課程運営委員会において行う。

（学位論文又は課題研究成果物の要件）

第４条　学位規則第 4 条第 1 項に規定する学位論文は、次の各号に定める要件をすべて満たすものとする。

一　学位を請求する者（以下「請求者」という。）が筆頭著者であること。

二　専門学術誌に受理又は掲載された英語原著論文であること。

ただし、日本学術会議に学術団体登録されている団体の学会誌に原著として受理又は掲載された論文であれば、和文論文も可とする。

２　学位規則第 4 条第 2 項に規定する学位論文は、請求者が筆頭著者であることとする。

３　学位規則第 4 条第 2 項に規定する課題研究成果物は、請求者が筆頭著者の特定の課題についての研究成果であることとする。

４　学位規則第 4 条第 1 項及び第 2 項に規定する学位論文が共著論文の場合は、申請者分担内容報告書及び同意書を学位論文提出時に添付して提出することとする。

（副論文の要件）

第５条　学位規則第 4 条第 1 項に規定する副論文は、請求者が筆頭著者の論文であり、学位論文提出時に 1 篇以上添付することが可能であることとする。

（予備審査）

第６条　第４条及び第５条の要件を確認する予備審査は、大学院看護学研究科博士前期課程委員会（以下「前期課程委員会」という。）又は大学院看護学研究科博士後期課程委員会（以下「後期課程委員会」という。）において行い、学位論文の受理を決定する。

（最終試験）

第７条　最終試験は、学位論文又は課題研究成果物を中心とし、これに関する科目について行う。この試験は口頭試問とする。ただし、筆記試験を併せて行うことができる。

（学位審査委員会）

第８条　学位規則第４条第１項及び第２項により提出された学位論文等並びに最終試験は、学位審査委員会（以下「委員会」という。）で審査を行う。

２　請求者の研究指導教員は、下表のとおり学位審査委員（以下「委員」という。）を前期課程委員会又は後期課程委員会に推薦（自己推薦も可）し、承認を得る。

学位規則第４条第１項により提出された学位論文の委員	３名
学位規則第４条第２項により提出された学位論文の委員	３名
学位規則第４条第２項により提出された課題研究成果物の委員	２名

３　委員会に学位審査委員長（以下「委員長」という。）を置くこととし、委員長は互選による。

４　本学に請求者の研究指導教員がいない場合、看護学研究科長が下表のとおり委員を前期課程委員会又は後期課程委員会に推薦（自己推薦も可）し、承認を得る。

学位規則第４条第１項により提出された学位論文の委員	３名
学位規則第４条第２項により提出された学位論文の委員	３名
学位規則第４条第２項により提出された課題研究成果物の委員	２名

５　委員は、看護学研究科の研究指導教員とする。ただし、請求者の研究指導教員を除き、当該学位請求論文の共著者は委員になることができない。また、前期課程委員会又は後期課程委員会が認めた場合は、外部の教員等を審査委員とすることができる。

６　委員長は、下表のとおりとする。

学位規則第４条第１項により 提出された学位論文の委員長の要件	請求者の研究分野とは異なる分野に 所属する本学の専任教授
学位規則第４条第２項により 提出された学位論文の委員長の要件	本学の専任教授とする。 ただし、請求者の研究指導教員は委員長 になることができない。
学位規則第４条第２項により 提出された課題研究成果物の委員長の要件	本学の専任教授とする。 ただし、請求者の研究指導教員は委員長 になることができない。

（学位公聴会）

第９条　請求者は、前期課程委員会又は後期課程委員会主催の学位公聴会でその内容を発表し、最終試験を受けるものとする。

２　学位公聴会は、委員長を含む２名以上の委員及び請求者の研究指導教員の出席を要する。

（委員会の開催）

第 10 条　委員会は、学位公聴会における請求者への質疑により、学位請求論文及び最終試験の適否を審査する。ただし、学位公聴会とは別に、委員会が請求者に質疑を要請し、その結果を審査の判断に使用することができる。

２　委員は、学位公聴会後、委員長に学位請求論文の適否を理由を付して報告する。

３　委員会の委員長は、下表の委員数が適とした場合は合格、その他の場合は不合格とし、審査要旨に当該審査結果及び理由を記載し、前期課程委員会又は後期課程委員会で報告する。ただし、審査結果が不合格の場合は、前期課程委員会又は後期課程委員会で報告する前に、再審査することができる。

学位規則第４条第１項により提出された学位論文の委員会	２名以上
学位規則第４条第２項により提出された学位論文の委員会	２名以上
学位規則第４条第２項により提出された課題研究成果物の委員会	１名以上

（本審査）

第 11 条　学位規則第６条に規定する審議を行う本審査は、前条第３項に規定する報告に基づき、前期課程委員会又は後期課程委員会において行い、前期課程委員会規程第５条又は後期課程委員会規程第５条の規定に関わらず出席した委員の３分の２以上の賛成をもって可とする。

２　学位規則第４条第１項に規定する学位論文の評価の視点は、次の各号に定めるものとする。

一　研究課題

文献検討が充分になされ、研究課題は明確に定まっているか。

二　研究方法の選定

研究対象の選定、研究デザインは適切に選択されているか。

三　倫理的配慮

研究デザインに添った倫理的配慮がなされているか。

四　研究データの収集

課題に対するデータ収集が適切になされているか。

五　結果とその解釈および研究の発表

・研究課題に対する答え、あるいは仮説の検定結果を示し、結果の意味や意義を解釈する考察が示されているか。

・研究は独創的思考に基づいているか。研究の発展性もしくは今後の課題は示されているか。看護学研究への貢献が期待できるものであるか。

六　研究者としての能力

研究遂行能力及び論文作成能力において、自立した研究者たる能力を持ち合わせているか。

３　学位規則第４条第２項に規定する学位論文及び課題研究成果物の評価の視点は、次の各号に定めるものとする。

一　研究課題

文献検討が充分になされ、研究課題は明確に定まっているか。

二　研究方法の選定

研究対象の選定、研究デザインは適切に選択されているか。

ただし、系統的レビュー、症例報告等も含むことができる。

三　倫理的配慮

研究デザインに添った倫理的配慮がなされているか。

四　研究データの収集

課題に対するデータ収集が適切になされているか。

五　結果とその解釈および研究の発表

・研究課題に対する答え、あるいは仮説の検定結果を示し、結果の意味や意義を解釈する考察が示されているか。

・研究は独創的思考に基づいているか。研究の発展性もしくは今後の課題は示されているか。看護学研究への貢献が期待できるものであるか。

（学位授与の取消）

第 12 条　学位規則第 11 条に規定する審議は前期課程委員会規程第 5 条又は後期課程委員会規程第 5 条の規定に関わらず出席した委員の 3 分の 2 以上の賛成をもって可とする。

（学位審査日程）

第 13 条　第 3 条、第 6 条、第 9 条及び第 11 条に定める審査は、所定の日程で行う。

（様式）

第 14 条　学位規則第 4 条の規定に定める学位論文審査願、課題研究成果物審査願又は学位申請書、論文目録又は課題研究成果物目録、履歴書及び論文内容の要旨又は課題研究成果物内容の要旨、学位規則第 9 条に定める奈良県立医科大学機関リポジトリ公開に関する同意書、並びに本内規第 4 条第 4 項に規定する申請者分担内容報告書又は同意書は、別記様式第 1 号から第 6 号のとおりとする。

（研究報告会）

第 15 条　学位規則第 4 条第 1 項及び第 2 項により学位論文を提出する者は、学位請求までに、前期課程委員会又は後期課程委員会主催の研究報告会で、学位論文に係る研究内容の中間報告を行うものとする。

（細則）

第 16 条　この内規に定めるもののほか、必要な事項又は適用上の疑義については、前期課程委員会又は後期課程委員会において審議する。

附　則（令和 5 年 9 月 4 日）

この内規は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。